

兵庫県立 こども病院 **年報** 2006 VOL.37



HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 06 VOL.37



基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもへの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成育を目指します。

基本方針

1. 子どもの権利を重視した医療の実践
2. 安心と信頼の医療の遂行
3. 専門的な高度医療の推進
4. 地域医療・保健・福祉機関との連携
5. 親と子の健康啓発活動への貢献
6. 子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成





患者権利宣言

1. あなたは、ひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
2. あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
3. あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
4. あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力下さい。

病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせ下さい。
病院のきまりや約束ごとをお守り下さい。



目 次

病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿 革	1
3 業 務 図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール表	6
4 職 員	7
(1) 職種別人員表	7
(2) 看護単位別看護職員等配置状況	8
5 各種委員会	9

教育研修活動

1 カンファレンス・勉強会	17
2 看護研修	39
3 研修医・専攻医 指導記録	69

学 術 活 動

1 書 籍	81
2 雑誌発表	83
3 口述発表	91

診 療 統 計	119
---------------	-----

ボランティア部門の動き	211
-------------------	-----

一年のあゆみ	213
--------------	-----

は じ め に

兵庫県立こども病院
病院長 中 村 肇

本院は、昭和45年に県政100年記念事業として開設され、以後兵庫県の小児医療の中核病院としての役割を果たしてきた。平成16年10月には周産期医療センターが開設され、胎児から思春期までの一貫した医療の展開、さらに、平成14年10月には暫定三次小児救急医療の拠点として救急医療室が開設され、小児救急への県民のニーズに应运ってきたところである。さらに、搬送されてくる最重症小児救急患者の急増から、平成19年度10月からは PICU をもつ小児救急センターを開設し、本格的な三次小児救急医療の県下の拠点病院となる予定である。

平成18年9月には秋篠宮文仁親王、同妃紀子さまの第3子悠仁親王殿下が誕生されるという慶事もあり、平成18年度のわが国の合計特殊出生率は1.32、出生数も昨年に比し3万人増加し、109万人台に回復した。兵庫県の人口統計をみると、出生率は8.9（全国平均8.7）と全国平均を上回っているが、合計特殊出生率は1.28（全国平均1.32）と全国8位と低い。乳児死亡率は2.4（全国平均2.6）、周産期死亡率は3.9（全国平均4.7）とそれぞれ第15位、第6位と全国平均を下回っているが、新生児死亡率は1.3（全国平均1.3）と全国平均と変わらないレベルにある。

安心子育ての担い手である産科医、小児科医の不足による周産期医療・小児医療の危機的状況は兵庫県下においても加速する一方である。かかる状況下で、本院に課せられた使命は、診療レベルの向上、診療サービスの向上とともに、小児医療に関わっている医師、看護師、臨床検査技師、保育士、栄養士などあらゆる職種の医療者が小児に関する教育実習を行える場を提供し、兵庫県下の小児医療体制の充実に寄与することである。

兵庫県は2008年に米国ワシントン州との友好100周年を迎えることになっている。この

機会に、本院とシアトル小児病院との姉妹提携を目指して、本年8月には医師、看護師をシアトルに派遣し、12月には両小児病院のジョイント・ミーティングを当院で開催する運びとなっている。グローバル化する社会に対応するために、本交流が小児医療における国際協力体制を強化するきっかけとなれば幸いである。

いま、こども病院が小児専門医療施設として求められる役割は、内科系、外科系核各診療科が協力し合って行う集学的医療の実践と、指導相談部を中心に地域保健所・児童相談所・児童福祉施設・教育機関・地域医療機関等との連絡調整を行い、退院後の治療・療養が円滑に進むことを支援することにある。一人一人の個性を尊重しながら、お子さまの地域生活がよりよいものとなるように活動を行っている。

本年報を通じて、兵庫県立こども病院についてご理解いただき、より一層のご支援・ご指導を賜りたくお願い申し上げます。最後に、本年報の編纂にあたり、多大なご努力を頂いた大橋正伸周産期医療センター長をはじめとするスタッフの方々に厚く感謝申し上げます。

病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などであります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。また平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室が開設されました。

2. 沿 革

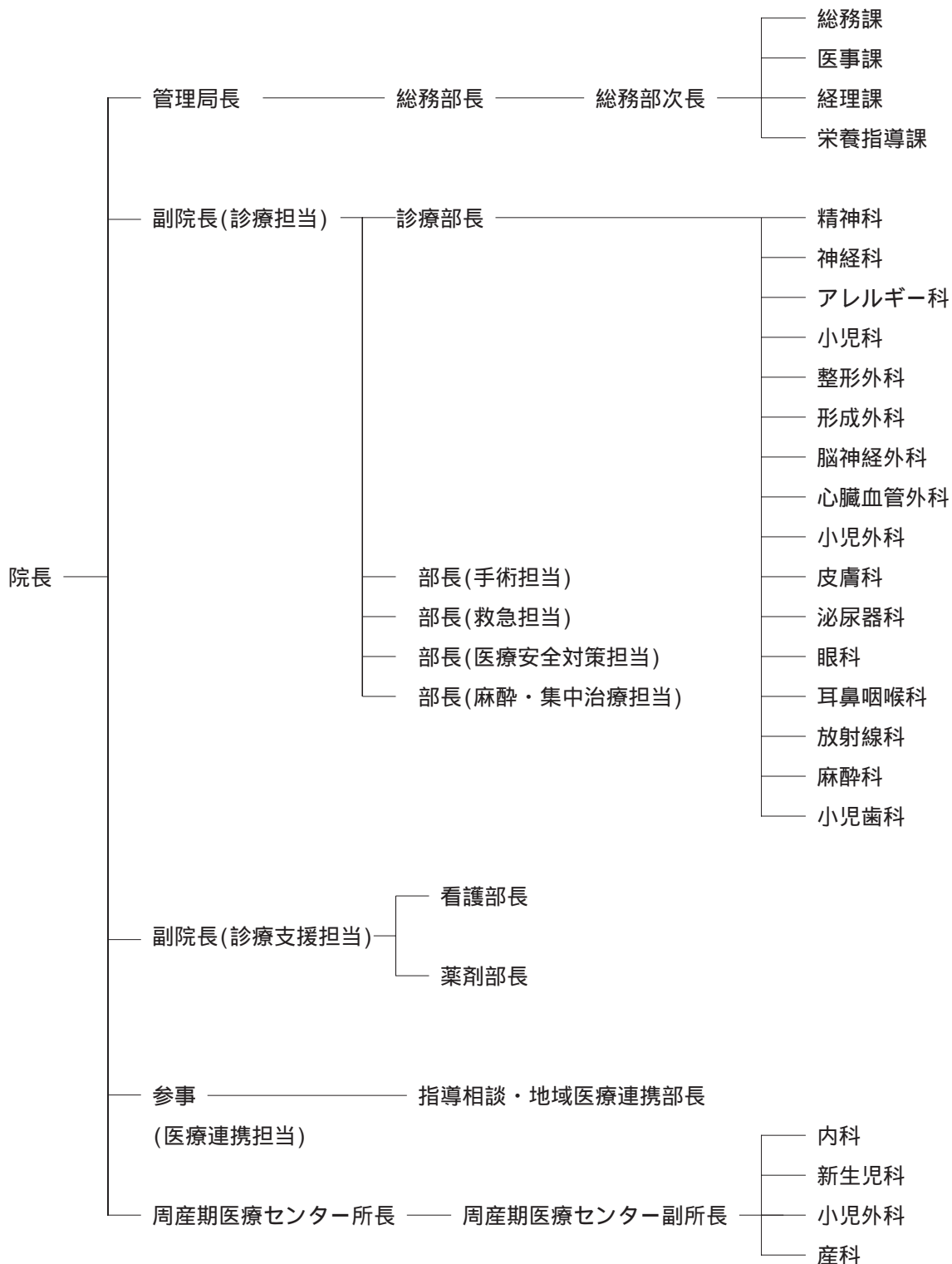
- | | |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 名 称 | 兵庫県立こども病院 |
| (2) 開 設 | 昭和45年4月1日 (現管理者 中村 肇) |
| (3) 所 在 地 | 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1 TEL 078-732-6961 (代表) |
| (4) 診 療 科 目 | 小児科 (一般、脳神経、血液・腫瘍、腎臓、循環器、アレルギー、遺伝、代謝内分泌、未熟児・新生児)、精神科、神経科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、小児歯科、産科、内科 (母性) |
| (5) 病 床 数 | 一般290床 (稼働260床) |
| (6) 沿 革 | |
| | 昭和45年4月1日 病院開設 (管理者 平田 美穂) |
| | 昭和45年4月30日 病院本館完成 |
| | 昭和45年5月8日 診療開始 |
| | 昭和45年7月23日 基準寝具実施 (寝第295号) |
| | 昭和45年9月17日 基準給食実施 (食第307号) 基準看護実施 (看第130号) |
| | 昭和46年12月28日 母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称 |
| | 昭和47年2月1日 基準看護一般特類変更承認 (険第98号) |
| | 昭和47年12月1日 基準看護精神特類変更承認 (険第219号) |
| | 昭和49年10月1日 基準看護一般特二類変更承認 (険第108号) 基準看護精神特一類変更承認 (険第108号) |

昭和50年 4月 1日	管理者変更受理 (管理者 児嶋 喜八郎)
昭和54年 3月31日	全館防災設備工事完成
昭和54年 8月 2日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和55年 4月 1日	昭和55年 3月26日 兵庫県条例第11号 兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和56年 5月 5日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和56年10月 7日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和56年10月12日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和56年12月 6日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和57年 4月 1日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和58年 4月 1日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和58年 4月11日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和58年10月 1日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和60年 3月18日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和60年 3月28日	日帰り手術棟完成
昭和60年 4月 3日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和60年 4月15日	日帰り手術棟手術開始
昭和61年 3月31日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和61年 4月 1日	管理者変更受理 (管理者 玉木 健雄)
昭和61年 4月 1日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和61年10月 1日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和62年 1月22日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2月 1日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3年 5月 1日	基準看護一般特三類 (一部) 変更承認 (険第220号)
平成 4年 4月 1日	基準看護一般特三類 (260床に) 変更承認 (険第363号) 医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4年 5月 9日	週40時間制試行
平成 4年 5月18日	病床数260床に変更承認 (精神病棟廃止)
平成 4年 7月 6日	病床数290床に変更承認 (兵庫県指令医第 1 - 67号)
平成 4年 7月29日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4年11月 7日	週40時間制本格実施
平成 5年 4月 1日	管理者変更受理 (管理者 竹峰 久雄)
平成 6年 7月20日	周産期医療センター定礎式
平成 6年 9月 1日	管理者変更受理 (管理者 小川 恭一)
平成 6年 9月30日	ドクターズカー購入
平成 6年 9月30日	周産期医療センター完成
平成 6年10月 1日	行政組織規則の改正(兵庫県規則第66号)により、周産期医療センターを設置
平成 6年10月 3日	周産期医療センター開設記念式典
平成 6年10月 4日	周産期医療センター診療開始

平成7年1月17日	阪神・淡路大震災
平成7年9月1日	本館改修工事に着手
平成8年4月1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年6月30日	本館改修工事完了
平成11年4月2日	管理者変更受理 (管理者 山本 節)
平成12年3月1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年4月24日	慢性疾患児家族宿泊施設 (ファミリーハウス) を開設
平成13年10月10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年2月28日	立体駐車場完成
平成14年4月1日	臨床研修病院指定 (厚生労働省発医政第0401006)
平成14年4月1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年10月15日	第3次小児救急開設 (稼働病床260床)
平成15年4月2日	管理者変更 (管理者 中村 肇)
平成15年10月30日	臨床研修病院指定 (厚生労働省医政発第1030005号-511,519,526,533)
平成15年11月28日	臨床研修病院指定 (厚生労働省医政発第1128007号-330)
平成16年3月22日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価認定
平成16年4月1日	アレルギー科追加

3. 業 務 図

(1) 機構一覽表 (2006.12.31現在)



(2) 担当医師表 (2006.12.31現在)

- | | |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 総合診療科 | 中村 肇 (院長)、山崎武美 (指導相談・地域医療連携部長)
上谷良行、富永健太、吾郷耕彦 |
| (2) 新生児科 | 中尾秀人、芳本誠司、溝淵雅巳、吉形真由美、柄川剛、坂井仁美 |
| (3) 脳神経内科 | 永瀬裕朗 |
| (4) 循環器科 | 鄭輝男、城戸佐知子、田中克敏、藤田秀樹、齋木宏文 |
| (5) 腎臓内科 | 田中亮二郎 |
| (6) 代謝内分泌科 | 郷司克己 |
| (7) 血液・腫瘍科 | 小阪嘉之、川崎圭一郎、竹田洋樹 |
| (8) 救急医療室 | 長谷川大一郎、尾崎佳代、丸山あずさ、藤田晃生 |
| (9) アレルギー科 | 三好麻里、黒澤茶茶 |
| (10) 小児外科 | 西島栄治、連利博、佐藤志以樹、高見澤滋、横井暁子、和田英見
津川二郎 |
| (11) 心臓血管外科 | 大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、日隈智憲、井上武 |
| (12) 脳神経外科 | 長嶋達也、河村淳史、秋山英之 |
| (13) 形成外科 | 大山知樹、吉村友希 |
| (14) 整形外科 | 薩摩眞一、小林大介 |
| (15) 泌尿器科 | 杉多良文、乃美昌司、高木志寿子 |
| (16) 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀 |
| (17) 眼科 | 山本節 (名誉院長)、野村耕治、西崎雅也 |
| (18) 精神科 | 前田宏章 |
| (19) 小児歯科 | 石井信行 |
| (20) 産科 | 大橋正伸、船越徹、石原尚徳、喜吉賢二、佐本崇(母性内科) |
| (21) 放射線科 | 赤坂好宣、山口善道 |
| (22) 麻酔科 | 村田洋、香川哲郎、鈴木毅、高辻小枝子、大西広泰、三浦泰、池島泰 |
| (23) 病理 | 吉田牧子 |
| (24) 専攻医 | 青木一憲、笠井和子、加地倫子、澤田杏子、下岡武史、寺岡由恵、林耕平、
福島雅子、細川悠紀、秋田大輔、佐治洋介、千田麻里子、井手健太郎、
岡本竜哉、在間梓、野崎奈穂子、中溝聡、大崎陽子、堂垣佳宏、
井上結香子、齋木美恵、上田大介、橋村宏美、川崎一良、岩淵いさな、
吉村依里子、熊代江利、横井信哉 |

(3) 外来診療スケジュール (平成18年12月1日)

科名	曜日	内線	月		火		水		木		金	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科 2241	総合診療	2243	田中	三好	上谷	澤田 林	三好	三好	山崎	福島 細川	前田 (晃)	笠井
	アレルギー	2242			三好					三好		
	予防接種	2254	三好									
	脳神経	2242	永瀬 丸山			丸山			永瀬 丸山 児玉			
	循環器	2262	鄭		鄭		城戸		城戸		藤田(秀)	
	腎臓	2263		3週 田中	田中		田中					田中
	代内分謝泌	2263		1,2,4週 郷司			郷司		郷司			
	新生児	2254						中尾 溝淵 吉形		中尾 芳本		吉形 柄川
	血液	2254		1,3週 川崎 2,4週 長谷川 5週 竹田		小阪					小阪	
外科 2245	一般	2247	佐藤		高見澤		佐藤		西島		連	
	特殊外来	2248		ストマ		在宅療養						
	心臓	2267		大嶋 島津 松久				吉田 島津 松久				大嶋 吉田 島津 松久
	脳神経	2248	長嶋	秋山			長嶋				秋山	河村
	形成	2268			大山 吉村				大山 吉村 西本			
	整形	2246		薩摩 小林	薩摩 小林		薩摩 小林					
放射線科									1,3週 副島			
眼科	2250	野村 西崎 井上			野村 西崎 井上	野村 西崎 井上			野村 西崎 井上			
泌尿器科	2256	乃美		杉多 乃美 高木			渡辺			杉多 乃美 高木	乃美 高木	
耳鼻咽喉科	2257	大津	1,2週 補聴器	阪本	3,4週 補聴器				大津		阪本	
		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		
歯科	2264	石井		石井				石井		石井		
精神科	2655	井出	前田	前田		前田		白瀧		前田		
				伊東						松川		
卒煙外来	2655						永瀬					
発達行動	2655						永瀬					
産科 2660	2661	大橋	超音波 検査	船越		佐本	超音波 検査	船越		大橋	超音波 検査	
	2662	佐本		石原	喜吉	石原		齋木				

4. 職 員

(1) 職種別人員表 (2006.12.31現在)

職 種 別		現 員 [人]
事 務 職		16
技 能 職	医 師 ・ 歯 科 医 師	70(28)
	薬 劑 師	11
	診 療 放 射 線 技 師	13
	臨 床 検 査 技 師	16(1)
	栄 養 士	3(1)
	看 護 師	387(46)
	視 能 訓 練 士	3
	心 理 判 定 員	2
	精 神 保 健 福 祉 相 談 員	1
	保 育 士	7(5)
	保 健 師	1
	電 気 技 師	1
	歯 科 衛 生 士	1
	言 語 訓 練 士	1
	臨 床 工 学 技 士	2
	小 計	519(81)
技 能 労 務 職	電 話 交 換 員	2
	機 関 員	4
	調 理 員	12(1)
	小 計	18(1)
合 計		553(82)

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 () 外書きは、臨時的任用職員

(2) 看護單位別看護職員等配置狀況

平成17年12月31日現在

看護單位	產科	NICU	CCU	ICU	HCU	一般外科救急治療室	循環器主体A	循環器主体B	学童主体	内外科混合	血液主体	中央手術室	外来	看護部	休暇	合計
稼働病床数	32	15	35	8	20	28	24	24	24	24	26					260
看護師定数	40	40	32	34	32	34	27	27	18	25	27	32	21	3		392
看護師現員数	40	39	33	34	32	35	26	27	18	25	27	32	21	3	41	433
内 訊	助産師	1	2			1				1		1			1	30
	看護師	17	38	31	34	34	26	27	18	24	27	31	21	3	40	403
	(男性)				3	4	2	2		2	1	4				22
合計	40	39	33	34	32	35	26	27	18	25	27	32	21	3	41	433
保育士							1	1			2				1	5
看護助手													1	1		2
補助業務 (業者委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						

5. 各種委員会

(1)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
総括マネージャー	院 長	平日毎日11時	院長室	10	前日のヒヤリハット事例
減 点 委 員 会	山崎 武美	毎月		10	減点されたものの再審査の検討

(2)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
感 染 対 策 委 員 会 第 9 回	中尾 秀人	平成18年 1月13日	研修室 B	12	細菌分離状況（定例） 抗MRSA使用状況（定例） ICT活動状況報告（定例） 届出感染症発生時の報告システムについて インフルエンザ感染予防対策ポスターの掲示（報告） 流行性感染症発生状況（報告） 口腔外科領域に関する院内感染は特記事項なし
第10回	中尾 秀人	平成18年 2月10日	研修室 B	9	定例報告（、、） ICU・HCUの入室時スリッパ履き替え廃止について インフルエンザワクチン接種率について 17年度感染防止研修会出席率について 感染対策研修会「B型肝炎ワクチンの必要性」について 口腔外科領域に関する院内感染は特記事項なし
第11回	中尾 秀人	平成18年 3月10日	研修室 B	14	定例報告（、、） 平成18年度院内感染対策委員会年間計画について H18ワクチン接種スケジュールについて 口腔外科領域に関する院内感染は特記事項なし
第12回	中尾 秀人	平成18年 4月14日	研修室 B	18	定例報告（、、） 年間目標について 口腔外科領域に関する院内感染は特記事項なし
平成18年度 第 1 回	中尾 秀人	平成18年 5月12日	研修室 B	18	定例報告（、、） 今年度のICT活動計画 ワクチン接種の手順 病院感染サーベイランスについて 6月研修会について（新人、前年度未受講者向け）

第2回	中尾 秀人	平成18年 6月9日	研修室 B	15	定例報告 (、 、) ICU・HCUの入室時スリッパ履き替えについて 病棟ターゲットサーベイランス実施状況について 職員流行性感染症抗体検査の結果について
第3回	中尾 秀人	平成18年 7月14日	研修室 B	10	定例報告 (、 、) 平成18年度院内感染対策研修会報告 平成18年度清掃及び補助業務感染対策研修会について
第4回	中尾 秀人	平成18年 8月18日	研修室 B	15	定例報告 (、 、) 各科抗生剤使用について 院内感染対策研修会および業者感染対策研修会報告 循環器病棟の管理基準変更について
第5回	中尾 秀人	平成18年 9月8日	研修室 B	11	定例報告 (、 、) 平成18年度職員感染対策研修会について 抗菌剤使用マニュアル作成に向けての進捗状況
第6回	中尾 秀人	平成18年 10月13日	研修室 B	15	定例報告 (、 、) 平成18年度インフルエンザワクチン接種について インフルエンザ予防ポスターの掲示について
第7回	中尾 秀人	平成18年 11月10日	研修室 B	15	定例報告 (、 、) 平成18年度インフルエンザワクチン接種について 院内感染対策研修会 (第1回目) 報告
第8回	中尾 秀人	平成18年 12月8日	研修室 B	15	定例報告 (、 、) 平成18年度インフルエンザ予防接種状況 院内感染対策研修会 (第1～3回目) 報告

(3)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
倫 理 委 員 会	中村 肇	2月2日 13:30～	応接室	8	1. 進行神経芽腫に対し原発巣切除術を含む局所療法を大量化学療法後に遅延させて行う治療計画の早期第 相臨床試験 2. 深在性真菌症が疑われる febrile neutropenia (好中球減少時発熱) 小児におけるキカファンギンの薬物体内動態の検討 3. 胆道閉鎖症の病因論に関する研究 4. クリニクラウン (臨床道化師) が入院

					中の小児がんをもつ子ども、家族、医療従事者に与える影響の把握 5. 先天性無眼球症児に対するハイドロジェル・ティシュー・エクспанダーの移植治療
倫理委員会	中村 肇	5月10日 13:30～	応接室	8	1. 宗教上の理由で輸血を拒否する患者（エホバの証人）に対する病院の方針について 2. 胆道閉鎖症患者の全国年次登録と予後追跡調査による疫学研究への参加 3. 胆道閉鎖症術後ステロイド投与法に関する全国多施設ランダム化試験への参加 4. 小児肝癌に対する JPL-2 治験 [®] の臨床第 相試験
倫理委員会	中村 肇	7月6日 10:00～	応接室	7	小児腎尿路疾患における原因遺伝子の解析
倫理委員会	中村 肇	10月17日 13:30～	応接室	7	再生医療の研究に供するためヒト羊膜の採取に関する研究
倫理委員会	中村 肇	11月20日 10:30～	応接室	8	1. 小児白血病に対してフルダラビンとメルファランを前処理として用いた同種骨髄移植に関する早期第 相臨床試験 2. 急性骨髄性白血病(AML)に対する多施設共同後期第 相臨床試験(AML-05) 3. 小児髄芽腫/PNET に対する多剤併用化学療法と減量放射線療法の第 相試験 4. 乳幼児髄芽腫/PNET に対する多剤併用化学療法と減量放射線療法の第 相試験 5. 胆道閉鎖症葛西術後移植症例の予後に関する研究 6. 漏斗胸に対する胸骨拳上術の長期症例の検討 7. 頭蓋内出血を契機に発見された胆道閉鎖症の神経学的予後の研究

(4)

名称	委員長	開催日時	場所	出席者数	議題
機種選定委員会	管理局長	不定期	会議室	8	200万円以上の医療機械の選定

(5)

名称	委員長	開催日時	場所	出席者数	議題
診療材料委員会	西島栄治	年4回 (6、9、12、2月)	研修室A B	10～13名	1. 新規診療材料採用申請の審議 2. JITS システムデータを基にした診療材料変更提案の審議

(6)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
栄養給食委員会 平成17年度 第3回	西島 栄治	3月23日	研修室A・B	9	1. 平成18年度診療報酬改定に伴う栄養指導課の対応について 2. 平成18年度に使用する新生児用ミルクについて 3. NST (栄養サポートチーム) について 4. その他
平成18年度 第1回	西島 栄治	7月4日	研修室C	11	1. 栄養管理計画書について 2. NSTへの取組について 3. 平成17年度ニアミス報告集計結果について 4. 適時適温について 5. その他
第1回 NSTプロジェクト部会	部会長 西島 栄治	11月28日	研修室A・B	11	1. NST 活動マニュアルについて 2. NST 運営要綱、組織について 3. その他
栄養給食委員会 平成18年度 第2回	西島 栄治	12月14日	研修室A・B	9	1. NSTについて 2. 平成18年度上期の給食材料執行状況について 3. クリスマスイベント及び年末年始献立について 4. 嗜好調査結果について 5. その他
第2回 NSTプロジェクト部会	部会長 西島 栄治	12月14日	研修室A・B	11	1. NSTに関する要綱・組織図・活動マニュアルについて (再検討) 2. NST勉強会の開催日程・内容について 3. その他

(7)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
輸血療法委員会 第1回	西島 栄治	3月17日	研修室A B	14	1. 緊急時の輸血体制について(血液備蓄本数の変更について)
第2回	西島 栄治	5月19日	研修室A B	15	1. 輸血業務の一元化について(輸血管理業務を検査室に移設するための業務変更について)
第3回	西島 栄治	11月29日	研修室C	15	1. 輸血一元化の実施状況と輸血準備血の使用状況 2. 保存用白血球除去血液成分製剤の供給見通し 3. 白血球除去フィルターの使用について

(8)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
薬 事 委 員 会 第 1 回	山崎 武美	3月1日	研修室 C	11	1. 採用医薬品 2. 採用中止医薬品 3. 薬剤情報提供
第 2 回	山崎 武美	7月26日	研修室 C	12	1. 採用医薬品 2. 採用中止医薬品 3. 薬剤情報提供
第 3 回	山崎 武美	10月19日	研修室 C	10	1. 採用医薬品 2. 採用中止医薬品 3. 薬剤情報提供

(9)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	2月21日	応接室	6	1. アトモキシチンの安全性報告 2. MRA の安全性報告
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	4月19日	応接室	6	1. アトモキシチンの安全性報告
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	5月23日	応接室	8	1. MRA の安全性報告及び全身型 JIA に対する一般臨床試験の実施可否
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	6月29日	応接室	6	1. アトモキシチンの安全性報告及び逸脱報告 2. MRA の安全性報告及び同意文書の変更
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	8月29日	応接室	6	1. アトモキシチンの安全性報告及び同意文書の変更 2. MRA の安全性報告及び同意文書の変更
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	10月13日	応接室	6	1. アトモキシチンの安全性報告 2. MRA の安全性報告及び同意文書の変更
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	12月19日	応接室	6	1. アトモキシチンの安全性報告 2. MRA の安全性報告

(10)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
防 災 対 策 委 員 会	山崎 武美	9月20日	応接室	13	今年度消火訓練（部分訓練）実施
防 災 対 策 委 員 会	山崎 武美	11月22日	応接室	15	今年度消火訓練（総合訓練）実施
防火訓練事前説明会	山崎 武美	12月7日	研修室 A B	50	12.14防火訓練事前説明

(11)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
広 報 委 員 会	大橋 正伸	3月10日	産科会議室	9	1. 年報(2005)について 2. 元気カエルの編集について

(12)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
救急医療室運営委員会	上谷 良行	3月17日	研修室C	9	1. 運用実績報告 2. 救急センターについて
(救急センター開設準備プロジェクト)	上谷 良行	1月17日	応接室	10	建設図面の検討
(救急センター開設準備プロジェクト)	上谷 良行	2月15日	応接室	10	建設図面の検討
小児救急センター運営体制検討委員会	上谷 良行	6月30日	応接室	9	運営体制の問題点
小児救急センター運営体制検討委員会	上谷 良行	7月7日	応接室	11	外来部門の検討
小児救急センター運営体制検討委員会	上谷 良行	7月14日	応接室	11	病棟部門の検討
小児救急センター運営体制検討委員会	上谷 良行	7月21日	応接室	10	関連部門の検討
小児救急センター運営体制検討委員会	上谷 良行	7月28日	応接室	9	患者の流れの検討

(13)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
リスクマネジメント部会 平成17年度 第10回	長嶋 達也	1月11日	研修室A B	24	1. 各部署12月ヒヤリハット報告 2. 医療安全実践検証について
第11回	長嶋 達也	2月15日	研修室A B	20	1. 各部署1月ヒヤリハット報告 2. 3月リスクマネジメント研修会開催について
第12回	長嶋 達也	3月15日	研修室A B	18	1. 各部署2月ヒヤリハット報告 2. 安全対策成果報告会開催について 3. 医療安全実践検証について
リスクマネジメント部会 平成18年度 第1回	長嶋 達也	4月19日	研修室A B	24	1. 各部署3月ヒヤリハット報告 2. 医療事故報告 3. 医療安全実践検証のまとめ
第2回	長嶋 達也	5月10日	応接室	22	1. 各部署4月ヒヤリハット報告

第3回	長嶋 達也	6月13日	応接室	20	1. 各部署5月ヒヤリハット報告 2. 本年度の医療安全重点取り組みに関して 3. 医療安全実践検証の評価
第4回	長嶋 達也	7月12日	応接室	20	1. 各部署6月ヒヤリハット報告 2. 注射蒸留水、生食水一本化 3. 医療事故報告 4. 実践検証院内での取りまとめ 5. 安全対策の重点取り組み
第5回	長嶋 達也	8月9日	研修室A B	20	1. 各部署7月ヒヤリハット報告 2. 医療事故報告
第6回	長嶋 達也	9月13日	応接室	16	1. 各部署8月ヒヤリハット報告 2. 安全対策重点取り組みについて
第7回	長嶋 達也	10月11日	研修室A B	22	1. 各部署9月ヒヤリハット報告 2. 県医療事故安全対策委員会報告
第8回	長嶋 達也	11月15日	研修室A B	21	1. 各部署10月ヒヤリハット報告 2. 医療事故報告
第9回	長嶋 達也	12月13日	研修室A B	22	1. 各部署11月ヒヤリハット報告

(14)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
特殊職種職員健康診断 対 策 委 員 会	山崎 武美	平成18年 5月9日	事務準備室	6	特殊職種職員HB検診の実施について B型肝炎ワクチンの接種予定について

教育研修活動

1. カンファレンス・勉強会

主催部署	日時	場所	参加人数 医師 看護師他	合計	テーマ	担当	担当科
総合診療科	毎週 火曜日 午前8:00-8:30	4階初療室	10	0	症例関連文献などの抄読会		
総合診療科	毎週 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	8	0	研究会など		
総合診療科	毎週 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	症例検討会 予演など		
総合診療科	4月5日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	9	0	VUR、尿路感染について	富永	腎臓内科
総合診療科	4月6日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	抗腫瘍薬について	小林	血液腫瘍科
総合診療科	4月12日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	7	0	造血前駆細胞における表面抗原Thy-1と細胞周期の関係について	竹田	血液腫瘍科
総合診療科	4月13日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	家族性異状分節性糸球体硬化症の1家系	藤田	腎臓内科
総合診療科	4月19日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	異染性白質シストロフィーの2歳女児例	丸山	脳神経内科
総合診療科	4月26日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	7	0	偽性低アルドステロン血症を疑っている乳児例	福島	腎臓内科
総合診療科	4月27日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	中枢性塩類喪失症候群	藤岡	総合診療科
総合診療科	5月10日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	MYCN増殖腫瘍成分とMYCN非増殖腫瘍成分の混在を認めた縦隔原発神経節芽細胞腫の一例	長谷川	血液腫瘍科
総合診療科	5月17日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	ステロイド抵抗性ネフローゼの治療について	下岡	腎臓内科
総合診療科	5月18日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	アトピー性皮膚炎に敗血症を合併した乳児例	笠井	免疫アレルギー科
総合診療科	5月24日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	9	0	Ph1陽性ALLの症例について	澤田	血液腫瘍科
総合診療科	5月25日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	痙攣重積の治療	岩見	脳神経内科
総合診療科	5月31日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	川崎病 グロブリン不能例の治療検討	小林	総合診療科
総合診療科	6月7日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	グロブリン投与後のhyperviscosityについて	秋田	総合診療科
総合診療科	6月8日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	8	0	遷延する無気肺を伴った多発性翼状片症候群の一例	吾郷	脳神経内科
総合診療科	6月14日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	Multigene engraftment and differentiation of human cord blood CD34+Lin-cells in goats assessed by gene expression profiling	竹田	血液腫瘍科
総合診療科	6月15日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	Shaken baby syndrome in Japan :Literature review and Clinical experience in Kobe Children's Hospital	永瀬	脳神経内科
総合診療科	6月22日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	HUSの1例	肥田	腎臓内科
総合診療科	6月28日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	9	0	当科で3年間で経験したWest症候群18例の検討	丸山	脳神経内科
総合診療科	6月29日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	Dent病の症例について	下岡	腎臓内科
総合診療科	7月5日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	非血縁者間骨髄移植を施行したRCMDの一例	長谷川	血液腫瘍科
総合診療科	7月6日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	国立成育医療センターにおける小児救急搬送医療の実態	佐治	総合診療科
総合診療科	7月12日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	11	0	抗菌療法のstrategy 1-根拠のない抗菌薬の使用を回避するために	細川	総合診療科
総合診療科	7月13日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	14	0	ペルルーの医療事情について	ロベルト シマブク	
総合診療科	7月19日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	ロタウイルス腸炎後に急性腎不全をきたした症例	藤田	腎臓内科
総合診療科	7月20日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	7	0	抗菌療法のstrategy 2	笠井	総合診療科
総合診療科	7月26日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	心筋緻密化障害の1例	加地	総合診療科
総合診療科	7月27日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	腸重積について	青木	総合診療科
総合診療科	8月2日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	11	0	乳児ポツリヌス症について	秋田	総合診療科
総合診療科	8月9日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	小児の血液浄化療法	千田	腎臓内科
総合診療科	8月16日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	幹細胞の可塑性	竹田	血液腫瘍科
総合診療科	8月23日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	9	0	「歩けなくなつた」「歩き方がおかしい」を主訴に来院。診断へのプロセス。	丸山	脳神経内科
総合診療科	8月30日 水曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	白血病の成因について	下岡	血液腫瘍科
総合診療科	9月6日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	重症筋無力症について	尾崎	代謝内分泌科
総合診療科	9月7日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	てんかんについて	永瀬	脳神経内科
総合診療科	9月13日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	βタミND依存性くる病1型の1家系	細川	代謝内分泌科
総合診療科	9月14日 木曜日 午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	国立成育医療センターにおける小児血液腫瘍疾患の集中治療の現況	佐治	総合診療科
総合診療科	9月20日 水曜日 午後3:00-4:00	7階会議室	8	0	JACLSの治療戦略	長谷川	血液腫瘍科

総合診療科	9月21日	木曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	地方会予演 TBIで来院し虐待が疑われた16例	青木	脳神経内科
総合診療科	9月27日	水曜日	午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	10	ベーチエット病について	笠井	免疫アレルギー科
総合診療科	9月28日	木曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	経腸栄養剤について	加地	総合診療科
総合診療科	10月5日	金曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	transient myelodysplasia in the patient of NHL	長谷川	血液腫瘍科
総合診療科	10月11日	水曜日	午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	10	Heat stroke について	丸山	脳神経内科
総合診療科	10月12日	木曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	生体肝移植について	竹田	血液腫瘍科
総合診療科	10月18日	水曜日	午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	10	インスリン治療の新たな試み	細川	代謝内分泌
総合診療科	10月19日	木曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	兵庫県災害医療センター開設以来の小児患者の現況 小児専門施設の連携	佐治	総合診療科
総合診療科	11月1日	水曜日	午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	10	髄膜炎菌による敗血症にいたった症例	笠井	総合診療科
総合診療科	11月2日	木曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	Fanconi 症候群に併発したデタニの1例	吾郷	腎臓内科
総合診療科	11月8日	水曜日	午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	10	Alport 症候群が急性増悪した症例	寺岡	腎臓内科
総合診療科	11月9日	水曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	脳浮腫について	高尾	脳神経内科
総合診療科	11月15日	水曜日	午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	10	HUS について	藤田	腎臓内科
総合診療科	11月16日	木曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	虐待について	永瀬	脳神経内科
総合診療科	11月21日	水曜日	午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	10	malignant rhabdoid tumor に関する最新の知見	長谷川	血液腫瘍科
総合診療科	11月29日	水曜日	午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	10	血球貪食リンパ組織球症について	加地	血液腫瘍科
総合診療科	11月30日	木曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	急性虫垂炎の画像診断について	石原	総合診療科
総合診療科	12月6日	水曜日	午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	10	当院における虐待対応について	佐治	脳神経内科
総合診療科	12月7日	木曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	副腎不全について	尾崎	代謝内分泌科
総合診療科	12月13日	水曜日	午後3:00-4:00	7階会議室	10	0	10	腰椎穿刺について	西濱	総合診療科
総合診療科	12月14日	木曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	虐待(shaken baby syndrome)について	竹田	血液腫瘍科
総合診療科	12月21日	金曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	電解質異常(低Na血症)について	福島	腎臓内科
総合診療科	12月27日	木曜日	午後4:00-5:00	7階会議室	10	0	10	神経疾患のステロイド療法について	丸山	脳神経内科
総合診療科	5月10日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	20	0	20	喘息・アトピー・リュウマチ	三好麻里	免疫アレルギー科
総合診療科	18日	木曜日	午後4:30-5:15	本館7階会議室	20	0	20	腎炎・ネフローゼから透析まで	田中亮二郎	腎臓内科
総合診療科	25日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	17	0	17	こどもの医療と教育	中村肇	院長
総合診療科	5月31日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	15	0	15	1)化学療法時、輸血時の注意点2)小児血液腫瘍疾患最近の知見(造血幹細胞移植を中心に)	小原嘉之	血液腫瘍科
総合診療科	8日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	14	0	14	副腎過形成	郷司克巳	代謝内分泌科
総合診療科	15日	木曜日	午後4:30-5:15	本館7階会議室	17	0	17	小児の鎮痛と鎮静	香川哲郎	麻酔科
総合診療科	22日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	15	0	15	第三次周産期医療センターにおける新生児医療	中尾秀人	新生児科
総合診療科	29日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	17	0	17	先天性心疾患の管理	藤田英樹	循環器科
総合診療科	7月5日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	18	0	18	こどもの精神科の理解	前田宏章	精神科
総合診療科	13日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	25	0	25	小児の腰部画像診断	赤坂好言	放射線科
総合診療科	20日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	17	0	17	よくある小児外科疾患の診断と治療	医師5名	一般外科
総合診療科	27日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	11	0	11	小児心臓外科手術	吉田昌弘	心臓血管外科
総合診療科	8月2日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室C	18	0	18	医療事故:ヒトは誰でも間違える	長嶋達也	脳神経外科
総合診療科	10日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	14	0	14	小児の精神と神経:明日から使える面接の基本	永瀬裕明	脳神経内科
総合診療科	17日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	12	0	12	知っておきたい小児整形外科疾患	薩摩真一	整形外科
総合診療科	24日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	11	0	11	小児泌尿器科疾患の診断と治療	杉多良文	泌尿器科
総合診療科	31日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	14	0	14	外傷・術後創処置の考え方	吉村友季	形成外科
総合診療科	9月6日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	10	0	10	先天性眼筋麻痺の診断と治療、管理「トピック:乳児内斜視の超早期手術」	野村耕治	眼科
総合診療科	14日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室AB	14	0	14	小児科医に必要な耳鼻科の知識	大津雅秀	耳鼻科
総合診療科	21日	木曜日	午後4:30-5:15	研修室C	10	0	10	低年齢児への歯科対応	石井信行	歯科

名称	date	年齢	診断	担当科	参加人数
腫瘍カンファレンス	2006/1/18	11	悪性リンパ腫	血液腫瘍科、外科、放射線科、病理科	11
腫瘍カンファレンス	2006/2/1	9	縦隔腫瘍	血液腫瘍科、外科、整形外科、放射線科、病理科	13
腫瘍カンファレンス	2006/2/1	0	奇形腫		
腫瘍カンファレンス	2006/2/1	0	腎腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/2/1	14	骨肉腫		
腫瘍カンファレンス	2006/2/8	2	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、放射線科、病理科	9
腫瘍カンファレンス	2006/3/8	2	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、外科、放射線科、病理科	15
腫瘍カンファレンス	2006/3/8	11	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/3/8	6	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/3/8	3	頭蓋底腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/3/8	4	腎腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/3/13	3	奇形腫	血液腫瘍科、外科、放射線科、病理科	9
腫瘍カンファレンス	2006/3/22	2	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、放射線科、病理科	9
腫瘍カンファレンス	2006/3/22	6	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/3/22	2	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/3/29	4	腎腫瘍	血液腫瘍科、外科、放射線科、病理科	10
腫瘍カンファレンス	2006/4/5	3	頭蓋底腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、放射線科、病理科	9
腫瘍カンファレンス	2006/4/11	4	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、放射線科、病理科	11
腫瘍カンファレンス	2006/4/11	2	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/4/19	6	腎腫瘍	血液腫瘍科、外科、放射線科、病理科	11
腫瘍カンファレンス	2006/4/19	1	神経皮膚症候群		
腫瘍カンファレンス	2006/5/2	3	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、外科、放射線科、病理科	15
腫瘍カンファレンス	2006/5/2	3	精巣腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/5/10	1	網膜芽腫	血液腫瘍科、眼科、外科、整形外科、放射線科、病理科	16
腫瘍カンファレンス	2006/5/10	1	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/5/10	1	LCH		
腫瘍カンファレンス	2006/5/17	6	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、放射線科、病理科	9
腫瘍カンファレンス	2006/5/24	3	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、放射線科、病理科	9
腫瘍カンファレンス	2006/5/31	6	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、外科、放射線科、病理科	13
腫瘍カンファレンス	2006/5/31	2	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/5/31	2	腎腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/5/31	3	頭蓋底腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/6/7	17	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/6/7	11	縦隔腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、外科、放射線科、病理科	14
腫瘍カンファレンス	2006/6/14	2	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、外科、眼科、放射線科、病理科	16
腫瘍カンファレンス	2006/6/14	1	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/6/14	6	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/6/14	1	網膜芽腫		
腫瘍カンファレンス	2006/6/14	0	網膜芽腫		
腫瘍カンファレンス	2006/6/21	10	頸部リンパ節腫脹	血液腫瘍科、整形外科、外科、放射線科、病理科	13
腫瘍カンファレンス	2006/6/21	0	LCH		
腫瘍カンファレンス	2006/6/21	1	跛行		
腫瘍カンファレンス	2006/6/28	12	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、循環器科、放射線科、病理科	14
腫瘍カンファレンス	2006/6/28	0	心臓腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/7/5	2	腎腫瘍	血液腫瘍科、外科、放射線科、病理科	15
腫瘍カンファレンス	2006/7/5	10	頸部リンパ節腫脹		
腫瘍カンファレンス	2006/7/5	0	LCH		
腫瘍カンファレンス	2006/7/12	0	Ewing sarcoma/PNET	血液腫瘍科、脳外科、外科、放射線科、病理科	15
腫瘍カンファレンス	2006/7/26	0	網膜芽腫	血液腫瘍科、眼科、放射線科、病理科	10
腫瘍カンファレンス	2006/7/26	1	網膜芽腫		
腫瘍カンファレンス	2006/8/4	11	膀胱腫瘍	血液腫瘍科、泌尿器科、外科、放射線科、病理科	13

名称	date	年齢	診断	担当科	参加人数
腫瘍カンファレンス	2006/8/9	3	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、外科、放射線科、病理科	13
腫瘍カンファレンス	2006/8/9	0	Ewing sarcoma/PNET		
腫瘍カンファレンス	2006/8/23	5	奇形腫	血液腫瘍科、外科、放射線科、病理科	13
腫瘍カンファレンス	2006/8/30	11	腎腫瘍	血液腫瘍科、外科、放射線科、病理科	15
腫瘍カンファレンス	2006/8/30	3	腎腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/8/30	2	CAEBV		
腫瘍カンファレンス	2006/8/30	12	脂肪腫		
腫瘍カンファレンス	2006/9/15	5	縦隔腫瘤		
腫瘍カンファレンス	2006/9/25	4	LCH	血液腫瘍科、整形外科、外科、放射線科、病理科	13
腫瘍カンファレンス	2006/9/29	6	奇形腫	血液腫瘍科、外科、放射線科、病理科	13
腫瘍カンファレンス	2006/9/29	11	右頸部腫瘤		
腫瘍カンファレンス	2006/10/4	1	神経芽腫	血液腫瘍科、眼科、外科、放射線科、病理科	16
腫瘍カンファレンス	2006/10/4	1	網膜芽腫		
腫瘍カンファレンス	2006/10/4	0	網膜芽腫		
腫瘍カンファレンス	2006/10/25	12	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、外科、放射線科、病理科	15
腫瘍カンファレンス	2006/10/25	3	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/10/25	2	腎腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/11/1	6	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、外科、放射線科、病理科	14
腫瘍カンファレンス	2006/11/1	0	血管腫		
腫瘍カンファレンス	2006/11/15	2	腎腫瘍	血液腫瘍科、外科、放射線科、病理科	13
腫瘍カンファレンス	2006/11/15	12	悪性リンパ腫		
腫瘍カンファレンス	2006/11/22	0	網膜芽腫		
腫瘍カンファレンス	2006/11/22	0	Ewing sarcoma/PNET	血液腫瘍科、脳外科、外科、眼科、放射線科、病理科	15
腫瘍カンファレンス	2006/11/29	12	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、放射線科、病理科	12
腫瘍カンファレンス	2006/11/29	14	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/12/6	13	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、外科、放射線科、病理科	13
腫瘍カンファレンス	2006/12/6	3	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/12/6	13	脳腫瘍		
腫瘍カンファレンス	2006/12/6	10	LCH		
腫瘍カンファレンス	2006/12/13	6	肝芽腫		
腫瘍カンファレンス	2006/12/20	12	頭蓋咽頭腫	血液腫瘍科、脳外科、放射線科、病理科	13
腫瘍カンファレンス	2006/12/27	10	脳腫瘍	血液腫瘍科、脳外科、外科、放射線科、病理科	15
腫瘍カンファレンス	2006/12/27	3	腎腫瘍		

名称	主催部署	日	テーマ	担当
院内症例検討会	形成外科	6月22日	形成外科的切開と縫合	大崎陽子
院内専攻医セミナー	形成外科	8月31日	外傷、術後創傷処置の考え方	吉村友希
兵庫医大形成外科セミナー	形成外科	9月6日	兵庫県立こども病院における口唇裂治療	大山知樹

名称	主催部署	日時	場所	参加人数	テーマ	担当
第8回兵庫小児難聴カンファレンス	耳鼻咽喉科	平成18年2月3日	研修室 AB	耳鼻科医師(2)、言語聴覚士(1)、院外聾学校教諭、言語聴覚士、学生(合計20人)	小児難聴施設と病院の連携	耳鼻咽喉科
第9回兵庫小児難聴カンファレンス	耳鼻咽喉科	平成18年5月6日	研修室 AB	耳鼻科医師(2)、言語聴覚士(1)、院外聾学校教諭、言語聴覚士(合計15人)	聞こえと言葉の教室紹介、ASSRの臨床応用	耳鼻咽喉科

名称	主催部署	日時	場所	参加人数	テーマ
麻酔科カンファレンス	麻酔科	通年、毎日午前8時40分から9時	手術室内 麻酔医室	8-11名	毎日の麻酔症例について 検討、情報交換を行う
麻酔科抄読会	麻酔科	隔週月曜、午前8時40分から9時	手術室内 麻酔医室	8-11名	英文雑誌から麻酔関連論 文の紹介
麻酔科・心臓外科合同 カンファレンス	麻酔科・ 心臓外科	通年、毎日午前7時55分から8時 10分	ICU	10名程度	当日の心臓外科症例につ いてのカンファレンス

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.5 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	ALTEをきたした超早産児の1例	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.10 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	超低出生体重児の腸穿孔	赤堀
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.10 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	人工換気中の鎮静	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.12 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	骨形成不全の1例	福島
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.12 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	早産児のNO吸入療法	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.17 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	PDAとCLDを合併した超早産児の1例	上田泰
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.17 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	SpO2値の基準	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.19 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	IGF研究：途中経過	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.24 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	BNP研究：途中経過	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.26 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	DLS研究	赤堀
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.26 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	新生児黄疸の説明文	上田泰
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.1.31 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	地方会予演会	福島
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.2 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	2005年統計	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.2 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	Uu研究：文献・途中経過	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.7 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	死亡症例検討	赤堀
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.7 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	新生児メレナの説明文	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.7 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	巨大児娩：肩甲難産後の新生児仮死の1例	赤堀
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.9 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	meconium diseaseをきたしたAFD児の1例	福島
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.14 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	C型食道閉鎖+胃破裂の1例	藤岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.14 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	口唇口蓋裂の説明文	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.16 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	膈嚥閉鎖術後に急性肝不全、DIC、消化管出血を合併した早産児の1例	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.21 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	早産児の副腎不全研究	赤堀
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.21 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	2005年感染対策統計	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.23 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	DLS, 重症CLDを合併した超早産児の1例	福島
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.23 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	IUGRの説明文	福島
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.28 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	近畿新生児研究会予演会 (IUGRとCLD)	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.2.28 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	8	CLDの説明文	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.2 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	Rh不適合妊娠の1例	藤岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.7 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会抄録：テガダーム	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.9 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会抄録：DLS研究	赤堀
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.14 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会抄録：BNP研究	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.14 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	腹壁破裂の1例	細川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.16 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会抄録：IGF研究	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.16 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会抄録：超早産児においてIUGRはCLDの危険因子か？	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.23 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	DLS研究：論文	赤堀

名	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.23 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	新生児副腎不全に関する検討	赤堀
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.28 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	地方会抄録	松本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.28 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	品胎の生存率、発達予後の説明文	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.30 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	RSV感染症の2例	藤岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.31 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会予演会：DLS 研究	赤堀
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.3.31 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会抄録：Uu	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.4 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	地方会抄録（長期羊水流出に伴う肺低形成に対し長期間の呼吸管理で救命しえた一例）	細川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.6 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	Uu 研究：文献・途中経過	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.11 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	小児科学会予演会：PHH	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.11 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	小児科学会予演会：MAS	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.13 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	小児科学会予演会：CLD	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.18 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	VSD、尿道下裂を合併した severe IUGR の一例	松本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.18 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	遷延する apnea が認められる IUGR の一例	寺岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.20 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	予演会(Increased Risk for Retinopathy of Prematurity in Preterm Infants with Intrauterine Growth Retardation)	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.20 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	APS 予演会(Diffuse Choroamniotic Hemorrhosis as a Risk Factor for Cerebral White Matter Damage in Preterm Infants)	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.25 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	出生 2 時間後より呼吸障害をきたした HIE の一例	肥田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.25 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	腹壁破裂-当院10年のまとめ-	細川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.27 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	原因不明の非免疫性胎児水腫の 1 例	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.4.27 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	長期保存の管理中の HLHS の低出生体重児の 1 例	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.2 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	18トリソミーの 1 例	松本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.2 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	脳梁欠損を伴う先天性水頭症の 1 例	寺岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.9 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	APS 報告・研究総括	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.11 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	胎児母体間輸血症候群による先天性貧血の 1 例	肥田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.12 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	AS を合併し死亡に至った TTTS 受血児の 1 例	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.16 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	地方会予演会 腸瘻閉鎖術後に急性肝不全を合併した超低出生体重児の 1 例	松本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.16 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	地方会予演会 長期羊水流出に伴う肺低形成に対する治療戦略	細川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.18 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	胎便病に対するガスTROグラフィン経口投与	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.18 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	重症 CLD に対するハイドコルチゾン投与	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.19 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	生後6週で死亡した HLHS の低出生体重児	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.23 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	経静脈栄養のルーチン	細川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.23 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	症候性動脈管閉存症が認められた品胎例	寺岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.25 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	胎児診断された総胆管拡張症の 1 例	松本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.26 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	前期破水による肺低形成を合併し死亡した TTTS 受血児	細川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.5.30 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	奇形症候群の 1 例	肥田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.1 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	Uu 研究、途中経過	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.2 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	aEEG 導入	坂井

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.6 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	視床下部出血をきたした胎22週の1例	寺岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.6 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	修正18ヶ月での発達発育評価	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.8 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	新生児心不全の評価と治療 PDE阻害薬の使用を中心に	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.9 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	死亡症例検討	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.13 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	13トリソミーの1例	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.15 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	VATER associationの1例	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.15 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	多胎におけるアトローゼ型CP症例の検討	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.20 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	malrotationを合併したTGAの1例	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.22 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	肥大型心筋症による胎児水腫を合併した Noonan 症候群の1例	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.27 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会予演会：BNP研究	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.27 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会予演会：テガターム	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.27 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会予演会：Uu研究	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.29 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会予演会：血清IGF1とROPの関連性	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.29 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会予演会：PROMによる肺低形成症例の胎盤病理所見	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.6.29 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会予演会：ELBW において IUGR は CLDの危険因子か	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.4 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	GBS感染による FIRS の1例	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.4 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	左肺葉切除を施行した慢性肺疾患の1例	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.6 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	aEEGの臨床応用	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.7 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	死亡症例検討 原因不明の重症仮死の1例	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.13 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	胎児 MRI で診断された総排泄腔遺残症の1例	岩見
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.18 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	先天性骨形成不全に対してビスフォスフォネート投与した1例	林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.20 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会抄録：左下葉切除にて救命しえた CLD の一例	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.20 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会抄録：胎児水腫の検討	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.20 他 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会抄録：CLDの胸部CT所見の検討	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.21 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	一児のみ RDS を発症した双胎の一例	澤田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.25 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	TTTStage1で受血児にMRI異常を認めたMD 双胎例	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.25 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	尖圭コンジローム未治療母体から出生した早産児	岩見
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.7.28 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会抄録：左下葉切除にて救命しえた CLD の一例	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.1 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	Pierre Robin Sequence の一例	澤田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.1 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	低ナトリウム血症をみとめた重症 HIE の一例	林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.2 水 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会抄録：2絨毛膜3羊膜品胎内の予後についての検討	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.2 水 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会抄録：U.u, M・h 研究	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.2 水 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会抄録：BNP 研究	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.3 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会抄録：早産児におけるPGI2使用例の報告	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.3 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会抄録：CLDの胸部CT所見の検討	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.7 月 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会抄録：超早産児における組織学的CAMと関連する周産期因子の検討	溝淵

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.8 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	腹壁破裂の一例	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.8 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	先天性高乳酸血症の一例	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.10 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	甲状腺機能低下症を合併した呼吸障害の一例	岩見
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.15 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	地方会予演会：PHHの臨床経過についての検討	林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.15 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	地方会予演会：DD双胎におけるRDのリスク因子の検討	澤田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.17 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	胸部CT 研究	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.17 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	研究計画	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.22 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	ルーチン：フローランの使用法	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.22 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	ルーチン：未熟児貧血	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.24 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	MASの一例	岩見
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.29 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	説明文：CLD	澤田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.29 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	SFD児のPDAの管理	林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.8.31 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	頭部MRI 研究	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.5 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	メトヘモグロビン血症の一例	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.7 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	HDC 研究	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.12 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	ルーチン：デジタル画像管理	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.12 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	気腫性嚢胞をきたすCLDについての検討	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.14 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	PDA 研究	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.19 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	地方会予演会：DD双胎における呼吸障害	澤田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.19 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	地方会予演会：PHHの検討	林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.21 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	重症仮死の検討	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.26 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	症例	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.28 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	10	夏休み	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.9.28 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	研究総括	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.3 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	重症仮死の2症例～aEEG所見を中心に～	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.5 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	小児科学会抄録：長期人工呼吸管理を要する重症仮死児の検討	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.10 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	未熟児新生児学会予演会：肺葉切除を施行したELBW児	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.10 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	経過中にdyttoniaを呈したELBWの一例	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.12 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	死亡症例検討 366gで出生したMD双胎第2子	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.13 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	持続性高インスリン血症性低血糖症の一例	下岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.17 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	DCH 研究：導入	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.19 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	小児科学会抄録：超早産児の脳室サイズと予後	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.20 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	小児科学会抄録：ECMOからの離脱にINO,PGI2が有効であったCDHの一例	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.20 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	長期胎盤機能不全にさらされていたと考えられた一例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.24 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	鎖肛の一例	西濱
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.26 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11	ルーチン：未熟児貧血	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.10.31 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	11		富永

名 称	主催部署	日 時	場 所	参加人数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.2 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	無呼吸発作が遷延した一例	下岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.7 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	出生後に皮下出血の進行を認めた胎児水腫の同胞例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.10 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	梅毒母体から出生した児	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.13 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン：未熟児貧血	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.14 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児学会予演会：CLDの胸部CTの検討 臨床像	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.14 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児学会予演会：修正36週時BNP 高値の児はCLDを発症する	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.16 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児学会予演会：超早産児のCAMと関連する因子の検討	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.16 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児学会予演会：重症PPHN 早産児に対するPGI2使用例	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.17 金 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児学会予演会：肺葉切除を施行したELBW児	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.21 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン：エリスロポイエチン	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.21 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン：デジタル画像管理	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.21 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン：膈カテーテルの管理	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.21 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	APS 抄録：早産児におけるIGF1とROP	富永
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.11.21 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	近畿小児科学会抄録：超早産双胎の予後	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.5 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	PPHNにて当院に搬送になった1症例	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.5 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	症候性PDAに対しclippingを選択した超早産児の1例	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.7 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	TTTStage1で受血児にMRI異常を認めたMD 双胎例	下岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.12 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	2007研究計画：	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.14 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	2007研究計画：CLDの胸部CT	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.19 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン：新生児痙攣の管理	坂井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.21 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン：黄疸管理	秋田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.26 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	2007研究計画：BNP,側脳室サイズ, 副腎不全	下岡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.26 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	E.coliによる化膿性髄膜炎後水頭症をきたした一例	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.26 火 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン：聴覚スクリーニング	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.27 水 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	死亡症例検討：蘇生困難であったCDH	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.28 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	2007研究計画：	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2006.12.28 木 午後4:00～5:30	NICUカンファレンスルーム	9	2007研究計画：	溝淵

名称	主催部署	日時	場所	参加人数	テーマ
産科モーニングカンファレンス	産科病棟	毎日 8:40~9:00	病棟ナースステーション	医師7人、看護師3人	症例検討会、情報交換など
産科抄読会	産科	毎金 8:20~8:35	産科病棟医師図書室	医師7人	英文雑誌から産科関連論文の抄読会、予演会、情報交換など
産科ウィークエンドカンファレンス	産科病棟	毎金 16:00~16:20	病棟ナースステーション	医師6人、看護師3人、検査技師1人	症例検討
周産期カンファレンス	産科・新生児科	毎月曜16:30~17:00	産科外来指導室	医師6人、看護師3人、薬剤師2人、検査技師1人	分娩前母体と新生児の症例検討

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
1年目勉強会	NICU	6月28日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	看護師 10	新生児の栄養について	
1年目勉強会	NICU	8月25日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	看護師 10	入院受け・感染防止について	
1年目勉強会	NICU	9月25日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	看護師 10	CLD 児の呼吸管理について	
1年目勉強会	NICU	12月28日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	看護師 10	OP 出しについて	
2年目勉強会	NICU	9月9日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	看護師 13	超早産児の事例検討 (関連図を用いて)	
3年目勉強会	NICU	10月24日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	看護師 6	NO 療法中の患児の看護について事例検討	
病棟勉強会	NICU	7月17日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	看護師 18	輸液管理について	
病棟勉強会	NICU	12月7日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師 30	腹壁破裂の治療について	高見澤 Dr.
研修報告会	NICU	10月31日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師 30	発達段階に応じたケア、周産期における倫理	
研修報告会	NICU	11月14日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師 18	リスクマネジメントについて	
救急蘇生勉強会	NICU	2月10日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師 32	全体シミュレーション	
救急蘇生勉強会	NICU	7月6日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	看護師 15	救急蘇生の AB とは、知識・技術の習得	
救急蘇生勉強会	NICU	9月15日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	看護師 15	救急蘇生の CD とは、知識・技術の習得	
救急蘇生勉強会	NICU	11月6日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	看護師 15	シミュレーション、救急場面のリーダーシップ	
周産期勉強会	NICU・GCU	5月29日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師 31	Let's Enjoy Neonatal Care!	中尾医師
周産期勉強会	NICU・GCU	6月23日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師 34	新生児不整脈と緊急時の対処について	吉本医師
周産期勉強会	NICU・GCU	7月24日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師 36	新ルーチンについて	吉形医師
周産期勉強会	NICU・GCU	10月24日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師 25	摂食嚥下リハビリテーション	看護師
周産期勉強会	NICU・GCU	1月29日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師 42	研修報告会 (家族アクセスメント・気管切開児の在宅への移行・愛育研修)	看護師
1年目勉強会	GCU	6月20日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 12	直母について	看護師
1年目勉強会	GCU	6月26日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 15	沐浴について	看護師
1年目勉強会	GCU	7月7日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 12	救急蘇生	看護師
1年目勉強会	GCU	10月6日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師 13	救急蘇生	看護師
1年目勉強会	GCU	8月28日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 14	無呼吸発作について	看護師
1年目勉強会	GCU	10月27日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 13	腹部アプローチの選択について	看護師
1年目勉強会	GCU	2月23日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	体温管理について	看護師
1年目勉強会	GCU	8月9日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	N-CPAP 管理	看護師
2年目勉強会	GCU	9月30日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	出血傾向についての看護	看護師
2年目勉強会	GCU	10月26日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	先天性高乳酸血症についての看護	看護師
2年目勉強会	GCU	11月30日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	フローア四徴症についての看護	看護師
2年目勉強会	GCU	1月26日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 10	髄膜炎についての看護	看護師
2年目勉強会	GCU	2月7日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	PDA についての看護	看護師
2年目勉強会	GCU	5月26日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 10	救急蘇生	看護師

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
2年目勉強会	GCU	9月11日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	7	救急蘇生	看護師 看護師
病棟勉強会	GCU	6月30日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	10	接遇勉強会	看護師 看護師
病棟勉強会	GCU	8月10日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	13	接遇勉強会	看護師 看護師
病棟勉強会	GCU	6月28日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	18	救急蘇生 DCの使用について	看護師 看護師
病棟勉強会	GCU	8月2日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	17	救急蘇生 DCの使用について	看護師 看護師
病棟勉強会	GCU	1月15日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	経口挿管について	看護師 看護師
病棟勉強会	GCU	1月16日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	8	経口挿管について	看護師 看護師
病棟勉強会	GCU・NICU	3月5日	17:30～18:30	研修室 AB		チーム活動成果発表会	看護師 看護師
勉強会	ICU	6月1日	17:40～18:50	研修室 C	21	救急蘇生 1：急変時の役割シミュレーション	西村・本田・ 西川・尾崎
勉強会	ICU	6月8日	17:40～19:00	カンファレンスルーム	7	開心術後 OR：呼吸管理	鈴木・木村・ 藤波
勉強会	ICU	6月16日	17:45～19:25	カンファレンスルーム	7	開心術後 OR：心臓カテーテル	村川・本田・ 井川
勉強会	ICU	6月23日	17:30～19:10	カンファレンスルーム	7	開心術後 OR：体外循環・心筋保護	西村・田路・ 廣川
勉強会	ICU	7月1日	17:30～19:15	カンファレンスルーム	7	開心術後 OR：不整脈	開保津・松下・ 井上
勉強会	ICU	6月26日	17:45～18:45	研修室 AB	40	ME 機器の原理と看護	西川・本田
勉強会	ICU	7月13日	17:30～18:00	研修室 C	16	事例検討方法の理解	伊丹・CNS 濱田
勉強会	ICU	7月28日	17:30～19:00	母と子の教室	18	新生児管理：摂食	伊丹・GCU 三宅
勉強会	ICU	8月10日	17:30～18:40	会議室 1	11	皮膚トラブルの予防とケア	小原
勉強会	ICU	8月24日	17:30～19:00	研修室 AB	20	背景要因分析方法 1	西村・尾崎・ 木村・井川
勉強会	ICU	9月21日	17:35～19:07	病棟	19	救急蘇生 2：急変時の外回りシミュレーション	開保津・鈴木・ 田路・木村
勉強会	ICU	9月25日	17:30～19:00	カンファレンスルーム	8	薬品・血液の取り扱い	田路
勉強会	ICU	10月25日	17:40～19:05	研修室 C	19	感染・スタンダードプリコーション	中村・井上・ 牛谷・廣川
勉強会	ICU	11月22日	17:48～18:54	研修室 C	15	ME 機器補助循環	本田・ME 中 村
勉強会	ICU	12月6日	17:30～18:30	母と子の教室	30	フォンタン術後管理	西澤・Dr 日 隈

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
勉強会	I C U	12月27日	17:50～19:20	研修室AB	看護師 19	背景要因分析方法2	西村・尾崎・木村・井川
勉強会	I C U	11月29日	17:30～18:55	研修室AB	看護師 17	呼吸理学療法1	山本・鈴木・石本・田路・尾崎・福島・中谷
勉強会	I C U	12月15日	17:30～18:00	カンファレンスルーム	看護師 7	呼吸理学療法2	石本・尾崎
勉強会	I C U	12月22日	17:30～18:00	カンファレンスルーム	看護師 4	呼吸理学療法3	山本・鈴木・田路・福島
勉強会	I C U	1月24日	17:30～18:50	研修室C	看護師 19	救急蘇生3:急変時の役割シミュレーション	開保津・本田・尾崎・西川・Dr.井上・Dr.富永
病棟勉強会	H C U病棟	4月3日	17:30～18:30	研修室C	看護師 6	血液透析について	腎内：田中 医師
病棟勉強会	H C U病棟	5月30日	17:30～18:30	研修室C	看護師 6	感染対策について	吉田看護師
病棟勉強会	H C U病棟	5月31日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 11	気管形成後術後の管理	東看護師
病棟勉強会	H C U病棟	6月15日	17:30～18:10	研修室C	看護師 21	B C R看護について	穂乃上看護 師
病棟勉強会	H C U病棟	7月	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	在宅看護について	山口看護師
病棟勉強会	H C U病棟	7月	17:30～18:30	研修室C	看護師 10	摂食について	森本看護師
病棟勉強会	H C U病棟	8月	17:30～18:20	カンファレンスルーム	看護師 8	腹壁破裂について	一外：岡本 医師
病棟勉強会	H C U病棟	8月11日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	看護師 14	N - D P A Pについて	藤田看護師
病棟勉強会	H C U病棟・外 来	10月11日	17:30～18:40	研修室A B	看護師 1	L T V呼吸器の取り扱い説明	フジレスピロ ニクス(業 者) 佐藤氏
病棟勉強会	H C U病棟	3回/年	日勤中及び終了 後	H C U病棟	新人対象 全員対象	救急シミュレーション	プリセプター ナース、 勉強会係り
勉強会	産科病棟	4月2日	17:30～18:30	産科外来指導室	看護師 11	CTGについて	中井・能勢・ 前田
勉強会	産科病棟	5月31日	17:30～18:30	産科外来指導室	看護師 13	新生児の生理と理解	赤尾・能勢
勉強会	産科病棟	6月26日	17:30～18:30	産科外来指導室	看護師 12	輸血について	西野・前田

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
勉強会	産科病棟	7月10日	17:30～19:00	産科外来指導室	看護師 22	児の急変時や日々の対応についての事例検討	鳴美
勉強会	産科病棟	7月30日	17:30～18:30	産科外来指導室	看護師 11	乳房ケア	岸野・中井
勉強会	産科病棟	8月29日	17:30～18:30	産科外来指導室	看護師 12	帝王切開を受ける患者の看護	赤尾・能勢
勉強会	産科病棟	9月26日	17:30～18:30	産科外来指導室	看護師 10	経膈分娩後の看護	西野・前田
勉強会	産科病棟	10月30日	17:30～18:30	分娩室 3	看護師 9	経膈分娩時の直接介助・間接介助	岸野・中井
勉強会	産科病棟	12月19日	17:30～18:40	産科外来指導室	看護師 14	PIHの病態生理	赤尾・能勢
病棟勉強会	血液主体病棟	4月18日	17:30～18:30	7階学習室	看護師 4	血液データの読み方	堀川 田中
病棟勉強会	血液主体病棟	5月29日	17:30～18:30	7階会議室	看護師 9	化学療法	杉山
病棟勉強会	血液主体病棟	5月16日	17:30～18:30	7階学習室	看護師 6	輸血	木下
コミュニケーション	血液主体病棟	6月20日	13:30～18:30	血液主体病棟	看護師 5	救急蘇生(新人看護師対象)	宮本・森本
病棟勉強会	血液主体病棟	6月28日	17:30～18:30	7階学習室	看護師 6	症状マネジメント	松野
病棟勉強会	血液主体病棟	6月20日	17:30～18:30	7階学習室	看護師 3	放射線科検査時の看護	松野
講習会	血液主体病棟	7月18日	17:30～18:30	研修室C	看護師 15	マッサージの習得	杉山 松下
病棟勉強会	血液主体病棟	8月9日	17:30～18:30	7階会議室	看護師 19	歯科と口腔ケア	川崎
コミュニケーション	血液主体病棟	9月13日	13:30～18:30	血液主体病棟	看護師 6	救急蘇生	河江 松野
講習会	血液主体病棟	9月12日	17:30～18:30	研修室C	看護師 15	マッサージの習得	杉山 松下
病棟勉強会	血液主体病棟	9月21日	17:30～18:30	7階学習室	看護師 5	痛みについての基礎知識	川崎
病棟勉強会	血液主体病棟	10月	17:30～18:30	7階会議室	看護師 10	移植前後の看護	斉藤
病棟勉強会	血液主体病棟	12月13日	13:30～18:30	病棟	看護師 6	呼吸管理 摂食ケア	森本 宮本
病棟勉強会	血液主体病棟	11月	17:30～18:30	7階学習室	看護師 10	BCRでの看護	濱田 斉藤
病棟勉強会	血液主体病棟	2月21日	17:30～18:30	7階会議室	看護師	ターミナルケア	河江
勉強会	学童主体病棟	1月10日	17:30～18:30	学童病棟	看護師 4	事例検討会 転落について	森田看護師
勉強会	学童主体病棟	1月12日	17:30～18:30	第7会議室	看護師 5	もやもや病について	秋山医師
勉強会	学童主体病棟	2月4日	17:30～18:30	学童病棟	看護師 6	蘇生シミュレーション	文字看護師
勉強会	学童主体病棟	5月10日	18:00～18:45	学童病棟	看護師 9	JIA(マクロファージ活性化症候群)	笠井医師
勉強会	学童主体病棟	5月18日	17:30～19:00	第2会議室	看護師 12	蘇生シミュレーション	文字看護師
勉強会	学童主体病棟	7月3日	17:30～19:00	研修室AB	看護師 19	腹膜透析について「ゆめ」の取り扱いについて	田中医師
勉強会	学童主体病棟	7月20日	17:45～18:25	第2会議室	看護師 15	リーダーシップについて	濱田 CNS
勉強会	学童主体病棟	7月25日	17:30～19:00	学童病棟	看護師 11	蘇生シミュレーション	文字看護師
勉強会	学童主体病棟	9月22日	17:30～18:30	学童病棟	看護師 6	糖尿病患児の疾患理解についての指導方法	細川医師
勉強会	学童主体病棟	10月11日	17:45～18:45	学童病棟	看護師 10	JIA 治療の流れについて	治験コーディネーター 高坂氏
勉強会	学童主体病棟	10月25日	17:30～19:00	学童病棟	看護師 11	蘇生シミュレーション	文字看護師
勉強会	学童主体病棟	11月7日	17:30～18:30	第1会議室	看護師 6	低身長検査について	細川医師

名 称	主催部署	開催日	時 間	場 所	参加者人数	テ ー マ	担 当
勉強会	混合病棟	5月23日	17:30～18:30	7Fカンファレンスルーム	看護師 15	LCC ソルターについて	薩摩医師
勉強会	混合病棟	6月5日	17:30～18:30	7Fカンファレンスルーム	看護師 24	斜視について	西崎医師
勉強会	混合病棟	11月24日	17:30～18:30	7Fカンファレンスルーム	看護師 12	ウエスト症候群にゆいて	丸山医師
勉強会	混合病棟	11月27日	17:30～18:30	7Fカンファレンスルーム	看護師 10	口唇・口蓋裂・多指・合指について	大崎医師
勉強会	循環器 A 病棟	7月20日	18:00～19:00	食堂	看護師 12	救急蘇生 基本とシミュレーション	
勉強会	循環器 A 病棟	8月28日	17:45～18:50	7階会議室	看護師 11	記録 自分の身を守るための記録とは	
勉強会	循環器 A 病棟	9月26日	17:40～19:00	7階会議室	看護師 10	摂食 Fさんの事例を通して食事介助の基本と記録の方法	
勉強会	循環器 A 病棟	11月22日	17:30～18:30	7階会議室	看護師 18	記録 判例事例を基に記録を考える	
勉強会	循環器 A 病棟	12月4日	17:40～19:00	食堂	看護師 16	リスクマネージメント 安全管理	
勉強会	循環器 A 病棟	1月24日	17:40～18:45	食堂	看護師 15 麻酔科医師 2 循環器医師 1	救急蘇生 シミュレーション	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	6月19日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 9	与薬まちがいに關するひやりはとをうけて	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	6月21日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 8	同上内容	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	6月22日	14:40～15:10	病棟 Ns ステーション	看護師 8	N・Yさんの対応について	
城戸医師カンファレンス	循環器 A 病棟	7月11日	14:35～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 6	排便コントロールについて	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	7月18日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 11	502号室の環境整備について	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	7月26日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 7	点滴シーネ固定の基本とポイント	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	8月14日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 7	スタンプを口に入れた事例について	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	8月26日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 9	記録グループから 取り組みについて	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	9月15日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 7	入眠剤使用後の転倒事例の検討	
城戸医師カンファレンス	循環器 A 病棟	9月29日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 13	A・Gさんのケースカンファレンス	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	10月4日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 6	M R S A 管理変更後1例目の入院を受けて	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	10月25日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 7	児のケア統一、母の思いについて	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	10月26日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 9	Sさん退院へ向けての在宅支援	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	11月15日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 7	利尿剤重複投与の振り返り	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	11月20日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 10	ヒアリハットを受けて、アナムネの取り方	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	12月8日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 8	バート交代時の急変の事例検討	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	1月26日	14:30～15:00	病棟 Ns ステーション	看護師 6	アラーム対応について	
城戸医師カンファレンス	循環器 A 病棟	2月20日	14:15～14:45	病棟 Ns ステーション	看護師 10 循環器医師 1	複雑心奇形児の治療方針と看護について	
勉強会	循環器 B 病棟	6月28日	17:45～19:30	7F 会議室	看護師 21	心不全	青木医師・森岡・赤木

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	担当	名称
勉強会	循環器B病棟	7月19日	17:30～18:30	7F会議室	18 看護師	A S D, V S D, P H	山本
勉強会	循環器B病棟	7月24日	17:45～19:00	食堂	17	蘇生(初期編)	伊藤
勉強会	循環器B病棟	9月17日	17:30～19:00	7F会議室	13	T O F	倉増・下井
勉強会	循環器B病棟	10月16・25日	17:45～18:45	食堂	17	プリパレーションについて(Cチーム主催)	Cチーム
勉強会	循環器B病棟	9月26日	17:45～18:40	527号	11	蘇生(応用編)	伊藤
勉強会	循環器B病棟	10月27日	17:45～19:30	食堂	11	HLHS	井上・平
勉強会	循環器B病棟	11月8・16日	14:30～14:50	521号室	9	摂食ケア部会(3回にわけて)	藤森
勉強会	循環器B病棟	11月21日	17:45～18:40	食堂	14	蘇生(応用編)	伊藤
勉強会	循環器B病棟	12月25日	18:00～19:00	7F会議室	10	グレン, TCPC	藤森・坂田
勉強会	循環器B病棟	1月30日	17:45～18:45	食堂	8	乳房ケア	長谷川・渡辺
勉強会	循環器B病棟	4月27日	17:45～19:30	食堂	8	V S, I V管理, モニター, ポンプの取り扱い	井上・倉増・藤森
勉強会	循環器B病棟	5月31日	17:45～19:30	食堂	9	不整脈	井上・倉増・藤森
勉強会	循環器B病棟	6月16日	17:45～19:30	食堂	9	不整脈(ペースメーカー)	井上・倉増・藤森
勉強会	循環器B病棟	7月24日	17:45～19:30	食堂	7	呼吸管理(解剖～吸引手技)	井上・倉増・藤森
勉強会	循環器B病棟	8月9日	17:45～19:30	食堂	6	呼吸管理(7月の続き)	井上・倉増・藤森
勉強会	循環器B病棟	1月8日	18:00～19:30	面談室	6	呼吸管理(呼吸器)	井上・倉増・藤森
勉強会	循環器B病棟	1月18日	18:00～19:30	面談室	6	呼吸管理(呼吸器)	井上・倉増・藤森
1年目勉強会	一般外科主体救急	4月25日	18:00～19:00		2		
1年目勉強会	一般外科主体救急	4月26日	18:00～19:00		2		
救急勉強会	一般外科主体救急	5月18日	17:30～18:30	母と子の教室	36	脳低体温療法	湯村看護師
外科勉強会	一般外科主体救急	5月25日	17:40～18:50	研修室C	32	BAの治療と管理	連医師
泌尿器勉強会	一般外科主体救急	5月30日	17:40～19:20	研修室AB	28	尿道下裂・VUR・水腎症	乃美医師
泌尿器勉強会	一般外科主体救急	6月6日	17:40～19:25	研修室AB	32	心因性膀胱と膀胱拡大術	乃美医師
					1		
救急勉強会	一般外科主体救急	6月12日	17:35～18:30	母と子の教室	36	呼吸アセスメントの基礎知識	澤中看護師
救急勉強会	一般外科主体救急	8月16日	17:45～19:00	研修室AB	17	呼吸不全のアプローチ	三好医師
救急医療室	一般外科主体救急	9月14日	17:30～18:30	母と子の教室	5		
					32	循環生理の基礎と管理のポイント	清水看護師

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	名称	名称
救急勉強会	一般外科主体救急	10月13日	17:30～18:30	研修室 AB	看護師	34	子どもと家族を虐待から守るために 看護研修生 森下・山下
救急勉強会	一般外科主体救急	10月25日	17:45～18:00	母と子の教室	看護師	14	意識評価 体液電解質バランス鎮痛・鎮静、輸液療法 岡野看護師
救急勉強会	一般外科主体救急	11月13日	17:45～19:00	母と子の教室	看護師	10	小児救急におけるブリパレーション 清水看護師
救急勉強会	一般外科主体救急	12月14日	17:45～19:00	母と子の教室	看護師	13	予後不良の児の親へのサポート 清水看護師
部署内勉強会	OP	7月22日	17:20～18:30	OP, R, R	看護師	25	縫合系説明会 ジョンソン& ジョンソン
部署内勉強会	OP	9月28日	16:00～16:40	OP 6 room	看護師	15	超緊急カイザーシミュレーション 産科係
部署内勉強会	OP	9月29日	17:20～18:30	OP staffroom	看護師	15	開心術勉強会 心外チーム
部署内勉強会	OP	10月4日	16:00～16:40	OP 1 room	看護師	13	人工心肺勉強会 臨床工学士
精神科勉強会	精神科外来	5月9日	17:00～18:00	指導相談部	看護師	10	こどもの精神科の理解 前田Dr
精神科勉強会	内科外来	7月14日	17:15～18:00	外来点滴室	看護師	12	アナフィラキシーショックについて 泊Ns
精神科勉強会	内科外来	10月20日	17:15～18:30	外来点滴室	看護師	8	ターナー症候群について 郷司Dr
精神科勉強会	内科外来	11月9日	16:45～17:30	外来点滴室	看護師	14	外来化学療法について 濱田Ns
精神科勉強会	内科外来	12月15日	17:15～18:00	外来点滴室	看護師	8	CS 導入について 郷司Dr 泊Ns
精神科勉強会	外来	11月21日	17:15～18:30	精神科外来	看護師	15	伝達講習「継続教育」「ファシリテーター」 泊Ns 中田Ns
精神科勉強会	外来	12月25日	17:30～18:30	精神科外来	看護師	17	伝達講習「医療安全と質の管理」「接遇」 北條Ns 山下Ns
新人オリエンテーション	教育委員会	4月6日	16:15～17:15	研修室 AB			鎌田直子
WOCケア部会勉強会	WOCケア部会	6月13日	17:30～19:00	研修室 AB	35名		褥瘡ケア勉強会褥瘡予防とリスクアセスメント WOC部会委員
WOCケア部会勉強会	WOCケア部会	8月8日	17:30～19:00	研修室 AB	17名		褥瘡ケア勉強会局所ケアとDESIGN ト WOC部会委員
WOCケア部会勉強会	WOCケア部会	10月10日	17:30～19:00	研修室 AB	29名		ストーマケア勉強会 WOC部会委員

PALSを学ぶ会

名称	主催部署	開催日	時間	会場	場所	参加者人数	テーマ	担当
PALSを学ぶ会	救急医療室	3月15日	午後5:45~7:15	研修室 AB		看護師 41 医師 9	BLSガイドライン2005	黒澤医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	3月22日	午後5:45~7:15	研修室 AB		看護師 23 医師 6	BLSガイドライン2006	黒澤医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	5月17日	午後5:30~7:00	研修室 AB		看護師 24 医師 10	チームで活かすBLS・ALS	三好医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	6月7日	午後5:45~7:00	研修室 AB		看護師 22 医師 9	緊急気管切開と骨髄針	三好医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	6月21日	午後5:45~7:00	研修室 AB		看護師 13 医師 13	チームで活かすBLS・ALS	三好医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	7月5日	午後5:45~7:00	研修室 AB		看護師 9 医師 9	外傷初療の基本	三好医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	7月19日	午後5:45~6:55	研修室 AB		看護師 9 医師 10	チームで活かす外傷初療戦略	笠井医師 清水看護師
PALSを学ぶ会	救急医療室	8月2日	午後5:45~7:00	研修室 AB		看護師 20 医師 12	呼吸不全への対応	三好医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	8月16日	午後5:45~7:00	研修室 AB		看護師 17 医師 5	呼吸不全のアプローチ	三好医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	9月6日	午後5:45~6:30	研修室 C		看護師 19 医師 5	PALSのチームアプローチ	清水看護師
PALSを学ぶ会	救急医療室	9月20日	午後5:45~7:00	研修室 AB		看護師 25 医師 11	ショックと輸液療法	佐治医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	10月4日	午後5:45~6:50	研修室 AB		看護師 17 医師 9	ショックと輸液療法 (シミュレーション)	三好医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	11月1日	午後5:45~7:00	研修室 AB		看護師 18 医師 10	リズム (不整脈) への対応	三好医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	11月15日	午後5:45~6:45	研修室 AB		看護師 11 医師 8	リズム (不整脈) への対応 (シミュレーション)	佐治医師
PALSを学ぶ会	救急医療室	12月6日	午後5:45~6:45	救急初療室		看護師 12 医師 10	多発外傷シミュレーション	笠井医師 清水看護師
PALSを学ぶ会	救急医療室	12月20日	午後5:45~7:00	救急初療室		看護師 9 医師 8	多発外傷シミュレーション	笠井医師 清水看護師

研修会

テーマ	日時	担当	院内参加人数
『各所属の安全対策成果報告会』	3月17日 17:30~18:30	長嶋達也 (リスクマネジメント部会長) 各部署リスクマネージャー	106名
平成18年度 第1回 院内医療安全研修会 1. 医療事故の現状 2. こども病院におけるヒヤリハット報告	11月9日 17:30~18:30	長嶋達也 (リスクマネジメント部会長) 藤久保真季 (リスクマネジメント副部長)	105名

放射線部・研修会への参加

日 時	場 所	テーマ	参加者
2006/4/7~8	パシフィコ横浜	小児における撮影線量の考え方	田淵 仁春
2006/9/14~16	エポカルつくば	BodyDiffusionImaging 他	北住 一哉
9月23日	成人病センター	訪問線量調査とその対策について	平山 浩一 関尾 直士
10月14日	西宮病院	当院の特徴と被爆管理	関尾 直士 北住 一哉 小田 敏彦 吉野 太司
7月23日	成人病センター	CT検査時の被爆線量測定	藤井 康司 田淵 仁春
8月12日	成人病センター	乳腺エコーの基礎と最新技術	水谷 正弘
9月30日	姫路循環器病センター	PACS構築について	小林 信郎
10月28日	加古川病院	MRI最近のトピックス	北住 一哉 高橋 雅晴

放射線部・部内勉強会

日 時	内 容	参加者
1月18日	めまい	高橋 政晴
2月1日	小児腎疾患における核医学検査	水谷 正弘
2月15日	バランス・スコア・カードについて	小林 信郎
3月1日	強度変調放射線治療(IMRT)について	正井 秀幸
3月18日	プレゼンテーションについて	小田 敏彦
4月19日	顎裂骨移植について	三木 貴久子
5月17日	小児嚥下造影のポイント	竹中 修
6月21日	看護基礎教育課程で放射線防護に関する看護師の臨床現場での行動 医療用モニターの選び方	清水 俊文 北住 一哉
7月19日	Diamox 負荷 99mTc-HMPAQ SPECT を用いたモヤモヤ病の脳循環の評価	平山 浩一
9月6日	左心低形成症候群(HLHS)の根治術への流れ	関尾 直士
9月20日	ダイエットについての一考察 応急手当の重要性と心肺蘇生法	高橋 政晴 藤井 康司
10月4日	被爆線量低減に向けての「CTガイドライン」が提示されるまで	小林 信郎
10月18日	小児卵巣嚢腫について	水谷 正弘
11月15日	安全な医療を提供するための10の要点	小田 敏彦
12月6日	メタボリックシンドローム	三木 貴久子

検査部勉強会

部内研修会

日 時	場 所	テ ー マ	担 当
4月14日	検査技師室	輸血用血液製剤の発注と取扱い (Q & A)	末道・伊藤
10月24日	検査技師室	県立こども病院17施設の時間外検査と輸血検査の現状	中内・幸福
10月26日	検査技師室	アルブミンBCP法とBCG法との比較研究	内野：指導 戸田
10月26日	検査技師室	尿中有形成分検査における尿沈渣とコバスライド法の比較検討	溝渕：指導 戸田
11月1日	検査技師室	輸血検査と輸血用製剤管理	伊藤 裕子

実習生の受け入れ

人 数	期 間	学 校 名
2 名	8 月 8 日	神戸大学医学部保健学科 (1 年生)
2 名	8 月 29 日 ~ 10 月 28 日	常盤短期大学衛生技術科 (3 年生)
2 名	11 月 8 日 ~ 11 月 28 日	神戸大学医学部保健学科 (4 年生)

名 称	主催部署	日 時		場所	参加人数	テーマ
薬剤部勉強会	薬剤部	1月5日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内勉強会 血液型について
薬剤部勉強会	薬剤部	1月12日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	プロトコール勉強会 骨肉腫
薬剤部勉強会	薬剤部	1月19日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	セルセプト 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	1月23日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	テルモ 輸液について
薬剤部勉強会	薬剤部	1月26日	午前8:40~8:55	薬剤部	10	部内症例報告会 産科
薬剤部勉強会	薬剤部	1月31日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	マイロターゲット注 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	2月2日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内勉強会 インシデントレポートの背景 要因分析について
薬剤部勉強会	薬剤部	2月3日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	プロトコール勉強会 ALB-NHL03
薬剤部勉強会	薬剤部	2月6日	午後5:30~6:30	薬剤部	9	気管支喘息ガイドライン キプレス製品情 報
薬剤部勉強会	薬剤部	2月13日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	プロトコール勉強会 LLB-NHL03
薬剤部勉強会	薬剤部	2月15日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	両親教室 講義
薬剤部勉強会	薬剤部	2月16日	午前8:40~8:55	薬剤部	10	プロトコール勉強会 B-NHL03
薬剤部勉強会	薬剤部	2月23日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内勉強会 麻薬について
薬剤部勉強会	薬剤部	2月26日	午後5:30~6:30	研修室AB	12	血友病勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	3月8日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	CRC 業務について
薬剤部勉強会	薬剤部	3月16日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	CRC 業務について
薬剤部勉強会	薬剤部	3月20日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	CRC 業務について
薬剤部勉強会	薬剤部	3月23日	午後5:30~6:30	会議室	15	血友病勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	3月29日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	プロトコール勉強会 神経芽腫
薬剤部勉強会	薬剤部	5月17日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内症例報告会 血液腫瘍科
薬剤部勉強会	薬剤部	5月24日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	両親教室 講義 インタール内服
薬剤部勉強会	薬剤部	5月25日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内勉強会 抗生剤の使用について
薬剤部勉強会	薬剤部	5月29日	午前8:40~9:10	薬剤部	11	プロトコール勉強会 ウィルムス腫瘍
薬剤部勉強会	薬剤部	5月29日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	ザイボックス 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	6月8日	午後5:30~6:30	薬剤部	11	アンビゾーム 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	6月13日	午後5:30~6:30	薬剤部	9	ノイトロジン 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	6月15日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	アトモキセチン 勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	6月21日	午後5:30~6:30	薬剤部	9	フォスブロック 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	6月28日	午前8:40~9:00	薬剤部	11	プロトコール勉強会 ALL
薬剤部勉強会	薬剤部	6月29日	午前8:40~9:00	薬剤部	11	部内症例報告会 産科
薬剤部勉強会	薬剤部	7月4日	午後5:30~6:30	薬剤部	9	ジェネリック医薬品 勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	7月5日	午後5:30~6:30	薬剤部	8	MRA 薬効勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	7月6日	午前8:40~8:55	薬剤部	10	部内勉強会 造血幹細胞移植 前半
薬剤部勉強会	薬剤部	7月7日	午前8:40~8:55	薬剤部	10	部内勉強会 造血幹細胞移植 後半
薬剤部勉強会	薬剤部	7月25日	午後5:30~6:30	研修室C	18	血友病勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	8月10日	午後5:30~6:30	薬剤部	8	イトリゾールシロップ 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	8月17日	午後5:30~6:30	薬剤部	9	ジェイゾロフト 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	9月12日	午後5:30~6:30	薬剤部	9	パルコート 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	9月26日	午後5:30~6:30	薬剤部	8	ガバベン 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	10月10日	午後5:30~6:30	薬剤部	12	テモダール 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	10月20日	午前8:40~8:55	薬剤部	9	症例報告会 循環器
薬剤部勉強会	薬剤部	11月2日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	プロトコール勉強会 脳腫瘍
薬剤部勉強会	薬剤部	11月7日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	抗生剤 勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	11月14日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	レミケード 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	11月27日	午後5:30~6:30	薬剤部	9	ボナロン 製品勉強会
薬剤部勉強会	薬剤部	12月11日	午後5:30~6:30	薬剤部	18	ブスルフェックス 製品勉強会

2. 看護研修

看護部の理念

命を守り、育てることに努力し、真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い安全と満足が得られる看護の提供に努めます。

社会の健康ニーズに応えることができる専門的で良質な母子看護を提供します。

患者・家族を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動し療養環境を整えます。

看護部方針

こどもの権利を考慮し、家族の思いを尊重した看護を提供します。

母子看護の専門職としての知識・技術を修得し、日常業務を通じた研究的態度を育成するとともに自己研鑽に努めます。

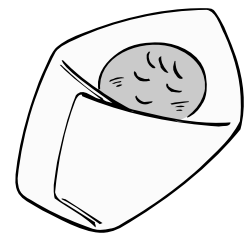
看護の質向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。

組織人としての自覚を持ち、看護部内および他部門との連携を大切に、適切な医療・看護の提供ができる環境作りをします。

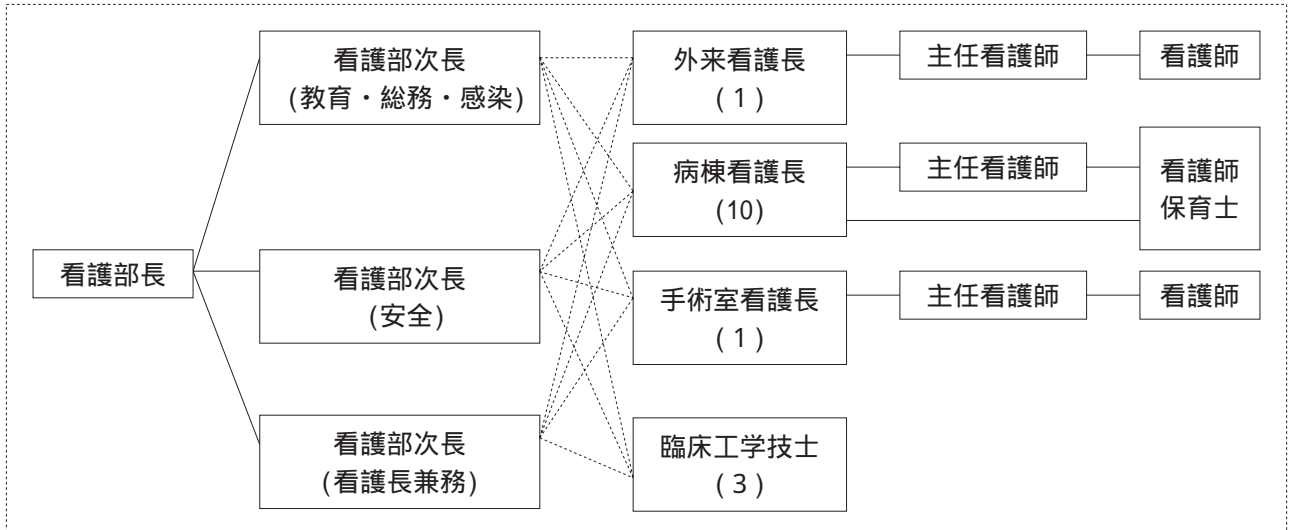
限りある医療・社会資源を経済的・効率的に運用し、効果的な看護を実践します。

平成18年度看護部目標

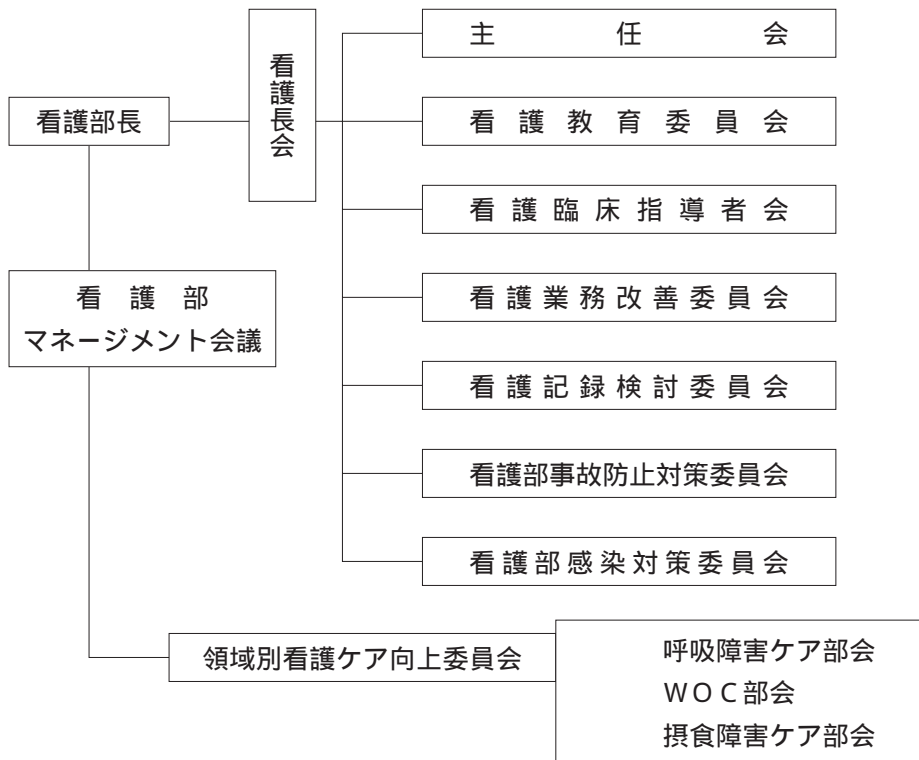
1. 安全で確実な看護を提供します
 - 1) リスク感性を高め、事象に対し迅速に組織で取り組みます
 - 2) 母子看護の専門職としてスキルアップを図り確実な看護を提供します
 - 3) オーダリグンを推進し、安全な看護に繋がります
2. 他部門との連携を図り、チーム医療の一員としての役割を果たす



看護部組織図



看護部委員会組織図



【兵庫県立こども病院看護部教育理念】

県立こども病院理念・看護部理念に基づき、患者・家族を尊重した質の高い看護サービスを提供できる人材を育成する。

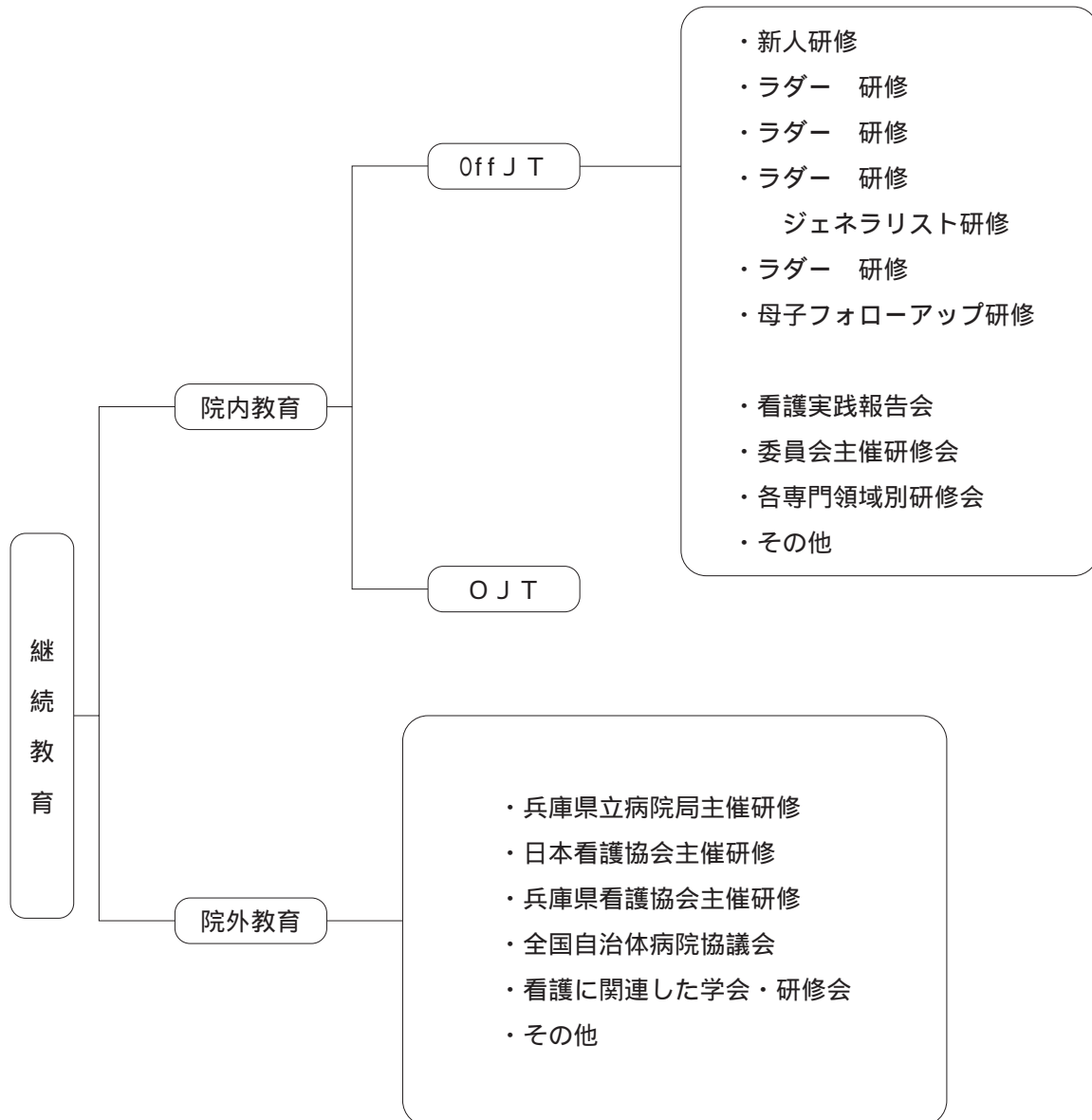
目 的

1. 県立こども病院の果たす役割を理解し、組織の一員としての自覚を深め行動できるように育成する。
2. 看護の対象である母子のニーズを的確に把握し、安全で安楽な質の高い看護を提供できる。
3. 県立病院看護師キャリア開発ラダーを活用し、個々人の学習ニーズと目標を尊重した学習の機会を提供する。

目 標

1. 周産期及び小児医療の看護職員として、役割と責任を自覚して行動できる。
2. 医療の動向に目を向け今日的な専門知識・技術を修得し臨床看護能力を高める。
3. 患者・家族・医療チームメンバー間との望ましいコミュニケーションを図るための能力を養う。
4. 問題解決能力を高め、医療チームの中でリーダーシップを発揮できる能力を養う。
5. 母子看護の専門領域における実践能力を高め主体的に行動できる。
6. 看護実践研究をとおして、母子看護の専門性、看護ケアの質向上を図る。

兵庫県立こども病院 看護部教育体系



平成18年度 新規採用者・転入者オリエンテーション

【目 的】

こども病院看護職員として病院理念、看護部理念を理解し、社会人としての自覚や専門職業人としての知識・技術・態度を身につける

【目 標】

1. 公務員としての自覚を持ち、県立病院の役割と機能を理解する
2. こども病院の理念、組織、機能を理解し、看護職として役割を理解する
3. 看護部の理念・目標を理解し、専門職業人としての態度を身につける
4. こどもの権利、看護倫理を理解し、小児の専門看護師としての態度を身につける
5. こども病院の看護体制・勤務体制を理解する
6. こども病院の診療内容の特徴、各看護単位の特徴と業務内容を知る
7. こども病院で共同する医療チームの種類とそれぞれのチーム役割と機能を理解する
8. こども病院看護師として必要な知識・技術を学び、臨床現場で実践する
 - 小児の正常な成長発達段階を知る
 - 小児特有の生活援助や基本技術の看護が安全にできる
 - 小児の救急蘇生について理解する
 - こども病院の帳票類を知り、看護記録を理解し記載することができる
 - 心電図、パルスオキシメーター、酸素吸入等の取り扱い方を理解する
9. 医療安全、看護業務安全、こども病院の安全対策を知り、現場で活用できる
10. 清潔操作、感染対策（スタンダードプレコーション）の実際を知り、現場で活用できる
11. こども観を育成する

【研修期間】

期 間：平成18年4月3日～平成18年4月14日・20日

但し、看護師として経験のある者・転勤者は、4月3日・4日

時 間：8時30分～17時15分

研修場所：研修室A B

2006年 新規採用オリエンテーション<日程>

月 日	オリエンテーションの内容	時 間	研修方法	講 師	担当者・備考	場所
4月3日 (月曜日)	挨拶・点呼 オリエンテーションの進め方、資料配布、夜間タクシーチケットの利用について、食事カードの配布、辞令交付にあたっての注意事項等白衣の配布、ロッカー案内	9:00～9:10 正規、転入・単年22条 13:30～ 年間22条 9:10～		箕浦看護次長	植杉看護部長 箕浦看護次長 藤久保看護次長 凧看護長	研修室 A・B
4月4日 (火曜日)	開講式 新規採用看護職員自己紹介 こども病院の歴史と理念 県職員としての心構え(県立病院のありかた、こども病院の役割) 昼休憩 看護部の理念と役割 新人に期待すること こども病院の看護の特徴 総務部紹介 各種手続きについて 転居届けなど 銀行の手続き 互助会保険 休憩 病院案内(病棟・外来) 総務関係の書類の記載	9:30～9:40 9:40～10:20 10:20～11:10 11:10～12:00 12:00～13:00 13:00～14:00 14:00～14:35 14:35～14:50 14:50～15:00 15:00～15:15 15:15～16:15 16:15～17:15	講義 講義 講義 講義 講義 講義 自習	幹部職員 各看護長 中村院長 橋川総務部長 植杉看護部長 玉井総務課員 三井住友銀行員 職員互助会職員 看護長(納・春名・凧・橋本)	教育委員(田畑) 箕浦看護次長 橋本看護長 凧看護長	研修室 A・B 51名
4月5日 (水曜日)	小児医療における各部門の役割 放射線科、薬剤部、研究検査部、総務部(医事課、栄養指導課) 昼休憩 こども病院の診療内容の特徴 指導相談部・地域医療連携室との連携 休憩 入院のご案内の説明 看護部の組織と委員会、継続教育、ラダー、目標管理、キャリア手帳、看護提供方式 まとめ	9:00～11:30 各30分 11:30～12:30 12:30～13:45 13:45～14:00 14:00～14:30 14:30～16:40 16:40～17:15	講義 講義 講義 講義	各部門責任者 山崎副院長 橋本看護長 箕浦看護次長	教育委員(泊) 橋本看護長 凧看護長	研修室 A・B 32名 + PM 2名
4月6日 (木曜日)	小児・産科における看護業務基準 成長発達段階に応じた看護各論 新生児 休憩 乳児 昼休憩 幼児 学童 成人 休憩 小児の皮膚ケア まとめ	9:00～10:00 10:00～10:45 10:45～10:55 10:55～11:50 11:50～12:50 12:50～13:45 13:45～14:40 14:40～15:45 15:45～15:55 15:55～17:10 17:10～17:15	講義 講義 講義	濱田小児専門 看護師 教育委員 (杉森) (瀬川) (河江) (山岡) (上之園) 鎌田 WOC 認定 看護師	教育委員(上之園) 橋本看護長 凧看護長	研修室 A・B 32名 + 3名
4月7日 (金曜日)	看護業務と法的責任、個人情報保護 看護業務の安全性 医療安全管理体制、医療事故等 緊急連絡体制、ヒヤリハット用紙 休憩 看護記録 クリニカルパス、標準看護計画 情報開示、個人情報保護 昼休憩 記録演習 自習 まとめ	9:00～10:00 10:00～11:00 11:00～11:10 11:10～12:10 12:10～13:10 13:30～16:00 16:00～17:00 17:00～17:15	講義 講義 講義 講義 演習	植杉看護部長 菅野看護長 凧看護長 藤久保看護次長 凧看護長	教育委員(平井) 橋本看護長 凧看護長	研修室 A・B 32名 + 5名

月 日	オリエンテーションの内容	時 間	研修方法	講 師	担当者・備考	場所
4月10日 (月曜日)	オーダリングについて	9:00～9:30	講義	藤久保看護次長	橋本看護長 凧看護長	研修室 A・B 32名
	検査 WEB、診療支援システム	9:30～9:50	講義	橋本看護長		
	JITS システムについて	9:50～10:00	講義	石本看護師		
	休憩					
	診療の補助	10:00～11:10	講義			
	小児の薬物療法、与薬のルール・システム・処方箋の見方、小児の輸液管理の特徴・ライン・ポンプの説明	11:10～11:20				
	休憩	11:20～12:00	講義	田畑看護師		
IV 確保～固定についてのデモストレーション	12:00～13:00					
昼休憩	13:00～16:40	演習	教育委員 石本・田畑 杉森・上之園			
輸液の管理と輸液ライン						
輸液ポンプ・シリンジポンプ						
片付け、まとめ	16:40～17:15					
4月11日 (火曜日)	社会人としての自律	9:00～10:00	講義	菅野看護長	教育委員1名 (辻田) 橋本看護長 凧看護長	研修室 A・B 32名 + 4名
	こども病院ボランティア	10:00～10:20	講義	植杉看護部長		
	看護協会について	10:20～10:35	講義	藤久保看護次長		
	休憩	10:35～10:45				
	さつき会について	10:45～11:00	講義	さつき会会長		
	救急蘇生	11:00～12:00	講義	教育委員3名 石本・辻田 田原		
	昼休憩	12:00～13:00				
	救急蘇生	13:00～16:45	演習	呼吸ケア部会 員3名 本田・本多 文字 植杉看護部長		
	配属部署の発表	16:45～16:55				
	まとめ	16:55～17:00				
4月12日 (水曜日)	医療機器の取り扱い	9:00～11:00	講義	瀬川看護師	教育委員(瀬川) 橋本看護長 凧看護長	研修室 A・B 32名
	心電図モニター、パルスオキシメーター、血圧測定		演習	教育委員 伊達・瀬川 泊		
	休憩	11:00～11:10				
	看護業務の安全性と小児の感染症	11:10～12:30	講義	周藤看護長		
	昼休憩	12:30～13:30				
	医療廃棄物、衛生的手洗い、ガウンテクニック、鑷子など清潔操作	13:30～16:55	演習	教育委員上記 3名		
まとめ	16:55～17:05					
4月13日 (木曜日)	看護における防犯対策について	9:00～9:30	講義	西澤・濱畑主任	教育委員(河江) 橋本看護長 凧看護長	研修室 A・B 32名
	看護業務の安全性					
	「小児における安全・安楽とは」	9:30～9:50	講義	河江看護師		
	危険因子と除去法	9:50～10:20		山岡看護師		
	安全な移動方法	10:20～10:50		平井看護師		
	安全帯、安全チョッキの使用方法	10:50～11:00				
	休憩	11:00～11:50	GW	教育委員		
	「何が危険か考えよう」	11:50～12:00		平井・河江		
	セッティング	12:00～13:00		山岡		
	患者搬送、車椅子、ベッド移送、ベッドの選び方、ベビーカーの使用方法	13:00～17:00	演習	事故防止対策 委員 中村・前原		
まとめ	17:00～17:15					
4月14日 (金曜日)	子どもの権利と看護倫理	9:00～10:00	講義	濱田小児専門 看護師	教育委員(田原) 橋本看護長 凧看護長	研修室 A・B 32名
	閉講式	10:00～11:00		看護部長		
	各配置部署へ	11:00～		各看護次長 教育委員		
4月20日 (木曜日)	グループワーク	13:00～14:00		教育委員	教育委員(伊達) 箕浦看護次長 橋本看護長 凧看護長	研修室 A・B
	「オリエンテーションを終えて」 放射線従事者講習	14:00～17:00		赤坂放射線科 医師 水谷放射線技 師		

研修コース名	新人	ラダー1	ラダー1
研修会名	就職後3ヶ月研修	リスクマネジメント	看護過程の展開
研修月日	7月4日(火)	9月26日(火)	12月26日(火)
研修時間	13:00~17:15	9:00~17:15	9:00~17:15
研修のねらい	就職後3ヶ月間の思いを共有し今後の看護意欲につなげる	<ol style="list-style-type: none"> 療養環境の安全性・快適性について考えられる 看護チームにおける自分の役割を理解し、メンバーシップについて考えることができる リスク感性を磨き、実践場面において解決する方法が考えられる 	<ol style="list-style-type: none"> 看護過程の展開を学び、日々の実践に活かすことができる
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 3ヶ月間の自分自身の頑張りを認め共有できる 日常の看護ケアについて根拠をもって実践することの大切さがある 患者・家族・職員間におけるコミュニケーションのとりに方について考えられる 患者の権利を守り個を尊重した看護実践とは何かを経験を通して考えることができる 	<ol style="list-style-type: none"> ヒヤリハット体験を共有し自己の考えを意見交換できる 基本的な安全確認行動の必要性がわかり、自分の役割を認識した行動がとれる 療養環境の安全性・快適性についての不備に気づき、配慮できる ヒヤリハット報告の必要性がわかり、ミス、事故に気づき、必要な報告ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 提示事例の情報収集ができる 指導を受けながら提示事例のアセスメントができ、患者の問題点を挙げるができる
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 社会人・職業人としてのコミュニケーションのとり方 根拠をもった看護実践の必要性 患者(ごども)の権利と倫理 今後の自己の課題の明確化 	<ol style="list-style-type: none"> 「私が体験したヒヤリハット事例」「私実践している安全確認」の紹介 基本的な安全確認行動の必要性 メンバーシップの理解 今後の自己の課題の明確化 	<ol style="list-style-type: none"> 看護過程の展開 ヘンダーソンの看護理論の理解 自分が大切にしたい看護の明確化 今後の自己の課題の明確化(ケーススタディー)
研修方法	事前レポート GW 演習 事後課題	事前レポート GW 事後課題	講義 演習 事後課題 *ケーススタディ発表は自部署で計画
学習者	新規採用看護職員 32名	ラダー1対象者 30名	ラダー1対象者
院内外講師	教育委員	教育委員	教育委員
教育委員の職務	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(岡) 教育委員(杉森、山岡)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(岡) 教育委員(杉森、山岡)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(岡) 教育委員(杉森、山岡、中村)
研修場所	研修室A B	研修室A B	研修室A B

研修コース名	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2
研修会名	リスクマネジメント研修	アセスメントステップアップ研修	指導者育成研修	指導者育成研修	プリセプターフォローアップ研修	指導者育成研修
研修月日	8月22日(火)	11月7日(火)	平成18年3月9日(木)	平成18年3月9日(木)	6月20日(火)	平成19年2月6日(火)
研修時間	9:00~17:15	9:00~17:15	13:00~17:15	13:00~17:15	13:00~17:15	13:00~17:15
研修のねらい	1. 小児看護における安全な環境の提供について考えることができる	1. 根拠に基づいた看護ケアを自立して実践できる能力を養う 2. 問題指向型の思考(クリティカルシンキング)の大切さが分かる	後輩指導の役割やこども病院内のプリセプターシップを理解し、主体的に後輩指導に臨める	後輩指導の役割やこども病院内のプリセプターシップを理解し、主体的に後輩指導に臨める	1. プリセプターとしての3ヶ月を振り返り病棟での自己の役割、方向性を明確にできる 2. プリセプターの成長に合わせた教育的関わりができる	後輩指導の役割やこども病院内のプリセプターシップを理解し、主体的に後輩指導に臨める
研修目標	1. 当院の危機管理システム・看護部事故対策委員会の取り組みの実態を知る 2. 事例検討を通して陥りやすい事故要因について考えることができる 3. 事故発生時の対応方法が分かり実践できる 4. 自己の特性や効果的なコミュニケーション技法についての理解を深め事故防止に活かすことができる 5. 看護師としての自己責任の重さ・果たす方について考えることができる	1. 科学的根拠に基づいた看護判断ができる(判断を理論的に説明できる) 2. 問題の優先順位を的確に判断した看護ケアの立案ができる 3. 知識と経験・判断を実践に活かすことができる 4. 個別性を考え状況に応じた看護ケアの展開ができる 5. 看護実践の妥当性を評価し次の看護ケアプランへと発展させる方法がわかる	1. 臨床現場におけるOJTとOffJTについて学ぶ 2. 後輩指導の役割について理解し、日々の業務の中で意識して関ることができる 3. 後輩への教育的関わり方の具体的な方法について学び実践できる 4. 後輩指導に求められる姿勢について考えられ実践できる 5. プリセプターシップを理解できる	1. 臨床現場におけるOJTとOffJTについて学ぶ 2. 後輩指導の役割について理解し、日々の業務の中で意識して関ることができる 3. 後輩への教育的関わり方の具体的な方法について学び実践できる 4. 後輩指導に求められる姿勢について考えられ実践できる 5. プリセプターシップを理解できる	1. プリセプターの成長が確認できる 2. プリセプターの役割機能から人間関係調整の大切さが分かり実践できる 3. 学び方のタイプを知ること、より効果的なコミュニケーションや指導方法が分かり実践できる 4. GWを通して役割を遂行する上での不安やストレス悩みが分散でき、問題解決の糸口を見つめることができる 5. プリセプターとして今後の行動目標の修正、立案ができる	1. 臨床現場におけるOJTとOffJTについて学ぶ 2. 後輩指導の役割について理解し、日々の業務の中で意識して関ることができる 3. 後輩への教育的関わり方の具体的な方法について学び実践できる 4. 後輩指導に求められる姿勢について考えられ実践できる 5. プリセプターシップを理解できる
研修内容	1. ヒヤリハット事例の検討 2. 事故防止と発生時の対処についての理解 3. 看護師として自己の責任の自覚(メンバースhip)	1. クリティカルシンキング 2. 日常の看護ケアの科学的視点からの分析	1. プリセプターシップの理解 2. 後輩指導に必要な姿勢とスキル	1. プリセプターシップの理解 2. 後輩指導に必要な姿勢とスキル	1. プリセプターの成長の確認(評価) 2. 学び方のタイプと指導方法 3. プリセプターの役割機能	1. 後輩指導に必要な姿勢とスキル
研修方法	事前レポ・ト 講義 演習 GW 事後課題	事前課題 講義 演習 GW 事後課題	講義 GW	講義 GW	講義 GW 事後課題	講義 GW 事後課題
学習者	ラダー2対象者 30名	ラダー2対象者 28名	ラダー2対象者 24名	ラダー2対象者 24名	ラダー2対象者 16名	ラダー2対象者 21名
院内外講師	院内講師 看護部安全対策委員長(代理:菅野)	院内講師 箕浦看護次長	院内講師 橋本看護長 濱田小児専門看護師 教育担当看護次長(箕浦)	院内講師 橋本看護長 濱田小児専門看護師 教育担当看護次長(箕浦)	院内講師 濱田小児専門看護師	院内講師 眞浦看護長 濱田小児専門看護師
教育委員の執務者	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(眞浦)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(眞浦)	教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本) 教育委員(石本、山岡、杉森、上之園)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(眞浦)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(眞浦)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(眞浦)
研修場所	研修室A B	研修室A B	研修室A B	研修室A B	研修室A B	研修室A B

研修コース名	ラダー3 (全体の計画)	ラダー3 (1回目)	ラダー3 (2回目)
研修会名	小児ジェネラリスト研修	変革理論	リスクマネジメント
研修月日	月1回 第3火曜日の5回	9月19日(火)	10月17日(火)
研修時間	8:45~17:15	8:45~17:15	8:45~17:15
研修のねらい	小児専門看護師として、役割モデルとなり、こども病院的看護の質を高める	1. 小児専門病院的看護としての役割を理解する 2. ジェネラリストとして変革推進者の役割を理解し組織変革に貢献できる	1. 看護師の法的責任について理解を深め、患者が安心して医療を受ける環境づくりができる 2. リスクマネジメントに関する知識を持ち、自ら問題提起し、解決への提案ができる。
研修目標	1. 患者・家族の権利を尊重した看護実践ができる 2. 小児看護領域の専門性を高め、こども(個)に適した看護方法を創意工夫できる 3. 実践場でのリーダーシップが発揮できる	1. こども病院における小児看護の役割を確認する 2. 当院看護師としての自覚が高まり、期待される役割が分かる 3. 変革理論の概要を理解する 4. 変革の必要性および変革過程での抵抗や対策を理解する 5. グループダイナミクスを活用するための自身の役割について考えられる。	1. 看護業務規定・法的責任について理解する 2. 判例事例から、看護師の法的責任について考えられる 3. 所属病棟のマイクロエラーが明確にできる 4. 科学的真づけに基づいた事故分析ができ、問題解決方法が考えられる
研修内容	毎回テーマに沿ってレポート提出	1. 役割モデルとは(講義) 2. 効果的なGWについて 3. 変革理論の講義・事例展開	1. 県立病院における医療訴訟の現状について 2. 看護業務規定・法的責任 3. 背景要因分析
研修方法	講義 演習 GW 事前課題 事後課題 成果レポート作成及び発表	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題
学習者	ラダー3に該当する看護師 看護長が推薦、且つ、本人の研修出席意志がある臨床経験5年~10年(当院看護師歴1年以上)	ジェネラリスト研修生15名 一般聴講生31名	ジェネラリスト研修生15名 一般聴講生 名
院内外講師	院内講師 (看護次長、看護長、教育委員、小児専門看護師、医師、保健師など) 院外講師(大学講師、病院局職員、地域の医療関係者など)	院内講師：箕浦看護次長 橋本看護長	院外講師：病院局企画課課長補佐兼係長(芳中) 院内講師：看護部安全対策委員長(河野) 橋本看護長
教育委員の職務	教育担当看護次長、教育委員、教育副委員長、教育委員等	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員(橋本)、教育副委員長(岡)、教育委員(石本、河江、泊、深江)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員(橋本)、教育副委員長(岡)、教育委員(石本、河江、泊、深江)
研修場所	研修室A B	研修室A B	研修室A B

研修コース名	ラダー3 (3回目)	ラダー3 (4回目)	ラダー3 (5回目)	ラダー3 (6回目)
研修会名	チーム医療	継続看護	グループマネージメントとリーダーシップ	看護研究
研修月日	11月21日 (火)	12月19日 (火)	1月16日 (火)	平成19年2月20日 (火)
研修時間	8:45~17:15	8:45~17:15	8:45~17:15	8:45~17:15
研修のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 小児専門病院におけるチーム医療について理解し、看護においてリーダーシップがとれる 子どもの権利を理解し、アドボケートとしての役割について考え、実践できる 小児専門病院看護師として看護のインフォームドコンセントが実践できる 	<ol style="list-style-type: none"> 継続看護の重要性を理解し、地域との連携や社会資源を活用した退院指導ができる 在宅支援へ移行するための家族支援ができる 	<p>グループマネージメントがわかり、リーダーシップの発揮方法がわかる。</p> <ol style="list-style-type: none"> リーダーとしての自分の強み・弱みがわかり、自己を否定する影響を取り除くことができる 自己の個性を最大限に活用した、リーダー像をイメージし、そのための課題を考えられる グループマネージメントが理解できる 	<p>臨床実践の質を上げるための研究に率先して取り組むことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日々の実践を研究の視点から検証できる 看護研究の方法について理解する 研究のまとめ方やデータ分析について理解する 効果的なプレゼンテーションについて理解する
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 現代社会における子ども環境を知る 小児専門病院のチーム医療の実践について理解する チーム医療における看護師の役割について述べることができる 子どもの権利を理解し、看護実践においてよき支援者になれる アドボケートとしての役割について考えられる 小児看護における患者の意思決定の選択肢と予測される結果を明確にできる 患者の意思決定を支えることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 継続看護の必要性について説明できる 在宅支援の実態を理解する 地域との連携の実際と社会資源の活用方法を理解する 在宅支援のための家族看護が実践できる 	<ol style="list-style-type: none"> 自己分析 集団理解とグループマネージメントスキル チームの成長とリーダーシップ 	<ol style="list-style-type: none"> 看護研究 研究論文の書き方 プレゼンテーションスキル
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> チーム医療 子どもの権利と倫理原則 アドボケートの役割 	<ol style="list-style-type: none"> 在宅支援の実態 地域連携室の役割、公的支援 退院指導計画書の作成 	<ol style="list-style-type: none"> 自己分析 集団理解とグループマネージメントスキル チームの成長とリーダーシップ 	<ol style="list-style-type: none"> 看護研究 研究論文の書き方 プレゼンテーションスキル
研修方法	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題
学習者	ジェネラリスト研修生14名 一般聴講生	ジェネラリスト研修生15名 一般聴講生	ジェネラリスト研修生15名	ジェネラリスト研修生14名 一般聴講生
院内外講師	院内講師：西島副院長兼診療部長 濱田小児専門看護師	院内講師：小林保健師（塚口訪問看護ステーション）	院内講師：具立淡路病院看護次長兼看護長（足立久美子）	院外講師：常盤看護短期大学教授（湯舟貞子） 院内講師：橋本看護長
教育委員の職務	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(四)、 教育委員（石本、河江、泊、深江）	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(四)、 教育委員（石本、河江、泊、深江）	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(四)、 教育委員（石本、河江、泊、深江）	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(四)、 教育委員（石本、河江、泊、深江）
研修場所	研修室A B	研修室A B	研修室A B	研修室A B

研修コース名	ラダー4・3	ラダー4・3
研修会名	事例検討ファシリテーター養成研修会	事例検討ファシリテーター養成研修会
研修月日	9月5日(火)	1月30日(火)
研修時間	13:00~17:15	13:00~17:15
研修のねらい	事例検討を通して、看護師のアセスメント能力が向上するよう事例検討ファシリテーターを育成する	事例検討を通して、看護師のアセスメント能力が向上するよう事例検討ファシリテーターを育成する
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例に関する問題解決技法を習得できる 2. ファシリテーターの役割を理解し、所属での事例検討ができる 3. 事例検討を浸透させるために必要な自己の役割について考えられる 	職場での事例検討状況を報告し、自己の役割に関する問題点の共有及び対策を見出すことができ、所属での事例検討を浸透させる
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例検討の進め方 2. ファシリテーターの役割について、ロールプレイ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各職場の現状報告 2. 問題点の抽出及び対策の検討
研修方法	講義 GW	講義 GW
学習者	ラダー3・4 27名	ラダー3・4 26名
院内外講師	院内講師：濱田小児専門看護師	院内講師：濱田小児専門看護師
教育委員の執務者	濱田 CNS 教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長()、 教育委員(田畑、瀬川、土井)	濱田 CNS 教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長()、 教育委員(田畑、瀬川、土井)
研修場所	研修室A B	研修室A B

研修コース名	ラダー3	ラダー3	ラダー3
研修会名	指導者育成研修	目標管理とキャリア開発	目標管理 成果発表会
研修月日	7月18日(火)	1月23日(火)	平成20年2月
研修時間	9:00~17:15	13:00~17:15	13:00~17:15
研修のねらい	臨床現場における後輩への教育的な関わり方についての理解を深め、日々の看護活動に活かせる	1. 目標管理について理解し、自分自身が組織にとって大切な人材であることが確認できる 2. 生涯教育とキャリアアップの重要性について理解し、自己の能力評価およびキャリア開発計画を立案できる	マイプランの成果を自己の成長につなげることができ
研修目標	1. 継続教育について学ぶ 2. 臨床現場におけるOJTとOffJTについて学ぶ 3. 交流分析から自分自身を見つめられる 4. 後輩指導の場面を振り返り、自己の特性を知る 5. 後輩指導の具体的な方法について学ぶ 6. 後輩指導についての自己の考えが持てる	1. 目標管理の目的と方法が理解できる 2. 自己の能力評価を行い小児専門病院の看護師としてのキャリア開発(能力・行動目標の設定)ができる 3. 自己の個性を最大限に活用する方法を知る 4. 変革理論について理解し質の高い看護を実践するための組織変革の方法を考え実践できる (*変革理論についてはジェネラリスト研修を受講しておくが望ましい)	1. マイプランの成果を発表することで、達成感や組織のプラスの変化を感じることができる。 2. 取り組みの成果を共有できる。
研修内容	臨床における教育の方法について交流分析	目標管理とキャリア発達 変革理論	マイプラン発表
研修方法	講義 GW 事後課題	講義 GW	発表会
学習者	ラダー3対象者 18名(日々のリーダーや夜勤リーダー時に後輩指導に関するスタッフ)	ラダー3対象者 16名	ラダー3対象者
院内外講師	院内講師: 箕浦看護次長	院内講師: 箕浦看護次長	教育委員
教育委員の職務	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(夙) 教育委員(田畑、瀬川、土井)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(橋本)、教育副委員長(夙) 教育委員(田畑、瀬川、土井)	教育担当看護次長 教育委員長、教育副委員長 教育委員
研修場所	研修室A B	研修室A B	研修室A B

母子フォローアップ研修

ねらい：周産期・小児専門病院看護師としてより専門的な知識を習得する

学習者：全看護師対象

開 催：原則木曜日 17：30～19：00

研 修 日	研 修 名	参加者	講 師	担 当 者	場 所
6月19日 (月)	小児麻酔・産科麻酔について	55名	麻酔科医師 香川、大西	教育委員 (田原・泊)	研修室 A B
8月30日 (水)	在宅支援時に必要な医療福祉制度について	106名	行保健師 長岡ケースワーカー	教育委員 (泊・深江)	研修室 A B
10月23日 (月)	小児のプレパレーション	66名	清水小児救急認定看護師 平井看護師	教育委員 (辻田・山岡・小林)	研修室 A B
12月18日 (月)	現在子育て事情 ～親子受難の時代に小児看護師として何ができるか	54名	兵庫県嬉野台生涯教育センター 主任指導主事兼婦人・家庭課長 中村和子	教育委員 (河江・土井)	研修室 A B
2月26日 (月)	看護師に伝えたいこと		中村院長	教育委員 (瀬川・石本・田畑・杉森)	研修室 A B

平成18年度看護実践報告会

目 的： 日常の看護実践を科学的に分析し、結果を意味付けし成果として発表する。

看護実践の成果を共有することにより、小児専門病院としての看護の質の向上を図る。

日 時：平成19年 3月 3日（土曜日）13：00～17：00

運営委員：周藤育子 菅野峰子 檜田隆子

所 属 名	研 究 テ ー マ	研究メンバー
血液腫瘍主体病棟	治療効果の望めないがん患者とその家族への看護 ～必ず直ると信じていた家族が病状を受け 入れ看取るまで～	堀川由佳 石塚未江 小野里美 木下めぐみ 小堀裕美 高尾憲司 松野由子 中平裕記子 川崎紀子 河野真由美 周藤育子
学童主体病棟	神経性食思不振症患者とかかわる看護師のスト レスに対するカンファレンスの効果	粟田香奈子 長谷文枝 掛川光香 春名真巳子
内科外科混合病棟	消臭目的としてアロマセラピーを使って	植木慎悟 檜田隆子
循環器 A 病棟	眠剤使用後の転倒。事故防止策～看護師・家族の 安全に対する意識向上への取り組み～	谷由美子 金気智代恵 川口由紀子 時吉あけみ
循環器 B 病棟	不確かさが増大した思春期患児の意思決定への支 援	下井由美子 伊藤由香 吉野健治 新田好江
一般外科主体病棟 救急医療室	ライ脳症により人口呼吸器装着となった児への在 宅療養に向けての援助 ～気管切開から退院ま でのかわりを通して～	山口美由起 横山経子 橋本ひとみ
HCU	在宅マニュアルの活用状況の評価と今後の課題	家常栄理花 東知宏 山口智子 河野恵
ICU	シーネ固定の技術向上を目指して	西川菜央 伊丹照美 吉田竹彦 西村美喜子 廣川かおる 村川貴美代 松田邦子 相良洋 下雅意つるえ
NICU	インファント使用児の呼吸器回路固定について	砂川恭子 井上淳子 那須野愛子 長谷部陽子 土井真弓 菰野朱美
GCU	看護計画と経過記録の連動へ向けて	表 麻紀 井谷洋美 高木のぶ子 大北正子 林留美子 内海祐子 西村佳子 凧真貴子
産科病棟	緊急帝王切開の看護実践能力向上へ向けての取り 組み ～シュミレーションを実施して～	吉田明子 馬道優子 瀬尾美奈 須藤あいこ 中西亜希子 杉友ユリ 納栄子
手術室	ポンピドンヨードによる化学熱傷（接触性皮膚炎） 発生予防への取り組み ～仰臥位での心臓外科 手術を通して～	郡司阿希子 三好真一 斉藤由香 菊池真由美 坂本郁子 菅野峰子
外来	リスク事例を通して高まった安全への取り組み	北條佳代子 滝上充子 泊菊子 山下理恵子 大西美樹 今井澄子

委 員 会 名	テ ー マ	発 表 者
感染対策委員会	院内環境監査の取り組み ～効果的な監査方法 を検討して～	鳴滝由佳

平成18年度 看護協会主催研修会等参加者名

研 修 会	開催月日	産科	NICU	GCU	HCU	ICU	手術室	血液腫瘍	混合	学童	循環 A	循環 B	一般外科	外来	看護部	ME	参加数
新人会員研修会	10月13日 10月26日 11月8日 11月14日	赤尾真理子 岸野早希 西野英子	彼末尚子 桐畑梨恵 南條佐江 門野理奈	神田麻衣 今村佳織 園 紗英	山下美紀 小川直美	分玉奈佳 中谷弥生	北脇麻子 足立祥子	堀川由佳 高尾薫司 澤 明美 塚本直美	木村真司 菊地美恵子 栗林祐季		川口由起子 樋爪直美 南 亜耶 中野幸子	吉武慎治	西森甲美 染矢陽子				30
生き生きとした職場活動のためのコーチング	10月16日						前内美保										1
これからの看護記録	11月15日 11月16日		大元涼子	要 登志美				斉藤美穂		長谷文枝		古野健治					5
災害医療を考える	9月13日				上坪成子					西谷道子		秋葉由美子					3
法によるエイリアスマネジメントと医療個人情報保護	10月2日		森保美香	高木のぶ子	岡 真美						小谷綾子						4
臨地実習指導 コース	10月11日～12日		松本京子						井上裕子								2
臨地実習指導 コース	12月20日～21日				女鹿 瞳	山本千佳											2
看護管理の基本的スキル	10月27日		柳川潮涼子				藤澤 由						横山経子				3
看護職のためのストレスマネジメント	1月25日	山口千夏	陸本真理	小椋輝美							河南実希						4
これからの病院経営と看護の経済的評価	11月13日				大中清文	西澤由美子											2
緩和医療	11月10日				藤田雅子												1
実践事例から考える家族看護	10月6日～7日		奥村和代	深田美重子	大村典子		原田敬子	松野由子	中 文子	松山美穂	井上徹子						8
今日から始める感染防止	12月2日				米谷直美							井上裕子					2
退院計画調整における看護師の役割	11月27日									文字智子		平峯衣久美					2
スタッフナーズとして取り組む医療事故防止	9月26日										伊藤祥子						1
看護における医療安全と質の管理	9月8日		五十嵐 良		吉田知可子	吉田竹彦				榎本豊恵		伊藤由香	北條佳代子				6
専門職としての継続教育	10月19日～20日		土井真弓	杉森恵美					前島 郁					泊 菊子			4
がん性疼痛へのチームアプローチ	12月11日							米田洋子									1
キャリアアップ研修	9月5日			大北正子		松浦せつ 榎木郁江											3
目標面談に活かすコーチング	10月17日									中尾愛子							2
看護管理ファーストレベル	9月4日～10月12日		菟野朱美														1
看護管理セカンドレベル	10月16日～11月30日	納 栄子															1
小児の発達段階に応じた観察とアセスメント	7月12日～14日		本多綾子														1
慢性疾患患者患児の在宅療養に向けた支援	10月10日～11日		高石まゆみ														1
医療安全管理者研修会	12月11日～15日														藤久保真季		1
医療安全管理者要請研修会	1月10日～11日											河野 恵					1
周産期医療における生命倫理	7月27日～29日	須藤あにこ	和久望美														2
周産期医療研修会	12月4日～8日	前田 愛		井谷洋美													2
体外循環技術研究会セミナー	5月27日～28日																1
自治体病院看護管理者研修	9月13日～15日	杉友ユリ		西村佳子	大中清文				森田昌子								4
合計		8	16	11	11	7	5	7	7	6	8	7	4	2	1	1	101

平成18年度 学会等参加者名

学会名	開催月日	産科	NICU	ICU	手術室	血液腫瘍	混合	学童	循環 A	循環 B	一般外科	外来	看護部	ME	合計
日本小児循環器学会総会	7月14日～15日			本田真也					山下真理子						2
日本小児看護学会	7月29日～30日			山口智子						平井重世					2
日本小児救急医学会	6月16日～17日										辻田利香 牧野友美子				2
日本看護学会(小児看護)	9月21日～22日							文字智子							1
日本母性衛生学会	11月9日～10日	中村沙世													1
日本小児ストーマ・排泄管理学会	5月27日											鎌田直子			1
日本小児がん学会	11月24日～25日					杉山真由美 中村直子									2
日本新生児学会	11月27日～28日		小泉仁美 本多綾子												3
近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	12月2日		小泉仁美							中村純子					2
近畿小児がん研究会	3月3日					中平裕記子									1
日本体外循環技術医学学会	9月16日～17日													中村智裕 横山慎司	2
日本環境感染症学会	2月23日～24日			中村亮子	高橋崇										2
合計		1	3	1	1	3	0	1	1	2	2	1		2	21

平成18年度 県立病院局ラダー研修参加者名簿

対象者	看護部長・次長研修	看護長研修	ラダー リーダーシップ研修	ラダー 看護過程・倫理	ラダー 臨床実習指導	ラダー キャリア開発	ラダー 医療倫理	ラダー 主任研修
開催日	7月30日	8月20日	10月19・20日	8月10日 8月24日	8月3・4・5日	9月26・27日 1月13日	6月22日 6月28日 11月30日	7月13・14・15日
参加者名	植杉 千ヨ子 池尻 操子 箕浦 洋子 藤久保真季	足立 久美子 納 栄子 河野 恵 下雅恵つるえ 周藤 育子 菅野 峰子 時吉 あけみ 夙 真貴子 橋本 ひとみ 今井 澄子 高田 聖子	久留真美子 藤本 詠子 熊本 裕美 田代 曜子 深田美恵子 山本 あい 湯村佳奈子 倉井佑布子 本田 真也 井上 裕子 河南 実希 秦 亜寿沙 井上 徹子 井上 裕子 田中 絵理 森本 佳世 宮本智佳子	寺川 亜希 古谷野亜紀 表 麻紀 小涼 輝美 岩田 恵 沖 香織 藤原 則子 圓尾 明子 西平 倫子 平 香菜子 杉山真由美 山部由美子	中村 沙世 本多 綾子 杉森 恵美 尾畠 淳子 石本 敦子 高橋 紫 瀬川 真紀 井上 扶美 金澤 祥江 植山 真紀 中川 由美 松野 由子	三谷 真美 塩田まゆみ 高野 麻紀 高石まゆみ 土井 真弓 山崎 弥生 黒木 美咲 山内 明 中村 亮子 竹田真由美 加藤由記子 堀坂 由美 渡辺裕美子 小林久美子 藤原 千草 森野 エミ 山村 福子 難波 美幸 小野 里美 松山 美穂 井出公美子	大野 美香 太田 君子 藤原 真弓 山本 栄 陸本 真理 伊賀ひとみ 高木のぶこ 中村 孝子 武田 志乃 榎木 郁江 河野真由美 前谷 由美 藤岡 敦子 伊藤 宏美 岩井さよ子 長尾真裕美 中尾 愛子 榎本 豊恵 住友 京子 中 文子 藤本 恵子 中田 敬子 大谷 操穂 小澤 一美	中川 芳江 藤定 睦子 三宅 典子 西村 佳子 大中 清文 藤澤 由 宮崎 麗 堀場 里美 濱端 健一 工藤 好子 森田 昌子 濱田 米紀 大西 美樹 山下理恵子
合計	4	11	17	12	12	21	24	14

看護部

看護学生

看護学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習病棟
兵庫県立看護大学	長期実習	20名	5月8日～6月2日	血液主体、一般外科、循環器A、循環器B、混合、血液
兵庫県立看護大学	生涯健康看護実習	17名	7月10日～7月28日	HCU、血液主体、循環器A、循環器B、混合、血液
	生涯健康看護実習	17名	10月2日～10月20日	血液主体、一般外科、循環器A、循環器B、混合、血液
兵庫県立看護大学	インパクト実習	14名	8月1日～8月4日	血液主体、一般外科、循環器B、学童
兵庫県立看護大学	出会い実習	20名	1月29日～2月9日	血液主体、一般外科、循環器A、循環器B、混合、血液
兵庫県立看護大学	システム論実習	10名	6月5日～6月9日	血液主体、学童 混合、循環器A 一般外科、外来
	システム論実習	10名	6月12日～6月16日	産科、GCU HCU、手術室
兵庫県立 総合衛生学院 看護学科1部	小児看護実習	10名	6月6日～6月16日	学童、混合 循環器A、循環器B
		2名	7月11日～7月21日	一般外科
		12名	8月29日～9月8日	血液主体、学童 循環器A、一般外科
		6名	10月31日～11月10日	血液主体、混合
兵庫県立 総合衛生学院 看護学科2部	産科看護実習	6名×6G 計36名	5月29日・30日 6月15日・16日 6月22日・23日 6月29日・30日 9月13日・14日 10月12日・13日	産科病棟
兵庫県立 総合衛生学院 助産学科	新生児看護実習	4名	9月26日～9月28日	GCU病棟
		4名	10月3日～10月5日	
		4名	1月9日～1月11日	
		4名	1月23日～1月25日	

受託研修

研 修 名	研 修 期 間	研 修 者 数	研 修 場 所
認定看護師専門課程実習 (小児救急看護科)	9月25日～10月3日	2名	救急医療室
ひょうご海外技術研修	11月1日～1月26日	1名	I C U病棟 N I C U病棟 G C U病棟
臨床工学技士専攻科実習	11月28日～12月18日	2名	手術室
認定看護師専門課程実習 (WOC看護)	12月11日 12月25日	6名	外来
塚口病院周産期研修 1	4月10日～6月30日	6名	N I C U病棟 G C U病棟 産科病棟
塚口病院周産期研修 2	7月1日～9月30日	6名	N I C U病棟 G C U病棟 産科病棟
西宮病院周産期研修	3月14日～15日 3月19日～20日	6名	N I C U病棟 G C U病棟

その他の研修

研 修 名	研 修 生	研 修 期 間	研 修 場 所
ふれあい看護体験	加古川南高等学校 (1名) 神戸高塚高等学校 (1名) 市立明石商業高等学校 (2名) 私立夙川学園高等学校 (2名) 神戸常盤女子高等学校 (2名) 県立芦屋高等学校 (1名)	7月25日	一般外科 混合 血液主体 循環器A

看護部ボランティア

活動実績

ボランティアグループ	活動内容	活動時間
協会ボランティア (神戸生活指導研究会病院 ボランティア)	カルテのセット組・お絞りタオル作成 外来患者の案内・玩具の片付け 外来・病棟での患児の遊び相手 など	毎週 月・金曜日 10:30～15:00 総活動時間 (H18年) : 1,381時間 活動者数 : 26名 (18年度は24名)
病院ボランティア (こども病院で募集)	外来・病棟での患児の遊び相手・玩具の 片付け・外来患者の案内 縫製作業 など	月～金曜日 1～3回/週 総活動時間 (H18年) : 1,975時間 活動者数 : 17名 (18年度は16名)

ボランティアグループ	内 容	開 催 日	担 当 者
協会ボランティア (神戸生活指導研究会病院 ボランティア)	交流会 (30名)	11月29日	新田 好江 河野 恵 時吉 あけみ 納 栄子 春名 真巳子
	30年表彰 (2名)	11月29日	
	健康診断 (21名)	11月29日・12月15日	
	インフルエンザ予防接種 (9名)	11月29日	
病院ボランティア (こども病院で募集)	交流会 (24名)	12月15日	
	健康診断 (6名)	12月15日	
	インフルエンザ予防接種 (10名)	11月27日・28日・29日	
	ボランティア募集・受付	7～8月	
	説明会・研修会・健康診断	9月20日・27日	
	*10月より新ボランティアの方 6名 活動開始		
健康診断担当医師：大橋 正伸 周産期医療センター所長			

院外よりのボランティア受け入れ

ボランティアグループ	内 容	開 催 日	開催場所
フィーリングアーツ研究会	フィーリングアーツ	平成18年9月5日14:00～17:00	研修室 C
神戸大学児童文化研究会	人形劇	平成18年9月6日15:00～16:00	研修室 AB
サンディオ	ハローキティちゃん訪問	平成18年9月28日	各病棟
神戸ハーバーライオンズクラブ	クリスマス会	平成18年12月5日15:00～16:00	周産期棟玄関
こうべママ	人形劇・影絵	平成19年2月20日15:00～15:30	6階プレイルーム
神戸女子大学キッズリーダー部	ペープサート・パネルシアター	平成19年2月21日15:00～16:00	研修室 AB
夢風船	タペストリー他の贈り物を頂いたので、麻酔科診察室・一般外科病棟プレイルームにて使用とした		

所管

こども病院において、協会ボランティアの方は昭和50年から活動を開始されており、院内ボランティアの方も平成14年から活動を開始し5年を経過しようとしています。交通費も食事もすべて自己負担していただく形でのボランティア活動をこんなに長く続けることは、たやすいことではありません。子供たちやご家族の笑顔を支えに続けていただいているボランティアの方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、ボランティアの方々の新鮮なご意見を参考にさせていただきながら 職員との協力体制をはかり一緒によりよいサービスに近づけていきたいと考えています。

看護部委員会活動

主任会 <活動回数；7回>
<p><活動目的> 患者・家族の安心と満足な看護が得られるために、主任としての役割を遂行し、職場を活性化する</p> <p><活動内容></p> <p>1 グループ活動</p> <p>1) 安全管理として、 個人情報保護法：患者の情報を守るためのホワイトボードの使用の検討の実施、フィルムケースとカルテの運搬用かばんの使用の徹底を図った 安全・防犯：面会される方の面会証の携帯を啓蒙し、70%の方が携帯できた 注射オーダーリング：安全に円滑に運用できるようにワークシートの作成とアンケートにて評価を行った</p> <p>2) 看護の質向上チーム リーダー育成：評価ツールを用いてリーダー育成を行い、リーダー役割の意識付けを行った 固定チームの評価検討：評価表の見直しを行い、看護の質評価や看護のレベルの査定を各部署毎に行った</p> <p>2 各部署での取り組み：昨年までの固定チームナースング評価からの課題を提示し、</p> <p>1) 時間管理ができる 2) リーダーシップが発揮できる 3) 応援機能体制が機能している</p> <p style="text-align: right;">について各部署で重点的に取り組み成果を発表した。</p> <p>3 その他</p> <p>1) ふれあい看護体験の実施：7月25日 2) 主任としての役割が果たすための自己研鑽として自主参加で4回勉強会を行った 6月：目標管理、9月：面接法に生かすコーチング、 10月：ファシリテーターの役割、2月：ストレスコーピング</p>
教育委員会 <活動回数；12回>
<p><活動目的> さまざまな教育背景を持つ看護職員に対して、当院で看護をおこなっていくために必要な知識・技術の習得や態度を育成し、より質の高い看護ケアを提供できるように看護師個々を支援する。 看護部の理念や目標を達成するために、看護師継続看護について企画・運営・評価を通して看護師個々の成長を図ることができるように活動する。 看護部における集合教育は、現場における日々の教育支援につながることや動機付けが</p>

主たるねらいであるから、現場における教育との関連性・継続性を図ることができるように運営する。

< 活動内容 >

1. 新規採用オリエンテーションを企画運営（平成18年4月3日～14日）

2. 集合教育の企画・運営

1) 新人

就職3ヵ月研修

2) ラダー1

リスクマネジメント

看護過程の展開

2) ラダー2

リスクマネジメント研修

アセスメントステップアップ研修

プリセプターフォローアップ研修

指導者育成研修

3) ラダー3

ジェネラリスト研修 年6回（平成18年9月～平成19年2月）

・変革理論

・リスクマネジメント

・チーム医療

・継続看護

・グループマネジメントとリーダーシップ

・看護研究

指導者育成研修

目標管理とキャリア開発

4) ラダー3、4

事例検討ファシリテーター養成研修（平成18年9月、平成19年1月）

5) 母子フォローアップ研修 全看護師対象、時間外研修

小児麻酔・産科麻酔について

在宅支援時に必要な医療福祉制度について

小児のプレパレーション

現在子育て事情～親子受難の時代に小児看護師として何が出来るか

看護師に伝えたいこと

安全対策委員会 < 活動回数 ; 11回 >

< 活動目的 >

1. 確認不足、思い込みによるヒヤリハット・事故をなくす対策を検討する。

2. ヒヤリハット、事故事例の分析・安全策を検討する。

3. ミスに繋がりそうな状況の改善を検討する。

< 活動内容 >

以下の4つのグループで活動を行った。

(1)誤薬防止

各病棟の特徴に合わせた対策実施、また与薬忘れキャンペーンを実施した。

(2)転倒・転落防止

病棟ラウンドの上、ポスターや監視システムを活用し、看護師・家族への防止対策を実施した。

(3)ライントラブル防止

トラブルが多発する項目に重点的に対策実施した。また監査用チェックリストの活用、病棟ラウンドによる現場でのアドバイスを実施した。

(4)広報

現場取材とタイムリーな情報提供、広報活動を行った。毎月の新聞発行、臨時号外の発行を行い、再発防止のために情報周知した。

業務・手順委員会 < 活動回数：11回 >

< 活動目的 >

- (1) 日常業務内容を見直し、業務改善・スリム化・効率化を図り、看護ケアの質の向上を図る。
- (2) (1)で見直したものは、必ず看護基準・手順として成分化しておき評価できるようにする。
- (3) 看護業務の実態調査と評価を行う

< 活動目標 >

- (1) 看護基準・手順の見直し
- (2) 在宅療法指導マニュアルの見直し、修正
- (3) 日常業務を見直し業務改善を図る

< 活動内容 >

- (1) 日常業務を見直し、業務改善の一環として手順の作成および追加修正
- (2) 看護手順の見直しと修正を行い、新たに手順を追加
- (3) 業務・手順委員会システム図を作成（看護基準・手順にかかわる委員会活動と業務手順委員会との連携図）
- (4) 在宅療法指導マニュアルの見直し、修正
- (5) 在宅療法マニュアル体系図の作成

感染対策委員会 < 活動回数；11回 >

< 活動目的 >

院内感染対策委員会と連携し、感染防止対策を推進する。

院内感染防止対策の見直しと監査システムの確立、定期的な監査の実施と指導をおこなう。

<活動目標>

1. ICTと連携して血流サーベイランスを実施する。
2. 環境サーベイランスを行って、病院環境の改善対策を検討する。
3. 感染情報の集計をし、病院全体の感染症の推移を知り、対策を考え、感染防止に繋げる。
4. 研修会の運営に積極的にかかわる。
5. リンクナースの活動を発表する。

<活動内容>

1. 血流サーベイランスを6月に2病棟で試行し、9月に全病棟で実施した。
2. 当院で使用できる環境オーディットを作成した。全病棟で環境サーベイランスを実施し、その結果から環境の改善を図った。
3. 各部署の感染情報を集計し、病院全体の感染症の把握に努めた。
4. 研修会の運営にリンクナースが関わった。
5. 日本環境感染学会・院内実践報告会で各Gのリンクナースの活動について発表した。

記録委員会 <活動回数；11回>

<活動目的>

1. 記録監査を継続的に実施し、記録の質の向上につなげる。
機械的監査・質的監査を引き続き実施する。
監査ツールの妥当性を評価する。
2. クリカルパスを引き続き作成すると同時に、現在あるパスの活用状況を把握して改善につなげる。
アウトカムを入れ込み標準看護計画と連動していく。
現在あるパスの活用状況を把握して、活用されにくい要因を探る。

<活動内容>

1. 記録監査の実施

質的監査を実施した。結果から各病棟へ記録改善の為の具体策の提示を行い質の向上を目指した。監査ツールも同時に見直し改善した。

機械的他者監査と自病棟での監査結果を対比し、記載要綱に載っていない「病棟独自の決め事」を明確にした。その結果、他者監査の必要性を再認識した。また、監査を行う中で明らかになった監査ツールの不備を見直し・修正することができた。

看護記録記載要領の記載例を随時見直し、修正し差し替えた。

2. クリニカルパスについての活動

現在あるパスにアウトカムを入れ込みクリニカルパスを完成した。(昨年からの課題)
現在あるパスの使用状況を調査した。

分析を行いより使い易いパス（看護計画と連動したパス）の試作を検討した。

< 現状の問題と今後の方向 >

パスと標準看護計画を併用しているが、本来、標準看護計画に記載されている観察点・ケア項目・指導はパスの中に含まれるものと考えた。実際のパスの中に標準看護計画の内容が記載されていない。また、標準看護計画の評価もアセスメントされず適切に評価されていないことがある。そこで、心カテ・斜視・羊水検査・アデノイドに標準看護計画の内容を盛り込んだパスを試作した。アウトカムの設定は(術前・術後・退院)の期間に分けてバリエーション評価できる内容にした。

アウトカムの考え方（期間、設定内容）についてはクリニカルパス委員会と検討する。

臨床指導委員会 < 活動回数 ; 6回 >

< 活動目的 >

- 1 学生指導をとうして指導スキルの向上、自己成長ができる
- 2 各部署全体で指導スキルの向上ができるような教育的関わりが出来る
- 3 患者様を優先とした安全で有効な実習ができる

< 活動内容 >

委員会開催月の当番が教育や指導に関する資料を提供し学習会、意見交換、知識の共有をはかった（毎回20分程度）内容は新人の特徴 教育のあり方 コーチングにつて セルフサポートコーチングなど

指導の研修会参加者からの講義を設定し、疑問に思っていることなど出し合い確認した（2回実施）

部署での関心を高めて指導に活かせる様な新聞を作成した（2回）

- ・新しい実習について、実習で学んだこと、ひやりはっとについて
- ・実習で良かった例、悪かった例、指導者の条件、実習の違い（県立大学と総合衛生学院）各実習の評価、実習中のひやりはっとの検討を行った

領域別・看護ケア向上委員会

< 活動目標 >

- (1) 専門的実践能力の向上を図り、専門的知識・技術を他の看護師に還元し患者のQOLを高める。
- (2) 必要とされる領域の看護を自発的に学習し、責任ある実践が出来るように看護師に動機づける。
- (3) 専門領域を、呼吸・WOC・摂食の3部会とし、実践指導、教育、指導、相談、質的向上のための調査・研究を行う。

摂食部会 <活動回数：11回>

<目標>

1. 患者を全人的に捉え、より良い摂食援助を行い、こどものQOLを高める。
2. 委員は摂食領域の知識・技術を高め、スタッフへの動機づけを行う。

<活動内容>

1. 症例検討：それぞれの症例検討を重ねるとともに、ケースの問題点・ポイントの抽出を行い、ケアマニュアル構築を目指す。
2. 情報交換：複数の病棟に関わる長期にわたるケースのケアの継続性を保つようにする。
3. データベース構築（ファイルメーカー使用）
4. 各病棟での勉強会のツール作成（パワーポイント資料）

呼吸部会 <活動回数:11回>

<目標>

1. 病棟訪問を通してベッドサイドケアの充実を行う
2. 呼吸ケアマニュアルの修正・改訂を行う
3. 在宅用呼吸器パンフレットを作成する
4. 呼吸関連事故を検討し、呼吸ケア関連事故の予防と啓蒙を行う

<活動内容>

1. ベッドサイドケアの充実

呼吸委員が病棟を回診し、呼吸療法を受けている患児の環境・吸引などの安全管理・基本手技を実際のベッドサイドでチェックリストによる確認を行い、チェックリストの作成や指導を行った。

2. 呼吸ケアマニュアルの修正・改訂

現在ある呼吸療法マニュアルを呼吸管理の現状にあわせ修正・改訂作業を行った。

3. 在宅用呼吸器パンフレット作成

在宅で人工呼吸管を必要とする患児に必要な事項を整理し、パンフレットの作成を行った。

4. 呼吸ケア関連事故の予防と啓蒙

毎月、呼吸管理関連のインシデントの情報共有を行い、重要な事項についてはスタッフへの注意喚起を促すためニュースを発行した。

5. その他の活動内容

- ・新人看護師への救急蘇生オリエンテーションの実施
- ・トラックケアの使用基準作成、セクリスト・ニューポート回路のディスポ化、人工鼻試用調査
- ・気管吸引方法の評価、ジェネラリスト研修における救急蘇生講義、シミュレーションなどを行った。

WOC 部会 < 活動回数：8 回 >

< 目的 >

1. WOC 看護領域の専門的実践能力を向上し患者の QOL を高める
2. WOC ケア部会の委員はスタッフに必要とされる領域の看護を自発的に学習し、責任ある実践ができるように看護師を動機付ける。

< 活動内容 >

- 1) 事例検討：院内で行なわれている WOC ケアについて知り、WOC ケア用品の知識を得る。所属病棟の WOC ケアの問題点やアセスメント方法など振り返る機会をつくる。
- 2) 各部署での WOC ケア向上のための活動：褥瘡ケアについてのスタッフ指導、創傷被覆材のパンフレットの作成、標準看護計画の作成、カンファレンスや病棟会を利用して小勉強会の開催
- 3) 院内勉強会の開催（4 回）：委員が WOC ケア知識を整理し、勉強会を運営する。院内スタッフへ WOC ケアの知識の提供し、質の向上を図る。

< 備考 >

- ・日本小児ストーマ・排泄管理セミナー参加（2 名）
- ・日本小児ストーマ・排泄管理研究会参加（3 名）演題発表 2 題
- ・褥瘡学会参加（2 名）

近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会参加（10 名）演題発表 2 題

3. 研修医・専攻医 指導記録

専攻医：岡本竜弥

研修科：外科

研修期間：2006.4.1～2006.12.31

症 例	執刀	助手
喉頭気管分離手術	0	1
耳前瘻摘出術	0	0
側頸嚢胞摘出術	0	0
頸部腫瘤摘出術	0	0
シストラック手術	0	0
気管切開術	3	0
気管切開孔閉鎖術	0	0
気管支鏡、気管バルーン拡張、異物摘出	3	27
リンパ節摘出術、生検術	3	0
リンパ管腫摘出術	0	1
漏斗胸手術(胸骨拳上術、Nuss 手術)	2	3
鳩胸手術	0	0
開胸ドレナージ	0	0
気管形成術	0	3
気管支狭窄症手術	0	0
肺葉切除術	0	0
横隔膜ヘルニア閉鎖術	1	0
食道閉鎖症手術	0	1
食道延長術、頸部食道瘻造設術	0	1
先天性食道狭窄症手術	0	0
食道狭窄部切除端々吻合術	0	0
咽頭輪状筋切開術	0	0
食道静脈瘤硬化療法	0	1
食道胃内視鏡	2	0
食道異物摘出術	0	1
内視鏡下食道拡張術(バルーン、ブジー)	1	7
内視鏡下幽門バルーン拡張術	0	0
噴門形成術	1	6
胃破裂手術(破裂部縫合閉鎖)	2	0
胃瘻閉鎖手術	2	0
肥厚性幽門狭窄症手術(幽門筋切開術)	0	1
胃瘻造設術	0	5
十二指腸閉鎖症手術	0	1
小腸切除術	1	0
腸穿孔手術	0	0
上腸間膜動脈症候群手術(小腸授動術)	0	0
腸回転異常症手術	0	0
腸瘻造設術	1	0
膵腸管瘻切除術	0	0
メッケル憩室切除術	0	1
回盲部切除端々吻合術	0	0
腸管重複症手術	0	0
虫垂切除術	3	1
結腸切除術	0	0
大腸内視鏡(ポリペクトミー)	2	0
ヒルシュスブルング病手術(Swenson 手術)	1	0
腹腔鏡下 Swenson 手術	0	0
鎖肛根治術(PSARP、minimal PSARP)	0	1

症 例	執刀	助手
総胆管嚢腫切除、肝管空腸吻合術	0	2
胆道閉鎖症手術(再手術を含む)	0	0
胆道閉鎖症逆流防止弁付加手術	0	0
臍尾部切除術	0	0
Hassab 手術	0	0
腹腔鏡下脾摘術	1	3
腹腔鏡下鼠径ヘルニア検索	4	0
腹腔ドレナージ	1	0
臍ヘルニア手術	4	4
腹壁閉鎖術	1	0
腹壁癒痕ヘルニア手術	0	0
腹壁破裂閉鎖術	2	0
癒着剥離手術	2	1
腹腔鏡下 VP シャント留置、抜去術	0	0
肛門ポリープ切除術	0	0
人工肛門造設術	2	0
人工肛門閉鎖術	2	0
カットバック手術(鎖肛)	0	0
ガント三輪手術	2	0
直腸生検術	0	0
痔瘻切開術、痔核摘出術	0	0
中心静脈ライン挿入術	10	2
中心静脈ライン抜去術	0	1
ECMO 用カニューレ挿入	0	0
睾丸固定術	0	0
腫瘍切除術	2	0
血管腫切除術	0	0
鼠径ヘルニア手術	54	4
腫瘍生検術	3	2
臍腫瘍切除術	0	0
奇形種切除術	0	0
腎腫瘍摘出術	1	0
肺腫瘍核出術	0	0
神経芽腫摘出術	0	0
肝芽腫摘出術	0	0
甲状腺腫瘍手術	0	0
褐色細胞腫摘出術	0	0
合計	113	81

専攻医：在間 梓

研修科：外科

研修期間：2006.7.1～2006.12.31

症 例	執刀	助手
喉頭気管分離手術	1	1
耳前瘻摘出術	1	0
側頸嚢胞摘出術	0	0
頸部腫瘤摘出術	0	0
シストラック手術	0	1
気管切開術	1	1
気管切開孔閉鎖術	0	1
気管支鏡、気管バルーン拡張、異物摘出	1	20
リンパ節摘出術、生検術	0	0
リンパ管腫摘出術	0	0
漏斗胸手術(胸骨拳上術、Nuss 手術)	2	2
鳩胸手術	0	0
開胸ドレナージ	0	0
気管形成術	0	0
気管支狭窄症手術	0	0
肺葉切除術	0	0
横隔膜ヘルニア閉鎖術	0	0
食道閉鎖症手術	0	1
食道延長術、頸部食道瘻造設術	0	0
先天性食道狭窄症手術	0	1
食道狭窄部切除端々吻合術	0	0
咽頭輪状筋切開術	0	0
食道静脈瘤硬化療法	0	3
食道胃内視鏡	3	5
食道異物摘出術	1	0
内視鏡下食道拡張術(バルーン、ブジー)	2	2
内視鏡下幽門バルーン拡張術	0	0
噴門形成術	2	6
胃破裂手術(破裂部縫合閉鎖)	0	0
胃穿孔部閉鎖手術	0	0
肥厚性幽門狭窄症手術(幽門筋切開術)	1	1
胃瘻造設術	0	0
十二指腸閉鎖症手術	0	0
小腸切除術	0	0
腸穿孔手術	0	0
上腸間膜動脈症候群手術(小腸授動術)	0	0
腸回転異常症手術	0	0
腸瘻造設術	0	0
膵腸管瘻切除術	0	0
メッケル憩室切除術	0	0
回盲部切除端々吻合術	0	0
腸管重複症手術	0	0
虫垂切除術	1	0
結腸切除術	0	0
大腸内視鏡(ポリペクトミー)	0	0
ヒルシユスブルング病手術(Swenson 手術)	0	0
腹腔鏡下 Swenson 手術	0	1
鎖肛根治術(PSARP、minimal PSARP)	0	1
総胆管嚢腫切除、肝管空腸吻合術	0	0
胆道閉鎖症手術(再手術を含む)	0	0
胆道閉鎖症逆流防止弁付加手術	0	0

症 例	執刀	助手
臍尾部切除術	0	0
Hassab 手術	0	0
腹腔鏡下脾摘術	0	0
腹腔鏡下鼠径ヘルニア検索	3	0
腹腔ドレナージ	0	0
臍ヘルニア手術	3	4
腹壁閉鎖術	0	0
腹壁癒痕ヘルニア手術	0	0
腹壁破裂閉鎖術	0	0
癒着剥離手術	0	1
腹腔鏡下 VP シヤント留置、抜去術	0	0
肛門ポリープ切除術	0	0
人工肛門造設術	1	0
人工肛門閉鎖術	1	1
カットバック手術(鎖肛)	0	0
ガント三輪手術	0	0
直腸生検術	2	0
痔瘻切開術、痔核摘出術	1	0
中心静脈ライン挿入術	5	3
中心静脈ライン抜去術	5	5
ECMO 用カニューレ挿入	0	0
睾丸固定術	1	0
腫瘤切除術	1	1
血管腫切除術	0	0
鼠径ヘルニア手術	30	17
腫瘍生検術	0	1
臍腫瘍切除術	0	0
奇形種切除術	1	0
悪性腫瘍摘出術	0	0
肺腫瘍核出術	0	0
神経芽腫摘出術	0	0
肝芽腫摘出術	0	0
甲状腺腫瘍手術	0	0
褐色細胞腫摘出術	0	0
合計	70	80

専攻医：野崎 奈穂子

研修科：外科

研修期間：2006.4.1～2006.12.31

		症 例	術者	助手	
胸部	気道	気管切開術	1	2	
		気管形成術	0	0	
		喉頭気管分離術	0	1	
	肺	肺葉切除術	0	1	
		ブラ切除術	0	0	
		胸腔鏡下肺生検	0	1	
	横隔膜	横隔膜ヘルニア閉鎖術	0	2	
	食道	先天性食道閉鎖症一期の根治術	0	0	
		食道吻合術	0	0	
		胸壁食道延長術	0	0	
		食道瘻造設術	0	0	
	胸腔	胸腔ドレナージ	1	0	
	胸壁	漏斗胸手術	2	5	
		Nuss bar 抜去	1	1	
腹部	消化管	噴門形成術	2	5	
		胃瘻造設術	2	4	
		胃瘻閉鎖術	0	0	
		肥厚性幽門狭窄症手術	1	3	
		十二指腸閉鎖・狭窄症手術	0	0	
		小腸閉鎖・狭窄症手術	0	1	
		腸回転異常症手術	0	1	
		腸穿孔手術	0	0	
		腸重積症手術	0	0	
		イレウス手術	0	3	
		虫垂切除術	2	2	
		卵巣嚢腫切除術	0	0	
		ヒルシウスプルング病根治術	0	2	
		鎖肛根治術	0	0	
		直腸生検	0	3	
		壊死性腸炎手術	0	0	
		人工肛門造設術	0	4	
		人工肛門閉鎖術	0	1	
		消化管重複症手術	0	0	
		痔核・瘻手術	0	1	
		経肛門的直腸ポリープ切除術	2	0	
		開腹ドレナージ	0	2	
		外傷性胃破裂縫合閉鎖術	0	1	
		肝胆膵脾	胆道閉鎖症手術	0	0
			胆道拡張症手術	0	0
			Roux-en Y 脚弁形成術	0	0
			胆嚢摘出術	0	0
			脾固定術	0	0
			脾臓摘出術	0	0
			門亢症シャント手術	0	0
		腹壁	肝生検	0	0
			腹壁破裂手術	0	2

	症 例	術者	助手
	腹壁形成術	0	0
	腹壁癒痕ヘルニア手術	0	0
	臍帯ヘルニア手術	0	0
	臍ヘルニア手術	7	4
	臍異所性腸粘膜切除術	1	0
	白線ヘルニア手術	0	0
	尿管・臍腸癒切除術	0	0
腫瘍	神経芽細胞腫摘出術	0	0
	奇形腫群腫瘍摘出術	0	1
	腎腫瘍切除術	0	0
	肝腫瘍切除術	0	0
	悪性腫瘍開胸・開腹生検	0	0
	悪性腫瘍胸腔鏡下生検	0	1
鼠径部	鼠径ヘルニア手術	54	20
	精巣固定術	0	3
軟部組織。四肢	リンパ管腫摘出術	0	2
	ピシバニール注入	0	1
	リンパ管腫ドレナージ	0	1
その他	中心静脈カテーテル挿入	10	3
	頸部リンパ節生検	1	1
	側頸嚢法摘出術	1	1
	テノコフカテーテル挿入術	0	1
気管支鏡	気管支鏡のみ	0	13
	気管バルーン拡張術	0	0
	気管内肉芽焼灼術	0	10
	気管内異物摘出術	0	1
	Tチューブ挿入	0	2
	レティナ挿入	0	2
	Y/I型ステント挿入	0	1
胃食道内視鏡	内視鏡のみ	0	5
	内視鏡的胃食道静脈瘤硬化療法	0	0
	食道バルーン拡張術	0	5
	子磁石挿入術	0	1
	食道・胃内異物摘出術	0	2
	ERCP	0	0
下部消化管内視鏡	内視鏡のみ	0	0
	大腸ポリペクトミー/生検	0	2
	狭窄部バルーン拡張術	0	1
新生児		0	0
	横隔膜ヘルニア手術	0	1
	先天性食道閉鎖症	0	0
	肥厚性幽門狭窄症	0	0
	十二指腸狭窄・閉鎖症	0	0
	腸回転異常症	0	1
	空回腸狭窄・閉鎖症	0	1
	ヒルシュスプルング病	0	1
	鎖肛	0	1
	メコニウム病	0	0
	臍帯ヘルニア	0	0
	腹壁破裂	0	2
	仙尾部奇形腫	0	0

専攻医：大崎陽子

研修科：形成外科

研修期間：2006.2.1～2006.12.31

指導医：西本 聡、大山 知樹

症 例	症例数 (301)	
	執刀(120)	助手(181)
良性腫瘍・母斑	54	40
悪性腫瘍	0	0
熱傷	0	2
瘢痕修正	3	3
頭蓋・顔面骨切り	0	3
顔面骨骨折	0	0
植毛	0	0
耳介形成	1	5
副耳・耳瘻孔	26	15
側頸嚢胞	0	0
眼瞼手術	0	0
口唇裂	1	19
口蓋裂	1	13
唇裂二次修正	1	15
顎裂骨移植	0	11
口蓋瘻孔	0	1
咽頭弁	0	3
舌小帯・上唇小帯	0	11
手の先天奇形	11	4
足の先天奇形	15	10
手の瘢痕拘縮	0	0
手足の骨延長	0	3
臍ヘルニア	3	3
副乳	3	0
抜釘	0	4
外傷	0	3
その他	1	13

専攻医：西山 淳二

研修科：麻酔科

研修期間：2004.11.1～2006.3.31

指導医：香川哲郎

症 例	症例数 581
一般外科	136
心臓外科	45
循環器内科	63
脳神経外科	41
泌尿器科	50
整形外科	39
眼科	121
形成外科	53
耳鼻科	3
歯科	1
内科	0
産科	29

専攻医：栗原 ゆか

研修科：麻酔科

研修期間：2004.11.1～2006.3.31

指導医：香川哲郎

症 例	症例数 538
一般外科	110
心臓外科	66
循環器内科	63
脳神経外科	23
泌尿器科	54
整形外科	54
眼科	73
形成外科	51
耳鼻科	4
歯科	1
産科	39

専攻医：川崎 一良

研修科：麻酔科

研修期間：2006.4.1～2006.12.31

指導医：香川哲郎

症 例	症例数 310
一般外科	81
心臓外科	16
循環器内科	30
脳神経外科	28
泌尿器科	24
整形外科	20
眼科	59
形成外科	36
耳鼻科	2
歯科	1
産科	13

研 修 医：橋村宏美

研 修 科：放射線科

研修期間：2006.4.1～2006.12.31(継続中)

指 導 医 赤坂 好宣

検 査		件数
C T 撮影	単純	660
	造影	104
	3 D	80
MRI 読影	単純	0
	造影	0
超音波検査	(ドプラ)	863(10)
RI 検査		172
IVR	腹部血管造影	1
	肝動脈塞栓術	1
透視検査	上部消化管造影	32
	注腸検査	32
	ED チューブ挿入	7
	V F	5
	異物除去	1
	その他	6
単純写真		485

研 修 医：大島富太郎

研 修 科：眼科

研修期間：2005.6.1～2006.3.31

指 導 医 野村耕治 西崎雅也

症 例	症 例 数	
	執 刀	助 手
斜視	67	121
内反症	10	35
眼瞼下垂	0	8
霰粒腫	5	1
白内障	0	22
緑内障	0	5
硝子体	0	8
眼球摘出	0	0
眼瞼腫瘍	0	2
(その他)	0	9

研 修 医：岡村有佑

研 修 科：脳神経外科

研修期間：2006.1.1～2006.3.31

指 導 医 長嶋 達也、河村淳史、秋山英之

症 例	執 刀	第 1 助手	第 2 助手
脳腫瘍摘出術	0	5	0
バイパス手術	0	4	0
開頭脳内血腫	0	2	0
脳動静脈奇形	0	1	0
急性硬膜外血腫	1	2	0
急性硬膜下血腫	0	0	0
慢性硬膜下血腫	0	2	0
頭蓋・脳奇形	0	2	0
脊椎・脊髄奇形	0	2	0
水頭症脳室シャント	0	10	0
脊椎・脊髄腫瘍	0	0	0
脊髄空洞症	0	0	0
その他	2	3	0
合計	3	33	0

研修医：中溝 聡

研修科：脳神経外科

研修期間：2006.4.1～2006.12.31

指導医 長嶋 達也、河村淳史、秋山英之

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術	0	12	0
バイパス手術	0	11	0
開頭脳内血腫	0	0	0
急性硬膜外血腫	0	1	0
急性硬膜下血腫	0	3	0
外減圧開頭	0	1	0
慢性硬膜下血腫	0	7	0
頭蓋・脳奇形	0	12	0
脊椎・脊髄奇形	0	7	0
水頭症脳室シャント	3	26	0
水頭症内視鏡手術	0	2	0
脊椎・脊髄腫瘍	0	5	0
脊髄空洞症	0	0	0
その他	6	10	0
合計	9	97	0

報道

「患者が小児で、かつ宗教上の理由で輸血を拒否する患者への対応に関する調査」の結果報告から	神戸新聞他 (共同通信社)	2006年9月25日	麻酔科
病気に克つ 二分脊椎	産経新聞	2006年1月31日	脳神経外科
慢性呼吸器疾患診断と治療	神戸新聞	2006年5月7日	アレルギー科

学 術 活 動

1. 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
先天白内障	眼科	山本 節	共著	大関武彦ほか	今日の小児治療指針 第14版	544	548	医学書院	2006年 5 月
視能訓練士スペシャリストへの道	眼科	山本 節	編	山本 節	視能訓練士スペシャリストへの道 第4版	1	219	メデイカル 葵出版	2006年11月
こどもと形成外科	形成外科	西本 聡	共著	兵庫県医師会乳幼児保険委員会	乳幼児健診時に必要な境界領域の最近の進歩	35	62	兵庫県医師会乳幼児保険委員会	2005.12
先天性心疾患の診断と治療-3. 外科治療	心臓血管外科	心臓血管外科	共著	中村 三郎	難病ヘルスノート 心臓病 (平成17年度版)	16	24	兵庫県身体障害者定期刊行物協会	平成18年 3 月
痛みのある子どもと家族への看護	看護部	濱田米紀	共著	中野綾美	ナーシング・グラフィカ28 小児の発達と看護	292	303	メデイカ出版	2006年 7 月
尿崩症	代謝内分泌科	郷司克己			今日の小児治療指針	186	186	医学書院	2006年 5 月15日
正期産児への対応	指導相談・地域医療連携部	山崎武美		衛藤義勝 藤村正哲	PBLに基づく小児科学症例テキスト	28	29	エルビゼア・ジヤパン株式会社	2006.11.20
腎機能を考えた安全な処方	腎臓内科	田中亮二郎	単	深川雅史	小児における薬物投与	72	76	医薬ジャーナル	2006年 6 月30日
透析患者の病態へのアプローチ	腎臓内科	田中亮二郎	単	深川雅史、深津敦司	透析患者の診察の問題点 6 小児患者の診察	300	306	金芳堂	2006年 7 月 1 日
小児救急疾患	総合診療科	上谷良行	共著	白木和夫、高田 哲	ナーズとコメデイカルのための小児科学	92	100	日本小児医学出版	2006年 1 月31日
新生児の嘔吐	総合診療科	上谷良行	共著	大関武彦、横田俊一郎、古川漸	今日の小児治療指針	129	130	医学書院	2006年 4 月
疾病の症状とその対応	総合診療科	上谷良行	共著	中村 肇	小児保健学	128	152	日本小児医学出版	2006年 2 月

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
生後3ヶ月未満児の発熱	総合診療科	黒澤茶茶、上谷良行	共著	市川光太郎	小児救急看護マニュアル	22	26	中外医学社	2006年10月
産褥感染症	産科	船越 徹	共著	山口 徹、北原光夫、福井次矢	今日の治療指針	933		医学書院	2006年1月
遷延一過性徐脈	産科	船越 徹	共著	岡井 崇	産科臨床プラクティス上級編 誰もが悩む95例の診療指針	236	238	医学書院	2006年12月
変動一過性徐脈	産科	船越 徹	共著	岡井 崇	産科臨床プラクティス上級編 誰もが悩む95例の診療指針	239	241	医学書院	2006年12月
他の先天異常を伴う発達緑内障	眼科	野村耕治	共著	根木 昭	眼科プラクティス 11	116	119	文光堂	2006/9/3
結節性硬化症、脳三叉神経血管腫症	眼科	野村耕治	共著	田野保雄	眼科プラクティス12眼底アトラス	277	279	文光堂	2006/11/28
視能障害学	眼科	野村耕治	共著	山本 節	視能訓練士スペシヤリストへの道 第4版	161	171	メデイカル 葵出版	2006/11/6
眼疾患 鼻涙管閉塞・流涙	眼科	野村耕治	共著	大関武彦	今日の小児治療指針第14版	642		医学書院	2006/5/15
大腿骨頭すべり症	整形外科	小林大介	単	五十嵐隆	小児疾患の診断治療基準	824	825	東京医学社	2006年11月30日
内反足、外反足、足部変形	整形外科	薩摩真一	単	五十嵐隆	小児疾患の診断治療基準	806	807	東京医学社	2006年11月30日
先天性内反足、外反足	整形外科	薩摩真一	単	編集委員会	周産期医学必修知識	698	700	東京医学社	2006年12月25日
手足の先天異常	整形外科	薩摩真一	単	編集委員会	周産期医学必修知識	701	703	東京医学社	2006年12月25日
アルトロFグリコーシス	整形外科	薩摩真一	単	七川 勲次	リウマチ病セミナー XV	73	83	永井書店	2005年11月26日

2. 雑誌発表表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児眼科症例から学ぶ	眼科	山本 節	眼臨	100	4	252		2006年
兵庫県立こども病院における網膜芽細胞腫に対するchemoreductionの治療成績	眼科	梶野美津子、西崎雅也、野村耕治、山本節	眼臨	100	7	479		2006年
小児眼科の救急疾患	眼科	山本 節	小児歯科臨床	11	12	29		2006年
Alveolar bone regeneration utilizing b-TCP and platelet-rich plasma (PRP) derived from bone marrow aspirate.	形成外科	Oyama T, Nishimoto S, Takeda M.	Ann Plast Surg.	54	2	222		2005. 2
Prevention of mirror fogging by using suction to take clear photographs of the palate during general anesthesia for children.	形成外科	Takeda M, Nishimoto S, Oyama T.	Plast Reconstr Surg.	115	5	1438		2005. 4
【形成外科領域における症候群】 頭蓋・顔面の異常を主徴とする症候群 顔面裂を伴う症候群	形成外科	西本 聡	形成外科	48	4	367		2005. 4
母子相乗り自転車転倒2症例	形成外科	戸田直歩、武田匡弘、大山知樹、西本 聡	保育と保健	11	2	27		2005. 6
Soft Palate Mucosal Adhesion as a Preparation for Furlow's Double-Opposing Z-Palatoplasty.	形成外科	Oyama T Nishimoto S Ishii N	Plast Reconstr Surg	118		469		2005/ 9/30
重複形態を呈した先天性耳垂裂の3例	形成外科	戸田直歩 西本 聡 大山知樹	日本形成外科学会誌	26	6	388		2006/
Gradual distraction front-orbital advancement with "floating forehead" for patients with syndromic craniosynostosis	形成外科	Nishimoto S Oyama T Nagashima T	J Craniofac Surg	17	3	497		2006 May
線状脂肪腺母斑症候群の一例	形成外科	戸田直歩 西本 聡 大山知樹 野村耕治 西崎雅也 丸山あずさ 牧子	形成外科(0021-5228)	49	8	945		2005/
こども達が安心して手術に臨めるように - 母児の不安からの解放を目指して -	麻酔科	村田 洋	日本臨床麻酔学会雑誌	26	1	40		2006/ 1 / 1
色素性乾皮症患者の麻酔経験	麻酔科	荘園雅子、香川哲郎、魚川丸子、鈴木毅	麻酔	55	2	215	217 克誠堂出版	2006/ 2 / 1
ラテックスアレルギーって何？	麻酔科	香川哲郎	Expert Nurse	22	4	138	照林社	2006/ 4 / 1
症例検討 小児の術後鎮痛：上腕骨顆上骨折	麻酔科	香川哲郎、鈴木毅	LiSA	13	3	230	メデイカルサイエンスインターナショナル	2006年 3月

テ ー マ	所 属 科	発 表 者 名	書 籍 名	第 巻 第 号	開 始 頁 終 了 頁	発 行 元	発 行 年 月
小児の術後鎮痛	麻酔科	香川哲郎	LiSA 別冊	13 別冊	82 92	メデイカルサイエンス デザインジャーナル	2006年5月
中心静脈穿刺 (各論) 小児における挿入法	麻酔科	三浦 泰	LiSA	13 12	1126	メデイカルサイエンス デザインジャーナル	2006年12月
抗がん剤の無菌調製業務－安全性と効率性を追求して－	薬剤部	郷地 啓子	週刊薬事新報	2421	3	薬事新報	平成18年 5月11日
延髄に発生した ganglioglioma の 1 例	脳神経外科	秋山英之、長嶋達也、中 溝聡、河村淳史、長谷川 大一郎、小阪嘉之、吉田 牧子	脳神経外科	34 10	1255 1260		2006年
小児の脳浮腫：その病態	脳神経外科	長嶋達也	神経研究の進歩	50 2	281 290	医学書院	2006年
Intracranial hemorrhage and vitamin K deficiency associated with biliary atresia: summary of 15 cases and review of the literature.	脳神経外科	Akiyama H, Nagashima T, Okamura Y, Yokoi A, Uetani Y, Muraji T,	Pediatr Neurosurg	42	362 367		2006年
脊髄髄膜瘤	脳神経外科	長嶋達也	整形外科 診療実践ガイド		729	文光堂	2006年
Role of Growth Factors and Endothelial Cells in Therapeutic Angiogenesis and Tissue Engineering	泌尿器科	Nomi Masashi, Miyake Hideaki, Sugita Yoshifumi, Fujiwara Masato, Soker Shay	Current Stem Cell Research & Therapy	1 3	333 343	Bentham Science Publishers Ltd	Sep. 2006
Free skin graft 法および Firlit collar による尿道下裂修復術	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、相 野谷慶子、高木志寿子	Audio-Visual Journal of JUA	Vol 12-14		日本泌尿器科学会	2006
自分でやってみたくなる超音波検査：腎石灰化、尿路結石	放射線科	赤坂好宣	小児内科	38 10			2006
自分でやってみたくなる超音波検査：ナットクワッカー現象	放射線科	赤坂好宣	小児内科	38 10			2006
食物アレルギー対応食におけるリスク対策	栄養指導課	下浦佳之	全国自治体病院協議 会雑誌	45 5	135 138	全国自治体病院協議 会	2006. 5. 1
「栄養と食生活の絵本展」～食育の推進への取組	栄養指導課	下浦佳之	全国自治体病院協議 会雑誌	45 6	13 16	全国自治体病院協議 会	2006. 6. 1

テ ー マ	所 属 科	発 表 者 名	書 籍 名	第 卷 第 号	開 始 頁 終 了 頁	発 行 元	発 行 年 月
Congenital cardiovascular malformations are complicated in neuroblastomas identified by mass screening but not by clinical examination in Japan.	血液腫瘍科	Yanai T, Hasegawa D, Kosaka Y, Mitsu H, Mabuchi O, Ogino W, Hayakawa A, Kawasaki K, Takeshima Y, Matsuo M.	J Pediatrics	149 1	145 6		2006.JUL
Features and outcome of neonatal leukemia in Japan: experience of the Japan infant leukemia study group.	血液腫瘍科	Ishii E, Oda M, Kinugawa N, Oda T, Takimoto T, Suzuki N, Kosaka Y, Ohara A, Ogawa A, Ishii M, Sakata N, Okamura T, Koike K, Kojima S, Horibe K, Mizutani S.	Pediatr Blood Cancer	47 3	268 72		2006.SEP
小児再生不良性貧血治療プロトコル AA97 の中間報告	血液腫瘍科	小阪嘉之	日本小児血液学会雑誌	20 4	237 239		2006. 8
日本の血友病類縁疾患患者の入院医療コストの集計 多施設共同研究	血液腫瘍科	藤井輝久, 高田昇, 日笠聡, 酒井道生, 竹谷英之, 櫻井嘉彦, 花房秀次, 小阪嘉之, 天野景裕, 嶋緑倫, 吉岡章	日本血栓止血学会誌	17 4	446 453		2006. 8
延髄に発生した ganglioglioma の一例	血液腫瘍科	秋山英之, 中溝聡, 河村淳史, 長嶋達也, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 吉田牧子	脳神経外科	34 12	1255 1260		2005/
Features and outcome of neonatal leukemia in Japan: experience of the Japan infant leukemia study group	血液腫瘍科	Ishii E, Oda M, Kinugawa N, Oda T, Takimoto T, Suzuki N, Kosaka Y, Ohara A, Ogawa A, Ishii M, Sakata N, Okamura T, Koike K, Kojima S, Horibe K, Mizutani S	Pediatr Blood Cancer	47 3	268 72		2006.SEP
乳児白血病	血液腫瘍科	小阪嘉之	小児内科 臨時増刊号 小児疾患の診断治療基準	38	549 550		2005/
フォンタン型手術後の一酸化窒素吸入離脱にプロローランが有効であった2症例	心臓血管外科	吉田昌弘, 大嶋義博, 高野信二, 島津親志, 松久弘典, 日隈智憲, 高橋宏明, 鄭輝男, 城戸佐知子, 佃和弥, 藤田秀樹	Progress in Medicine	26 1	309 313	ライフサイエンス	2001年12月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Closure of multiple ventricular septal defects by the felt sandwich technique: Further analysis of 36 patients	心臓血管外科	Hirohisa Murakami, Hiroaki Takahashi, Masahiro Yoshida, Yoshihiro Oshima, Takuro Misaki, Masahiro Yamaguchi	The journal of thoracic and cardiovascular surgery	132	278	282	Mosby	2002年7月
小児看護専門看護師の活動	看護部	濱田米紀	こどもケア	1	94	98	日総研	2006年3月
小児科領域における遺族ケア	看護部	濱田米紀	家族看護	8	67	72	日本看護協会出版会	2006年9月
小児白血病 そのトータルケア 患児・家族とのパートナーシップ	看護部	濱田米紀	小児看護	29	1605	1609	へるす出版	2006年10月
正期産児の呼吸障害2事例：新生児一過性多呼吸患児、および肺出血患児の看護	看護部 NICU	柳川瀬涼子 足立久美子	小児看護	第29巻 第1号	101	105	へるす出版	2006年1月
NICUにおけるクリニカルラダー開発と運用の実際～ラダーレベル1, 2の人材育成について	看護部 NICU	伊達尚美 足立久美子	こどもケア	第1巻 第1号	127	137	日総研	2006年創刊号
特集 小児救急認定看護師 第一期小児救急認定看護師からのメッセージ	看護部	清水 称喜	Emergency Care	第19巻 第10号	901	901	メデイカ出版	2006年9月
小児の股関節疾患：看護ケアに必要な知識と実際 外来時におけるポイント	看護部外来	北條佳代子・山下理恵子・今井澄子	小児看護	第29巻 第13号	1769	1774	へるす出版	2006年12月
血中ナトリウム異常症	新生児科	藤岡一路, 中尾秀人	周産期医学	36	増刊号	659	東京医学社	2006.12.25
高カリウム血症	新生児科	松本空, 中尾秀人	周産期医学	36	増刊号	661	東京医学社	2006.12.25
Somatic and germline mosaicism for a mutation of the PHEX gene can lead to genetic transmission of X-linked hypophosphatemic rickets that mimics an autosomal dominant trait.	代謝内分泌科	Goji K, Ozaki K, Sadeawa AH, Nishio H, Matsuo M	J Clin Endocrinol Metab	91巻 2号	365	370		2006年1月

テ - マ	所属科	発表者名	書籍名	第 卷 第 号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Enamel-renal syndrome associated with hypokalaemic metabolic alkalosis and impaired renal concentration: a novel syndrome?	代謝内分泌科	Fu XJ, Nozu K, Goji K, Ikeda K, Kamioka I, Fujita T, Kaito H, Nishio H, Iijima K, Matsuo M.	Nephrol Transplant Dial	21巻 10号	2959	2962		2006年9月
Co-occurrence of mutations in both dystrophin- and androgen-receptor genes is a novel cause of female Duchenne muscular dystrophy.	代謝内分泌科	Katayama Y, Tran VK, Hoan NT, Zhang Z, Goji K, Yagi M, Takeshima Y, Satki K, Nhan NT, Matsuo M	Hum Genet	19巻 5号	516	519		2006年4月
腎機能障害を呈した46XY,del(16)(q12.1q13)の1例	腎臓内科	田中亮二郎、足立昌夫	日本小児腎不全学会誌	26	120	121		2006
Long-term follow-up of atypical membranoproliferative glomerulonephritis: are steroids indicated	腎臓内科	Fujita T, Nozu K, Iijima K, Kamioka I, Yoshiya K, Tanaka R, Hamahira K, Nakanishi K, Yoshikawa N, Matsuo M	Pediatr Nephrol	21	194	200		2006
Segmental membranous glomerulonephritis in children: Comparison with global membranous glomerulonephritis.	腎臓内科	Obana M, Nakanishi K, Sako M, Yata N, Nozu K, Tanaka R, Iijima K, Yoshikawa N	Clin J Am Soc Nephrol	1	723	729		2006
せきーその診断と治療：胃逆流症	耳鼻咽喉科	阪本浩一	ENTONI		17	25		2006
小児疾患の早期発見とその対応ー長期予後の向上をめざしてー学校検診：耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児科臨床	59	824	832		2006
健康かわら版：慢性咳嗽	耳鼻咽喉科	阪本浩一	JA 共済情報：ふれ愛		10	12		2006
小児科医が知りたい・聞きたい「子どもの耳・鼻・のど Q & A」睡眠時無呼吸症候群：積極的治療を開始したほうがよい年齢や適応	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児科臨床	59	2733	2738		2006
小児科医が知りたい・聞きたい「子どもの耳・鼻・のど Q & A」拡大耳鏡の使い方	耳鼻咽喉科	大津雅秀	小児科臨床	59	2797	2803		2006
肝門部腸吻合術後に利胆剤は必要か	外科	連 利博	小児外科	38	319	321	東京医学社	2006年3月
プライマリ医療英会話	外科	連 利博	メデイカル朝日	37 - 38	8 - 12		朝日新聞社	2006年8月より毎月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
GER について：胃瘻や喉頭気管分離の付加は どんなとき必要か？	外科	高見澤 滋、西島 栄治、 佐藤 志以樹、畑田 智 子、横井 暁子、和田 英良、山下 方俊、津川 二郎、連 利博	小児外科	38	294	296	東京医学社	2006年3月
手術創の管理	外科	高見澤 滋、西島 栄治、 連 利博、佐藤 志以樹、 畑田 智子、横井 暁子、 和田 英良、山下 方俊、 津川 二郎	小児外科	38	455	459	東京医学社	2006年4月
A case report of glial choristoma of the tongue	外科	Takamizawa S, Inoue T, Ono Y, Satoh S, Nishijima E, Muraji T, Tsugawa C	Journal of Pediatric Surgery	41	E13	E15	ELSEVIER	2006年4月
テガダームを用いた腹壁閉鎖法 (Sutureless gastrostomy closure)を行った腹壁破裂の1例	外科	高見澤 滋、西島 栄治、 榎川 幸弘、津川 力、 連 利博、佐藤 志以樹、 津川 二郎、中尾 秀人、 溝淵 雅巳	日本小児外科学会雑 誌	42	502	505	日本小児外科学会	2006年4月
Development of acquired tracheal stenosis in premature infants due to prolonged endotracheal ventilation: etiological considerations and surgi- cal management	外科	Jiro Tsugawa, Chikara Tsugawa, Shiiki Satoh, Eiji Nishijima, Toshihiro Muraji, Shigeru Takamizawa, Kimio Kanegawa, Yoshinobu Akasaka, Makiko Yoshida	Pediatric International Surgery	22	887	890	Springer	2002年10月
PSARP：手術成績と今後の問題点	外科	津川二郎、高見澤滋、佐 藤志以樹、連利博、西島 栄治、津川力	小児外科	38	941	945	東京医学社	2002年7月
思春期後期、成人期に再手術を行った鎖肛症 例の検討	外科	津川二郎、高見澤滋、佐 藤志以樹、連利博、西島 栄治、津川力	小児外科	38	1190	1194	東京医学社	2002/9/30
乳児心肺停止症例に対する対応と課題-当院救 急医療室における経験より-	総合診療科	上谷良行	日本 SIDS 学会雑誌	6	136	139	メディカ出版	2002年9月
事故（誤飲・中毒・溺水）	総合診療科	三好麻里、上谷良行	小児科診療	69	117	122	永井書店	2002年6月
切迫早産に対する塩酸リトドリンと硫酸マグ ネシウムによる治療効果の比較	産科	猿渡由美子、船越 徹、 近田恵里、石原尚徳、 佐本 崇、大橋正伸	日本周産期・新生児 医学会雑誌	42	891	895		2006年12月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Pregnancy complicated with pulmonary lymphangioliomyomatosis	産科	Fujimoto M, Ohara N, Sasaki H, Funakoshi T, Morita H, Deguchi M, Maruo T	Clin Exp Obstet Gynecol	32	199	200		2005年
Consumptive coagulopathy that developed in pregnant woman with degenerated uterine leiomyoma: case report	産科	Kitao K, Ohara N, Funakoshi T, Moriyama T, Morita H, Kitazawa S, Maruo T	Clin Exp Obstet Gynecol,	32	250			2005年
A pregnant woman with anti-Gregory antigen: case report	産科	Takamatsu Y, Morita H, Ohara N, Makihara N, Funakoshi T, Moriyama T, Maruo T	Clin Exp Obstet Gynecol	32	257	258		2005年
A late complication of thrombosis in internal jugular vein and subclavian vein in a pregnant woman with ovarian hyperstimulation syndrome	産科	Kitao K, Ohara N, Funakoshi T, Yata A, Moriyama T, Morita H, Maruo T	Acta Obstet Gynecol Scand	85	116	118		2006年
虐待を受けた子どもの心理	精神科	前田宏章	治療別刷	87	.No12		南山堂	平成17年12月
交代性上斜位の治療方法 特集：もつと知りたい、斜視・弱視	眼科	野村耕治	あたらしい眼科	23	6	749	メデイカル薬出版	2002/6/30
緑内障の原因と治療 特集：新生児の眼科疾患	眼科	野村耕治	周産期医学	36	4	463	東京医学社	2006/4/10
乳幼児の眼底検査 沈静・抑制薬	眼科	野村耕治	日本医事新報		4304		日本医事新報社	2006/10/21
視力ほどのようにに発育し完成していくのでしょうか	眼科	野村耕治	小児歯科臨床 特集：子どもへの健康管理 - 1眼	11	12	12	月刊小児歯科臨床	2006/12/1
アレルギーによる眼の病気	眼科	野村耕治	小児歯科臨床 特集：子どもへの健康管理 - 1眼	11	12	18	月刊小児歯科臨床	2006/12/1
当科におけるリームンビュゲル法の治療成績	整形外科	小林大介 薩摩真一	日小整会誌	15	2	181		2006年
巨大足底潰瘍を有した麻痺性内反尖足の治療経験	整形外科	藤井貴真一 小林大介、薩摩真一	近畿小児整形外科懇話会誌	18		35		2006年
腸腰筋血腫で診断がついた血友病Aの1例	整形外科	岸本真一郎 小林大介、薩摩真一	近畿小児整形外科懇話会誌	18		49		2006年
Comparison of posterior and anterior pelvic osteotomy for bladder exstrophy complex	整形外科	Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Shinichi Yoshiya, Masahiro Kurosaka	J Pediatr Orthop B	15		141		2006年

テ - マ	所 属 科	発 表 者 名	書 籍 名	第 卷 第 号	開 始 頁	終 了 頁	発 行 元	発 行 年 月
新生児脱臼 - 先天性股関節脱臼を中心に -	整形外科	薩摩真一	周産期医学	36	1445	1448		2006年
先天性股関節疾患	整形外科	薩摩真一	小児看護	29	1732	1738		2006年
Molecular cloning and characterization of mouse aquaporin 6	脳神経内科	Nagase H, Agren J, Saito A, Liu K, Agre P, Hazama A, Yasui M	Biochem Biophys Res Commun.					Epub 2006 Oct 30
		三好麻里 上谷良行	小児科診療	69	117	122	診断七治療社	2006. 5. 1

3. 口 述 発 表 表

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
がん化学療法における薬剤部の取り組み - 抗がん剤無菌調製業務について -	薬剤部	上田 里恵、城古 晃、 畷 給里奈、加古 学、 藤本 潤子、郷地 啓子	第27回	日本病院薬剤師会	和歌山	2006/ 1 /29
子宮収縮抑制剤であるウテメリン注とトリドリン注の副作用について	薬剤部	山口 明恵、福田 朝恵、 加古 学、藤本 潤子、 郷地 啓子	第 4 回	兵庫県病院学会	神戸	2006/ 9 / 9
子宮収縮抑制剤であるウテメリン注と後発品であるトリドリン注「科研」の副作用の比較-後発医薬品の積極的導入に向けて-	薬剤部	山口 明恵、福田 朝恵、 加古 学、藤本 潤子、 郷地 啓子	第45回	全国自治体病院学会		2006/10/19~20
小児医療施設における小児治療・臨床試験体制整備の現状と問題点-兵庫県における治験ネット事業整備計画への参画-	薬剤部	郷地 啓子	第33回	日本小児臨床薬理学会	東京	2006/11/30~ 12/ 1
矯正用 -Tiワイヤーを用いた片側性唇顎口蓋裂に対する術前顎矯正	小児歯科 形成外科	石井 信行 大山知樹 西 本聡	第30回	日本口蓋裂学会	白馬	2006年 5 月25日~ 26日
片側性および両側性唇顎口蓋裂に対する術前顎矯正	小児歯科 形成外科	石井 信行 大山知樹 西 本聡	第65回	日本矯正歯科学会	札幌	2006年 5 月14日~ 15日
自傷により下口唇部分欠損に至った Lesch-Nyhan 症候群の一症例	小児歯科	石井 信行	第23回	日本障害者歯科学会	仙台	2006年10月20日
小児白内障手術の術後管理	眼科	山本 節	第29回	日本眼科手術学会	東京都	2006/ 1 /28
乳幼児の流涙	眼科	山本 節	第21回	須磨区医師会学術 集談会	神戸	2006/ 3 /18
アトピー性皮膚炎と眼合併症	眼科	山本 節	第21回	須磨区医師会学術 講演会	神戸	2006/ 5 /25
先天及び発達白内障に合併する斜視の発症時期	眼科	飯塚久美子、西崎雅也、 野村耕治、廣田和美、 佐伯多賀子、山本 節	第62回	日本弱視科視学会	浜松	2006/ 6 / 2
片眼性小児白内障の手術時期の検討	眼科	大島富太郎、西崎雅也、 野村耕治、飯塚久美子、 廣田和美、佐伯多賀子、 山本 節	第31回	日本小児眼科学会	浜松	2006/ 6 / 3
目の健康	眼科	山本 節	平成18年	神戸市医師会健康 講座	神戸	2006/10/ 5
小児眼内レンズの問題点	眼科	山本 節	第60回	日本臨床眼科学会	京都	2006/10/ 7
ハ口一型創外固定器使用に伴う後頭部褥創	形成外科	西本聡 大山知樹 戸田 直歩	第49回	日本形成外科学会 総会学術集會	岡山	2006/ 4 /12

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
片側唇顎口蓋裂における新しい術前顎矯正装置	形成外科	大山知樹 井信行	第49回	日本形成外科学会 総会学術集会	岡山	2006/4/12
両側完全唇顎口蓋裂における術前顎矯正装置	形成外科	大山知樹 直歩 石井信行	第30回	日本口蓋裂学会学 術集会	長野	2006/5/25
Organoid nevus syndrome の2例	形成外科	大崎陽子 山知樹	第86回	日本形成外科学会 関西支部学術集会	大阪	2006/6/17
多発性翼片状症候群による軟口蓋裂の一例	形成外科	大崎陽子 村友希	第24回	日本頭蓋顎顔面外 科学会	長崎	2006/11/16
両側唇裂術後赤唇変形に対する修正術	形成外科	大崎陽子 村友希	第87回	日本形成外科学会 関西支部学術集会	奈良	2006/12/2
放射線技師から見た「小児嚙下造影のポイント」	検査・放射線部	竹中 修	第17回	嚙下・VF研究会	神戸	2006/7/21
「兵庫県立こども病院の嚙下造影」過去5年間の経験 による重症度分類の試み	検査・放射線部	竹中 修 他		日本摂食嚙下リハ ビリテーション学 会学術大会	岡山	2006/9/8～9
当院における胎児MRIの現状	検査・放射線部	北住 一哉	第4回	兵庫県立病院学会	神戸	2006/9/9
小児IVRにおける被ばく線量算出システムの作成	検査・放射線部	関尾 直士	第4回	兵庫県立病院学会	神戸	2006/9/9
小児心臓カテーテル検査における右心容積計測値の変 動要因の検討	検査・放射線部	関尾 直士	第34回	日本放射線技術学 会秋季学会	神戸	2006/9/9
「兵庫県立こども病院の嚙下造影の工夫」フレーバー を用いた造影剤の服用状況の調査	検査・放射線部	竹中 修	第22回	放射線技師総合学 術大会	米子	2006/10/6～9
「新生児卵巣嚢腫の超音波所見	検査・放射線部	竹中 修	第22回	放射線技師総合学 術大会	米子	2006/10/6～9
「小児嚙下造影における誤嚥評価の半定量化の試み」 頻度と量による誤嚥分類法	検査・放射線部	竹中 修	第18回	兵庫放射線技師 会学術大会	明石	2006/11/12
乳児開腹手術における術後フェンタニル持続静注によ る鎮痛効果	麻酔科	栗原ゆか、三浦泰、香川 哲郎、鈴木毅、魚川礼子、 池島典之	第53回	日本麻酔科学会	神戸	2006年6月1日
学童・思春期手術における術後フェンタニル持続静注 による鎮痛効果と合併症	麻酔科	三浦泰、栗原ゆか、大西 広泰、高辻小枝子、吉村 依里子、香川哲郎	第53回	日本麻酔科学会	神戸	2006年6月2日
「患者が小児で、かつ宗教上の理由で輸血を拒否する 患者への対応に関する調査」の結果報告	麻酔科	香川哲郎	第12回	日本小児麻酔学会	徳島	2006年9月9日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
高度な巨舌を呈した Bechwith-Wiedemann 症候群患者の麻酔経験	麻酔科	大西広泰、魚川礼子、川崎一良、岩淵いさな、熊代江利、香川哲郎	第12回	日本小児麻酔学会	徳島	2006年9月8日
葛西手術後の胆道閉鎖症患児に対するフェンタニル持続静注による術後鎮痛法の検討	麻酔科	栗原ゆか、三浦泰、池島典之、吉村依里子、鈴木毅、香川哲郎	第12回	日本小児麻酔学会	徳島	2006年9月8日
全身麻酔後に偽発作を起こした一例	麻酔科	西山淳二、鈴木毅、香川哲郎	第12回	日本小児麻酔学会	徳島	2006年9月9日
点状軟骨異形成症候群の頸椎固定術の麻酔経験	麻酔科	熊代江利、魚川礼子、岩淵いさな、吉村依里子、池島典之、香川哲郎	第26回	日本臨床麻酔学会	旭川	2006年10月28日
外傷、術後創傷処置の考え方	形成外科	吉村友希		院内専攻医セミナー		8月31日
兵庫県立こども病院における口唇裂治療	形成外科	大山知樹		兵庫医科大学形成外科セミナー	西宮	9月6日
大後頭孔部狭窄を伴う achondroplasia 症例	脳神経外科	秋山英之、長嶋達也	第39回	近畿小児神経研究会	大阪	
全脊髄空洞症を合併した脂肪脊髄腫瘍	脳神経外科	岡村有佑、秋山英之、長嶋達也	第51回	近畿脊髄外科研究会	大阪	2006/3/31
3歳未満児における天幕上悪性上衣腫の2例	脳神経外科	河村淳史、秋山英之、長嶋達也、岡村有佑		近畿脳腫瘍研究会	大阪	2006/4/7
脳幹グリオーマの手術経験	脳神経外科	秋山英之、長嶋達也、岡村有佑	第34回	日本小児神経外科学会	札幌	2006/5/30
重症頭蓋顔面奇形に対する集学的治療	脳神経外科	長嶋達也、岡村有佑、秋山英之	第34回	日本小児神経外科学会シンポジウム	札幌	2006/5/31
乳幼児における天幕上悪性上衣腫に対する化学療法	脳神経外科	河村淳史、長嶋達也、岡村有佑、秋山英之	第34回	日本小児神経外科学会	札幌	2006/5/31
出生時より全脊髄空洞症を合併した脂肪脊髄腫瘍膜腫の1例	脳神経外科	岡村有佑、秋山英之、長嶋達也	第34回	日本小児神経外科学会	札幌	2006/5/31
THE RESULTS OF HIGH-DOSE CHEMOTHERAPY AFTER SURGICAL TREATMENT OF INFANTILE MALIGNANT BRAIN TUMORS	脳神経外科	河村淳史、秋山英之、長嶋達也、岡村有佑、甲村英二		International Symposium on Pediatric Neurooncology 2006	奈良	2006/6/6
教育講演：上衣腫の外科的治療	脳神経外科	長嶋達也		近畿小児脳腫瘍研究会 教育講演	大阪	2006/6/10

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
小児期における脊髄明細胞性 髄膜腫の一例	脳神経外科	河村淳史、長嶋達也、中溝聡、秋山英之	第24回	日本脳腫瘍病理学会	沖縄	2006/6/28
頭痛の話：最近の話題	脳神経外科	長嶋達也		神戸市健康ライフプラザ 土曜健康科学セミナー	神戸	2006/7/7
大脳半球間裂に発生した上衣腫の1例	脳神経外科	中溝聡、河村淳史、秋山英之、長嶋達也		兵庫県脳外科懇話会	神戸	2006/7/21
水頭症児の見逃してはならない症状	脳神経外科	長嶋達也		日本二分脊椎・水頭症研究振興財団講習会	岡山	2006/8/18
新生児・乳児脳腫瘍の治療	脳神経外科	長嶋達也、中溝聡、河村淳史、秋山英之	第64回	日本脳神経外科学会	京都	2006/10/18
小児の脳腫瘍	脳神経外科	長嶋達也	第64回	日本脳神経外科学会 Key Note Lecture	京都	2006/10/18
総排泄腔外反に合併した脊髄病変の検討	脳神経外科	中溝聡、河村淳史、秋山英之、長嶋達也	第64	日本脳神経外科学会	京都	2006/10/18
小児悪性脳腫瘍治療における晩期合併症：二次性脳腫瘍の治療経験	脳神経外科	河村淳史、長嶋達也、岡村有佑、秋山英之	第24回	日本こども病院神経外科医会	仙台	2006/11/18
乳幼児における悪性上衣腫に対する化学療法とその成績	脳神経外科	河村淳史、長嶋達也、岡村有佑、秋山英之	第24回	日本脳腫瘍学会	阿寒湖	2006年
原発性膀胱尿管逆流症の予後因子についての検討	泌尿器科	乃美昌司、吉野薫、高木志寿子、相野谷慶子、谷風三郎、杉多良文	94	日本泌尿器科学会総会	福岡	2006.4.12-15
後部尿道弁12例の臨床的検討	泌尿器科	高木志寿子、相野谷慶子、乃美昌司、杉多良文	94	日本泌尿器科学会総会	福岡	2006.4.12-15
Free skin graft 法および Firilit collar による尿道下裂修復術	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、相野谷慶子、高木志寿子	94	日本泌尿器科学会総会	福岡	2006.4.12-15
血管内皮細胞と Vascular endothelial growth factor (VEGF) の併用による再生筋組織の作成	泌尿器科	乃美昌司、杉多良文、藤澤正人	94	泌尿器再建再生研究会	札幌	2006.6.3
急性陰嚢症におけるカラー（パワー）ドプラ法の有用性についての検討	泌尿器科	乃美昌司、高木志寿子、相野谷慶子、杉多良文	15	日本小児泌尿器科学会総会	新潟	2006.7.20-22
胎児期に見えられた巨大な嚢胞を伴う異形成腎の2例	泌尿器科	高木志寿子、相野谷慶子、乃美昌司、杉多良文	15	日本小児泌尿器科学会総会	新潟	2006.7.20-22
日帰り手術棟における精巢固定術	泌尿器科	相野谷慶子、高木志寿子、乃美昌司、杉多良文	15	日本小児泌尿器科学会総会	新潟	2006.7.20-22

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
小陰茎に伴う高度尿道下裂に対する Free Skin graft 法による一期的根治術	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、相野谷慶子、高木志寿子	15	日本小児泌尿器科学会総会	新潟	2006. 7. 20-22
シンポジウム 停留精巣に対する“オーダーマード手術”	泌尿器科	杉多良文	56	日本泌尿器科学会中部総会	名古屋	2006.10.25.27
原発性閉塞性巨大尿管を有する単腎例の臨床的検討	泌尿器科	相野谷慶子、高木志寿子、乃美昌司、杉多良文	56	日本泌尿器科学会中部総会	名古屋	2006.10.25.27
PROGNOSTIC FACTOR ANALYSIS IN PATIENTS WITH PRIMARY VESICOURTERAL REFLUX	泌尿器科	Nomi-M, Takagi-S, Ainoya-K, Sugita-Y	8	Annual Meeting of the Asia Association of Paediatric Urologists	Singapore	2006. 9. 1 - 3
新生児卵巣嚢腫の超音波所見-daughter cyst sign を中心に-	放射線科	赤坂好宣、橋村宏美、山口善道	42	日本放射線学会	東京	2006/ 6 /17
教育講演：胎児イメージング	放射線科	赤坂好宣	34	日本磁気共鳴医学会大会	つくば	2006/ 9 /14
小児の画像診断：骨軟部	放射線科	赤坂好宣	42	日本医学放射線学会秋季臨床大会	東京	2006/10/27
卵巣奇形腫悪性転化の一小児例	放射線科	山口善道、赤坂好宣、橋村宏美	42	日本小児放射線学会	東京	2006/ 6 /17
小児膀胱腫瘍の4例	放射線科	赤坂好宣、橋村宏美、山口善道、西山章次、杉村和朗	284	日本医学放射線学会関西地方会	大阪	2006/11/18
胎児期に発見された巨大脳腫瘍の1例	放射線科	橋村宏美、赤坂好宣、山口善道、西山章次、河村淳史、長嶋達也、杉村和朗	284	日本医学放射線学会関西地方会	大阪	2006/11/18
enchondromatosis の1例	放射線科	橋村宏美、赤坂好宣、山口善道	36	神戸放射線医学学術交流会	神戸	2006/ 6 / 6
小児専門病院における栄養状態の評価と栄養管理法の検討	栄養指導課	谷口章子、亀井百合子、上村倫世、石川美幸、下浦佳之	第4回	兵庫県立病院学会	神戸	2006. 9 . 9

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
当科における脳腫瘍に対する末梢血幹細胞移植の現状	血液腫瘍科	長谷川大一郎、森雅樹、川崎圭一郎、小阪嘉之、岡村有祐、秋山英之、河村敦史、長嶋達也、赤坂好宣、金川公夫、吉田牧子	第 2 回	兵庫県がん治療・細胞療法研究会	神戸	平成18年 1月21日
初回 VP-16投与時にアナフィラキシーショックを起した骨盤腔内原発横紋筋肉腫の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、松本空、森雅樹、川崎圭一郎、小阪嘉之、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、赤坂好宣、金川公夫、吉田牧子	第 6 回	日本小児横紋筋肉腫治療グループ研究会	東京	平成18年 1月28日
臍帯血移植後の生着前発熱・発疹の出現後、骨髄中血球貪食像の著しい増加を認めた 2 例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、福島雅子、細川悠紀、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成17年度	日本造血細胞移植学会	東京	平成18年 2月24日
HLA 不適合血縁者間移植を施行した Ph+ALL の 2 例	血液腫瘍科	細川悠紀、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之、宮村能子、茶山公祐	平成17年度	日本造血細胞移植学会	東京	平成18年 2月25日
抗リン脂質抗体症候群、バセドウ病を合併した難治性特発性血小板減少性紫斑病の一例	血液腫瘍科	森雅樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成17年度	神戸血液病研究会	神戸	平成18年 3月11日
低用量 IT 療法施行中に頭蓋内出血を来したした血友病 A の 1 例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之、	平成18年度	関西血友病治療研究会	大阪	平成18年 4月 1 日
乳幼児における天幕上悪性上衣腫に対する化学療法	血液腫瘍科	河村淳史、長嶋達也、岡村有祐、秋山英之、小阪嘉之、長谷川大一郎、甲村英二	平成18年度	日本小児脳神経学会総会	札幌	平成18年 5月30日
当科における小児脳腫瘍に対する TEPA+L-PAM による末梢血幹細胞移植併用超大量化学療法のまとめ	血液腫瘍科	長谷川大一郎、小林真之、竹田正樹、川崎圭一郎、小阪嘉之、	第 5 回	小児脳腫瘍研究会	大阪	平成18年 6月10日
汎血球減少、難治性下痢を認めた乳児例	血液腫瘍科	林耕平、澤田杏子、竹田正樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成18年度	兵庫県小児血液疾患懇話会	神戸	平成18年 6月24日
頭蓋内出血を繰り返した血友病 A の兄弟例	血液腫瘍科	澤田杏子、林耕平、竹田正樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成18年度	血友病研究会	大阪	平成18年 6月25日
TEPA+L-PAM による自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法後、難治性下痢、黄疸、血小板減少を認めた anaplastic ependymoma の一例	血液腫瘍科	小林真之、澤田杏子、林耕平、竹田洋樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成18年度	VOD 研究会	大阪	平成18年 7月14日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
卵巣の嚢胞性奇形腫の上皮成分から発生した悪性黒色腫の一例	血液腫瘍科	川崎圭一郎、竹田洋樹、長谷川大一郎、小阪嘉之	平成18年度	小児がんカンファレンス	大阪	平成18年7月29日
化学療法が奏功した再発 congenital mesoblastic nephroma の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成18年度	小児がんカンファレンス	大阪	平成18年7月29日
臍帯血移植後、TMA 等多彩な合併症を認めた Ph+ALL の1小児例	血液腫瘍科	秋田大輔、下岡武史、竹田洋樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成18年度	神戸血液病研究会	神戸	平成18年9月9日
中等量のメントレキセートによって急性腎不全となり DHP+HDF を行った悪性リンパ腫の1例	血液腫瘍科	矢内友子、長谷川大一郎、小阪嘉之、片山珠美、田中亮二郎	平成18年度	日本小児腎不全学会総会	大津	平成18年9月21日
MLL 遺伝子再構成の有無により層別化治療を行なった乳児急性リンパ性白血病の治療成績	血液腫瘍科	富澤大輔、康勝好、永山淳、佐藤貴、衣川直子、磯山恵一、小阪嘉之、小田孝憲、林泰秀、堀部敬三、水谷修紀、石井栄一	平成18年度	日本血液学会・日本臨床血液学会合同総会	福岡	平成18年10月6日 - 8日
小児再生不良性貧血研究 AA-92、AA-97 の経過中に monosomy7, trisomy8 が出現した臨床像の相違	血液腫瘍科	小島勢二、小原明、大賀正一、小林良二、小阪嘉之、菱島秀雄、土田昌宏、別所文雄、矢部普正、中畑龍俊、月本一郎	平成18年度	日本血液学会・日本臨床血液学会合同総会	福岡	平成18年10月6日 - 8日
化学療法施行中に染色体異常を伴う一過性の骨髄異形成所見を認めた非ホジキンリンパ腫の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成18年度	日本血液学会・日本臨床血液学会合同総会	福岡	平成18年10月6日 - 8日
化学療法施行中に水痘・带状疱疹ウイルスにより劇症肝炎を発症した2例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、矢内友子、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成18年度	日本小児感染症学会	高知	平成18年11月10日 - 11日
治療に難渋した亜急性壊死性リンパ節炎の一例	血液腫瘍科	竹田洋樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第3回	兵庫県血液疾患懇話会	神戸	平成18年11月17日
MRT の4例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成18年度	小児がんカンファレンス	大阪	平成18年11月18日
当科で経験した Malignant rhabdoid tumor の4例 - SNF5/INI1抗体を用いた免疫組織染色の意義 -	血液腫瘍科	長谷川大一郎、下岡武史、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之、津川二郎、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、赤坂好宣、吉田牧子	平成18年度	小児がん学会・小児血液学会合同総会	大阪	平成18年11月24日 - 26日
卵巣の嚢胞性奇形腫の上皮成分から発生した悪性黒色腫の一例	血液腫瘍科	川崎圭一郎、竹田洋樹、長谷川大一郎、小阪嘉之	平成18年度	小児がん学会・小児血液学会合同総会	大阪	平成18年11月24日 - 26日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
後腹膜奇形腫術後に異時性異所性に発生した縦隔奇形腫の一例	血液腫瘍科	和田英見、連利博、横井 暁子、小阪嘉之、長嶋達 也、西島栄治	平成18年度	小児がん学会・小 児血液学会合同総 会	大阪	平成18年11月24日 - 26日
出生後に破裂し、三ヶ月後に再発を来した間葉芽性腎腫の一例	血液腫瘍科	横井暁子、連利博、西島 栄治、佐藤志以樹、高見 澤滋、津川二郎、和田英 見、岡本竜弥、野崎奈穂 子、在間梓、長谷川大 一郎、小阪嘉之、	平成18年度	小児がん学会・小 児血液学会合同総 会	大阪	平成18年11月24日 - 26日
MDS との鑑別を要した Pearson marrow 症候群の一例	血液腫瘍科	竹田洋樹、林耕平、長谷 川大一郎、川崎圭一郎、 小阪嘉之	平成18年度	小児がん学会・小 児血液学会合同総 会	大阪	平成18年11月24日 - 26日
小児専門施設における血液疾患の感染対策について	血液腫瘍科	小阪嘉之		静岡小児血液セミ ナ一	静岡	平成18年6月15日
心臓手術のことをもっと知りたい～乳児期以降に必要な心内修復術～	心臓血管外科	吉田昌弘、高橋宏明、大 嶋義博、島津親志、松久 弘典、日隈智憲、高橋宏 明、鄭輝男、城戸佐知子、 藤田秀樹		兵庫県難病連「医 療・教育・生活相 談会」	神戸	2006年6月18日
Appropriate Additional Pulmonary Blood Flow at the Bidirectional Glenn Procedure is Useful for Completion of Total Cavopulmonary Connection	心臓血管外科	吉田昌弘、高橋宏明、大 嶋義博、高野信二、島津 親志、松久弘典、日隈智 憲、高橋宏明、鄭輝男、藤 田秀樹	第42回	日本小児循環器学 会 YIA 受賞記念講 演	名古屋	2006年7月14日
Unifocalization 後の肺動脈閉塞に対する再建例	心臓血管外科	島津親志、大嶋義博、吉 田昌弘、高野信二、松久 弘典、日隈智憲、高橋宏 明、鄭輝男、城戸佐知子、 伊和弥、藤田秀樹	第20回	日本小児循環器学 会近畿・中四国地 方会	大阪	2006年2月5日
右心バイパス術と同時に施行した房室弁形成術後中期遠隔期の検討	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、高 野信二、島津親志、松久 弘典、日隈智憲、高橋宏 明	第36回	日本心臓血管外科 学会総会	盛岡	2006年4月12日～ 14日
純型肺動脈閉鎖症例に対する治療戦略 三尖弁形成術施行例の検討	心臓血管外科	島津親志、大嶋義博、吉 田昌弘、高野信二、松久 弘典、日隈智憲、高橋宏 明、鄭輝男、城戸佐知子、 伊和弥、藤田秀樹	第36回	日本心臓血管外科 学会総会	盛岡	2006年4月12日～ 14日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
部分肺静脈還流異常に対する心房壁フラップを用いた術式の問題点-不整脈について-	心臓血管外科	高橋宏明、大嶋義博、吉田昌弘、高野信二、島津親志、松久弘典、日隈智憲、山口真弘	第36回	日本心臓血管外科学会総会	盛岡	2006年4月12日～14日
肺動脈形成術を伴うTOF根治術後遠隔期における肺動脈狭窄の検討	心臓血管外科	高野信二、吉田昌弘、大嶋義博、島津親志、松久弘典、日隈智憲、高橋宏明	第36回	日本心臓血管外科学会総会	盛岡	2006年4月12日～14日
大動脈縮窄症、大動脈離断症術後遠隔期における再狭窄の評価	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、吉田昌弘、高野信二、島津親志、日隈智憲、高橋宏明、山口真弘	第36回	日本心臓血管外科学会総会	盛岡	2006年4月12日～14日
弓部低形成を伴ったFontan 適応例に対する左開胸下大動脈再建後の問題点	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、高橋宏明	第11回	小児循環器カンファレンス	京都	2006年6月10日
長期間肺動脈低形成及び低心機能のため手術適応外とされていた Fontan Candidate の1例	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、島津親志、松久弘典、日隈智憲、高橋宏明、山口真弘	第48回	兵庫県心臓外科懇話会(HSHS)	神戸	2006年6月23日
部分肺静脈還流異常に対するQOL向上を旨とした術式の検討	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、高野信二、島津親志、松久弘典、日隈智憲、高橋宏明、山口真弘	第49回	関西胸部外科学会学術集会	浜松	2006年6月29日、30日
術後肺動脈閉塞に対し、葉間で肺動脈再建を行った3例	心臓血管外科	高橋宏明、大嶋義博、吉田昌弘、高野信二、島津親志、松久弘典、日隈智憲	第49回	関西胸部外科学会学術集会	浜松	2006年6月29日、30日
金属アレルギーによりペーペースメーカー植込みに難渋した1症例	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、高橋宏明	第49回	関西胸部外科学会学術集会	浜松	2006年6月29日、30日
僧帽弁形成術、ECMO使用によって救命し得た乳児期急性僧帽弁逆流症の1例	心臓血管外科	島津親志、大嶋義博、吉田昌弘、高野信二、松久弘典、日隈智憲、高橋宏明	第49回	関西胸部外科学会学術集会	浜松	2006年6月29日、30日
肺動脈主幹部を用いた左肺動脈形成術	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、吉田昌弘、高野信二、島津親志、日隈智憲、高橋宏明	第49回	関西胸部外科学会学術集会	浜松	2006年6月29日、30日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
動脈スライツ手術後大動脈弁閉鎖不全に対して Konno 手術を施行した1例	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、吉田昌弘、高野信二、島津親志、日隈智恵、高橋宏明	第49回	関西胸部外科学会 学術集会	浜松	2006年6月29日、 30日
純型肺動脈閉鎖(PPA)の境界領域における治療戦略-1 心室手術か?心室手術か-	心臓血管外科	大嶋義博、吉田昌弘、高野信二、島津親志、松久弘典、日隈智恵、高橋宏明、山口眞弘、芳村直樹	第42回	日本小児循環器学会 会総会	名古屋	2006年7月13日~ 15日
TPCC 術後遠隔期の問題点-心房内導管型と心外導管型の比較検討-	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、高野信一、島津親志、松久弘典、日隈智恵、高橋宏明、鄭輝男、城戸佐知子、伊和弥、藤田秀樹	第42回	日本小児循環器学会 会総会	名古屋	2006年7月13日~ 15日
当院での高度肺高血圧を伴った手術症例の周術期管理について-早期抜管への取り組み-	心臓血管外科	高橋宏明、大嶋義博、吉田昌弘、高野信二、島津親志、松久弘典、日隈智恵、鄭輝男、城戸佐知子、伊和弥、藤田秀樹	第42回	日本小児循環器学会 会総会	名古屋	2006年7月13日~ 15日
自己心膜を用いた僧帽弁形成術の検討	心臓血管外科	島津親志、大嶋義博、吉田昌弘、高野信一、松久弘典、日隈智恵、高橋宏明、鄭輝男、城戸佐知子、伊和弥、藤田秀樹	第42回	日本小児循環器学会 会総会	名古屋	2006年7月13日~ 15日
フロロ-四徴症肺動脈弁輪温存例における遠隔期肺動脈弁機能	心臓血管外科	日隈智恵、大嶋義博、吉田昌弘、高野信二、島津親志、松久弘典、高橋宏明、鄭輝男、城戸佐知子、伊和弥、藤田秀樹	第42回	日本小児循環器学会 会総会	名古屋	2006年7月13日~ 15日
拡大動脈弓再建術後狭窄例における形態的評価	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、吉田昌弘、高野信一、島津親志、日隈智恵、高橋宏明、鄭輝男、城戸佐知子、伊和弥、藤田秀樹	第42回	日本小児循環器学会 会総会	名古屋	2006年7月13日~ 15日
無脾症候群の外科治療	心臓血管外科	芳村直樹、村上博久、大高慎吾、三崎拓郎、渡辺一洋、渡辺綾佳、上野敬一郎、市田路子、大嶋義博	第42回	日本小児循環器学会 会総会	名古屋	2006年7月13日~ 15日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
開心術を施行された先天性心疾患児の発達予後 - Bayley scale および3D-MRI を用いた脳容積の評価 -	心臓血管外科	渡辺一洋、松井三枝、石黒真弓、芳村直樹、村上博久、渡辺綾佳、上勢敬一郎、市田路子、宮脇利男、大嶋義博、八木原俊克	第42回	日本小児循環器学会総会	名古屋	2006年7月13日～15日
フアロ-四徴症修復手術における工夫 - 自己心膜 sinus 付 MVOP と sliding technique による左肺動脈形成 -	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、高野信一、島津親志、松久弘典、日隈智憲、高橋宏明、	第6回	小児心臓手術手技研究会	名古屋	2006年7月13日
最近経験した低出生体重児の開心術3症例	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、高橋宏明	第240回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路	2006年9月23日
Fontan 型手術後成人期の問題点	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、島津親志、松久弘典、日隈智憲、高橋宏明	第59回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京	2006年10月2日～4日
僧帽弁閉鎖不全症に対する弁形成術の工夫と成績	心臓血管外科	大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、日隈智憲、高橋宏明、山口眞弘	第59回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京	2006年10月2日～4日
純型肺動脈閉鎖症二心室修復症例の遠隔期の問題点	心臓血管外科	島津親志、大嶋義博、吉田昌弘、松久弘典、日隈智憲、高橋宏明、山口眞弘、芳村直樹	第59回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京	2006年10月2日～4日
動脈スライツ術後遠隔期における問題点 - 再手術勝利絵の検討 -	心臓血管外科	高橋宏明、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、日隈智憲	第59回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京	2006年10月2日～4日
Remote & restrictive VSD を伴った DORV の2例	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、島津親志、松久弘典、日隈智憲、高橋宏明	第59回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京	2006年10月2日～4日
高度肺高血圧を伴った心室中隔欠損症例の周術期管理	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、島津親志、松久弘典、日隈智憲、高橋宏明	第2回	兵庫県高血圧症フォーラム	神戸	2006年10月6日
Left Pulmonary Arterioplasty - Sliding Technique and Main Pulmonary Arterial Translocation Technique -	心臓血管外科	Masahiro Yoshida, Yoshihiro Oshima, Chikashi Shimazu, Hironori Matsuhisa, Tomonori Higuma, Hiroaki Takahashi	第1回	Asia-pacific pediatric cardiology and cardiac surgery	バンコク	2006年11月1日～4日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
Sinus Node Dysfunction Following the Repair of Partial Anomalous Pulmonary Venous Connection	心臓血管外科	Hiroaki Takahashi, Yoshihiro Oshima, Masahiro Yoshida, Chikashi Shimazu, Hironori Matsuhisa, Tomonori Higuma	第 1 回	Asia-pacific pediatric cardiology and cardiac surgery	バンコク	2006年11月 1 日 ~ 4 日
最近経験した左心低形成症候群とその類縁疾患 5 症例に対する手術	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、高橋宏明	第43回	神戸心臓外科研究会 (KCCS)	神戸	2006年11月22日
CAVC, DORV 術後遠隔期の相対的 MS、大動脈弁下狭窄および上行大動脈瘤に対する一手術例	心臓血管外科	高橋宏明、大嶋義博、吉田昌弘、島津親志、松久弘典、日隈智憲、山口眞弘	第49回	兵庫県心臓外科懇話会 (HSHS)	神戸	2006年11月24日
Sliding Technique と Main PA Translocation による左肺動脈形成術			第12回	小児循環器カンファレンス	京都	2006年12月 2 日
シンポジウム 「子どもと家族を支えネットワークする看護」	看護部	濱田米紀	第37回	日本看護学会 小児看護	広島	2006年 9 月22日
小児ストーマの管理と実際	看護部	鎌田 直子	14回	北越ストーマリハピレーション講習会	富山市	3 月 3 日
間欠的自己導尿のケア	看護部	鎌田 直子	18年度	日本小児ストーマ・排泄管理セミナー	横浜市	5 月26日
当院における排便管理の現状	看護部	鎌田 直子	18年度	日本小児ストーマ・排泄管理研究会	横浜市	5 月28日
小児ストーマケア	看護部	鎌田 直子	18年度	関西ストーマケア講習会	大阪市	8 月20日
後頭部開頭術における褥瘡発生と予防	看護部	日切加奈子・鎌田直子	18年度	日本小児ストーマ・排泄管理研究会	横浜市	5 月28日
スタッフへの小児 WOC ケア教育	看護部	中村純子・鎌田直子	17回	近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	神戸市	12月 2 日
NICU での褥瘡発生状況と褥瘡対策への取り組み	看護部	小泉仁美・鎌田直子	17回	近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	神戸市	12月 2 日
NICU での在宅療養支援一入院中から退院後まで長期的な関わりを通して	看護部 NICU	小泉仁美、和久望美、大西美樹、藤定睦子、菰野朱美	第16回	日本新生児看護学会	さいたま市	2006年11月28日
新人看護師の NICU 基本看護技術習得への教育的アプローチー処置ビデオと定量的評価表を用いて	看護部 NICU	本多綾子、松本京子、伊達尚美、菰野朱美	第16回	日本新生児看護学会	さいたま市	2006年11月27日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
新生児病棟における集団育児参加の実施	看護部 GCU	杉森 恵美	第16回	日本新生児看護学会	さいたま市	2006年11月27日, 28日
小児の在宅ケアを支える支援チームの役割	看護部 HCU	山口智子 岡真美 家常栄里花 河野恵	第16回	日本小児看護学会 学術集会	横浜市	2006年7月29日, 30日
小児の在宅ケアを支える支援チームの役割	看護部 HCU	山口智子 岡真美 家常栄里花 河野恵	第4回	兵庫県立病院学会	神戸市	2006年9月9日
長期入院中の難聴児との関わり	看護部 HCU	武田志乃 岩崎真弓	第4回	兵庫県立病院学会	神戸市	2006年9月9日
歯科との連携による口腔内トラブルの減少 ～患者・家族とともに口腔ケアに取り組むために～	看護部 血液主体病棟	杉山真由美	第4回	日本小児がん看護研究会	大阪市	2006年11月24日
B C R入室中の子どもに対する保育の効果	看護部 血液主体病棟	中村直子	第4回	日本小児がん看護研究会	大阪市	2006年11月24日
治療効果の望めないがん患者とその家族への援助	看護部 血液主体病棟	中平裕記子	第29回	近畿小児がん看護研究会	枚方市	2007年3月3日
安全な与薬業務についての新人教育について考える - ヒヤリハット減少を目指して -	看護部 循環器A病棟	山下真理子、伊藤由香 瀬川真紀、井上徹子	平成18年度, 第42回	小児循環器学会	名古屋市	2006年7月14日, 15日
小児救急における家族へのグリーフケア～脳ヘルニア で緊急搬送となった症例の死別までの関わり～	看護部 一般外科病棟	辻田利香、牧野友美子、 清水称喜、橋本ひとみ	第20回	日本小児救急医学会	筑波	2006年6月16日, 17日
小児救急における子どもの権利の保障～ブレパレーション の実践と今後の課題	看護部 一般外科病棟	清水称喜、橋本ひとみ	第4回	兵庫県病院学会	神戸	2006年9月9日
開頭術後のスキントラブルと対策	看護部手術室	山本(日切) 加奈子	2006年度	小児ストーマ研究会	神奈川県	2006年6月
超早産児の脳室内出血・出血後水頭症についての臨床 的検討	新生児科	吉形真由美	109	日本小児科学会	金沢	2006.4.21
先天性心疾患を合併した極低出生体重児59例の新生児 予後	新生児科	芳本誠司	109	日本小児科学会	金沢	2006.4.22
第三次周産期センターで管理した胎便吸引症候群58例 の検討	新生児科	溝淵雅巳	109	日本小児科学会	金沢	2006.4.22
Increased Risk for Retinopathy of Prematurity in Preterm Infants with Intrauterine Growth Restriction	新生児科	溝淵雅巳		2006 PAS annual meeting		2006.4/29-5/2

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
早産児の血漿BNP値による慢性肺疾患の発症・重症度の予測	新生児科	吉形真由美	42	日本周産期新生児医学会	宮崎	2006.7.10
長期羊水流出による肺拡張障害例の胎盤病理所見：case control 研究	新生児科	赤堀洋一郎	42	日本周産期新生児医学会	宮崎	2006.7.10
早産児の胎盤、臍帯、気管洗浄液におけるUreaplasma urealyticum 保菌状況の検討	新生児科	柄川剛	42	日本周産期新生児医学会	宮崎	2006.7.10
超早産児において IUGR は CLD の危険因子か	新生児科	芳本誠司	42	日本周産期新生児医学会	宮崎	2006.7.10
血清 IGF-1 値と未熟児網膜症の関連性	新生児科	溝淵雅巳	42	日本周産期新生児医学会	宮崎	2006.7.10
在胎25週未満の超早産児に対する生後早期のテガダームを用いた皮膚管理の検討	新生児科	柄川剛	42	日本周産期新生児医学会	宮崎	2006.7.11
特別シンポジウム「医療の標準化による新生児医療の今後を探る」4. 医療の標準化が必要な理由 導入された新生児医療現場のあり方	新生児科	中尾秀人	51	日本未熟児新生児学会	大宮	2006.11.27
慢性肺疾患における胸部CT所見の検討	新生児科	坂井仁美	51	日本未熟児新生児学会	大宮	2006.11.27
超早産児における組織学的絨毛羊膜炎と関連する周産期因子の検討	新生児科	溝淵雅巳	51	日本未熟児新生児学会	大宮	2006.11.27
修正32週時血漿BNP値高値早産児は慢性肺疾患を発生する	新生児科	吉形真由美	51	日本未熟児新生児学会	大宮	2006.11.27
NO吸入療法が無効であった重症PPHN早産児に対する静注用プロスタサイクリン投与効果	新生児科	芳本誠司	51	日本未熟児新生児学会	大宮	2006.11.28
2 絨毛膜3 羊膜性の品胎内の臨床的検討	新生児科	柄川剛	51	日本未熟児新生児学会	大宮	2006.11.28
難治性の lobar emphysema に対して肺葉切除術を施行し、救命しえた超低出生体重児の1例	新生児科	小林真之	51	日本未熟児新生児学会	大宮	2006.11.28
先天性乳糜胸により胎児水腫を呈した早産2例	新生児科	福島雅子	238	兵庫県地方会	西宮	2006.2.4
IUGR の臨床像と CLD	新生児科	芳本誠司	15	近畿新生児研究会	大阪	2006.3.4
腸腸閉鎖術後に急性肝不全を合併した超低出生体重児の1例	新生児科	松本空	239	兵庫県地方会	神戸	2006.5.20

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
肥大型心筋症による胎児水腫を合併した Noonan 症候群の 1 例	新生児科	坂井仁美	236	兵庫県未熟児新生児懇談会	神戸	2006. 6. 22
二絨毛膜二羊膜双胎早産児における呼吸障害のリスク因子についての検討	新生児科	澤田杏子	240	兵庫県地方会	姫路	2006. 9. 23
超早産児における脳室内出血，出血後水頭症についての検討	新生児科	林耕平	240	兵庫県地方会	姫路	2006. 9. 23
超早産児における組織学的絨毛羊膜炎と関連する周産期因子の検討	新生児科	溝淵雅巳	51	日本未熟児新生児学会	大宮	2006. 11. 27
新規 SF-1 遺伝子変異を有する 1 家系	代謝内分泌科	郷司克己、福島雅子、細川悠紀、尾崎佳代、松尾雅文	40	日本小児内分泌学会	浜松市	2006年9月29日
MLR 遺伝子に変異を認めた偽性低アルドステロン症 1 型の 1 例	代謝内分泌科	福島雅子、細川悠紀、郷司克己、松尾雅文	40	日本小児内分泌学会	浜松市	2006年9月29日
ピタミンド依存性くる病型の 1 家系	代謝内分泌科	細川悠紀、福島雅子、郷司克己、松尾雅文	40	日本小児内分泌学会	浜松市	2006年9月29日
卵巣嚢腫胚稔転を合併した P450 Oxidoreductase 遺伝子異常症の一例	代謝内分泌科	細川悠紀、尾崎佳代、郷司克己、酒井國安、松尾雅文	37	兵庫県内分泌研究会	神戸市	2006年3月4日
新規 SF-1 遺伝子変異を有する 1 家系	代謝内分泌科	郷司克己、福島雅子、細川悠紀、尾崎佳代、松尾雅文	38	兵庫県内分泌研究会	神戸市	2006年9月16日
思春期早発症と低ゴナドトロピン性性腺機能低下症	代謝内分泌科	郷司克己	11	小児内分泌専門セミナー	神戸市	2006年8月26日
超低出生体重児の発達行動に関する検討	指導相談・地域医療連携部	山崎武美	3	日本子ども学会	神戸市	2006. 9. 2
髄膜炎菌による敗血症性ショックに対して PMX-DHP+CHDF 療法を施行した乳児例	腎臓内科	千田麻理子、田中亮二郎	8	神戸急性血液浄化研究会	神戸	2006/ 1 / 14
確定診断されていなかった Upshaw-Schulman Syndrome の一例	腎臓内科、血液腫瘍科	富永健太、小阪嘉之、田中亮二郎	33	近畿小児腎臓病研究会	大阪	2006/ 3 / 18

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
Alport 症候群に対する抗アルドステロンの効果についての検討	腎臓内科	神戸大学大学院医学系研究科 小児科学 員藤裕史、野津寛大、藤田晃生、神岡一郎、松尾雅文、兵庫県立こども病院 腎臓内科 田中亮二郎、腎臓科 成育医療センター 立山県 飯島一誠、和歌山大学 小児科 吉川徳茂	109	日本小児科学会	金沢	2006/ 4 /21 ~23
Dent 病における OCRL1 遺伝子異常	腎臓内科	東京大学大学院医学研究科 小児科学 関根孝司、Rajan Rashimi、稲富淳、五十嵐隆 兵庫県立こども病院 腎臓内科 田中亮二郎	109	日本小児科学会	金沢	2006/ 4 /21 ~23
Cyclosporine A 投与中に著明な高Alp 血症を呈した頻回再発型ネフローゼ症候群の2例	腎臓内科	腎臓内科 千田麻理子、富永健太、藤田晃生、田中亮二郎	49	兵庫県小児腎臓懇話会	神戸	平成18年6月3日
全国調査における典型的 HUS の重症化因子の検討	腎臓内科	神戸大学大学院医学系研究科 小児科学 神岡一郎、野津寛大、員藤裕史、野津寛大、藤田晃生、松尾雅文、兵庫県立こども病院 腎臓内科 田中亮二郎、原泌尿器科 腎内科 吉矢邦彦、大阪府立母子保健総合医療センター 腎、代謝科 里村憲一、国立成育医療センター 腎臓科 飯島一誠、和歌山県立医科大学 小児科 中西浩一、吉川徳	49	日本腎臓学会	東京	平成18年6月14日 ~16日
小児 IgA 腎症における Transforming Growth Factor (TGF)- β 1 遺伝子多型 (C509T、T869C) の関与	腎臓内科	和歌山県立医科大学 小児科 尾鼻美奈、中西浩一、佐古まゆみ、吉川徳茂、兵庫県立こども病院 腎臓内科 田中亮二郎、神戸大学大学院医学系研究科 小児科学 野津寛大、立成育医療センター 腎臓科 飯島一誠	49	日本腎臓学会	東京	平成18年6月14日 ~16日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
Cyclosporine A 投与中に著明な高Alp血症を呈した頻回再発型ネフローゼ症候群の2症例	腎臓内科	千田麻理子、田中亮二郎	41	小児腎臓病学会	名古屋	平成18年6月22日 ~24日
Dent 病におけるOCRL1遺伝子異常	腎臓内科	東京大学医学部小児科 関根孝司、稲富淳、五十嵐隆、Rashmi Iyengar 兵庫医科大学病院内科 田中亮二郎	41	小児腎臓病学会	名古屋	平成18年6月22日 ~24日
Type II MPGN の1亜型である、Juvenile Acute Non-proliferative Glomerulitis(JANG)の1例	腎臓内科	神戸大学大学院医学系 藤田晃生、目藤裕史、神岡一郎、野津寛大、松尾雅文 兵庫医科大学病院内科 田中亮二郎 大阪府立医科大学病院内科 吉矢邦彦 国立成育医療センター 和歌山腎臓科 飯島一誠 国立成育医療センター 和歌山腎臓科 飯島一誠 大阪府立医科大学 小児科 西浩一 吉川徳茂	41	小児腎臓病学会	名古屋	平成18年6月22日 ~24日
確定診断されなかった Upshaw-Schulman Syndrome の一例	腎臓内科	兵庫県立こども病院腎臓内科、同血液腫瘍科 富永健太、奈良嘉之、田中大亮 大阪府立医科大学 腎臓科 藤本雅則、藤村吉博	41	小児腎臓病学会	名古屋	平成18年6月22日 ~24日
Alport 症候群に対する抗アルドステロン薬の効果についての検討	腎臓内科	神戸大学大学院医学系 藤田裕史、野津寛大、藤田晃生、神岡一郎、松尾雅文 兵庫医科大学病院内科 田中亮二郎 大阪府立医科大学病院内科 吉矢邦彦 国立成育医療センター 和歌山腎臓科 飯島一誠 国立成育医療センター 和歌山腎臓科 飯島一誠 大阪府立医科大学 小児科 西浩一 吉川徳茂	41	小児腎臓病学会	名古屋	平成18年6月22日 ~24日
OCRL1遺伝子異常を認めた Dent 病の1例	腎臓内科	下岡武史、千田麻理子、藤田晃生、田中亮二郎		兵庫県腎臓病治療懇話会	神戸	2006/6/30
中枢性塩類喪失症候群の1例	腎臓内科	藤岡一路、田中亮二郎	4	神戸電解質キヤンブ	神戸	2006/8/4

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
ロタウイルス腸炎罹患中に両側尿管結石による急性腎不全を呈した1 幼児例	腎臓内科	兵庫県立こども病院 腎臓内科、泌尿器科 藤田晃生、千田麻里子、相野二郎、高木志寿子、相野谷慶子、乃美昌司、杉田良文	240	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路	2006/ 9 /23
ロタウイルス腸炎罹患中に両側尿管結石による急性腎不全を呈した1 幼児例	腎臓内科	兵庫県立こども病院 腎臓内科、泌尿器科 藤田晃生、千田麻里子、相野二郎、高木志寿子、相野谷慶子、乃美昌司、杉田良文	28	日本小児腎不全学会	滋賀	平成18年 9 月21日 ~22日
急速進行性糸球体腎炎を合併したアルポート症候群の1 症例	腎臓内科	寺岡由恵、藤田晃生、田中亮二郎	10	姫路ネフロロジーフォーラム	神戸	平成18年11月7日
Waterhouse-Friderichsen 症候群を呈し、救命し得なかった髄膜炎菌敗血症の1 乳児例	腎臓内科	兵庫県立こども病院 救急医療室、藤田晃生、田中亮二郎、山あすさ、尾崎佳代、中亮二郎、三好麻里子、谷良行、六甲アイランド病院小児科、大橋玉基山田至康、河合医院、河合隆行	38	日本小児感染症学会	高知	平成18年11月10~11日
急速進行性糸球体腎炎を合併したアルポート症候群の1 症例	腎臓内科	寺岡由恵、藤田晃生、田中亮二郎	34	近畿小児腎臓病研究会	大阪	平成18年11月25日
乳幼児難聴における最近の話題 (ASSR, 前庭水管拡張症)	耳鼻咽喉科	阪本浩一		近畿教育オーデオロジー研究会	姫路	2006. 1 .13
頭頸部腫瘍における FDG-PET 臨床応用	耳鼻咽喉科	阪本浩一		川崎医科大学 PET 臨床セミナー	岡山	2006. 2 .17
咽喉頭異常感と咳に対する咽喉頭逆流および後鼻漏の意義についての臨床的検討 (鼻アレルギーと副鼻腔炎の関与について)	耳鼻咽喉科	阪本浩一、吉田尚史	24	耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	鳥羽	2006. 3 . 3
花粉症、鼻アレルギー、耳鼻科のお医者さんほんどんなふうに考えているの？	耳鼻咽喉科	阪本浩一		加古郡加古川医師会市民フォーラム	加古川	2006. 3 . 9
Auditory Neuropathy に 先天性視神経萎縮を伴ったと考えられる小児例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、穴川芙蓉	152	日耳鼻兵庫県地方部会	尼崎	2006. 3 .24

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
耳のしくみと補聴器	耳鼻咽喉科	大津雅秀		兵庫県聴覚障害者情報センター講演会	神戸	2006. 3. 26
テマデイスカッション：癌治療において FDG-PET をどう活かすか？「頭頸部腫瘍における FDG-PET の臨床応用」	耳鼻咽喉科	阪本浩一	42	兵庫核医学研究会	神戸	2006. 4. 1
好酸球増多性鼻炎に関連して咽喉頭異常感を来したと考えられた2症例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、吉田尚史	6	喉頭アレルギ一異常研究会	熊本	2006. 4. 14
骨導 ASSR の試み一有用性と問題点一	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、穴川芙美	107	日本耳鼻咽喉科学会総会	東京	2006. 5. 11
頭頸部腫瘍における FDG-PET 臨床応用	耳鼻咽喉科	阪本浩一		神戸大学核医学セミナ一	神戸	2006. 5. 29
ランチョンセミナー：頭頸部外科医が PET を使うとき「どんなことがわかるのか？どんなふうに使えばいいのか？」	耳鼻咽喉科	阪本浩一	30	頭頸部癌学会総会	大阪	2006. 6. 16
Auditory Neuropathy に先天性視神経萎縮を伴ったと考えられる小児例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、穴川芙美	1	小児耳鼻咽喉科学会総会	奈良	2006. 7. 1
乳児における ASSR の経時変化	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	1	ERA・OAE 研究会	東京	2006. 7. 9
兵庫県立こども病院における小児機能性難聴の現況	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、柴切圭子	153	日耳鼻兵庫県地方部会	神戸	2006. 7. 15
新生児聴覚スクリーニング後の精密検査における聴性定常反応 (ASSR) の有用性と問題点	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、柴切圭子、穴川芙美	51	日本聴覚医学会総会	山形	2006. 9. 28
アレルギ一性鼻炎と副鼻腔炎は咽喉頭異常感・咳とどのくらい関連しているか？	耳鼻咽喉科	阪本浩一、吉田尚史	4	東播耳鼻科研究会	加古川	2006. 10. 12
アレルギ一性鼻炎と副鼻腔炎は咽喉頭異常感・咳とどのくらい関連しているか？	耳鼻咽喉科	阪本浩一、吉田尚史、石田春彦	4	日本咳嗽研究会	神戸	2006. 10. 14
乳幼児における ASSR の経時的閾値変化についての検討	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、柴切圭子	154	日耳鼻兵庫県地方部会	西宮	2006. 12. 3
胆道閉鎖症の成績向上のための戦略	外科	連利博、西島栄治、佐藤志以樹、高見澤滋、津川一郎	第43回	日本小児外科学会総会	秋田	2006/6/8
胆道閉鎖症の早期発見、早期診断への提言一USBA 測定法について	外科	連利博	第4回	小児難病フォーラム	神戸	2006/7/15

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
Glucocorticoid receptor alpha expression in the biliary epithelium of biliary atresia: a prognostic indicator and a guide for optimal steroid dosage	外科	Toshihiro Muraji, Makiko Yoshida	第53回	英国小児外科学会	ストックホルム	2006/7/19
Screening and Outcomes of Biliary Atresia	外科	Toshihiro Muraji	2006年度	NIH コンセンサス会議	ベセスダ	2006/9/12
Urinary sulfated bile acid concentration in neonates and infants with biliary atresia: Its feasibility as a mass-screening test for early detection	外科 (クリニカルパ 又委員会)	Toshihiro Muraji, Shigeru Takamizawa, Jiro Tsugawa, Shiiki Satoh, Eiji Nishijima	第6回	International Neonatal Screening Society	淡路	2006/9/19
外科的 newborn における外科転科の適切なタイミング	外科	連利博	第20回	京滋未熟児新生児研究会	京都	2006/11/11
Current technique of slide tracheoplasty for congenital tracheal stenosis	外科	Shiiki Satoh		ベトナム小児外科学会	Hanoi	2006/3/16
先天性気管狭窄病変治療用の特殊気管内 tube の作製	外科	佐藤志以樹、津川力、西島栄治、連利博、高見澤滋、津川二郎、山下方俊、横井暁子、和田英見、畑田智子	第43回	日本小児外科学会総会	秋田	2006/6/8
肝外門脈閉塞症 (EHO) の治療戦略	外科	高見澤滋、津川力、西島栄治、連利博、佐藤志以樹、津川二郎、山下方俊、横井暁子、和田英見、畑田智子	第43回	日本小児外科学会総会	秋田	2006/6/9
内視鏡操作時の送気による腹部膨満が惹起した下枝静脈還流障害の1例：食道裂孔ヘルニアを合併した食道閉鎖術後吻合部狭窄例	外科	高見澤滋、畑田智子、横井暁子、和田英見、山下方俊、津川二郎、佐藤志以樹、西島栄治、連利博	第33回	日本小児内視鏡研究会	東京	2006/7/1
MAGNETIC COMPRESSION REVISION ANASTOMOSIS FOR ANASTOMOTIC STENOSIS AFTER ESOPHAGEOESOPHAGOSTOMY FOR LONG GAP ESOPHAGEAL ATRESIA: A CASE REPORT	外科	Shigeru Takamizawa, Eigo Yamanouchi*, Toshihiro Muraji, Eiji Nishijima, Shiiki Satoh, Jiro Tsugawa	第38回	カナダ小児外科学会	カルガリー	2006/9/8
磁石圧迫吻合部狭窄解除術を行った A 型食道閉鎖症術後吻合部狭窄の1例	外科	高見澤滋、西島栄治、連利博、佐藤志以樹、野崎奈穂子、在間梓、岡本竜弥、和田英見、横井暁子、津川二郎	第26回	日本小児内視鏡・手術手技研究会	香川	2006/11/16

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
小児鼠径ヘルニア日帰り手術におけるクリニカルパス ～創管理からみた標準的なパスの作成を目指して～	外科 (クリニカルパス 委員会)	高見澤滋、西島栄治	第7回	日本クリニカルパス 学会	熊本	2006/11/18
胆道閉鎖症の診断における腹部超音波検査の有用性	外科	高見澤滋、連利博、金川 公夫、赤坂好宣、野崎奈 穂子、在間梓、岡本竜弥、横 津川二郎、和田英見、横 井曉子、佐藤志以樹、西 島栄治	第33回	日本胆道閉鎖症研 究会	金沢	2006/12/2
当院での Nuss 法漏斗胸手術の検討	外科	横井曉子 佐藤志以樹	第6回	Nuss 法漏斗胸手術 手技研究会	東京都	2002/5/12
特発性腸穿孔に対する外科的治療の検討	外科	横井曉子 畑田智子 山 下方俊 津川二郎 和田 英見 高見澤滋 佐藤志 以樹 西島栄治 連利博	第43回	日本小児外科学会	秋田市	2002/6/8
胃管による食道再建を行った食道閉鎖症の2例	外科	横井曉子 野崎奈穂子 津川 在間梓 岡本竜弥 高見澤 滋 和田英見 高見澤 滋 佐藤志以樹 西島栄 治 連利博	第42回	小児外科学会近畿 地方会	西宮市	2002/8/25
出生前に破裂し、三ヶ月後に再発を来した間葉芽腫の 一例	外科	横井曉子 野崎奈穂子 津川 在間梓 岡本竜弥 高見澤 滋 和田英見 高見澤 滋 佐藤志以樹 長谷川大 一郎 小阪嘉之	第22回	日本小児がん学会	大阪市	2002/11/23
脱気できない緊張性気胸	外科	津川二郎、畑田智子、横 井曉子、和田英見、山下 方俊、高見澤滋、佐藤志 以樹、連利博、西島栄治	第55回	小児外科わからん 会	大阪市	2006.3.4
新生児の長期人工呼吸管理後に発症した後天性気管狭 窄症：病因と外科治療の問題点	外科	津川二郎、畑田智子、横 井曉子、和田英見、山下 方俊、高見澤滋、佐藤志 以樹、連利博、西島栄治、 津川力	第43回	日本小児外科学会 総会	秋田市	2006.6.8

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
超低出生体重児に見られた緊張性肺嚢胞症の1治験例	外科	津川二郎、野崎奈穂子、岡本竜弥、在間梓、和田英見、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治	第17回	日本小児呼吸器外科研究会	福岡市	2006.10.27
3次小児救急医療施設における小児外科医の役割	外科	和田英見、畑田智子、山下方俊、津川二郎、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治		須磨医師会	神戸	2002/3/17
小児救急医療における小児外科の役割	外科	和田英見、野崎奈穂子、岡本竜弥、津川二郎、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治	第43回	日本小児外科学会総会	秋田	2006/6/8
新生児期に根治術を施行した胆道拡張症の一例	外科	和田英見、野崎奈穂子、岡本竜弥、在間梓、津川二郎、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治	第42回	日本小児外科学会近畿地方会	西宮	2006/8/26
後腹膜奇形腫術後に異時性異所性に発生した縦隔奇形腫の一例	外科	和田英見、野崎奈穂子、岡本竜弥、在間梓、津川二郎、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治	第22回	日本小児がん学会	大阪	2006/11/24
兵庫県内における胆道閉鎖症発生の集簇性の検討	外科	和田英見、野崎奈穂子、岡本竜弥、在間梓、津川二郎、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治	第33回	胆道閉鎖症研究会	金沢	2006/12/2
頻回の開腹既往のある17歳 extensive aganglioneosis 女性の激しい下腹部痛と嚢胞性病変	外科	和田英見、野崎奈穂子、岡本竜弥、在間梓、津川二郎、横井暁子、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治	第57回	小児外科わからん会	大阪	2006/3/10
小児気道内異物の治療について	外科	岡本竜弥、佐藤志以樹、津川二郎、野崎奈穂子、和田英見、横井暁子、高見澤滋、連利博、西島栄治	第33回	日本小児内視鏡研究会	東京都	2006.7.1

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
600g で出生したC型食道閉鎖症、十二指腸閉鎖症の一例	外科	野崎奈穂子、岡本 竜弥、 榎井 暁子、和田 英美、 津川 二郎、高見澤 滋、 佐藤 志以樹、連 利博、 西島 栄治	第42回	日本小児外科学会 近畿地方会	兵庫県西宮市	2006年8月26日
集学的治療により救命しえた重症熱傷の一女兒例	救急医療室、形成外科	黒澤 茶、森雅樹、永瀬裕朗、 丸山あずさ、尾崎佳代、 長谷川大一郎、川崎圭一郎、 田中亮二郎、三好麻里、 小阪嘉之、上谷良行、 西本聡、大山知樹	第19回	近畿小児科学会	京都	2006年3月19日
当院救急医療室における外傷診療の現状	救急医療室	黒澤 茶、田中亮二郎、 三好麻里、上谷良行	第21回	須磨区医師会学術集談会	神戸	2006年3月18日
乳児心肺停止症例に対する対応と課題 - 当院救急医療室における経験より -	救急医療室	上谷良行	第12回	日本 SIDS 学会学術集會	神戸	2006年3月11日
気管支喘息と鑑別を要した、長期間どまどまった食道異物による気管狭窄の一例	救急医療室	笠井和子、丸山あずさ、 上尾崎佳代、三好麻里、 上谷良行、西島栄治、 佐藤志以樹、芥川宏	第238回	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎	2006年2月4日
PALS (Pediatric Advanced Life Support) の普及に向けて - 関西 TS より	救急医療室	黒澤 茶、三好麻里、 上谷良行、上村克徳、 清水直樹、宮城勝之	第109回	日本小児科学会	金沢	2006年4月21 - 23日
2000年出生超低出生体重児の3歳時予後全国調査成績	総合診療科	上谷良行	第42回	日本周産期・新生児医学会	宮崎	2006年7月9 - 11日
兵庫県立こども病院における小児三次救急医療体制	総合診療科	富永健太、上谷良行	第20回	日本小児救急医学会	筑波	2006年6月16 - 17日
当院救急医療室の運営状況と問題点	救急医療室	上谷良行、三好麻里、 田中亮二郎	第239回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸	2006年5月19日
こども病院での虐待例 - 発達障害との関連性を考える -	脳神経内科	永瀬裕朗	第45回	のじぎく発達障害研究会	神戸	2006年6月14日
超低出生体重児の予後	総合診療科	上谷良行	第1回	NeoForum	東京	2006年9月23日
虐待の診断と対応	脳神経内科	佐治洋介、永瀬裕朗	平成18年度	近畿ブロック医療技術研修会	神戸	2006年12月9日
小児救急医療の落とし穴	総合診療科	上谷良行	平成18年度	近畿ブロック医療技術研修会	神戸	2006年12月9日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
当院における B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 検査方法と感染予防対策	産科	猿渡由美子、船越徹、近田恵里、石原尚徳、佐本 崇、大橋正伸	58	日本産科婦人科学会学術集会	横浜	2006/ 4 月 22 ~ 25 日
p-PROM 症例に対する抗生物質投与の効果 - 投与方法別の検討 -	産科	石原尚徳、猿渡由美子、近田恵里、佐本 崇、船越 徹、大橋正伸	58	日本産科婦人科学会学術集会	横浜	2006/ 4 月 22 ~ 25 日
当院における B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 検査方法と感染予防対策	産科	船越 徹、猿渡由美子、近田恵里、石原尚徳、佐本 崇、大橋正伸	114	近畿産科婦人科学会学術集会	奈良	2006/ 6 月 10 ~ 11 日
平成17年に当院で管理した一絨毛膜性双胎の検討 - 一絨毛膜性双胎はハイリスク妊娠である -	産科	上田大介、石原尚徳、竹村直也、佐本 崇、船越 徹、大橋正伸	80	兵庫県産科婦人科学会学術集会	神戸	2006年7月2日
シンポジウム「産科医療の現状と将来 - 分娩という名のリスクとその法的な対応 -」周産期センターのできること、出来ないこと	産科	大橋正伸	80	兵庫県産科婦人科学会学術集会	神戸	2006年7月2日
当院における B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 検査方法と感染予防対策	産科	船越 徹、猿渡由美子、近田恵里、石原尚徳、佐本 崇、大橋正伸	42	日本周産期新生児医学会学術集会	宮崎	2006/ 7 月 9 ・ 11 日
当院入院時に妊娠22週・23週であった前期破水症例27例の検討	産科	石原尚徳、佐本 崇、船越 徹、大橋正伸	42	日本周産期新生児医学会学術集会	宮崎	2006/ 7 月 9 ・ 11 日
示説：当院における B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 検査方法と感染予防対策	産科	船越 徹	平成18年度	位育会臨床セミナー	神戸	2006年8月19日
平成17年に当院で管理した一絨毛膜性双胎 - 一絨毛膜性双胎は周産期医療センターへ -	産科	上田大介、石原尚徳、齋木美恵、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹、大橋正伸	平成18年度	位育会臨床セミナー	神戸	2006年8月19日
ワークブック仕事百科・医療分野	産科	船越 徹		兵庫県立加古川北高等学校依頼講演	加古川	2006年9月28日
周産期偶発循環器疾患合併症の2例	産科	喜吉賢二、佐本 崇、上田大介、齋木美恵、石原尚徳、船越 徹、大橋正伸	115	近畿産科婦人科学会学術集会	大阪	2006年11月12日
兵庫県立こども病院における外来統計	精神科	前田宏章 伊東恵子 白瀬貞昭 井出浩 松川悦之	47	日本児童青年精神医学総会	千葉	平成18年10月
先天性無眼球症児における Hydrogel Tissue Expander の使用経験	眼科	野村耕治	第31回	日本小児眼科学会総会	浜松	2006/ 6 / 2

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
片眼白内障の手術時期の検討	眼科	大島富太郎	第31回	日本小児眼科学会 総会	浜松	2006/6/3
先天および発達白内障に合併する斜視の発症時期	眼科	飯塚久美子	第62回	日本弱視斜視学会 総会	浜松	2006/6/3
スキルトランスファー 屈折・視機能	眼科	野村耕治	第60回	日本臨床眼科学会 総会	京都	2006/10/8
インストラクションコース 小児 IOL の問題点	眼科	西崎雅也	第60回	日本臨床眼科学会 総会	京都	2006/10/8
先天性大腿骨中極端欠損の治療経過例	整形外科	藤井貴真 小林大介 薩摩真一	37	近畿小児整形外科 懇話会	大阪	2006.1.28
先天性筋萎縮症 2 型に対して growing rod 法を施工した 1 例	整形外科	山中芳亮 宇野耕吉 宮本祐史 薩摩真一 小林大介	37	近畿小児整形外科 懇話会	大阪	2006.1.28
右下肢に過剰肢を認めた 1 例	整形外科	興町悦子 小林大介 岸本真一郎 薩摩真一	37	近畿小児整形外科 懇話会	大阪	2006.8.5
非外傷性に股関節脱臼をきたしたダウン症の 1 例	整形外科	金山修一 浜村清香 村琢也 薩摩真一 小林大介	37	近畿小児整形外科 懇話会	大阪	2006.8.5
先天股脱に対するソルター骨盤骨きり術と観血的整復術の同時手術の治療成績	整形外科	小林大介 薩摩真一	45	日本小児股関節研究 会	東京	2006.6.16 - 17
既治療例からみた化膿性股関節炎の経過	整形外科	薩摩真一 小林大介	45	日本小児股関節研究 会	東京	2006.6.16 - 17
先天性内反足に対する Ponseti 法の短期治療成績	整形外科	薩摩真一 小林大介	31	日本足の外科学会	札幌	2006.6.23 - 24
内反母趾に対する Farmer 法の経験	整形外科	小林大介 薩摩真一	31	日本足の外科学会	札幌	2006.6.23 - 24
二分脊椎症患者の整形外科的問題点	整形外科	小林大介 薩摩真一 垣佳宏 興町悦子	17	日本小児整形外科 学会	福岡	2006.12.1 - 2
先天性股関節脱臼治療後のペルテス様変化に対するソルター骨盤骨きり術の効果	整形外科	薩摩真一 小林大介 垣佳宏 興町悦子	17	日本小児整形外科 学会	福岡	2006.12.1 - 2
先天性側弯症に対するイリザロフ創外固定器による矯正	整形外科	宇野耕吉 木村琢也 薩摩真一 小林大介	17	日本小児整形外科 学会	福岡	2006.12.1 - 2
子どものための禁煙治療の普及を目指して	脳神経内科	加治正行, 橋本崇, 永瀬裕朗, 水野隆久, 原田正平	109	日本小児科学会学 術集会		2006/4/21

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
被虐待児への対応に関する院内・院外連携システムに関する研究	脳神経内科	永瀬裕朗、丸山あずさ、 稲垣由子	239	日本小児科学会兵庫 県地方会・総会		2006/5/20
こども病院での虐待例 -発達障害との関連性を考える -	脳神経内科	永瀬裕朗		のじぎく発達障害 研究会		2006/6/14
Shaken Baby Syndrome in Japan: Review and Clinical Experience in Kobe Children's Hospital Infant Crying as a Trigger for Shaken Baby Syndrome:	脳神経内科	Hiroaki Nagase, Azusa Maruyama		A Tragic Deviation in Infant Development Preconference Symposium		2006/6/19
被虐待児に対応のための院内システムと地域連携	脳神経内科	澤田杏子 丸山あずさ 永瀬裕朗 上谷良行 山 崎武美、長岡美佐	4	県立病院学会分科 会		2006/6/19
当院における最近4年間のウエスト症候群のまとめ	脳神経内科	永瀬裕朗、丸山あずさ	53	兵庫県小児てんか ん研究会		2006/9/11
Shaken Baby syndrome について -医学的問題についての文献的考察と当院での臨床経験-	脳神経内科	永瀬裕朗		こどもと親への育 児支援研究会		2006/9/16
TBI (traumatic brain injury) で来院し虐待が疑われた乳幼児16例	脳神経内科	青木一恵、長岡美佐、丸 山あずさ、永瀬裕朗、上 谷良行、中村肇	240	日本小児科学会兵 庫県地方会		2006/9/23
食物アレルギーとアトピー 性皮膚炎	アレルギー科	三好麻里		母子保健セミナー	神戸市	2006.3.16
10年以上も下痢血便が続き股関節炎で診断された潰瘍 性大腸炎の1例	アレルギー科	黒澤茶茶	第6回	近畿リウマチ・膠 原病研究会	大阪市	2006.4.1
小児喘息患者さんへの最新の治療	アレルギー科	三好麻里		日医生涯教育協力 講座 慢性呼吸疾 患講座	神戸市	2006.4.8
喘息のガイドラインと最新の治療	アレルギー科	三好麻里		尼崎市小児科医会 総会	尼崎市	2006.4.19
病初期に全身型若年性特発性関節炎と川崎病の鑑別が 困難であった4症例	アレルギー科	笠井和子	第50回	日本リウマチ学会 総会・学術集会	長崎市	2006.4.26
気管支喘息との鑑別を要した長期間とどまった食道異 物による気管狭窄の1例	アレルギー科	笠井和子	第18回	日本アレルギー学 会春季臨床大会	東京都	2006.5.31
家族内発症のベーチエット病と考えられる1男児例	アレルギー科	笠井和子	第16回	日本小児リウマチ 学会	長野県	2006.10.8

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
先天性心臓腫瘍の1例	兵庫県立こども病院 検査・放射線部病理 室1, 心臓血管外科2)	吉田牧子1), 島津親志2), 日隈智憲2), 大嶋義博2), 吉田昌弘2), 松久弘典2), 高橋宏明2)	第56回	関西小児病理研究 会	大阪市	平成18年6月24日

診 療 統 計

1. 外来患者数

(1) 年齢別・診療科別患者数

診療科	区分		乳 児		幼 児		学 童		思春期	その他	新規患者		再診患者		
	未熟児	新生児	前期	後期	前期	後期	前期	後期			患者数	科別構成比(%)	患者数	科別構成比(%)	
小児科	総合診療科	0	23	144	176	375	246	169	109	60	42	1,344	13.5	2,243	3
	新生児内科	371	308	49	9	6	2	0	0	0	0	745	7.5	3,414	4.6
	脳神経内科	0	2	19	20	49	52	49	22	22	3	238	2.4	2,184	2.9
	循環器内科	0	72	165	44	80	85	47	23	26	10	552	5.6	8,121	10.8
	腎臓内科	0	0	3	3	9	27	31	38	30	13	154	1.6	2,346	3.1
	代謝内分泌科	0	29	19	12	38	47	31	30	26	36	268	2.7	4,295	5.7
	血液内科	0	1	8	6	25	24	15	19	13	11	122	1.2	2,972	4
	卒 煙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	発達行動	0	0	0	4	14	34	11	9	4	1	77	0.8	163	0.2
アレルギー内科	0	0	19	37	50	46	22	17	11	1	203	2	2,690	3.6	
小計	371	435	426	311	646	563	375	267	192	117	3,703	37.3	28,428	37.9	
外科	一般外科	0	29	200	86	219	274	114	55	26	18	1,021	10.3	5,322	7.1
	心臓血管外科	0	0	4	1	6	2	2	1	0	3	19	0.2	2,318	3.1
	脳神経外科	0	7	58	42	59	33	30	20	15	10	274	2.8	2,770	3.7
	形成外科	0	41	208	85	110	101	48	26	8	16	643	6.5	3,340	4.5
	整形外科	0	35	191	49	173	128	82	68	48	7	781	7.9	4,231	5.6
小計	0	112	661	263	567	538	276	170	97	54	2,738	27.6	17,981	24.0	
その他	眼 科	3	16	65	79	184	286	126	56	22	12	849	8.5	10,215	13.6
	精神科	0	0	0	1	27	70	66	53	50	19	286	2.9	3,171	4.2
	皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	泌尿器科	5	31	136	97	193	196	119	69	31	5	882	8.9	4,707	6.3
	耳鼻咽喉科	2	22	83	48	117	155	102	36	18	10	593	6	3,399	4.5
	産 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	726	726	7.3	3,543	4.7
	放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0
	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	701	0.9
小計	10	69	284	225	521	707	413	214	121	772	3,336	34	25,748	34.2	
歯 科	0	5	8	14	46	51	21	5	3	0	153	1.5	2,812	3.8	
合計患者数	381	621	1,379	813	1,780	1,859	1,085	656	413	943	9,930	100.0	74,969	99.9	
区分別構成比	3.8	6.3	13.9	8.2	17.9	18.7	10.9	6.6	4.2	9.5	100.0				

(2) 地域別新規患者数

区 分	患者数	構成比(%)
神 戸 市	4,965	50.0
阪 神 南	765	43.3
阪 神 北	599	
東 播 磨	1,317	
北 播 磨	493	
中 播 磨	352	
西 播 磨	161	
但 馬	207	
丹 波	146	
淡 路	255	6.7
近 畿	308	
県 外 他	362	
合 計	9,930	100.0

(3) 費用別新規患者数

区 分	件 数	割合(%)
保 険	3,380	34.0
緒 方	465	4.7
自 費	464	4.7
そ の 他	5,621	56.6
合 計	9,930	100.0

(注)保険と公費併用の場合、各々公費欄に計上した。

2. 退院患者数

(2) 地域別退院診療録数
(H18.4.1 - H19.3.31)

(1) 診療科別退院診療録数 (H18.4.1 - H19.3.31)

区分	退院総数		在院日数		転				帰	
	女	男	延べ	平均	軽快	不変	転院	事故	死亡(剖検)	
総合診療科	122	144	2,252	8.5	258	5	3			
救急医療室	85	107	840	4.4	170	1	8		13	
アレルギ一科	42	42	890	10.6	80	4				
血液腫瘍科	185	217	7,099	17.7	380	14	1		7	
循環器科	171	208	12,459	32.9	341	32	2		4	
脳神経内科	60	46	2,600	24.5	102	4				
腎臓内科	43	61	1,198	11.5	101	2	1			
代謝内分泌科	33	19	595	11.4	52					
新生児科	312	382	16,082	23.2	629	4	37		24	4
小児外科	283	295	6,737	11.7	561	10	7			
心臓血管外科	102	97	4,870	24.5	194	1			4	1
脳神経外科	101	96	2,949	15.0	184	10	2		1	1
整形外科	107	77	2,591	14.1	174	9	1			
形成外科	108	118	1,739	7.7	225	1				
泌尿器科	54	179	1,173	5.0	228	5				
眼科	227	219	1,435	3.2	443	3				
耳鼻咽喉科	12	20	289	9.0	31		1			
皮膚科										
精神神経科										
小児歯科	2	1	6	2.0	3					
産科	622		10,505	16.9	467	135	20			
総計	2,671	2,328	76,309	15.3	4623	240	83		53	6

産科新生児139例を除く

地域	患者数	%
東灘区	181	3.6%
灘区	111	2.2%
中央区	73	1.5%
北区	197	3.9%
兵庫区	135	2.7%
長田区	147	2.9%
須磨区	410	8.2%
垂水区	482	9.6%
西区	470	9.4%
(小計)	2206	44.1%
阪神南	375	7.5%
阪神北	278	5.6%
東播磨	696	13.9%
北播磨	249	5.0%
中播磨	290	5.8%
西播磨	124	2.5%
但馬	96	1.9%
丹波	107	2.1%
淡路	120	2.4%
(小計)	2335	46.7%
大阪	132	2.6%
近畿圏	92	1.8%
近畿圏外	194	3.9%
(小計)	418	8.4%
不詳	40	0.8%
総計	4999	100.0%

(3) 住所別・診療科別退院診療録数 (H18/4/1 - H19/3/31)

診療科	神戸		阪神南		阪神北		東播磨		北播磨		中播磨		西播磨		但馬		丹波		淡路		大阪		近畿圏		近畿圏外		不詳		総計	
	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)	数	(前年)
総合診療科	146	(117)	25	(12)	15	(11)	22	(21)	12	(6)	6	(5)	8	(4)	2	(2)	4	(4)	6	(5)	7	(3)	1	(1)	1	(1)	12	(12)	266	(203)
救急医療室	104	(91)	12	(9)	17	(13)	20	(19)	6	(6)	3	(2)			1	(1)	4	(4)	2	(1)	3	(3)	1	(1)	3	(3)	16	(16)	192	(169)
アレルギー科	26	(19)	8	(4)	3	(3)	19	(12)	7	(5)	6	(4)	4	(3)			3	(2)							8	(3)			84	(55)
血液腫瘍科	154	(49)	15	(6)	18	(7)	47	(17)	25	(7)	52	(18)	16	(8)	12	(5)	18	(4)	15	(4)	16	(3)	5	(1)	9	(2)			402	(131)
循環器科	156	(87)	26	(18)	16	(11)	49	(29)	13	(8)	35	(17)	13	(7)	20	(9)	9	(7)	9	(7)	8	(5)	5	(4)	20	(11)			379	(220)
脳神経内科	52	(31)	5	(5)	14	(10)	18	(12)	3	(2)	7	(6)	5	(4)			1	(1)			1	(1)							106	(72)
腎臓内科	37	(23)	5	(3)	4	(3)	24	(7)	9	(5)	6	(2)	2	(2)			3	(1)	6	(4)	7	(1)	1	(1)					104	(52)
代謝内分泌科	22	(19)	4	(3)	5	(4)	8	(8)	2	(2)	1	(1)	1	(1)	4	(4)	2	(2)	3	(2)									52	(46)
新生児科	378	(323)	59	(57)	32	(25)	108	(88)	23	(22)	10	(9)			3	(2)	8	(7)	13	(7)	20	(17)	15	(14)	15	(15)	10	(10)	694	(596)
小児外科	213	(142)	52	(39)	42	(26)	87	(56)	25	(21)	32	(18)	18	(8)	12	(11)	10	(8)	16	(11)	13	(8)	23	(11)	34	(29)	1	(1)	578	(389)
心臓血管外科	86	(68)	7	(3)	6	(4)	30	(25)	5	(5)	21	(20)	8	(7)	9	(8)	6	(4)	3	(2)	6	(4)	2	(2)	10	(9)			199	(161)
脳神経外科	71	(43)	20	(13)	6	(2)	30	(17)	14	(8)	21	(14)	4	(3)	1	(1)	8	(5)	3	(2)	3	(2)	3	(3)	13	(10)			197	(123)
整形外科	63	(54)	17	(13)	8	(7)	32	(26)	13	(13)	8	(5)	6	(6)	3	(3)	7	(5)	10	(5)	4	(2)	6	(5)	7	(5)			184	(149)
形成外科	95	(88)	17	(12)	14	(14)	32	(28)	19	(17)	10	(7)	3	(3)	9	(6)	3	(3)	4	(4)	4	(4)	2	(2)	14	(10)			226	(198)
泌尿器科	51	(42)	24	(21)	22	(17)	27	(25)	9	(9)	16	(14)	8	(7)	3	(2)	7	(4)	4	(4)	19	(17)	9	(9)	34	(31)			233	(202)
眼科	170	(160)	28	(26)	28	(28)	64	(58)	35	(34)	39	(36)	23	(20)	12	(11)	9	(8)	19	(18)	3	(1)	7	(4)	9	(8)			446	(412)
耳鼻咽喉科	16	(16)	2	(2)	1	(1)	7	(7)	3	(3)			2	(1)											1	(1)			32	(31)
小児歯科	1	(1)									1	(1)	1	(1)															3	(3)
産科	365	(297)	49	(44)	27	(23)	72	(64)	26	(22)	16	(16)	2	(2)	5	(4)	5	(5)	7	(7)	18	(15)	13	(12)	16	(15)	1	(1)	622	(527)
総計	2206	(1670)	375	(290)	278	(209)	696	(519)	249	(195)	290	(195)	124	(87)	96	(69)	107	(74)	120	(83)	132	(86)	92	(69)	194	(153)	40	(40)	4999	(3739)

括弧内は、同一診療科内での退院患者の実数
産科新生児139例を除く

(4) 診療科別・在院期間別退院診療録数 (H18/4/1 - H19/3/31)

診療科	総計	0-6日	7-13日	14-30日	1-2月	2-3月	3-6月	6-12月	1-2年	2年以上	延べ在院日数	平均日数
総合診療科	266	181	49	28	5	1	1	1			2,252	8.5
救急医療室	192	164	16	9	1	1	1				840	4.4
アレルギ一科	84	49	17	10	6	2					890	10.6
血液腫瘍科	402	219	27	82	45	18	9	2			7,099	17.7
循環器科	379	269	36	23	24	8	7	7	2	3	12,459	32.9
脳神経内科	106	50	17	17	18	1	2			1	2,600	24.5
腎臓内科	104	41	38	14	11						1,198	11.5
代謝内分泌科	52	32	4	12	4						595	11.4
新生児科	694	328	100	126	79	31	23	3	3	1	16,082	23.2
小児外科	578	373	114	57	20	5	4	3	2		6,737	11.7
心臓血管外科	199	7	58	90	31	7	6				4,870	24.5
脳神経外科	197	69	80	32	9	5	1		1		2,949	15.0
整形外科	184	86	50	24	17	7					2,591	14.1
形成外科	226	88	110	25	2	1					1,739	7.7
泌尿器科	233	190	33	9	1						1,173	5.0
眼科	446	429	16	1							1,435	3.2
耳鼻咽喉科	32	8	20	4							289	9.0
小児歯科	3	3									6	2.0
産科	622	239	165	104	78	30	6				10,505	16.9
総計	4,999	2,825	950	667	351	117	60	16	8	5	76,309	15.3

産科新生児139例を除く

(5) 診療科別・退院月別・性別退院診療録数 (H18/4/1 - H19/3/31)

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	女	男	総計
総合診療科	29	31	30	15	13	23	31	14	26	21	15	18	122	144	266
救急医療室	18	11	11	15	23	7	10	19	12	14	21	31	85	107	192
アレルギー科	6	8	10	3	3	6	10	7	8	7	6	10	42	42	84
血液腫瘍科	29	29	37	25	40	22	37	21	38	40	37	47	185	217	402
循環器科	36	28	34	30	33	24	35	33	32	34	29	31	171	208	379
脳神経内科	8	9	9	4	8	9	7	5	9	14	12	12	60	46	106
腎臓内科	10	12	6	19	8	5	9	7	12	6		10	43	61	104
代謝内分泌科	1	2	5	3	6	4	5	5	5	7	6	3	33	19	52
新生児科	52	46	64	49	67	46	64	70	67	56	65	48	312	382	694
小児外科	41	45	45	48	61	53	38	45	44	54	43	61	283	295	578
心臓血管外科	16	17	16	24	18	15	19	18	9	14	17	16	102	97	199
脳神経外科	13	10	16	17	15	25	14	15	20	17	17	18	101	96	197
整形外科	12	11	15	19	17	15	16	16	15	17	14	17	107	77	184
形成外科	16	17	18	17	23	19	18	14	23	19	20	22	108	118	226
泌尿器科	17	21	20	23	31	18	18	18	20	14	15	18	54	179	233
眼科	38	31	41	34	43	37	40	36	32	35	35	44	227	219	446
耳鼻咽喉科	1	4	5	6	2		3		2	4	1	4	12	20	32
小児歯科	1								1			1	2	1	3
産科	46	52	36	51	64	46	55	43	65	49	61	54	622		622
総計	390	384	418	402	475	374	429	386	440	422	414	465	2,671	2,328	4,999

産科新生児139例を除く

(6) 診療科別・年齢別退院診療録数 (H18/4/1 - H19/3/31)

診療科	0か月		1～5か月		6～11か月		1歳		2歳		3歳		4歳		5～9歳		10～14歳		15～19歳		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35歳以上		総計	
総合診療科		31 (25)	25 (19)	45 (36)	41 (29)	23 (19)	15 (10)	57 (40)	27 (24)	2 (1)																			266 (203)	
救急医療室	5 (4)	26 (22)	17 (13)	34 (30)	16 (14)	17 (17)	14 (11)	43 (39)	15 (14)	5 (5)																			192 (169)	
アレルギー科	1	5 (3)	6 (6)	8 (6)	3 (3)		1	37 (23)	18 (11)	4 (2)	1 (1)																		84 (55)	
血液腫瘍科		3 (1)	29	40 (13)	40 (12)	28 (11)	41 (15)	103 (37)	92 (32)	22 (8)	2 (2)																		402 (131)	
循環器科	28 (17)	28 (13)	32 (15)	78 (33)	51 (28)	29 (21)	18 (16)	50 (27)	34 (26)	25 (20)	4 (2)	2 (2)																	379 (220)	
脳神経内科		6 (4)	10 (6)	13 (7)	12 (6)	10 (9)	2 (2)	22 (16)	27 (18)	3 (3)	1 (1)																		106 (72)	
腎臓内科			4 (1)	6 (2)	4 (1)	9 (5)	7 (5)	36 (22)	18 (12)	20 (4)																			104 (52)	
代謝内分泌科	2 (1)	1 (1)		1 (1)	2 (2)	4 (4)	6 (6)	15 (14)	19 (15)	2 (2)																			52 (46)	
新生児科	571 (524)	22 (16)	14 (11)	31 (12)	26 (13)	11 (5)	8 (7)	11 (8)																					694 (596)	
小児外科	28 (18)	115 (100)	32 (20)	74 (39)	37 (19)	41 (26)	27 (15)	120 (78)	57 (41)	43 (29)	2 (2)	1 (1)	1 (1)																578 (389)	
心臓血管外科	4 (4)	31 (24)	31 (25)	51 (42)	21 (16)	13 (11)	5 (4)	20 (18)	14 (10)	6 (4)	3 (3)																		199 (161)	
脳神経外科	7 (4)	18 (15)	17 (13)	23 (14)	12 (10)	14 (9)	15 (7)	39 (24)	28 (19)	20 (6)	3 (1)																		197 (123)	
整形外科	1 (1)	3 (2)	19 (14)	28 (21)	10 (10)	18 (14)	15 (10)	53 (48)	31 (24)	6 (5)																			184 (149)	
形成外科	1 (1)	34 (22)	53 (48)	48 (44)	13 (12)	11 (10)	12 (12)	25 (25)	22 (17)	7 (7)																			226 (198)	
泌尿器科	3 (2)	16 (8)	31 (26)	41 (35)	20 (20)	12 (12)	11 (10)	59 (52)	34 (31)	3 (3)																			233 (202)	
眼科	2 (2)	12 (9)	11 (8)	31 (21)	28 (24)	29 (28)	39 (39)	211 (199)	71 (70)	11 (11)	1 (1)																		446 (412)	
耳鼻咽喉科			2 (2)	2 (2)	1 (1)	5 (5)	5 (5)	13 (12)	4 (4)																				32 (31)	
小児歯科							1 (1)	1 (1)	1 (1)																				3 (3)	
産科																														
総計	653 (578)	351 (265)	333 (227)	554 (358)	337 (220)	274 (206)	242 (175)	915 (683)	512 (369)	188 (117)	80 (61)	144 (122)	250 (218)	166 (140)	622 (527)	4,999 (3739)														

括弧内は、同一診療科内での退院患者の実数
産科新生児139例を除く

(7) 疾病別・診療科別 (内科系) 退院診療録数 (H18/4/1 - H19/3/31)

疾病分類名	総合診療科		救急医療室		アレルギー科		血液腫瘍科		循環器科		脳神経内科		腎臓内科		代謝内分泌科		新生児科		内科系		外科系		総計	
	17	(14)	19	(19)			5	(4)	1	(1)	2	(2)			9	(7)	53	(47)	12	(8)	65	(55)		
I 感染症	1		7	(6)			286	(83)	1	(1)					4	(4)	302	(95)	93	(70)	395	(165)		
II 新生物	1	(1)	1	(1)			76	(29)	1				5	(5)			84	(36)	9	(8)	93	(44)		
III 血液疾患	8	(7)	2	(2)	3	(2)			1	(1)	5	(4)	5	(2)	48	(44)	10	(5)	7	(7)	89	(74)		
IV 内分泌代謝疾患	4	(4)	1		1	(1)			1	(1)	7	(7)					14	(13)	2		16	(13)		
V 精神行動障害	23	(12)	22	(20)	1		3	(1)			56	(34)	1				15	(5)	46	(34)	167	(106)		
VI 神経系疾患	2	(1)	1				1	(1)	2	(1)							7	(4)	393	(374)	400	(378)		
VII 眼疾患	1						6	(1)	1		1	(1)					9	(2)	12	(12)	21	(14)		
VIII 耳鼻疾患	4	(2)	6	(6)	1	(1)	3	(2)	25	(16)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	6	(2)	50	(40)	98	(72)		
IX 循環器系疾患	61	(47)	31	(27)	13	(10)			9	(5)	9	(5)	2	(1)			38	(26)	163	(121)	53	(31)		
X 呼吸器系疾患	21	(16)	7	(6)	4	(3)	1	(1)	1		4	(1)	6	(1)			1	(1)	45	(29)	223	(182)		
XI 消化器系疾患	11	(11)	2	(2)	7	(6)	3	(2)									3	(3)	26	(24)	19	(17)		
XII 皮膚疾患	14	(12)	4	(4)	47	(25)			21	(21)			15	(1)			2	(1)	103	(64)	72	(60)		
XIII 筋骨格系疾患	4	(3)											51	(33)					55	(36)	49	(36)		
XIV 尿路性器系疾患			1	(1)													1	(1)	474	(406)	475	(407)		
XV 妊娠分娩産褥	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	2	(1)	2	(2)					522	(484)	75	(63)	605	(554)		
XVI 周産期	21	(11)	14	(6)	1	(1)	8	(1)	306	(166)	7	(5)	15	(5)			75	(51)	447	(246)	970	(723)		
XVII 先天奇形	28	(20)	25	(23)	3	(3)	1		3	(3)	8	(7)	3	(3)			5	(3)	76	(62)	10	(8)		
XVIII 症状所見	43	(41)	48	(45)	2	(2)	1				3	(2)					2	(2)	99	(92)	97	(72)		
XIX 損傷,中毒外因	1						7	(5)	4	(3)	1	(1)					1	(1)	14	(10)	54	(44)		
XXI その他	266	(203)	192	(169)	84	(55)	402	(131)	379	(220)	106	(72)	104	(52)	52	(46)	694	(596)	2,279	(1544)	2720	(2195)		
総計																								

括弧内は、同一診療科内での退院患者の実数
産科新生児139例を除く

(8) 疾病別・診療科別（外科系）退院診療録数（H18/4/1 - H19/3/31）

疾病分類名	小児外科		心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	小児歯科	産科		外科系	総計										
	6	(2)									6	(6)			12	(8)	65	(55)						
I 感染症	6	(2)										6	(6)	12	(8)	65	(55)							
II 新生物	18	(15)		23	(15)	4	(4)	30	(28)	2	(2)	14	(4)		93	(70)	395	(165)						
III 血液疾患	6	(6)										3	(2)	9	(8)	93	(44)							
IV 内分泌代謝疾患	1	(1)					3	(3)				3	(3)	7	(7)	89	(74)							
V 精神行動障害	2													2		16	(13)							
VI 神経系疾患	15	(11)	1	(1)	18	(11)	1	(1)			11	(10)		46	(34)	167	(106)							
VII 眼疾患				3				390	(374)					393	(374)	400	(378)							
VIII 耳鼻疾患	1	(1)		1	(1)	5	(5)		5	(5)				12	(12)	21	(14)							
IX 循環器系疾患	6	(4)	14	(13)	20	(13)	6	(6)	1	(1)		3	(3)	50	(40)	98	(72)							
X 呼吸器系疾患	31	(14)		2	(2)		2	(2)	4	(1)	10	(10)		4	(2)	53	(31)	216	(152)					
XI 消化器系疾患	209	(168)				6	(6)	1	(1)	3	(3)	1	(1)	223	(182)	268	(211)							
XII 皮膚疾患	1	(1)		5	(5)	3	(3)	9	(7)		1	(1)		19	(17)	45	(41)							
XIII 筋骨格系疾患				2	(2)	64	(52)	5	(5)			1	(1)	72	(60)	175	(124)							
XIV 尿路性器系疾患							38	(32)				11	(4)	49	(36)	104	(72)							
XV 妊娠分娩産褥												474	(406)	474	(406)	475	(407)							
XVI 周産期	12	(9)	2	(2)	2	(1)	1	(1)				55	(47)	75	(63)	605	(554)							
XVII 先天奇形	246	(144)	181	(144)	77	(48)	80	(59)	158	(135)	176	(151)	36	(31)	15	(10)	970	(723)	1,417	(969)				
XVIII 症状所見	2	(2)	1	(1)	3	(1)	2	(2)				1	(1)	1	(1)	10	(8)	86	(70)					
XIX 損傷,中毒外因	11	(6)		41	(24)	31	(29)	11	(10)	2	(2)			97	(72)	196	(164)							
XXI その他	11	(5)										43	(39)	54	(44)	68	(54)							
総計	578	(389)	199	(161)	197	(123)	184	(149)	226	(198)	233	(202)	446	(412)	32	(31)	3	(3)	622	(527)	2720	(2195)	14,999	(3739)

括弧内は、同一診療科内での退院患者の実数
産科新生児139例を除く

3. 死亡病名一覧

病名	新患計	未熟児	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	その他
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
超早産児、緊張性気胸	1	1									
肺出血、敗血症	1					1					
超早産児、致死性不整脈	5	5									
先天性水頭症	1			1							
超早産児、肺性心	1	1									
致死性不整脈、呼吸不全	1	1									
多臓器不全	1		1								
早産児、重症新生児仮死	2	2									
左心低形成症	1	1									
呼吸不全、肺低形成	2	1	1								
致死性不整脈、肺出血	1		1								
超早産児、肺低形成	2	2									
超早産児、呼吸不全	1	1									
超早産児、循環不全	1	1									
悪性黒色腫	1									1	
出血性ショック	1									1	
原始神経外胚葉性腫瘍	1					1					
脳幹部腫瘍	2						1	1			
急性リンパ性白血病	1								1		
骨肉腫	1										1
胚細胞性腫瘍	1						1				
慢性活動性EBウイルス感染	1						1				
急性骨髄性白血病	2						2				
心筋炎、インフルエンザA	1					1					
肝不全	1			1							
気道閉塞	1			1							
脳挫傷	1						1				
全身骨折	1										1
首つり自殺、低酸素性脳症	1									1	
急性肺炎	2			1						1	
共通房室弁口遺残	1				1						
肺真菌症	1					1					
先天性心疾患、不整脈	1						1				
両大血管右室起始症	1		1								
大動脈離断複合	1						1				
拡張型心筋症	1					1					
ファロー四徴症	1	1									
左室心筋緻密化障害	1			1							
先天性肺動脈弁狭窄	1			1							
肺動脈閉鎖	1			1							
脳腫瘍	1			1							
合計	51	17	4	8	1	5	8	1	1	4	2

4 総合診療科

こども病院の大きな役割として各診療科における高度専門医療が求められてきたが、それだけでは満足されず、やはりこども全体を見ることも家族から求められるようになってきた。そこに総合診療科が関わっている。「よくある病気を中心とした全人的医療」と言われるが、総合診療科の外来を担当していると、まさによくある病気の応用編というような一筋縄ではいかない症例が本当に多く紹介され、診察時間が延びてしまうのが現状である。

現在、5名の専任スタッフが配置され、主として救急医療室の運営にあたっている。スタッフはそれぞれサブスペシャリティーとして専門診療科の診療にも携わっている。その他に院内各科からの相談、紹介状のない初診患者の各専門科へのコーディネート、セカンドオピニオンの相談に応じるなどを行っている。また、研修医や専攻医の研修の受け皿となり、研修計画の立案や実際の研修を担当し、コーディネートすることも大きな役割である。

入院患者は救急医療室からの転科症例を主に担当している。多くが基礎疾患を持った児の合併症、特に感染症である。

今後は総合診療科として独自のアイデンティティーをもって診療に当たられるようになることを目指したいと考えている。

外来担当スタッフ：山崎武美、上谷良行、三好麻里、田中亮二郎、黒澤茶茶

4. 総合診療科

病名	男	女	計	実人数	在院日数		乳児		幼児		学童		思春期	その他	転帰				
					延	平均	前期	後期	前期	後期	前期	後期			治療	軽快	不変	死亡	
																	48H	その他	
気管支喘息	28	26	54	54	380		1	6	23	7	11	5		1	54				
肺炎	14	15	29	29	380		6	2	6	7	5	2		1	28				1
インフルエンザ	13	9	22	22	93		2	1	6	5	5	3			22				
ウイルス感染症	8	10	18	18	74		7	1	5	2		1	2		18				
異物誤嚥	7	7	14	14	36		1	5	4	2	1		1		14				
窒息		1	1	1	2			1							1				
急性胃腸炎	18	13	31	31	166		4	3	8	3	4	5	3	1	31				
痙攣	23	18	41	41	115		2	4	16	9	3	5	2		41				
川崎病	8	5	13	13	124			3	5	4	1				13				
熱傷	2	6	8	8	302		1	2	2	1	2				8				
癩癧	5	9	14	14	77			1	1	1	3	4	3	2	14				
尿路感染症	3	2	5	5	24		1	1	1	2					5				
シャント機能不全	1		1	1	50					1					1				
吐血	1	1	2	2	8		1	1							2				
マイコプラズマ感染	1		1	1	18								1		1				
肝不全	1		1	1	11					1									1
急性脳症	3	4	7	7	60		1		3	1			1		7				
脱臼		7	7	7	92		1	1	1	1	2	1			7				
頭部打撲	16	21	37	37	86		6	4	11	8	6	1	1		37				
交通外傷	2	2	4	4	36				1	3					4				
頸部外傷	2		2	2	4		1			1					2				
肝機能障害	1	3	4	4	15		2				2				4				
糖尿病		1	1	1	1						1				1				
心筋炎		2	2	2	112				2										2
百日咳	1		1	1	3		1								1				
白血病	2	2	4	4	246					1	2	1			1				3
アデノイド・扁桃腺炎	1		1	1	5					1					1				
脳性マヒ	2	2	4	4	15		1		2	1					4				
転落、多発性外傷	1	3	4	4	47				1	2			1		3				1
若年性関節リウマチ		2	2	2	15						2				2				
腸重積	6	3	9	9	15		2	1	2	4					9				
水腎症	1	1	1	1	7						1				1				
咽頭炎	12	7	19	19	102			2	8	2	4	2	1		19				
イレウス	1	1	2	2	10					1			1		2				
多形滲出性紅斑	1	1	2	2	10				1	1					2				
心肺停止		3	3	3	36		2						1						3
大腸ポリープ	1		1	1	4				1						1				
不明熱	4	3	7	7	74		2		1	1		1	2		7				
嘔吐	2	1	3	3	22		2						1		3				
クルーゼ	1	2	3	3	7			1	1	1					3				
咽頭創傷、縦断気腫		1	1	1	9					1					1				
摂食障害	1		1	1	22					1					1				
腹部打撲、下腿打撲	2	2	4	4	4		1		1		1	1			4				
肝損傷	2		2	2	10						1	1			2				
虫垂炎	2		2	2	13							2			2				
らい病	7		7	7	350				7						5		2		
口腔内挫傷	2		2	2	12				2						2				
硬膜下血腫	2	1	3	3	27		2				1				3				
発熱	5	7	12	12	43		5	1	3	1	2			12					
突発性発疹	1		1	1	11				1						1				
下顎部蜂窩織炎		1	1	1	3						1				1				
化膿性リンパ節炎	2		2	2	14			1		1					2				
ネフローゼ	1		1	1	49							1			1				
化膿性髄膜炎	3	1	4	4	50			1	2			1			4				
熱中症		1	1	1	1					1					1				
骨折	2		2	2	9					1		1			2				
慢性副鼻腔炎	1		1	1	28					1					1				
18トリソミー		2	2	2	20		1	1							2				
呼吸不全	3		3	3	22				1		2				3				
耳後部膿症		1	1	1	11				1						1				
溶血性尿毒症		1	1	1	20						1				1				
大腿挫傷	1		1	1	2						1				1				
胃、食道逆流	2	1	3	3	44		2			1					3				
貧血	2		2	2	23				1			1			2				
骨髄膜炎	1	1	2	2	42		1		1						2				
自殺未遂	1	1	1	1	18								1		1				
ギラン・バレー		2	2	2	16			1				1			2				
卵巣腫瘍茎捻転		1	1	1	5						1				1				
両視神経炎		1	1	1	16			1							1				
薬物中毒	2		2	2	6				1				1		2				
横紋筋肉腫		1	1	1	11			1							1				
アナフィラキシーショック	1		1	1	1									1	1				
股関節炎	1		1	1	10			1							1				
クローン病		1	1	1	3							1			1				
頭痛		1	1	1	2						1				1				
胃軸捻転	1		1	1	1						1				1				
胃潰瘍	1		1	1	5								1		1				
急性髄膜炎	1	1	2	2	11					2					2				
口腔ヘルペス	2		2	2	5				1	1					2				
	243	222	465	465	3,833		60	48	138	82	70	40	23	4	452	0	2	1	10

5. 救急医療室

1) 診療活動

県下における小児3次救急の拠点として当院に救急医療室が設置されて以来約4年が経過した。医師スタッフは専任医師5名と兼任医師6名で対応しているが、3ヶ月ずつローテートする小児科専攻医が研修を行いながら重要な役割を果たしてくれている。さらに各県立病院をはじめ市内の病院から初期研修医を受け入れている関係上、若い医師が入れ替わり立ち替わり救急医療室で研鑽を積んでいる。本年は救急医の取扱患者数が年間約2500人で昨年とほぼ同じであった。しかしながら、最重症に分類したいわゆる救命救急に相当する患者数は昨年の137件から155件とさらに増加し、入院患者数としては昨年より約70名増加した反面、外来帰宅患者数が約130名減少したことを考えると、より重度の患者を受け入れていることになり、本来の役割を果たす方向に向かっていると考えられる。また、入院中に重症化し、当該病棟での管理が困難な症例も昨年度の2倍の約50例を救急医療室で受け入れており、内科的ICUとしての側面も定着してきた。

平成16年11月21日より県の事業として県下全域を対象とした小児救急医療電話相談事業（いわゆる#8000）が開始され、専任の看護師による応対に加えて救急医療室のスタッフもバックアップとして協力する体制が作られた。相談件数は著増し、平成18年1年間で約1万5千件を数えている。

2005年年末に救急蘇生プログラムの改変が発表され、小児における救命処置の世界標準プロトコールである Pediatric Advanced Life Support (PALS) も新しい version に徐々に移行してきている。当院でも院内で月に2回ずつ救急医療室スタッフが中心になって PALS 勉強会を開催している。院外からも研修医やスタッフドクターの参加があり、関心の深さが伺える。4月には主に専攻医を対象として院内で PALS の模擬コースを1日かけて実施し、当院における救急医療の実践に役立っている。

19年秋には新たな小児救急医療センター（仮称）が PICU 4床、一般病床6床の規模で開設予定である。これまで暫定的な実施ということでもかなり無理な体制で何とか実施してきた救急医療を、体制を整えて本格的に実施することになる。コンセプトは従来通り小児三次救急医療の実施であり、これまでとは変わるものではないが、これまで以上に院内の協力と連携をもって一段階飛躍した救急医療を提供できるように努力したい。

2) スタッフ

救急医療室専任：上谷良行

長谷川大一郎

尾崎佳代

丸山あずさ

藤田晃生

兼任：三好麻里（室長・免疫アレルギー科）

田中亮二郎（腎臓内科）

永瀬裕朗（脳神経内科）

川崎圭一郎（血液腫瘍科）

竹田洋樹（血液腫瘍科）

黒澤茶茶（免疫アレルギー科）

専攻医：富永健太（平成18年1月～5月）

笠井和子（平成18年3月～）

細川悠紀（平成18年6月～）
 小林真之（平成18年1月～2月）
 福島雅子（平成18年3月～5月、12月～）
 下岡武史（平成18年4月～6月）
 秋田大輔（平成18年5月～6月）
 寺岡由恵（平成18年10月～12月）
 加地倫子（平成18年7月～9月）
 青木一憲（平成18年7月～9月）
 佐治洋介（平成18年6月～）

研修医：藤岡一路（平成18年4月）兵庫県立尼崎病院研修医
 上田泰弘（平成18年2月）兵庫県立柏原病院研修医
 岩見裕子（平成18年5月）県立西宮病院研修医
 肥田晋也（平成18年6月）県立尼崎病院研修医
 西濱扶生子（平成18年10月～12月）県立尼崎病院研修医
 高尾大士（平成18年10月）県立西宮病院研修医
 尾崎元昭（平成18年7月1日～14日）鐘紡記念病院研修医
 江口典臣（平成18年9月1日～14日）鐘紡記念病院研修医
 堀 義康（平成18年9月15日～30日）鐘紡記念病院研修医
 國吉奈奈（平成18年11月1日～14日）鐘紡記念病院研修医
 頭司良介（平成18年5月）神戸赤十字病院研修医
 藤田和敏（平成18年9月）神戸赤十字病院研修医
 石原武明（平成18年11月）神戸赤十字病院研修医

小児外科は22時まで1名居残り、以後 on call で、脳神経外科、整形外科、形成外科など外科系各科は on call で back up 体制をとっている。

3) 診療統計

5. 救急医療室

1) 連絡方法別診療内容 全体

2006年		診 療 内 容				計	%
		入 院		帰 宅**	電話相談のみ*		
		最重症	重 症				
連絡方法	患者から	11	191	664	818	1684	68.2
	医師から	86	183	69	58	396	16.0
	救急隊から	8	79	135	53	275	11.1
	直接来院	1	17	46	0	64	2.6
	院内他病棟より転棟***	49	3	0	0	52	2.1
計		155	473	914	929	2471	
%		6.3	19.1	37.0	37.6	100	

2005年	入 院		帰宅**	電話相談のみ*	計
	最重症	重 症			
計	137	408	1050	925	2520
%	5.4	16.2	41.7	36.7	100

* 医師から・救急隊から 電話相談のみ；満床のため依頼を断った件数をふくむ

** 診察の結果入院が必要であったが満床のため等で他院を紹介した件数をふくむ

***院内他病棟から転棟 入院患者が重症化し該当病棟での管理が困難となり救急医療室に転棟となった件数

2) 来院患者1542名の統計

重症度

来院患者		計	%
	入院最重症	155	10.1
	入院重症	473	30.7
	外来帰宅	914	59.2
	計	1542	100

事故・疾病別割合

来院患者		事故	%	疾病	%	計	%
	入院最重症	29	18.7	126	81.3	155	100
	入院重症	89	18.8	384	81.2	473	100
	外来帰宅	309	33.8	605	66.2	914	100
	計	427	27.7	1115	72.3	1542	100

来院方法別割合

来院患者			小計	計	%	
	自家用車・タクシー・徒歩		1062	1062	68.9	
	救急車	公共		418	426	27.6
		Dr car	当院	3		
			災害医療	4		
			中央市民	1		
	ヘリ		2	2	0.1	
	転棟		52	52	3.4	
計		1542		100		

特記すべき疾患

1. 頭部打撲 219名

(経過観察 197名、頭蓋骨骨折 12名、頭蓋内出血 10名)

2. 被虐待児疑い 21名

(頭部外傷 13名、熱傷 2名、四肢骨折 1名)

3. 交通外傷 22名 (うち多発外傷 14名)

4. 熱傷 28名 (うち入院 10名)

5. 腫瘍性疾患新患例 25名

(血液腫瘍 8名、腹部腫瘍 8名、脳腫瘍 6名、縦隔腫瘍 3名)

緊急協力科 (含重複)

一般外科	127	泌尿器科	17
脳外科	75	放射線科	13
麻酔科	62	耳鼻科	11
形成外科	38	眼科	3
整形外科	31	新生児科	3
心外循環器	28	歯科	1

3) 最重症例 155名の内訳

1. 死亡例 11例の詳細

	年齢	病態	基礎疾患他	日数	初再	剖検	来院方法
1	4ヶ月	心肺停止	低出生体重児	1	再	なし	医療機関
2	4ヶ月	心肺停止	心筋炎?	1	初	行政	救急隊
3	16歳	転落 蘇生後	自殺企図	1	再	なし	転棟
4	4歳	肺水腫	白血病	3	再	なし	転棟
5	2歳	多臓器不全	扁桃腺後	4	再	病理	転棟
6	13歳	縊頸 蘇生後	自殺企図	7	初	なし	医療機関
7	4歳	脳挫傷	転落	17	初	なし	医療機関
8	3ヶ月	心筋炎		21	再	なし	転棟
9	9歳	間質性肺炎	白血病	26	再	病理	転棟
10	1歳	心筋炎	インフルエンザA	34	初	なし	医療機関
11	4歳	肺血症	白血病	39	再	なし	転棟

2. 最重症例治療内容 (含重複)

		2006年	2005年
手術症例	緊急	39	37
	待期	26	25
人工呼吸	管理	67	60
脳低体温・常温療法		13	12
透析療法		6	5

緊急手術症例 39例 詳細(含重複)

一般外科	26	腸重積5 腹部腫瘍5 絞扼性イレウス4 虫垂炎6 気管支鏡3 ソケイヘルニア1 外傷性胃破裂1 気胸1 外傷性気道損傷1
脳外科	10	頭蓋内出血4 硬膜外血腫1 硬膜下血腫2 小脳腫瘍1 硬膜下水腫1 頭蓋骨骨折1
形成外科	2	示指挫創1 口腔内裂傷1
耳鼻科	1	咽後膿瘍1
泌尿器科	1	両側腎結石1
整形外科	1	下腿開放骨折1

待期手術症例 26例 詳細(含重複)

一般外科	7	縦隔腫瘍1 虫垂炎1 幽門狭窄1 イレウス1 肝腫瘍1 肝肉芽腫1 膀胱腫瘍1
脳外科	14	脳腫瘍4 硬膜下水腫2 水頭症3 硬膜外出血2 硬膜下血腫2 もやもや病1
整形外科	3	上腕骨骨折2 下腿骨折1
形成外科	1	下顎骨折1
泌尿器科	1	多嚢胞腎1

人工呼吸管理 67例 詳細

急性脳症	10	脳挫傷	4	術後多臓器不全	1
脳性麻痺・呼吸不全	10	細気管支炎	3	壊死性気管支炎	1
心肺停止蘇生後	6	喘息重積発作	3	気胸	1
頭蓋内出血	5	間質性肺炎	2	縦隔腫瘍	1
急性喉頭蓋炎	4	気管軟化症	2	肝腫瘍	1
心筋炎	4	薬物中毒	2	気管損傷	1
うっ血性心不全	4	腎不全	1	咽後膿瘍	1

脳低体温・常温療法13例 詳細

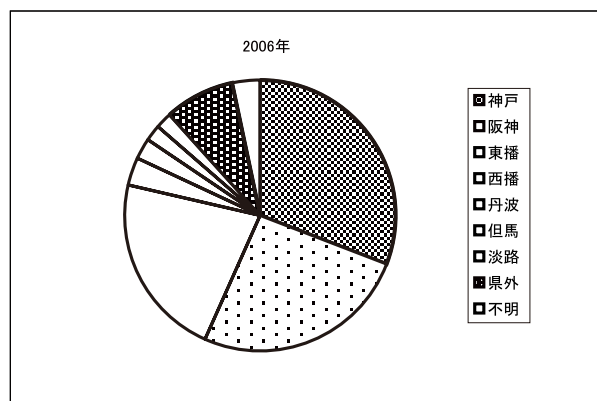
	年齢	臨床診断	原因その他	低・常	予後
1	4歳	脳挫傷	転落(ベランダ)	低温	死亡
2	13歳	心肺停止蘇生後	縊頸	低温	死亡
3	14歳	心肺停止蘇生後	縊頸	低温	後遺症
4	6歳	脳挫傷	多発交通外傷	低温	軽快
5	1歳	急性脳症	突発性発疹症	低温	軽快
6	1歳	急性脳症	突発性発疹症	低温	軽快
7	1歳	急性脳症	腸炎?	低温	軽快
8	2歳	急性脳症	インフルエンザA	低温	後遺症
9	13歳	急性脳炎		低温	軽快
10	4歳	硬膜下血腫	風呂場で転倒	常温	軽快
11	8歳	硬膜下血腫	多発交通外傷	常温	軽快
12	1ヶ月	急性脳症	低Na血症	常温	後遺症
13	1歳	急性脳症	突発性発疹症	常温	軽快

透析療法 6例 詳細

	年齢	基礎疾患	方法	予後
1	8歳	多嚢胞腎	血液浄化	継続
2	2歳	多臓器不全	血液浄化	死亡
3	2歳	両側腎結石	血液浄化	軽快
4	3ヶ月	心筋炎・多臓器不全	腹膜灌流	死亡
5	6歳	慢性腎不全	腹膜灌流	継続
6	8歳	慢性腎不全	腹膜灌流	継続

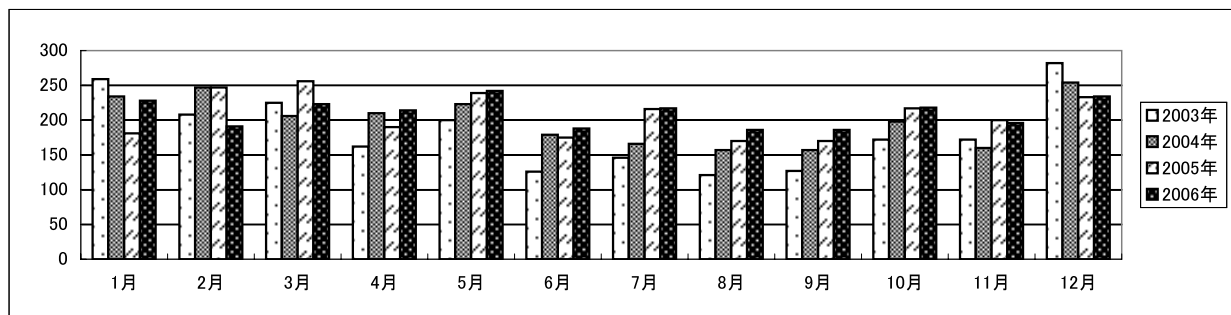
最重症患者の住所

	2006年		2005年	
	数	%	数	%
神戸	48	31	58	42.3
阪神	40	25.8	20	14.6
東播	34	21.9	26	19
西播	5	3.2	9	6.6
丹波	4	2.6	6	4.4
但馬	3	1.9	4	2.9
淡路	3	1.9	2	1.4
県外	13	8.5	6	4.4
不明	5	3.2	6	4.4
計	155	100	137	100

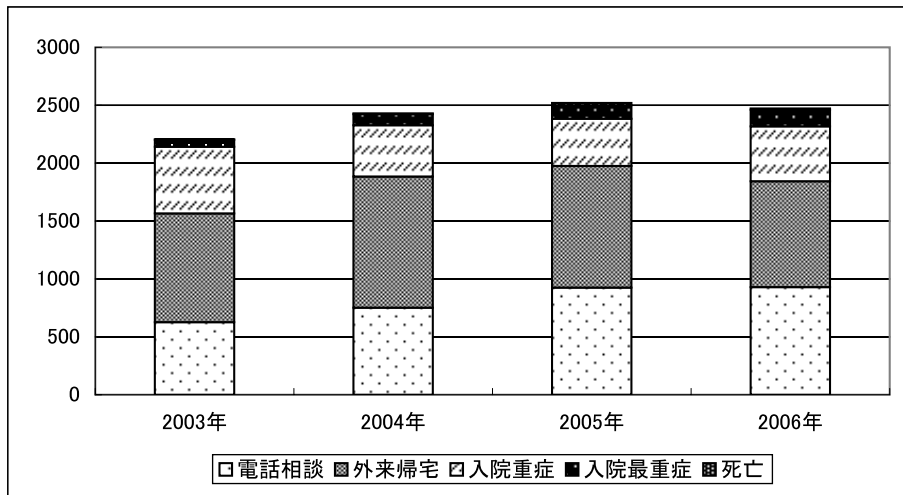


4) 患者数の推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2003年	259	208	225	162	200	126	146	121	127	172	172	282
2004年	234	247	206	210	223	179	166	157	157	198	160	254
2005年	181	247	256	190	239	175	216	170	170	217	200	233
2006年	228	191	223	214	242	188	217	186	186	218	196	234



	2003年	2004年	2005年	2006年
電話相談	626	751	925	929
外来帰宅	939	1133	1050	914
入院重症	576	443	408	474
入院最重症	60	95	117	144
死亡	5	8	20	11



5) 救急医療室入院患者 428名の内訳

重症度

来院患者		計	%
	入院最重症	151	35.3
	入院重症	277	64.7
	計	428	100

平均在院日数
4.8日 (1 ~ 39)

死亡	11 (2.5%)		
軽快退院	148 (34.6%)		
転科	251 (58.4%)	内科系 195	総診科 106 脳内科 31 血内科 19 アレルギー 15 腎内科 13 循環器 7 代内科 3 育内科 2
		外科系 55	一般外科 23 脳外科 17 整形外科 7 泌尿器科 5 形成外科 3
転院	18 (4.0%)		
計	428 (100.0%)		

6. 代謝内分泌科

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。また、当科では新生児マススクリーニング対象疾患である先天代謝異常、クレチン症および先天性副腎過形成も担当している。

近年、分子生物学の分野における技術的な進歩はめざましく、各種疾患における病態も分子レベルで解明されるようになった。その結果、当院の様な小児専門病院の臨床の現場においても遺伝子工学的手法に基づく診断、治療技術が必須となってきた。当科では、遺伝子工学的手法を駆使して診療にあたることこそが社会的要請に合致することと考え分子生物学的技术の確立に努めている。本年度は、低リン血症性クル病の1家系に対して遺伝子解析を行うことで、本家系内で出生した児に対し本症の早期診断、早期治療を実施し、クル病に伴う重篤な骨変形を未然に防止することが出来た。

2006年度 外来患者(新患)

	患者数
低身長症	89
甲状腺疾患	12
性腺疾患	38
副腎	3
糖代謝異常	9
肥満	7
マススクリーニング クレチン症	28
先天代謝異常症	10
先天性副腎過形成	1
その他	22
計	219

入院患者

	患者数
低身長症	28
糖代謝異常	9
性腺疾患	3
甲状腺疾患	1
副腎疾患	1
その他	6
計	48

7. アレルギー科

【診療活動】

アレルギー科の対象疾患としては、

- 1) 型アレルギーを主とする疾患：気管支喘息、アトピー性皮膚炎 等
- 2) その他のアレルギー疾患：蕁麻疹、高好酸球症候群 等
- 3) 膠原病・免疫性疾患

である。

アトピー性皮膚炎については、ドクターショッピングやアトピービジネス、民間療法などの果てに受診される患者さんも多く、スタンダードな治療の普及に努めたいと思う。不必要な食事制限を解除するための食物負荷テストを外来日に2～3人ずつ施行し、約90%の患者で解除可能であった。

気管支喘息については、乳児喘息の早期診断と長期管理薬による発作予防療法、思春期喘息の治療管理に力を尽くした。

膠原病疾患の患者数も著明に増加し、免疫制御剤をふくむ、多剤少量併用療法、生物学的製剤が効果を上げている。

今後、診療の質・量ともにさらに発展していきたい。

1) 外来初診患者数 201

1. アレルギー疾患 170

気管支喘息	38
アトピー性皮膚炎	69
食物アレルギー	46
じんましん	12
その他のアレルギー疾患	5

2. リウマチ性疾患 31

若年性特発性関節炎	26
その他のリウマチ性疾患	5

2) 入院患者数 50

1. アレルギー疾患 14

アトピー性皮膚炎	5
気管支喘息	2
好酸球性胃腸症	4
その他のアレルギー疾患	3

2. リウマチ性疾患 36

若年性特発性関節炎	29
その他のリウマチ性疾患	7

8. 脳神経内科

【診療活動】

診療活動は、脳神経内科外来初診270名・外来延べ総数1,474人、発達行動小児科外来初診患者は74人・外来延べ人数240人であった。また入院患者数は1,416人であった。

【動 向】

これまで神経内科の診療範囲は、神経疾患・発達障害・心身症であったが、米国の小児医療体制では、発達障害・心身症に関しては、主として発達行動小児科医が診療にあたり、今後日本の小児病院・大学病院でも専門外来が開設されつつある。当科では平成17年7月に発達行動小児科外来を開設したが、初診患者の受診待ちが平均2ヶ月程度となっている。

在宅医療が進む中、神経内科領域でも在宅人工呼吸・在宅酸素・在宅中心静脈栄養などを要する患児が増加しつつある。現在、一般外科にて、在宅外来が行われているが、関係他科とも協力した、専門外来が必要である。

その他小児神経疾患にも、集中治療を要する急性脳炎などの病態から、まれな先天性代謝異常の診断まで幅の広い疾患が含まれる。

一般的な診療は可能であるにしても、小児専門病院としてのより専門的な医療を満たすには外来スペース、人員の不足であり他の小児専門病院と比べても圧倒的に不足している。当院がこの領域に対してどこまでの役割を担うのかというグランドデザインと、それに向けた対策が必要である。

初期外来初診患者

けいれん性疾患

てんかん	87
ウェスト症候群	8
熱性けいれん	23
その他のけいれん疾患	10
その他の発作性疾患	12

発達障害

精神遅滞	34
広汎性発達障害	6
注意欠陥多動性障害	5

発達行動小児科外来初診患者

発達障害

広汎性発達障害	16
精神遅滞	12
注意欠陥多動性障害	6
その他の発達障害	8

虐待（上記と重複有り） 2

感染性・炎症性疾患

急性脳炎・脳症	5
急性小脳失調	3
化膿性髄膜炎	2

その他

血管障害	6
異染性白質ジストロフィー	1
ペリツエウス・メルツバッハー病	1
その他の脱髄疾患	3
脳形成異常	3
低酸素性脳障害	13
染色体異常・奇形症候群	3
神経皮膚症候群	5
筋疾患	3
頭部打撲	1
歩容異常	4
周期性嘔吐症	1

心身症・神経症

チック	5
頭痛	12
転換性障害	3
摂食障害	4
過敏性腸症候群	2
遺糞	1

心身症・神経症 3

その他 27

9. 血液腫瘍科

【人事異動】

医 長	竹田 洋樹 (救急医療室兼務)	H18. 4 . 1 ~	兵庫医科大学より
専攻医	森 雅樹 (救急医療室兼務)	H17.12. 1 ~ H18. 2 .28	循環器科へ転出
専攻医	小林 真之 (救急医療室兼務)	H18. 3 . 1 ~ 5 .31	新生児科へ転出
専攻医	澤田 杏子 (救急医療室兼務)	H18. 4 . 1 ~ 6 .30	新生児科へ転出
専攻医	林 耕平 (救急医療室兼務)	H18. 4 . 1 ~ 6 .30	新生児科へ転出
専攻医	秋田 大輔 (救急医療室兼務)	H18. 7 . 1 ~ 9 .30	新生児科へ転出
専攻医	下岡 武史 (救急医療室兼務)	H18. 7 . 1 ~ 9 .30	新生児科へ転出
専攻医	青木 一憲 (救急医療室兼務)	H18.10. 1 ~12.31	新生児科へ転出
専攻医	加地 倫子 (救急医療室兼務)	H18.10. 1 ~12.31	新生児科へ転出
研修医	松本 空 (救急医療室兼務)	H18. 1 . 1 ~ H18. 1 .31	循環器科へ転出
研修医	上田 泰弘 (救急医療室兼務)	H18. 3 . 1 ~ H18. 3 .31	循環器科へ転出
研修医	石見 裕子 (救急医療室兼務)	H18. 4 . 1 ~ H18. 4 .30	救急部専任へ
研修医	藤岡 一路 (救急医療室兼務)	H18. 5 . 1 ~ H18. 5 .31	加古川市民病院へ
研修医	肥田 晋也 (救急医療室兼務)	H18. 7 . 1 ~ H18. 7 .31	放射線科へ転出
研修医	高尾 大士 (救急医療室兼務)	H18.11. 1 ~ H18.11.30	循環器科へ転出
研修医	西濱扶生子 (救急医療室兼務)	H18.12. 1 ~ H18.12.31	県立塚口病院へ

【動向と活動状況】

平成18年4月にはかねてからの念願であったスタッフ医師の定員増が実現し、兵庫医科大学より竹田洋樹医長が赴任した。これでスタッフは、小阪嘉之部長、川崎圭一郎医長、長谷川大一郎医長を加えて4人となった。

延べ新患者数(表1参照)、入院数は昨年とほぼ同数である。しかし未だ不完全ではあるが、昨年より開始された小児悪性腫瘍の全例登録によると、県下で発症した小児悪性腫瘍のほぼ半数を当院にて治療しており、当院が兵庫県の小児悪性腫瘍治療の最拠点病院であることには異論の無いところである。

造血幹細胞移植は15例(表2参照)に施行し、表のような成績である。観察期間は短いものの良好といって良い成績ではないかと自負している。今後も難治例に対しては積極的に施行していく予定である。

また死亡例を表3に示す。病理解剖が得られたのは2例であった。

外来は月曜午後、火曜午後、金曜午前で、小阪が担当していたが、平成19年1月からは、月曜午後のみ3人の医長による交代制となっている。

診療科の活動としては別表に示す通り各学会、研究会に積極的に参加して多くの業績をあげている。また毎週水曜日、金曜日には部長回診があり、水曜日夕方に該当の外科系と、放射線科、病理との腫瘍カンファレンスを開催している。さらには月曜日夕方に抄読会を行い、海外の最新の論文についてディスカッションしている。

スタッフ1人増は喜ばしいことではあるが、これでマンパワー不足が完全に解消された訳では無く、今後もスタッフの多忙は続くと思われるが、小児の難治性血液腫瘍疾患の後遺症無き治癒を目指していきたい。

表1 新患一覧

疾患名	人数	備考
ALL	14	乳児:1、Ph1:1
AML	4	M1:1,M2:3
CML	1	成人型
MDS	1	
非特異的リンパ節炎	9	
亜急性壊死性リンパ節炎	2	
硬化性縦隔炎	1	
悪性リンパ腫	3	
ランゲルハンス細胞組織球症	3	
慢性活動性EBウイルス感染症	3	
EBウイルス関連血球貪色症候群	2	
伝染性単核症	3	
再生不良性貧血	2	
先天性赤芽球癆	2	
ITP	9	
鉄欠乏性貧血	7	
遺伝性球状赤血球症	5	
その他の貧血	3	
慢性良性好中球減少症	3	
血友病 A	1	
血友病保因者	1	
フォンビルブランド病	1	
出血傾向精査(正常)	5	
免疫不全症	3	CGD:1,common valiable type:1,C3欠損1:1
免疫不全症家族精査	5	全員正常
易感染性精査(正常)	2	
白血球增多精査	1	
JIA	1	
JIA 疑い	2	正常
特発性高アミラーゼ血症	1	
神経芽細胞腫	3	
神経芽細胞腫疑い精査	4	全員正常
ウィルムス腫瘍	2	
網膜芽細胞腫	3	
肝芽腫	1	
卵黄のう嚢	2	
ユーイング肉腫	1	
脳腫瘍	11	
血管腫	5	
胸腺腫	4	
神経節腫	4	
成熟奇形腫	2	
カサバツハメリット症候群	1	
肝良性腫瘍	1	
骨良性腫瘍	1	
膀胱良性腫瘍	1	
ピアソンマロウ症候群	1	
骨髄移植ドナー	8	
その他	4	
計	159	

表 2 造血幹細胞移植症例一覧

年齢 / 性別	疾患名	移植時病期	移植の種類	転 帰
8/M	T-ALL	寛解導入不能	RBMT	無病生存
13/F	髄芽腫	CR2	APBSCT	無病生存
13/M	AML	CR1(寛解導入遷延)	RBMT	無病生存
3/M	慢性肉芽腫症		UBMT(RIST)	無病生存
3/F	退行性脳室上衣腫	CR1	APBSCT	再発生存
2/M	髄芽腫	CR1	APBSCT	無病生存
3/M	Ph1ALL	CR1	UCBT	合併症死 (TMA)
13/F	重症再生不良性貧血		RBMT	無病生存
2/M	髄芽腫	CR1	APBSCT	無病生存
3/M	AML	再発期	RBMT	再発生存
11/F	ALL	CR1(寛解導入遷延)	UBMT	無病生存
5/M	ファンコニー貧血		UBMT	無病生存
0/M	ALL	再発期	RBMT	無病生存
2/F	腎悪性横紋筋様腫瘍	寛解導入不能	APBSCT	腫瘍死
9/F	重症再生不良性貧血		UBMT	無病生存

表 3 死亡例

年齢 / 性別	疾患名	剖検の有無
11/F	悪性黒色腫	無し
10/M	慢性活動性 EB ウィルス感染症	無し
3/M	悪性横紋筋様腫瘍 (腎外)	無し
6/M	脳幹部腫瘍	無し
1/M	分化神経外胚葉性腫瘍 (頭蓋内)	無し
16/F	悪性リンパ腫	無し
14/M	骨肉腫	無し
2/F	脳幹部腫瘍	無し
13/M	慢性活動性 EB ウィルス感染症	有り
10/F	急性リンパ性白血病	有り
5/M	急性リンパ性白血病	無し

10. 循環器科

【スタッフ・人事異動】

鄭 輝男

城戸佐知子

田中 敏克 (平成18年9月から、京都府立医科大学小児疾患研究施設より)

佃 和弥 (平成18年4月まで、神戸徳州会病院へ)

藤田 秀樹

齋木 宏文

藤井麻衣子 (専攻医、平成18年4月から8月まで、京都府立医科大学小児疾患研究施設へ)

井手健太郎 (専攻医、平成18年10月から、京都第二赤十字病院より)

富永 健太 (専攻医、平成18年12月から、院内異動)

スタッフは5名、他に専攻医数名。小児科としての3年制の専攻医枠により、他にも常時1 - 2名のフレッシュな専攻医(およそ3ヶ月交代)と共に医療に従事している。平成18年は佃医師の異動に伴い、スタッフの補充が間に合わず約半年間診療の制限を余儀なくされたが、9月より田中医師(カテーテル治療のためマレーシアへ留学。帰国後より当院へ)を迎え、現在新しい診療体制に移行しつつある。

【診療活動】

- (1)外来：月曜日から金曜日まで週5日。外来総患者数は8678名(前年9190名)、新規患者数は631名(うち483名に心疾患)であった。待ち時間の問題もあり、現在スタッフの異動に伴い外来枠の見直しを図っており、平成19年より徐々に時間制予約の導入を開始する予定。また、カテーテル治療相談外来や運動機能検査外来、成人外来についても導入予定である。
- (2)入院：総入院患者数は463名(前年510名)。平成18年は新生児の入院が前年よりやや減少したが、左心低形成症候群、臓器錯位症候群などの重症心疾患の治療については濃厚に行うことができている。カテーテル検査入院は減少の傾向にある((4)参照)。また、従来循環器科で診療せざるを得なかった術後の一般感染症患者の入院についても、総合診療科、救急診療部の協力を得られている。
- (3)生理検査：総心電図件数5161件、Master 負荷心電図件数2494件、Holter 心電図件数121件については前年と大きく変わらないが、トレッドミル負荷心電図は88件(前年40件)と増加した。運動希望の患者も多く、今後はさらに件数が増えていく可能性がある。心エコーは総件数5276件(前年5269件)。胎児心エコーは144件(前年170件)となっているが、スタッフの配置などの工夫により今後多数の依頼に対応可能となるため、件数は増加すると考えている。また、一昨年より徐々に件数の増加していた経食道心エコーは71件(カテーテル検査室での施行34件、手術室37件)であった。
- (4)カテーテル検査：総件数320件(前年362件)。合併症のない軽症心疾患のカテーテル検査を大幅に減らし(心エコーのみで手術へ)、造影CT検査(放射線科医師の協力により100件以上施行)など検査手段の多様化により件数は減少の傾向である。一方でカテーテル治療の件数は増加の傾向にあり、平成18年は81件(前年73件)であった。平成19年度は心房中隔欠損のカテーテル治療も開始予定であり、カテーテル検査における治療の占める割合が増加していくと考えている。
- (5)その他の検査：心筋シンチ27件(前年13件)、肺血流シンチ73件(前年57件)。

【その他の活動】

- (1)カンファレンス：月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、木曜日にカテーテル検査および心エコー検討会、木曜日朝隔週で抄読会を行い、討議の時間をもっている。
- (2)学会参加：小児循環器病学会、JPIC 研究会、胎児循環器学会、成人先天性心疾患研究会、HOT 研究会、川崎病研究会などへの参加。

【新規患者内訳】		【カテーテル検査内訳(総数320件)】	
A 新生児期	27(40)	心室中隔欠損	45
大動脈縮窄複合	4	心房中隔欠損	39
大血管転位	5	心内膜床欠損	9
肺動脈閉鎖・ファロー四徴症	6	ファロー四徴症	31
両大血管右室起始	1	肺動脈閉鎖	28
純型肺動脈閉鎖・重症肺動脈弁狭窄	3	両大血管右室起始	20
三尖弁閉鎖	1	大血管転位	13
単心室・臓器錯位症候群	4	大動脈縮窄・離断	8
左心低形成症候群	3	純型肺動脈閉鎖	14
総肺静脈還流異常	1	単心室・臓器錯位症候群	21
三心房心	1	三尖弁閉鎖および重症狭窄	19
心臓腫瘍	1	僧帽弁閉鎖・その他の一側房室弁閉鎖	9
		動脈管開存	8
B 乳児期以後	456(451)	肺動脈弁狭窄	6
心室中隔欠損	147	大動脈弁狭窄	4
心房中隔欠損	101	大動脈弁閉鎖不全	1
動脈管開存	23	僧帽弁閉鎖不全	1
心内膜床欠損	6	肺動脈弁欠損	2
肺動脈弁狭窄	48	左心低形成症候群	13
大動脈弁狭窄・閉鎖不全	8	総動脈還流異常	3
ファロー四徴症	12	総動脈幹症	1
両大血管右室起始	2	心筋症—心筋炎	2
総肺静脈還流異常	1	川崎病	21
エプスタイン奇形	2	その他	3
僧帽弁閉鎖不全	8		
大動脈縮窄(軽度)	5	【カテーテル治療内訳(総数81件)】	
心筋症	3	弁形成(肺動脈弁狭窄)	7
心臓腫瘍	3	弁形成(大動脈弁狭窄)	2
川崎病	26	血管形成(肺動脈、主として術後)	32
不整脈	45	血管形成(大動脈)	2
その他	16	血管形成(肺静脈)	1
		コイル塞栓術(動脈管開存)	8
		コイル塞栓術(側副血管)	18
		バルーン心房中隔裂開術	13

11. 腎臓内科

外来診療については、田中亮二郎医師が、入院診療については、専攻医と藤田晃生医師と田中亮二郎医師が担当した。また2006年度の外来初診患者数は164名、入院患者数は112名であった。

活動状況

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA 腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマト-デス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性尿路奇形、腎臓移植後のフォロー等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎などに対して36例の腎生検を施行した。またおもに救急医療室において急速進行性糸球体腎炎、腎後性急性腎不全、MOF など急性腎不全計4名に対して血液浄化を施行した（1名は慢性腎不全となり腹膜透析導入）。また慢性腎不全の4例の患児に対して腹膜透析を導入した。現在5名の患児が維持腹膜透析を行っている。腎移植に関しては他院にお願いし2例施行していただき現在当科にてフォロー中である。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析例は増加すると思われる。平成19年には最新の持続血液透析濾過器が常備され、急性腎不全に対する透析や他の血液浄化療法に対して迅速に対応可能と考える。一方平成15年度より厚生労働科学研究「小児難治性腎疾患に対する薬物療法ガイドライン作成のための多施設協同研究」に参加し、巣状メサンジウム増殖を示す小児 IgA 腎症、頻回再発型ネフローゼ症候群、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験を行っている。当科では、積極的に参加し、新しいエビデンス構築に向けて貢献している。

平成18年度入院患者

ネフローゼ症候群	34
IgA 腎症	8
膜性増殖性糸球体腎炎	4
メサンジウム増殖性腎炎	3
巣状分節性糸球体硬化症	1
微小変化型	1
急性腎炎	1
ループス腎炎	1
紫斑病性腎炎	4
溶血性尿毒症症候群	2
アルポート症候群	4
先天性尿細管機能異常症	2
常染色体劣性多嚢胞腎	5
チアノーゼ腎症	1
低形成腎	7
腎血管性高血圧	1
急性腎不全	1
慢性腎不全	3
尿路感染症	3
腎臓移植後	2
その他	24
計	112名

12. 精神科

2006年度のスタッフは、常勤医1名（前田宏章）と、非常勤医4名（伊東恵子、白瀧貞昭、井出浩、松川悦之）であった。

この度、兵庫県立こども病院精神科外来の35年間の外来統計を振り返ってみた。

診断分類の変更があり、推測によらざるを得ない部分もあったが、近年は発達障害関連が約50%～60%で、神経症圏が30%～40%、統合失調症圏が0～2%程度で大きな変化は無かった。広汎性発達障害の割合はここ数年増加傾向にあった。

年齢別では、幼児や学童前期など低年齢では発達障害を中心としており、神経症圏では学童以降に多く、特に強迫性障害にその傾向がみられ、統合失調症は思春期以降に多くみられた。

こどもにおけるうつ病の増加を耳にすることが有るが、当院における内因性のうつ病の増加は見られなかった。

入院診療に関しては、脳神経内科の協力を仰いで、摂食障害や解離性障害などの診療を行っている。

全国的に、こどもの精神科を受診する患者数が増加傾向にある中、対応する必要がある範囲も多岐にわたる。リエゾンやコンサルテーション、親の治療なども、まだまだ対応しきれていない分野である。それらを満足に行うには児童精神科医師数や心理士の不足があり、今後の検討課題である。

発達障害児への集団療育指導も、指導相談部と協力して継続されている。

新患分布 (2006.1～12)

疾 患	年 齢		乳児	幼児 前期	幼児 後期	学童 前期	学童 後期	中学 高校	18歳 以降	計
	男	女								
精神遅滞	21	18	0	12	8	6	3	4	5	39
特異的発達障害	9	4	0	5	4	3	0	1	0	13
自閉症圏	60	20	0	28	20	12	11	9	0	80
多動性障害	28	7	0	2	7	16	9	1	0	35
行為障害	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2
不安障害	9	20	0	3	4	6	4	10	2	29
強迫性障害	3	5	0	0	0	4	1	3	0	8
ストレス反応、障害、適 応障害	12	14	0	0	1	4	4	14	3	26
解離性障害	1	10	0	0	1	3	2	5	0	11
身体表現性障害	5	5	0	0	2	4	4	0	0	10
選択性緘黙	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
愛着障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チック障害	8	2	0	0	4	4	2	0	0	10
遺尿症、遺糞症	3	2	0	0	1	2	2	0	0	5
哺育障害、異食症	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2
吃音	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
器質性精神障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
統合失調症圏	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
気分障害	2	4	0	0	1	0	3	0	2	6
摂食障害	0	7	0	0	0	0	5	1	1	7
睡眠障害	1	1	0	0	0	0	2	0	0	2
抜毛症	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
てんかん	3	2	0	1	0	2	0	1	1	5
その他	3	3	0	3	1	1	0	1	0	6
計	171	129	0	55	55	70	53	52	14	300

13. 小児外科

2006年度の小児外科スタッフは連 利博（昭和50年卒）、西島栄治（昭和53年卒）、佐藤志以樹（昭和62年卒）、横井暁子（平成2年卒）、高見澤滋（平成3年卒）、津川二郎（平成11年卒）、和田英見（平成10年卒）、山下方俊（平成7年卒、1月～3月）、専攻医は畑田智子（鳥取大外科、1月～3月）、岡本竜弥（京都大学移植外科、4月～）、野崎奈穂子（神戸大、4月～）在間 梓（神戸大、6月～）であった。

診療活動では、入院患者数は700名、日帰り手術患者数は460名、全手術件数は1042件であった。新生児患者数は33名であった。入院患者数は減少、日帰り患者数は増加、手術件数は微増した。新生児外科患者数はここ数年少ない傾向が続いている。手術待ち期間は入院で2週～1ヵ月、日帰りで約5 - 6週間であった。

教育活動では、神戸大学と熊本大学の5 - 6年生を臨床実習生として受け入れた。今年度の外国人研修医の受け入れはなかった。

学会活動では日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、英国小児外科学会、カナダ小児外科学会、ベトナム小児外科学会、胆道閉鎖症研究会、日本小児呼吸器外科研究会、日本小児消化管機能研究会、日本小児内視鏡研究会等で発表した。発表論文は邦文7編、英文2編、計9編であった。

昨年度から編纂をしていた外科診療マニュアル (Resident Manual of Pediatric Surgery) 第三版がようやく完成し、up to dateの冊子として役立つようになった。編纂に力を注がれたメンバーに謝意を表したい。

建設中の救急棟が2007年度には完成する。二次救急の外科患者数の増加とともに、他科や地域とのシームレスの連携プレーがさらに必要と思われる。また、全体としては医療の標準化の動きは加速するものの、ベッドサイドでは一人ひとりの病態に応じたきめの細かい医療を提供してゆきたい。

小児外科統計 2006年

(1) 入院患者数	703
(2) 日帰り手術患者数	460
(3) 手術件数	1042
(4) 内視鏡検査治療件数	261
総 数	1303
入院 手術件数	581
内視鏡検査治療件数	234
日帰り手術件数	461
内視鏡検査治療件数	27

(5) 入院手術内訳

顔面 頸部	側頭瘻摘出術	1	
	腫瘍生検 / 切除	4	
	その他	3	
胸部	気道	気管切開術	16
		気管形成術	6
		胸腔ドレナージ	2
		喉頭気管分離術	6
		大動脈胸骨固定術	1
	肺	肺葉切除術	2
		ブラ切除術	1
		分画肺切除術	1
		肺生検	1

腹部	横隔膜	横隔膜ヘルニア閉鎖術	4	
		横隔膜縫縮術	1	
	食道	先天性食道閉鎖症一期的根治術	4	
		食道吻合術	1	
		胸壁食道延長術	3	
		食道内磁石挿入/抜去	6	
		その他	0	
	胸壁	漏斗胸手術 Ravitch 変法	10	
		Nuss 法	12	
		Nuss bar 抜去	4	
		その他	3	
		その他	0	
	消化管	噴門形成術	34	
		胃瘻造設	35	
		肥厚性幽門狭窄手術	9	
		十二指腸閉鎖・狭窄症手術	3	
		空回腸閉鎖症手術	3	
		腸回転異常症	6	
		メッケル憩室切除術	5	
		腸重積症手術	6	
		イレウス手術	8	
虫垂切除術		14		
卵巣嚢腫切除術		2		
ヒルシュブルグ病根治術		5		
鎖肛根治術		11		
直腸生検		9		
人工肛門造設術		10		
人工肛門閉鎖術		12		
消化管重複症手術		1		
その他		26		
肝胆膵脾		胆道閉鎖症手術	2	
		胆道拡張症手術	4	
		ルーワイ脚弁形成術	1	
		胆嚢摘出術	2	
		脾摘出術	8	
		脾静脈腎静脈吻合	2	
		仮性膵嚢胞内瘻化術	1	
		その他	8	
		腹壁	腹壁破裂手術	4
			腹壁形成術	4
臍帯ヘルニア手術			2	
臍ヘルニア手術			12	
白線ヘルニア手術			1	
尿管管・臍腸管切除術			2	
その他			4	
腫瘍	奇形腫群腫瘍摘出術		5	
	腎腫瘍切除術		2	
	悪性腫瘍開胸・開腹生検		3	
	その他	10		
鼠径部	鼠径ヘルニア手術	109		
	精巣固定術	6		
軟部組織。四肢	リンパ管腫摘出術	3		
	ピシバニール注入	1		
その他	中心静脈カテーテル挿入	80		
	テノコフカテーテル挿入	8		
	その他	6		

(6) 内視鏡検査、治療内訳

気管支鏡	気管支鏡のみ	78
	気管内異物摘出術	2
	気管バルーン拡張術	10
	K T P レーザー肉芽焼灼	33
	肉芽切除	6
	T チューブ挿入	8
	Y 型/I 型ステント挿入	4
食道胃内視鏡	内視鏡のみ	21
	内視鏡的食道静脈瘤硬化療法	9
	胃食道止血術	1
	胃食道バルーン拡張術	38
	食道胃異物摘出手術	9
ERCP	E R C P	4
大腸内視鏡	内視鏡のみ	3
	大腸ポリペクトミー	6
	結腸バルーン拡張	2

(7) 日帰り手術内訳

鼠径ヘルニア手術	383	
臍ヘルニア手術	40	
白線ヘルニア	2	
精巣固定術	5	
副耳・耳介瘻摘出術	1	
リンパ管腫ピシバニール注入	2	
皮膚皮下良性腫瘍摘出術	13	
直腸ポリープ	2	
肛門拡張	6	
ガント三輪術	3	
肛門形成	2	
内視鏡	食道胃内視鏡	15
	食道バルーン拡張	12
その他	2	

(8) 新生児外科症例

病 名	患者数
横隔膜ヘルニア	3
先天性食道閉鎖症	5
先天性食道狭窄症	1
肥厚性幽門狭窄症	1
十二指腸閉鎖・狭窄症	3
空・回腸閉鎖症	2
腸回転異常症	4
ヒルシュブルグ病	2
鎖肛	2
メコニウム病	1
総胆管嚢腫	1
総排泄腔遺残	1
臍帯ヘルニア	2
腹壁破裂	4
鼠径ヘルニア	1
合 計	33

14. 心臓血管外科

スタッフ紹介

部長 大嶋 義博 (昭和57年卒)、心臓血管外科専門医、胸部外科指導医

吉田 昌弘 (平成5年卒)、心臓血管外科専門医

島津 親志 (平成9年卒)

松久 弘典 (平成11年卒)

日隈 智憲 (平成12年卒)

井上 武 (平成12年卒)

2006年度の人事異動は、高橋 宏明が神戸大学に転勤、また8月に姫路循環器病センターより井上 武をスタッフに迎えた。

診療体制

外来：月、水、金の午後2診

手術：月～金(開心術)、水または金(非開心術)

手術症例の増加に伴い、開心術週5日の体制に移行した。2006年の体外循環を用いた手術は238例(新生児12例)、体外循環非使用の心臓手術は63例(新生児15例)、手術死亡は5例(1.7%)であった。低体重児の手術にも積極的に取り組み、2kg未満低体重の左心低形成症候群や肺静脈閉塞を伴った無脾症(体重1.6kg)児の救命にも成功している。新生児・乳児の重症例の手術成績の向上とともに、大動脈離断、縮窄症を伴った複雑心疾患や心内膜欠損症の一期手術、低年齢化、さらに無脾症候群のグレン、フォンタン手術到達率向上に取り組んでいる。

学会活動：英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

疾患 (術式)	新生児	乳児前期	乳児後期	幼児前期	幼児後期	学童以上	計
心房中隔欠損症	0	0	1	23	3	13	40
・+肺動脈狭窄	0	0	0	2	1	0	3
・+異型鎖骨下動脈	0	0	0	0	1	1	2
・+部分肺静脈還流異常症	0	0	0	2	1	1	4
心室中隔欠損症	0	15	9	11	5	6	46
・+右室二腔症	0	0	0	0	0	1	1
・+肺動脈狭窄(右室流出路狭窄)	0	0	2	2	1	1	6
・+僧帽弁形成術	0	1	0	1	0	0	2
・+肺動脈縫縮吊上げ術	0	0	0	1	0	0	1
・+肺動脈絞扼解除	0	0	0	0	2	0	2
多発性心室中隔欠損症	0	0	2	0	0	0	2
・+肺動脈絞扼解除	0	0	0	2	0	0	2
心内膜症欠損症	0	2	4	4	0	1	11
・+両大血管右室起始症	0	0	0	1(1)	0	0	1(1)
ファロー四徴症	0	0	2	11	0	0	13
肺動脈閉鎖兼心室中隔欠損症	0	0	2	3	0	0	5
右室流出路再建術(再手術)	0	0	0	1	0	2	3
両大血管右室起始症	0	1	3	3	0	0	7
両大血管左室起始症	0	0	0	1	0	0	1
純型肺動脈閉塞症(二心室修復)	0	0	1	0	0	0	1
肺動脈狭窄症	0	2	0	0	0	0	2
完全大血管転位症(動脈スイッチ手術)	4	0	0	0	0	0	4
(ラステリ型手術)	0	0	0	1	0	0	1
総肺静脈還流異常症	0	1	1	0	0	0	2
+無脾症候群(shunt or banding)	2(1)	0	0	0	0	0	2(1)
三心房心	0	1	0	0	0	0	1
肺静脈狭窄解除	0	0	0	1	0	0	1
+右室流出路狭窄解除	0	0	0	0	1	0	1
左心低形成症候群(ノーウッド型手術)	1	0	0	1	0	0	2
両方向性グレン手術	0	4	0	2	0	1	7
・+DKS 吻合	0	0	0	1	0	0	1
・+DKS 吻合、房室弁形成術	0	0	0	0	1	0	1
・+肺動脈形成術	0	1	0	1	0	0	2
・+肺静脈狭窄解除	0	0	1	0	0	0	1
・+肺動脈形成術、房室弁形成術	0	2	0	0	0	1	3
・+ノーウッド型手術	0	2	0	0	0	0	2
フォンタン型手術(TCPC)	0	0	0	5	3(1)	1	9(1)
・+大動脈弁下狭窄解除	0	0	0	0	1	0	1
fenestration 閉鎖	0	0	0	0	0	1	1
大動脈弁形成術	0	0	0	1	0	0	1
大動脈弁置換術	0	0	0	1	0	0	1
大動脈弁上狭窄、肺動脈狭窄	0	1(1)	0	0	0	0	1(1)
僧帽弁形成術	0	0	2(1)	1	0	1	4(1)
僧帽弁(共通房室弁)置換術	0	0	0	1	0	1	2
僧帽弁置換術+大動脈基部置換	0	0	0	0	0	1	1
Ebstein 奇形	0	0	0	0	1	0	1
三尖弁形成術	0	0	1	0	0	1	2
大動脈縮窄(ECC 使用)	1	2	1	0	1	0	5
・+心室中隔欠損	2	2	0	0	0	0	4
心臓腫瘍	1	0	0	0	0	0	1
体肺動脈短絡術(ECC 使用)	1	0	0	0	0	0	1
+肺動脈形成術	0	1	0	0	0	0	1
肺動脈形成、心室肺動脈導管、房室弁形成	0	1	0	0	0	0	1
統合的肺動脈形成術	0	0	0	1	0	0	1
先天性気管狭窄(ECMO 補助)	0	0	1	0	0	0	1
・+肺動脈スリング	0	0	1	0	0	1	2
・+肺動脈スリング、心室中隔欠損	0	1	0	0	0	0	1
計	12	41	34	85	22	35	229
(30日以内の死亡)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	0	(5)

疾患	新生児(N)	乳児前期(N)	乳児後期(N)	幼児前期(N)	幼児後(N)	学童以上(N)	計
動脈管開存症	8	1	0	1	0	0	10
+ 肺動脈絞扼術	2	1	0	0	0	0	3
体肺動脈短絡手術	0	15	3	2	0	0	20
末梢肺動脈形成	0	1	1	0	0	0	2
末梢肺動脈形成 + 体肺動脈短絡術	0	0	0	0	0	0	0
統合的肺動脈形成術 + 体肺動脈短絡手術	0	0	1	2	0	0	3
肺動脈絞扼術	0	1	0	0	0	0	1
+ ペースメーカー	1	0	0	0	0	0	1
血管輪解除術	0	0	0	1	0	0	1
左心低形成症候群(両側肺動脈絞扼術)	2	0	0	0	0	0	2
拡大動脈弓再建術	1	0	0	0	0	0	1
末梢動脈瘤	0	0	0	0	0	1	1
ペースメーカー移植、電池交換など	1	0	0	2	3	12	18
計	15	19	5	8	3	13	63
(術後30日以内の死亡)	0	0	0	0	0	0	0

15. 脳神経外科

1. 医師の異動:

2006年度の脳神経外科スタッフは、長嶋達也（部長）、河村淳史（医長）、秋山英之（医長）、岡村有佑（専攻医）、中溝 聡（専攻医）の5人である。2006年4月1日には岡村有佑が神戸大学大学院に転出し、西脇市立西脇病院から中溝 聡（平成15年卒）を専攻医として迎えた。2005年11月に河村が加わってから専門医3名、専攻医1名の4人体制を維持している。脳神経外科のマンパワーが全国的にも急速に縮小する中で、充実した診療体制の維持を可能にしている神戸大学脳神経外科教室の理解と支援に感謝したい。

2. 診療活動:

脳神経外科三次救急に24時間365日対応で取り組み、頭部外傷、頭蓋内出血をはじめとする重症例の比率が増加している。困難な手術例の比率が増大しているが、幸いに在院日数の短縮が進み、平均15日以下となってきた。悪性脳腫瘍の集学的治療、頭蓋顔面奇形の手術や二分脊椎・水頭症の治療など、集学的なアプローチを要する分野の手術を中心として安定した診療活動を行っている。私たちの診療は、脳神経外科内のチームワークに加えて、他科やコメディカルスタッフとの緊密な協力、紹介元の医療機関との連携と多くの関係者に支えられている。脳神経外科を支えてくださる関係各位のより一層の信頼を得るため、良好な手術成績を残す努力を続けたい。

3. 学術活動

長嶋は2006年から厚生労働省の委託研究18指 - 4「発達期に発症する外因性脳障害の診断・治療・予防のための実証的研究とガイドライン作製」田村班の分担研究者として、社会的に大きな問題になりつつある「虐待による乳幼児の頭部外傷」の研究に取り組んでいる。また、2007年10月英国における国際シンポジウム Syringomyelia 2007(脊髄空洞症)の組織委員としても活動している。

秋山は、もやもや病の手術と救急を担当し学会発表や論文執筆も活発に行っている。河村は、脳腫瘍治療の専門家として治療に取り組み、国際学会(International Symposium on Pediatric Neuro-oncology)の発表も活発に行っている。中溝は、ほとんどの手術に参加するとともに術前・術後管理を中心に日夜を問わず治療に取り組み、研修の成果を上げた。国際的な水準の手術成績と学術貢献を積み重ねていきたい。

分類(日本脳神経外科学会)	数
脳腫瘍摘出術	19
バイパス手術	15
開頭脳内血腫除去	2
急性硬膜外血腫	4
急性硬膜下血腫	3
慢性硬膜下血腫	10
頭蓋・脳奇形	16
脊椎・脊髄奇形	15
水頭症脳室シャント	50
脊椎・脊髄腫瘍	7
脊髄空洞症	0
その他	30
計	171

16. 形成外科

形成外科の診療体制は3月をもって西本聡医師が兵庫医科大学に転出し、4月より吉村友希医師が大阪大学より転入した。診療面では患者数、手術件数で大きな増減はないが、

口唇口蓋裂、頭蓋縫合腺早期癒合症にてここ数年来取り組んできた独自の治療法の結果が出揃いはじめ、学会発表・論文掲載につながり認知されるようになってきた。また、本年度より稼動した血管腫に対する色素レーザー治療は週一回半日という限られた枠内でも年間約200件にのぼり、あざ疾患をもつ潜在患者数の多さをあらためて認識した。

		入院	外来		小計	計
		全麻	全麻	局麻		
新鮮熱傷	全身	7			7	8
	局所のみ	1			1	
顔面骨骨折	顔面骨骨折	1	1		2	19
	顔面軟部組織損傷	1	0	16	17	
口唇裂		52	5	1	58	96
口蓋裂		38			38	
手足	先天異常	50	4		54	56
	外傷	2		0	2	
その他の先天異常		31	51	2	84	84
母斑・血管腫・良性腫瘍		34	45	6	85	85
悪性腫瘍、再建		0			0	0
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド		8	0	3	11	11
褥創、難治性潰瘍		2			2	2
美容外科					0	0
その他		2	34	220	256	256
計		229	140	248	617	617

含外来処置室
含他科関連

17. 整形外科

2006年4月から藤井貴医師が和田山病院に転出し代わりに奥町悦子医師を迎えた。また2006年10月から奥町医師が大学病院に転出し堂垣医師を迎えた。手術件数は昨年とほぼ同様の217件であった。今後のじぎく療育センターの廃止とともに手術件数、手術内容が増加することが予想される。

手術

	病名	術式	手術数	
頸椎	環軸椎脱臼	ハロー装着	2	
	環軸椎脱臼	頭蓋、頸椎固定術	2	
	前湾	固定術	1	
体幹	斜頸	切腱術	3	
		ロッド延長	4	
股関節	先天性股関節脱臼	Ludloff	3	
		前方進入	3	
		SA+OR	1	
	臼蓋形成不全	トリプル骨切り術	1	
	股遺残垂脱臼	ソルター	3	
	骨頭すべり	大腿骨屈曲骨切り術	1	
	骨頭すべり	ピンニング	5	
	麻痺性股関節脱臼	大腿骨内反骨きり+骨盤骨きり+観血的整復術	1	
大腿骨内反骨切り術		1		
足部	先天性内反足	後方解離	4	
		アキレス腱切腱(Ponseti)	18	
		距骨下関節全周解離	1	
		Evans	1	
		PMR, Evans	4	
	麻痺性変形	後方解離	2	
		ATL	4	
		PMLR	1	
		後内方解離	6	
	(踵足)	腱移行(TPを外側に)	2	
		垂直距骨	距骨下関節全周解離	1
	尖足	垂直距骨	距舟関節ピンニング、アキレス腱切腱	1
			後方解離術	1
		脛骨列形成不全	足関節形成術	1
		外反母趾	矯正術	1
上肢		上腕短縮	上腕骨延長術	2
		膝蓋骨脱臼	整復術	2
		絞扼輪症候群	形成術	1
下肢	脚長差	脚延長(イリザロフ)	4	
		脚延長(EBI)	1	
	膝関節脱臼	観血的整復術	1	
	変形	矯正骨切り術	2	
		イリザロフ	1	

	病 名	術 式	手術数
外 傷	上腕骨外顆骨折	整復固定術	2
	上腕骨顆上骨折	整復固定術	6
	肘 頭 骨 折	骨接合術	2
	関 節 脱 臼	徒手整復ギプス固定	1
		鋼線牽引	2
	内 反 肘	矯正骨切り術	2
		その他骨折(含む徒手整復、ギプス)	整復固定術
腱 断 裂	腱縫合	2	
炎 症	化膿性関節炎	病巣搔爬	1
	関 節 炎 骨髓炎, LCH, 病態不明	生検術	4
		病巣搔爬	2
腫 瘍	腫 瘍	骨	4
		軟部	1
そ の 他	多・合指(趾)症	余剰指(趾)切除	19
		指(趾)間形成	11
	手 指 変 形	矯正骨切り術	1
	癩 痕 拘 縮	形成術	2
	剛 直 母 指	腱鞘切開	11
	抜釘(内反足術後も)		27
	そ の 他		16
年間手術件数			217

検 査

	部 位	方 法	検査数
	股 関 節	アルト口	30
	そ の 他	アルト口	4

18. 眼科

4月に専攻医の大島富太郎が10ヶ月の研修を終えて神戸大学附属病院に異動し、同病院より井上結香子専攻医が着任した。

診療上のトピックとしては近年、未熟児網膜症の発症数、治療件数ともに減少傾向にある。2001年までの5年間と2002年以降の期間で比較すると発症率は83.0%から57.8%に、治療率は33.5%から11.1%とともに有意に減少している。さらに発症例に対する治療率も減少している。両期間において眼科管理対象が有する在胎週数、出生体重などの未熟性は差がなかったことから、発症率の減少は新生児科の管理が、また、治療率の減少は同じく新生児科管理ならびに眼科における診察の対応や治療適応の判断が好影響しているものと思われる（いくつかの要因が想定されるが詳細な検討はこれから）。

(1) 新患者数

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
屈折異常	1	2	9	223	151	71	39	35	531
斜視および疑い	0	13	32	183	98	48	19	9	402
未熟眼底	1	3	3	0	0	0	0	0	7
未熟児網膜症	3	15	2	3	4	0	0	0	27
眼瞼疾患	1	11	19	93	61	18	4	0	207
涙器疾患	6	26	25	14	0	2	2	2	77
結膜疾患	0	3	4	15	8	8	2	0	40
角膜・強膜疾患	2	5	2	5	1	3	1	3	22
ブドウ膜疾患	1	4	1	4	4	1	0	0	15
網膜・硝子体疾患	1	3	4	8	1	3	2	2	24
水晶体疾患	10	13	3	10	11	4	1	1	53
眼窩疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遺伝性疾患	0	0	0	0	0	1	0	0	1
視神経、視路傷害 (眼振ほか)	0	6	16	18	20	7	6	5	78
緑内障	0	4	0	8	6	7	3	1	29
外傷	0	0	1	5	3	1	1	0	11
症候群	0	0	0	3	1	2	0	0	6
心因性視力障害	0	0	0	0	0	6	1	1	8
腫瘍	0	4	3	2	1	0	0	0	10
その他	4	3	6	12	6	4	3	2	40
小計	30	115	130	606	376	186	84	61	1588

屈折矯正・弱視訓練・斜視訓練	312
視野検査	243
合計	555

(2) 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜視	0	2	3	33	106	88	35	31	298
内反症	0	0	0	12	21	12	5	1	51
眼瞼下垂	0	0	0	2	2	0	0	0	4
眼瞼・眼窩疾患	0	0	1	11	4	2	2	1	21
結膜疾患（腫瘍）									0
角膜疾患									0
網膜疾患（腫瘍）	0	1	0	2	0	0	0	0	3
硝子体	0	0	0	2	1	0	0	0	3
鼻涙管閉鎖及び異常	0	0	0	7	1	0	1	0	9
眼瞼形成									0
緑内障	3	3	1	0	0	2	0	0	9
白内障	1	6	0	6	5	7	0	3	28
未熟児網膜症	0	3							3
眼球振盪症									0
外傷・検査・その他	0	3	1	10	3	2	1	0	20
合計	4	18	6	85	143	113	44	36	449

(3) 日帰り手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
内反症	0	0	0	13	20	5	2	0	40
霰粒腫	0	1	1	18	10	2	1	0	33
斜視	0	0	0	2	3	0	0	0	5
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	0	1	1	33	34	7	3	0	79

実習生受け入れ状況（4校：13名）

学 校 名	期 間	人数	実習場所
神戸総合医療専門学校視能訓練士科	5月1日(月) ～5月31日(水)	4名	外来、手術室
学校法人大阪滋慶学園大阪医療福祉専門学校視能訓練士科	5月15日(月) ～6月9日(金)	1名	
(見学実習)	6月19日・20日	1名	
(")	6月21日・22日	1名	
九州保険福祉大学保健科学部視機能療法学科	6月5日(月) ～6月23日(金)	2名	
メディカル総合学園大阪医専視能療法学科	6月5日(月) ～6月30日(金)	2名	
(見学実習)	3月6日～10日	2名	

19. 耳鼻咽喉科

人事と概要

常勤医師 1 名、兼任医師 1 名（火曜、金曜日）、常勤言語聴覚士 1 名の体制で外来診察、聴力検査、手術等を担当した。

1 月から木曜日の外来を開設し、手術日の水曜日を除く週 4 日外来を開く体制となった。これにより 3 ヶ月近くあった外来初診予約待ちが解消されつつあり、現在は約 10 日に減少している。

手術は火曜日の日帰り手術を中心に、スタッフの増員により徐々に水曜日の入院全身麻酔手術も増えてきており、現在約 2 ヶ月待ちの状態である。

長年懸案であった言語聴覚士の常勤化が 4 月に実現し、県立姫路循環器病センターから柴切圭子が着任した。週 5 日の乳幼児聴力検査、言語外来および週 1 回の補聴器外来を担当した。

診療内容充実への取り組み

1. 外来診療

新患の内訳としては、例年同様、滲出性中耳炎、急性中耳炎、反復性中耳炎、アデノイド肥大などが多い。新生児聴覚スクリーニングの普及とともに先天性難聴を疑われた症例や、マスコミ報道の影響でいびきや睡眠時無呼吸の症例が増加した。難聴や精神発達遅滞、自閉症を背景とした言葉の遅れが多いのも従来と同様である。言語指導の経験豊富な言語聴覚士の常勤化により言語発達遅滞、構音障害症例に対してより密度の濃い診療が可能となった。補聴器外来を週 1 日行っているが、対象患者増により予約が取りにくい状況になっている。

2. 手術

現在、日帰り手術では滲出性中耳炎に対する鼓膜チューブ挿入術が最も多く、口唇粘液貯留嚢胞摘出、先天性耳瘻孔摘出術などである。

入院手術は、年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出、アデノイド切除術が中心で、先天性嚢胞性疾患などが続く。特に前者は周術期の呼吸管理が重要であり、麻酔科各医師と HCU 看護スタッフの多大の協力で支えられている。常勤医の着任により手術件数は徐々に増加傾向にあるが、多数紹介のある、いびきのみで症状が軽度の単純性の扁桃肥大は手術予定が入りにくい状況である。手術枠の増加を要望していきたい。

3. 診療内容充実への取り組み、地域連携への取り組み

今年度に導入された ASSR（聴性定常反応）装置は、ABR とともに乳幼児他覚的聴力検査として頻用（合計 325 件）され、聴力閾値の推定に活用されている。また補聴器特性測定装置は週 1 回の補聴器外来で活用され年間約 250 件の補聴器適合検査を行った。

睡眠時無呼吸に対する 2 台の携帯型アプノモニターは検査約 6 ヶ月間待ちの状況であったが、予約制の検査とすることにより検査待ちは約 4 ヶ月に改善した。入院患者への緊急検査が行えず、引き続き検査体制の見直しや機器増設が必要である。

火曜金曜日は医師 2 人体制となったが、現在は耳鼻科診療ユニットが 1 台しかない。増設を行なって 2 診体制として外来の待ち時間短縮を図る必要性がある。

懸案だった言語聴覚士の定数配置がなされたが、すでに遊戯聴力検査・純音聴力検査等あわせて約 1600 件、

言語療法500件などに加えて上述の補聴器適合検査等を一人で総計4000件以上の検査を行っている。そのため検査や言語指導の予約が入りにくく、また心理・発達検査は指導相談部に依頼せざるを得ない状況となって患者様にご迷惑をおかけしています。業務量に見合った言語聴覚士の増員が是非とも必要である。

前年度に引き続いて兵庫難聴カンファレンスを当院で開催した。県内各聾学校、難聴児通園施設の教員、言語聴覚士と共同で、3ヶ月に1度のペースで、医療機関と療育機関との相互理解を図りつつ患児の指導について検討を行っている。

長期にわたる治療や経過観察が必要になる滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎の症例を中心に、地域医療機関の先生方と連絡を取って患者紹介を行ない、病診連携を進めた。

手術

入院手術

両口蓋扁桃摘出	20
アデノイド切除術	19
鼓膜形成術	1
乳様突起炎	2
咽後膿瘍切開術	1
唾石摘出術	1
耳下腺膿瘍	2
正中頸のう胞摘出術	1
鼻涙管チューブ挿入術	10(眼科と共同)

日帰り手術

鼓膜チューブ挿入術	81
咽頭異物摘出術	2
下口唇粘液のう胞摘出	3
舌小帯形成術	1
舌腫瘍切除術	1
先天性耳瘻孔摘出術	1
鼻涙管チューブ抜去術	10(眼科と共同)

2006年耳鼻咽喉科初診外来患者数（紹介元内訳） 初診時の疑い含む主診断名

病 名	症例数	院 内	耳鼻科	小児科	産 科	検 診	な し
言 語 発 達 遅 滞	31	6	10	5		10	
構 音 障 害	11	2	4	3		1	1
難 聴 （ 疑 い 含 ）	224	57	106	15	19	20	7
心 因 性 難 聴	8		8				
慢 性 中 耳 炎	3	1	2				
急 性 中 耳 炎	30	22	5				3
滲 出 性 中 耳 炎	99	34	55	3	1		6
外 傷 性 鼓 膜 穿 孔	1		1				
耳 垢 塞 栓 ・ 耳 垢	11	8					3
外 耳 炎	2	1					1
小 耳 症 ・ 耳 介 奇 形	6	1	2	2		1	
先 天 性 耳 ろ う 孔	11		6	4		1	
外 耳 道 閉 鎖 症	14	5	2	4	3		
外 耳 道 異 物	2						2
め ま い	7	6		1			
側 頭 骨 骨 折	2		2				
顔 面 神 経 麻 痺	6	2	2	2			
ア レ ル ギ ー 性 鼻 炎	16	14	1				1
副 鼻 腔 炎	40	31	4	1			4
鼻 出 血	7	7					
鼻 異 物	1	1					
後 鼻 孔 閉 鎖	2	2					
外 鼻 奇 形	1		1				
鼻 骨 骨 折	2		2				
舌 小 帯 短 縮 症	6	1		3		1	1
下 口 唇 粘 液 嚢 胞	5		3	2			
ア デ ノ イ ド 肥 大	34	15	10	6		1	2
扁 桃 肥 大	9	5	1	2			1
慢 性 扁 桃 炎	12	2	4	2			4
睡 眠 時 無 呼 吸	66	19	31	16			
咽 頭 喉 頭 異 物	5	1	3	1			
咽 頭 外 傷	4	3	1				
口 腔 咽 頭 腫 瘍	6	2	3	1			
が ま 腫	2	1	1				
唾 液 腺 腫 瘍	1	1					
咽 頭 喉 頭 炎	8	7		1			
喉 頭 軟 化 症	22	13	4	3		1	1
反 回 神 経 麻 痺	14	14					
声 帯 結 節、ポリープ	3	1	2				
嚥 下 障 害	8	8					
唾 液 腺 炎	2	2					
頸 部 リ ン パ 節 炎	4		2	2			
合 計	748	295	278	79	23	36	37

耳鼻科 聴力検査・言語聴覚療法 H18年

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	(計)
気導純音聴力検査	6	7	19	1	1			1	1	1		1	38
標準純音聴力検査	9	9	17	11	8	25	30	66	12	19	11	31	248
標準語音聴力検査	2	1	4	1	2	4	3	1	3	1	2	1	25
遊戯聴力検査	76	99	85	98	110	135	135	84	112	131	87	128	1280
結合音耳音響放射(DP-OAE)	28	22	25	16	23	45	58	33	30	23	27	29	359
聴性誘発反応	36	30	32	18	22	28	36	23	21	24	27	28	325
内耳機能検査			1					1					2
ティンパノメトリー	91	89	112	86	80	93	94	104	90	79	59	89	1066
耳小骨筋反射	1			1		3		3		5		2	15
補聴器適合検査1回目	5	4	11	3	7	1	3	4	4	6	6	5	59
補聴器適合検査2回目以降	8	7	5	19	16	14	15	14	24	21	23	18	184
音声機能検査													0
発達及び知能検査 容易	1	3			1	3	4		2	3	6	3	26
発達及び知能検査 複雑	4	2			2	1		1		2		2	14
心理検査 極複雑													0
言語聴覚療法 (18年3月まで)	45	35	38										118
リハビリテーション料 (4月以降)				18	46	38	45	52	59	41	40	40	379
総計	312	308	349	272	318	390	423	387	358	356	288	377	4138

20. 泌尿器科

2006年度の泌尿器科における人事異動では、9月末日に相野谷慶子が大阪府立母子保健総合医療センターへ転出した。以降当科では3名体制で診療を行っており、その影響で水曜日の外来を閉鎖している。手術件数では日帰り手術が開設以来初の200名台に達し、日帰り手術の待ち時間2 - 3ヶ月が常態化している。停留精巣をはじめとする泌尿器科小手術を近隣の病院で施行せずに専門病院へ紹介される傾向は今後ますます強くなると思われる。入院手術では手術難易度が高いとされる尿道下裂の手術ができる病院として近畿圏以外に四国、中国地方からの紹介患者も多いことが特徴である。従来、尿道下裂は最低一週間の術後入院期間を要していたが、最近では術後3日後には尿道カテーテルを留置したまま帰宅し、外来でカテーテル抜去を行っている。カテーテルトラブルのために急遽来院を要したケースは希であり、手術成績にも影響を与えていないと思われる。引き続き当科では入院期間が短く、患児の負担が少なく、かつ安全な医療を提供していく方針である。

入院と日帰り手術
尿路系

うち日帰り手術は203例

膀胱尿管逆流症	逆流防止術	44
巨大尿管	尿管形成+膀胱尿管新吻合術	1
水腎症	腎盂形成術	13
	DJカテーテル挿入・抜去	25
	腎ろう造設術	5
異所性尿管瘤・重複腎盂尿管など	上腎尿管下腎尿管吻合	2
	尿管瘤レーザー切開	2
	逆行性尿路造影	2
無機能腎・異所開口尿管+低形成腎など	腎摘除術	4
神経因性膀胱	腸管利用膀胱拡大術	3
	膀胱皮膚ろう造設	2
膀胱腫瘍	膀胱部分切除	1
尿道狭窄	内視鏡的切開術（レーザー含む）	3
	尿道ブジー	3
膀胱結石	膀胱切石	2
膀胱腫瘍	膀胱粘膜切除（TUR）	2
尿失禁	内視鏡下コラーゲン注入	1
膀胱異物・女性仮性半陰陽など	膀胱鏡検査	9
腎不全・腎腫瘍	開放腎生検	1
総排泄腔症・総排泄腔外反	導尿路再建	1
	尿道口Y-V形成	1
手術件数合計		127

性器系

尿道下裂	一期的根治術	50
	口腔粘膜利用尿道形成術	5
	下裂術後尿道形成術	1
	下裂術後ろう孔閉鎖術	8
埋没陰茎・屈曲陰茎	陰茎形成術	15
二分陰のう・前置陰のう	陰のう形成術	6
精巣留精	精巣固定術	136
	精巣摘出術 (vanishing testis)	14
	腹腔鏡検査 (性腺摘除含む)	3
	腹腔鏡下精巣固定術 F-S 一期	3
	腹腔鏡下精巣固定術 F-S 二期	4
精索静脈瘤	顕微鏡下低位結紮術	6
陰のう水腫	陰のう水腫根治手術	31
女性仮性半陰陽	外陰形成術	3
包茎・かんとん包茎	包皮環状切除術など	8
精巣腫瘍	高位精巣摘除術	2
尿道口のう腫・縫線のう胞	のう腫摘除	9
陰茎皮下腫瘤・その他	腫瘤切除など	3
手術件数合計		307

21. 小児歯科

人事面の異動はなく、常勤歯科医師一名の体制で診療を担当している。

全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな診療の柱となっていることに変化はない。特に、化学療法・骨髄移植を受ける患児の口腔内トラブルを軽減するために、血液主体病棟と連携を取りながら、積極的な口腔ケアに取り組んでいる。

形成外科と共同で取り組んでいる唇顎口蓋裂児の新しい術前顎矯正法に関しては、従来から行われている術前顎矯正法と比較して、治療の予知性が高く概ね良好な治療結果が得られている。今後は形成外科とより緊密な連携を取り、治療結果を分析・検討した上で、より良い治療法として発展させたい。

また、摂食嚥下障害児の指導・訓練を毎月非常勤医（歯科医師）により実施しているが、受診する患者の質、数ともに、非常勤歯科医師一名では対応できる状況ではなくなっている。他科と情報を共有できるような集学的な連携が必要と考えている。

新患内訳		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	78	1	1	1	81
	齲蝕	27	30	4	1	62
	乳歯晚期残存	9	2	0	1	12
	先天性歯	3	0	3	0	6
	その他	1	0	0	0	1
矯正歯科関連	不正咬合	17	1	0	0	18
	術前顎矯正	13	0	0	0	13
	その他	0	0	0	0	0
口腔外科関連	外傷	4	6	0	4	14
	小帯異常	0	2	0	0	2
	埋伏歯	3	2	1	0	6
	その他	4	2	0	0	6
摂食嚥下障害	26	2	2	0	30	
計		185	48	11	7	251

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	3	8	11
外来手術	45	2	47
計	48	10	58

歯科衛生士学校名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫歯科学院専門学校 歯科衛生学科	2回生 6名	H18年7月1日～7月31日 H18年9月1日～9月30日 H18年10月1日～10月31日	歯科外来・他
兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科	2回生 4名	H18年11月1日～11月30日 H18年12月1日～12月22日	歯科外来・他

22. 麻酔科

1. 人事異動

神戸大学関連では、魚川医師が埼玉医大総合周産期センターで産科麻酔の研修を行うため退職した。また専攻医の西山医師の代わりに岩淵医師、熊代医師に来ていただいた。香川大学からは派遣が途絶えていたが、1年のブランクをおいて10月から横井医師に来ていただいた。また公募では栗原医師がさらなる研修のために成人病センターに出向し、かわりに京都大学から川崎医師に来ていただき9ヶ月間勤務していただいた。

村田部長は2006年3月末で定年となったが、県・病院・そして我々の意向で再雇用となり、引き続き日帰り麻酔を中心とした業務を行っていただいている。

各大学からの派遣が不安定である中、次年度の医師確保のために専攻医の公募を行い、8月の面接を経て3人の採用を予定することができた。公募にも反応があった理由として、小児麻酔という特殊な領域を研修したいという医師が潜在的にいること、麻酔医が集まっているところには麻酔医が集まってくる可能性があること、そして病院には麻酔科医の人事にフレキシブルに対応していただいたこと、などの要素が関与していると考えられる。

ほか、短期研修として笠井医師、福島医師、千田医師（小児科）および数名の見学医を迎えた。

2007年1月の時点では香川、鈴木、高辻、大西、三浦、池島、吉村、岩淵、熊代、横井、村田の11名で業務を行っている。

2. 活動状況と反省

2006年の総麻酔件数は4486件となり、前年を上回り、件数は毎年増加している。これに対し、看護部や外科系各科からは様々な協力をいただいたことにこの場を借りて感謝を申し上げたい。

入院手術、日帰り手術、検査の麻酔等を行うとともに、病棟麻酔サービス、術前麻酔科診察のシステムも定着し、大きな事故もなく一年を過ごせたことに安堵している。

3. 展望

多くの件数を抱える一方で、安全かつ快適に手術・麻酔を行うことは大命題である。麻酔科医の教育や知識技術の向上、麻酔業務の効率化、そして麻酔科医の確保により手術件数の増加に対応したい。とくに麻酔科医の確保は今後も重要な課題となるが、各大学との関係を保つとともに積極的に公募を行い、小児麻酔を志願するものに来ていただけるようにしたい。

麻酔科 診療統計

総麻酔件数 2006.1.1～12.31

4486件

入院区分および麻酔の場所による内訳

入院手術および検査室での麻酔	2916
日帰り手術の麻酔	1196
病棟麻酔サービス	374
計	4486

麻酔法による内訳

全身麻酔・吸入麻酔	3800
全身麻酔・静脈麻酔	198
全身麻酔・吸入麻酔+硬膜外麻酔	224
全身麻酔・静脈麻酔+硬膜外麻酔	17
硬膜外麻酔+脊椎麻酔	8
硬膜外麻酔	0
脊椎麻酔(脊髄くも膜下麻酔)	235
伝達麻酔	0
その他	4
全身麻酔 小計	4239
合計	4486

年齢別内訳

1ヶ月まで	98
12ヶ月まで	772
5歳まで	1940
18歳まで	1384
65歳まで	292
85歳まで	0
86歳以上	0
計	4486

手術部位による内訳

開頭術	68
開胸・縦隔手術	136
先天性心疾患根治術	207
先天性心疾患姑息術	66
その他の心臓手術	23
胸腹部手術	1
上腹部手術	111
下腹部手術	171
帝王切開	254
頭頸部・咽喉頭手術	1183
胸壁・腹壁・会陰手術	1475
脊椎手術	21
股関節・四肢手術	321
検査、手術室内	99
検査、手術室外	338
その他	12
計	4486

23. 新生児科

1. 医師の異動

研修制度の変更に伴う、専攻医の移動にもなれ、研修態勢も一定の落ち着きを見せてきた。本年も常勤医は7名の枠を満たすことが困難であった。柄川、吉形、溝淵、芳本、中尾は引き続き在任した。4月に姫路赤十字病院より、坂井 仁美医師が着任した。岡山大学より研修のため派遣されていた赤堀洋一郎医師が、大学院入学を機に帰任した。替わって、専攻医より小林 真史医師が専任医として着任した。多くの優秀な専攻医の往来があり、多くを学ぶことが出来た。当科の安全な持続する当直時間帯の医療を確保するためには、常勤医の確保は喫緊の課題となっている。

2. 診療活動

周産期医療機関の減少、出生前診断例の増加、地域の中核病院の新生児医療からの撤退という社会の流れもあり、新生児病棟は重症児、長期入院児が引き続き多く、業務は上限を超えつつある。引き続き、医療の安全には充分留意して、全員の意志疎通を計り、患児の最善の利益が尊重できる診療行為の遂行に勤めている。看護部門の全面的な理解と協力には、言葉には出来ないほど感謝する次第である。入院患児の重症化を反映して、在宅患児を対象とする外来業務も重症児の管理が増加するため、担当医の負担はますます増えている。他の医療機関との連携、役割分担の相互理解も引き続き重要な案件である。本年も集学的治療を要する重症児の診療については、関連各科の御理解と御協力をいただき、厚く感謝するところである。

3. 学会活動

各科員の新生児医療における専門領域も明確になりつつあり、主要な学会での活発な活動がなされており、目標とする診療と臨床研究の両立に一定の成果を得た。

2006年新生児科統計

． 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
54	44	52	52	43	60	46	62	42	52	57	57	621

2) 診療科別入院数

新生児科入院	620	新生児科からの転科	40
他科入院	1	一般外科	15
一般外科	1	循環器内科	17
		脳神経外科	8

3) 入院形態

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外
院外出生	202	148	21	1	25	1	0	0	3	0	0
一次搬送 (14日以上)	180	136	18	1	24	1	0	0	0	0	0
二次搬送	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
院内出生	22	12	3	0	1	0	0	0	3	0	3
緊急母体	419	265	51	7	62	6	1	5	5	0	1
非緊急母体	142	78	25	5	22	6	1	1	1	0	0
院内出生	271	181	26	2	40	0	0	4	4	0	1
日齢14未満一次搬送+院内出生	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	598	401	69	8	86	6	1	5	5	0	1

a) 院内出生と院外出生(日齢14未満一次搬送+院内出生)

出生体重	患者数	院内	率	帰院	週数	患者数	院内	率	帰院
< 500 g	7	7	100.0%	0	22, 23	11	11	100.0%	0
500 ~ 749 g	22	22	100.0%	0	24, 25	13	13	100.0%	0
750 ~ 999 g	19	19	100.0%	0	26, 27	18	18	100.0%	0
1,000 ~ 1,499 g	48	48	100.0%	0	28, 29	24	24	100.0%	0
1,500 ~ 1,999 g	108	86	79.6%	1	30, 31	25	24	96.0%	0
2,000 ~ 2,499 g	154	116	75.3%	12	32, 33	56	54	96.4%	0
> = 2,500 g	240	121	50.4%	23	34 ~ 36	203	154	75.9%	10
計	598	419	70.1%	36	> = 37	248	121	48.8%	26
					計	598	419	70.1%	36

b) 分娩方法

出生体重	患者数	帝切例	率	週数	患者数	帝切例	率
< 500 g	7	3	43.0%	22, 23	11	0	18.2%
500 ~ 749 g	22	16	72.7%	24, 25	13	13	100.0%
750 ~ 999 g	19	19	100.0%	26, 27	18	17	94.0%
1,000 ~ 1,499 g	48	45	93.8%	28, 29	24	24	100.0%
1,500 ~ 1,999 g	108	86	79.6%	30, 31	25	22	88.0%
2,000 ~ 2,499 g	154	110	71.4%	32, 33	56	46	82.1%
> = 2,500 g	240	106	44.2%	34 ~ 36	203	162	79.8%
計	598	385	64.4%	> = 37	248	99	39.9%
				計	598	385	35.6%

II. 新生児科統計

対象：日齢14未満一次搬送入院及び院内出生症例（転科例を除く）

1) 生存率，死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
< 500 g	7	4	42.9%
500 ~ 749 g	22	4	81.8%
750 ~ 999 g	19	0	100.0%
1,000 ~ 1,499 g	47	4	91.5%
1,500 ~ 1,999 g	105	2	98.1%
2,000 ~ 2,499 g	146	0	100.0%
> = 2,500 g	220	3	99.0%
計	566	17	97.0%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	11	6	45.5%
24, 25	13	1	92.3%
26, 27	17	2	88.2%
28, 29	24	1	95.8%
30, 31	25	0	100.0%
32, 33	55	0	100.0%
34 ~ 36	195	4	97.9%
> = 37	226	3	98.7%
計	566	17	97.0%

2) 多胎割合（品胎5組）

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
< 500 g	7	3	42.9%	0
500 ~ 749 g	22	8	36.4%	0
750 ~ 999 g	19	5	26.3%	2
1,000 ~ 1,499 g	47	17	36.2%	7
1,500 ~ 1,999 g	105	53	50.5%	6
2,000 ~ 2,499 g	146	56	38.4%	0
> = 2,500 g	220	12	5.5%	0
計	566	154	27.2%	15

週数	患者数	多胎	率	品胎
22, 23	11	4	36.4%	0
24, 25	13	4	30.8%	0
26, 27	17	9	52.9%	3
28, 29	24	7	29.2%	3
30, 31	25	10	40.0%	6
32, 33	55	27	49.1%	3
34 ~ 36	195	82	42.1%	0
> = 37	226	11	4.9%	0
計	566	154	27.2%	15

3) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
< 500 g	7	7	100.0%	1	0
500 ~ 749 g	22	22	100.0%	4	14
750 ~ 999 g	19	15	78.9%	3	15
1,000 ~ 1,499 g	47	29	61.7%	1	40
1,500 ~ 1,999 g	105	33	31.4%	0	24
2,000 ~ 2,499 g	146	15	10.3%	1	18
> = 2,500 g	220	28	12.7%	5	15
計	566	149	26.3%	15	126

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22, 23	11	11	100.0%	0	2
24, 25	13	13	100.0%	3	8
26, 27	17	17	100.0%	5	11
28, 29	24	21	88.0%	1	23
30, 31	25	16	64.0%	1	25
32, 33	55	20	36.4%	0	22
34 ~ 36	195	28	14.4%	1	19
> = 37	226	23	10.2%	4	16
計	566	149	26.3%	15	126

4) 特殊治療

PDA 閉鎖術	7 例	生後ステロイド全身投与	26 例
NO 吸入療法	7 例	ステロイド吸入	23 例
ECMO	0 例	ROP レーザー	3 例

5) 新生児搬送出動回数：88回

入院	84	分娩立合い	7
転院	4	時間外搬送	26

6) 双胎生存率，死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
< 500 g	3	2	33.0%
500 ~ 749 g	8	1	88.0%
750 ~ 999 g	3	0	100.0%
1,000 ~ 1,499 g	10	2	80.0%
1,500 ~ 1,999 g	47	0	100.0%
2,000 ~ 2,499 g	56	0	100.0%
> = 2,500 g	12	0	100.0%
計	139	5	96.4%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	4	2	50.0%
24, 25	4	0	100.0%
26, 27	6	2	67.0%
28, 29	4	1	75.0%
30, 31	4	0	100.0%
32, 33	24	0	100.0%
34 ~ 36	82	0	100.0%
> = 37	11	0	100.0%
計	139	5	96.4%

24. 産 科

本年は、県周産期医療システム空床情報ネットワークが整備された。県内の産科医療施設ではインターネット上で県内周産期医療センターの産科・新生児科病床の空き状況を閲覧することが可能となった。そのためか、当産科における母体搬送受け入れ不能率は17年の42%から39%に減少した。しかし、10箇所の周産期医療センターのうち神戸市立中央市民病院と公立豊岡病院の2施設においてははまだ整備されておらず、完全実働には遠い。

新生児科病棟満床を理由とする母体搬送受け入れ不能を改善させるために、産科新生児室の利用の促進と分娩後の退院日数を短縮した。原則的には経膈分娩は4日目、帝王切開は6日目と1日ずつ早めた。その結果、母体搬送受け入れ不能の理由のうち新生児科病棟満床によるものは5%にまで急減し、産科病棟満床を理由とするものが73%をしめるようになった。

母体胎児集中治療管理室は92%の稼働率であったが、あいかわらず母体胎児集中治療管理室室料加算請求可能期限の2週間を超えて収容しなければならないハイリスク妊婦がおり、今年もその調整に苦労させられた。

17年7月に新谷医師が県立淡路病院へ転勤した後の、大学医局からの補充医師については立て続けに2名の医師の赴任拒否により空白のままであった。当産科では他の産科病院よりも長い勤務拘束時間、診療の高リスク度と高ストレス度、一方ではそれに見合わない低い処遇が根本にあり早急の改善が求められる。幸いにも18年4月より斎木医師（女医）が院内保育所利用可能という条件で赴任が決まった。育児中のため当直業務に就けないのが難点であるが、女医対策なくしてはこれからの産科医療は成り立たないため、そのモデル施設となるべく工夫をしていきたい。

(1) 平成18年産科診療状況

延べ入院患者数	613
うち母体搬送依頼電話によるもの	184
紹介元へ返送または他院紹介	191
分娩母体数（22週以降）	365
正期産	124
早産	241
過期産児	0
多胎妊娠	70
うち双胎	65
うち品胎	5
うち要胎	0
経膈分娩	110
うち鉗子・吸引分娩	11
うち骨盤位牽出術	7
帝王切開術	255
出産児数（22週以降）	440
正期産児	130
早産児	310
過期産児	0
低出生体重児（2500g未満）	308
巨大児（4000g以上）	0
その他	10
流産	8
子宮外妊娠	1
産後出血・DIC	1

(2) 依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	8	1%	中播磨	姫路市	19	3%
	西宮市	26	4%		飾磨郡	0	0%
	芦屋市	11	2%		神崎郡	2	0%
	小計	45	7%		小計	21	3%
阪神北	宝塚市	2	0%	西播磨	相生市	0	0%
	三田市	3	0%		龍野市	0	0%
	川西市	2	0%		赤穂市	0	0%
	伊丹市	5	1%		揖保郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%
	小計	12	2%		佐用郡	0	0%
	須磨区	128	21%		宍粟郡	0	0%
神戸市	中央区	62	10%	小計	0	0%	
	西区	64	10%	豊岡市	3	0%	
	垂水区	47	8%	城崎郡	0	0%	
	灘区	22	4%	出石郡	0	0%	
	東灘区	21	3%	美方郡	0	0%	
	北区	19	3%	養父市	1	0%	
	兵庫区	3	0%	朝来郡	0	0%	
	長田区	22	4%	小計	4	1%	
	小計	388	63%	篠山市	2	0%	
	東播磨	明石市	78	13%	丹波市	1	0%
加古川市		9	1%	小計	3	0%	
高砂市		3	0%	洲本市	4	1%	
加古郡		1	0%	津名郡	1	0%	
小計		91	15%	南あわじ市	2	0%	
北播磨	西脇市	5	1%	小計	7	1%	
	三木市	0	0%	大阪府	7	1%	
	小野市	8	1%	京都府	5	1%	
	加西市	1	0%	奈良県	1	0%	
	美嚢郡	0	0%	和歌山県	0	0%	
	加東郡	0	0%	滋賀県	0	0%	
	多可郡	0	0%	他	1	0%	
	小計	14	2%	小計	14	2%	
			院内紹介	14	2%		
			計	613	100%		

(3) 疾患別 (重複あり)

疾患名	件数	率
切迫早産	270	44%
他科合併症	36	6%
多胎	96	16%
うち双胎	89	15%
うち品胎	7	1%
羊水検査	62	10%
前期破水	79	13%
子宮内胎児発育遅延	104	17%
羊水過多・過少	71	12%
妊娠中毒症	50	8%
胎位異常	49	8%
既往帝王切開	68	11%
胎児異常	119	19%
切迫流産	31	5%
胎児奇形	105	17%
胎児仮死	62	10%
子宮筋腫合併	17	3%
他感染症	23	4%
子宮内胎児死亡	9	1%
糖尿病合併	12	2%
前置胎盤	9	1%
甲状腺疾患合併	13	2%
胎盤早期剥離	20	3%
心疾患合併	5	1%
産後出血・DIC	1	0%
ウイルス性肝炎	2	0%
自然流産	0	0%
T T T S	3	0%
胎児不整脈	14	2%
膠原病合併	9	1%
discordant twins	15	2%
胎盤機能不全	6	1%
子宮外妊娠	1	0%
子宮奇形	4	1%
その他	51	8%
計	1512	247%

入院母体1人あたり平均2.5件の疾患を有す。

TTTS: 双胎間輸血症候群

(10) 妊娠延長期間 (母)

(入院から22週以降の分娩まで)

延長期間	件数	率	累積率
当日	87	24%	24%
～1日	62	17%	41%
～1週間	67	18%	59%
～2週間	32	9%	68%
～4週間	47	13%	81%
～8週間	47	13%	94%
～12週間	17	5%	98%
12週間～	6	2%	100%
計	365	100%	
平均	14.7日間		

(4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	457	75%
平日日勤帯	457	75%
時間外	156	25%
休日日勤帯	46	8%
全日夜勤帯	110	18%
計	613	100%

(6) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	202	79%
平日日勤帯	202	79%
時間外	53	21%
休日日勤帯	11	4%
全日夜勤帯	42	16%
計	255	100%

(8) 入院時妊娠週数 (母)

週数	件数	率	累積率
～21週	109	18%	18%
22～24週	45	7%	25%
25～28週	105	17%	42%
29～32週	112	18%	61%
33～36週	114	19%	79%
37週～	117	19%	98%
産後	11	2%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	613	100%	

(11) バックトランスファー

(紹介元医へ戻す)

および他院紹介件数

	件数
外来患者	151
入院患者	40
計	191

(5) 分娩時間帯 (22週以降)

時間帯	件数	率
時間内	234	64%
平日日勤帯	234	64%
時間外	131	36%
休日日勤帯	21	6%
全日夜勤帯	110	30%
計	365	100%

(7) 出生時体重(児)(22週以降)

児体重	件数	率	累積率
～499g	8	2%	2%
～999g	44	10%	12%
～1499g	49	11%	23%
～1999g	90	20%	43%
～2499g	117	27%	70%
～2999g	82	19%	89%
～3499g	37	8%	97%
3500g～	13	3%	100%
計	440	100%	
平均	2061g		

(9) 分娩時妊娠週数 (母)

週数	件数	率	累積率
～21週	8	2%	2%
22～24週	15	4%	6%
25～28週	32	9%	15%
29～32週	58	16%	30%
33～36週	136	36%	67%
37～41週	124	33%	100%
42週～	0	0%	100%
計	373	100%	

(12) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不可件数	受け入れ不可率
1	30	17	57%
2	35	27	77%
3	25	18	72%
4	33	13	39%
5	25	6	24%
6	30	12	40%
7	18	3	17%
8	21	2	10%
9	19	6	32%
10	23	7	30%
11	26	4	15%
12	31	9	29%
計	316	124	39%

(13) 年次別受け入れ不可状況

年	依頼件数	受け入れ不可件数	受け入れ不可率	備 考
平成6年	66	12	18%	10月開設 (22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン (32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFICU 6床整備
平成18年	316	124	39%	空床情報ネットワーク整備

(14) 依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	8	3%	西播磨	相生市	0	0%
	西宮市	23	7%		龍野市	0	0%
	芦屋市	8	3%		赤穂市	0	0%
	小 計	39	12%		揖保郡	0	0%
阪神北	宝塚市	3	1%		赤穂郡	0	0%
	三田市	0	0%		佐用郡	0	0%
	川西市	3	1%		宍粟郡	1	0%
	伊丹市	5	2%		小 計	1	0%
	川辺郡	0	0%	豊岡市	0	0%	
小 計	11	3%	城崎郡	1	0%		
神戸市	神戸市	176	56%	出石郡	0	0%	
東播磨	明石市	43	14%	但馬	美方郡	0	0%
	加古川市	6	2%	養父市	0	0%	
	高砂市	2	1%	朝来郡	0	0%	
	加古郡	0	0%	小 計	1	0%	
	小 計	51	16%	篠山市	3	1%	
北播磨	西脇市	2	1%	丹波	丹波市	6	2%
	三木市	0	0%	小 計	9	3%	
	小野市	3	1%	洲本市	2	1%	
	加西市	1	0%	淡路	津名郡	0	0%
	美囊郡	0	0%	南あわじ市	0	0%	
	加東郡	1	0%	小 計	2	1%	
	多可郡	0	0%	大阪府	7	2%	
小 計	7	2%	京都府	4	1%		
中播磨	姫路市	6	2%	奈良県	0	0%	
	飾磨郡	0	0%	和歌山県	0	0%	
	神崎郡	1	0%	滋賀県	0	0%	
	小 計	7	2%	他	1	0%	
				他府県	小 計	12	4%
				計	316	100%	

(15) 依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期センター	1	0%
地域周産期センター	11	3%
一般病院	145	46%
診療所	150	47%
助産院	4	1%
消防隊	4	1%
他	1	0%
計	316	100%

(16) 受信時刻

勤務帯	件数	率	
時間内	平日・日勤帯	134	42%
時間外	平日・夜勤帯	92	29%
	休日・日勤帯	46	15%
	休日・夜勤帯	38	12%
不 明		6	2%
計		316	100%

(17) 搬送理由 (重複あり)

搬送理由	件数	率
切迫早産	130	41%
前期破水	70	22%
妊娠中毒症	30	9%
IUGR	30	9%
多胎	21	7%
胎児仮死	13	4%
胎児異常	19	6%
既往帝切	15	5%
骨盤位	11	3%
前置胎盤	10	3%
切迫流産	11	3%
早期剥離	11	3%
出血多量	9	3%
難産	0	0%
他科合併症	20	6%
胎児死亡	4	1%
ショック	0	0%
胎児奇形	0	0%
子宮外妊娠	2	1%
その他	58	18%
計	464	147%

%は受診件数を100とした率
IUGR：子宮内胎児発育遅延

(18) 妊娠週数別

妊娠週数	件数	率
24週以前	60	19%
25～28週	63	20%
29～32週	74	23%
33～36週	57	18%
37～40週	28	9%
41週以降	5	2%
分娩後	13	4%
不明	16	5%
計	316	100%

(19) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～ 1 分	207	66%
～ 3 分	43	14%
～ 10 分	49	16%
～ 20 分	8	3%
～ 30 分	3	1%
30分を越える	0	0%
不明	6	2%
計	316	100%

(20) 受け入れ不可理由

理 由	件数	率
NICU 満床	6	5%
産科 満床	88	73%
両方 満床	2	2%
対 象 外	8	7%
そ の 他	10	8%
計	114	95%

25. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事発令及び人事異動について（平成18年4月1日）

人事発令			
山崎 武美	副院長（検査・放射線部長兼務）	金川 公夫	検査・放射線部長（退職） 栃木県小児医療センターへ
転入者氏名	転入者・前所属	転出者氏名	転出者・所属
吉野 太司	県立加古川病院	廣瀬 悦子	県立西宮病院
		正井 秀幸	県立淡路病院

（放射線科）

2006. 3. 31をもって金川公夫部長が退職され、4月より橋村宏美医師が専攻医として赴任、6月には県立尼崎病院小児科より山口善道医師が転科し赴任の運びとなった。

現在常勤医3名、非常勤医2名（副島俊典部長：放射線治療担当、成人病センターと兼務および西山章次医師：透視検査担当）の新体制となった。

2. 診療活動

各診療件数は放射線部統計に記載。

金川部長の退職に伴い診療の質の低下が懸念されたが徐々に体制、内容の充実が整っている。病院全体としてセカンドオピニオン外来の件数が増えてきているが、これに伴い持参フィルムの読影が増えてきている。

小児を専門とする放射線科医は全国的に少なく、院内外を含めて研修・見学希望者が増加しつつあり、できる限り受け入れ教育面に力を注ぐ方向で考えている。

放射線科の充実がひいては病院全体の質の向上に寄与すると位置づけ、新たなモダリティや検査方法の開拓を目指している。日常診療で質の完全復帰が整えば学会活動にも力を注ぎたい。

3. 機器・装置の更新・変更について（放射線部門）

平成18年3月 移動用X線撮影装置の更新 シリウス 130H （日立メデコ社制）
廃棄 シリウス 125M （平成8年取得）

小児救急医療センター（仮称）で使用予定。

平成18年10月 島津循環器撮影システム (DIGITEX2400) イメージアンプ、X線管球交換
周産期センター設立時の平成6年に設置したMRI、核医学検査、デジタルX線TV、リニアック、アンギオ装置などは老朽化も目立ち日進月歩で進化する現代医療で適正な画像を提供することが困難に成りつつある。機器の更新は総ての診療科に関わる問題であり今後とも計画的な更新が望まれる。

4. 学術活動など

各種学会については自己啓発や最新の知見を深めるためにも参加を奨励しているが、新年度の放射線関連学会が、人事異動期、学校の休み期間など小児病院の繁忙期と重なるため参加が困難となっている

兵庫県立病院で業務上の最新知識や技師として啓発、研修の機会として各種部会がその役割を担っており、部会への参加は可能な限り業務担当者の参加を追求している。

技師室内勉強会は第1・3水曜日に輪番で行なっているが、18年3月にプロジェクターを購入してプロジェクターを使用しながら学会形式の勉強会や発表を実施している。

(1)放射線部検査総患児数(平成18年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来人数	1489	1465	2259	1823	1622	1636	1872	2309	1639	1686	1683	1708	21191
入院人数	1142	1060	1174	978	1155	1328	1067	1210	876	893	820	937	12640
人数合計	2631	2525	3433	2801	2777	2964	2939	3519	2515	2579	2503	2645	33831

(2)使用フィルム枚数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
胸部撮影室	865	910	1296	993	928	950	1047	1325	851	840	815	864	11684
外科撮影室	753	723	1129	953	906	969	1071	1286	1049	967	902	954	11662
ポータブル撮影	673	573	653	548	367	779	641	628	529	532	527	589	7039
パノラマ撮影室	29	35	35	36	20	31	43	48	17	25	24	33	376
D R X線TV室	53	50	47	51	34	31746	30	47	70	61	48	50	32287
泌尿器X線TV室	29	28	39	38	42	35	38	59	36	48	43	48	483
多目的X線TV室	8	21	13	25	13	1	29	21	17	9	5	15	177
X線CT室	323	457	471	486	521	580	473	536	468	571	486	566	5938
M R I室	609	593	673	636	621	708	656	719	632	630	604	659	7740
核医学室	71	24	79	68	71	64	76	111	102	70	150	64	950
血管造影撮影室	135	107	116	95	130	99	97	104	80	53	106	133	1255
放射線治療室	7		18	3	16	5	2	6	2	1	0	0	60
超音波室	549	476	663	493	412	494	641	745	569	545	577	516	6680
D U P処理	108	71	61	73	65	147	142	198	83	92	121	140	1301
月別合計	4212	4068	5293	4498	4146	36608	4986	5833	4505	4444	4408	4631	87632

(3)胸部撮影室稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外 来	胸部 人数	651	662	1004	786	684	709	805	925	659	668	697	685	8935
	胸部 件数	651	662	1006	786	684	709	805	925	659	668	697	685	8937
	胸腹部 人数	2	0	4	1	0	2	2	1	1	1	1	2	17
	胸腹部 件数	2	0	4	1	0	2	2	1	1	1	1	2	17
	腹部 人数	1	0	3	0	0	1	6	1	4	4	1	5	26
	腹部 件数	2	0	7	0	0	1	6	1	4	4	2	5	32
入 院	人数 合計	654	662	1011	787	684	712	813	927	664	673	699	692	8,978
	件数 合計	655	662	1017	787	684	712	813	927	664	673	700	692	8,986
	胸部 人数	190	221	238	171	210	196	192	355	161	139	93	148	2,314
	胸部 件数	190	221	238	171	210	196	192	355	161	139	93	148	2,314
	胸腹部 人数	0	0	3	7	3	4	4	2	0	2	2	3	30
	胸腹部 件数	0	0	3	7	3	4	4	2	0	2	2	3	30
院	腹部 人数	1	0	3	1	4	2	3	0	0	2	3	1	20
	腹部 件数	1	0	4	1	4	2	3	0	0	2	3	1	21
院	人数 合計	191	221	244	179	217	202	199	357	161	143	98	152	2,364
	件数 合計	191	221	245	179	217	202	199	357	161	143	98	152	2,365
総人数 合計		845	883	1255	966	901	914	1,012	1,284	825	816	797	844	11,342
総件数 合計		845	883	1262	966	901	914	1,012	1,284	825	816	798	844	11,350
稼働日数		19	20	20	20	20	22	20	23	20	21	20	20	245
半切		179	148	305	258	138	153	297	539	158	153	151	218	2,697
B 4		257	289	479	305	295	325	366	472	316	301	308	284	3,997
六切		429	473	512	430	495	472	384	314	377	386	356	362	4,990
ロス				28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
テスト					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総枚数 合計		865	910	540	993	928	950	1,047	1,325	851	840	815	864	10,928

(4)外科撮影室稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
外 来	単	頭部 人数	49	45	66	55	59	55	59	54	49	61	52	39	643
		件数	55	58	71	65	63	59	66	57	52	63	53	55	717
	規格撮影	人数		1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		件数		1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	純	躯幹部 人数	156	155	234	216	177	178	179	256	178	177	181	219	2306
		件数	166	162	246	236	190	187	189	262	200	184	191	225	2438
	四肢	人数	167	169	271	205	213	186	237	312	196	210	195	191	2552
		件数	178	177	288	219	223	190	247	327	220	210	201	202	2682
	骨盤計測	人数	1		3	2	0	0	1	1	0	0	0	0	8
		件数	1		3	2	0	0	1	1	0	0	0	0	8
	造	腎盂 人数				0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
		件数				0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	影	涙嚢 人数			1	1	0	0	1	2	0	0	0	0	5
		件数			1	1	0	0	1	2	0	0	0	0	5
	その他	人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人数 合計		373	370	575	479	449	419	477	625	423	450	428	449	5517
	件数 合計		400	398	609	523	476	436	504	649	472	459	445	482	5853
入 院	単	頭部 人数	5	4	12	17	13	21	12	19	9	10	8	14	144
		件数	7	5	13	18	13	22	12	20	11	11	11	15	158
	規格撮影	人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	純	躯幹部 人数	33	23	28	26	32	50	35	35	29	46	37	34	408
		件数	35	23	32	32	34	53	38	39	37	49	46	37	455
	四肢	人数	11	4	9	7	9	10	14	30	21	28	17	13	173
		件数	12	4	9	10	10	12	17	32	25	29	21	13	194
	骨盤計測	人数	3	2	3	2	2	1	1	1	1	3	1	0	20
		件数	3	2	3	2	2	1	1	1	1	3	1	0	20
	造	腎盂 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	影	涙嚢 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人数 合計		52	33	52	52	56	82	62	85	60	87	63	61	745
	件数 合計		57	34	57	62	59	88	68	92	74	92	79	65	827
総人数 合計		425	403	627	531	505	501	539	710	483	537	491	510	6262	
総件数 合計		457	432	666	585	535	524	572	741	546	551	524	547	6680	
稼働日数		19	20	22	20	20	22	20	23	20	21	20	20	247	
フ ィ ル ム	半切	179	137	267	206	170	183	227	330	483	189	164	229	2764	
	B4	277	283	465	390	356	384	433	623	546	391	396	341	4885	
	六切	297	303	397	357	380	402	411	333	20	387	342	384	4013	
	ロス				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	テスト				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総枚数	753	723	1129	953	906	969	1071	1286	1049	967	902	954	11662	

(5)ポータブル業務稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院	頭部 人数			4	2	2	4	3	2	3	0	1	1	22
	件数			4	2	2	4	3	2	3	0	1	1	22
	躯幹部 人数	636	556	650	517	635	711	616	583	508	510	495	568	6985
	件数	636	556	650	517	635	711	616	583	508	510	495	568	6985
	四肢 人数	17	4	1	8	5	19	17	9	0	6	4	6	96
	件数	17	4	2	8	5	19	17	9	0	7	4	8	100
	躯幹部造影 人数	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2	1	8
	件数	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2	1	8
	人数 合計	654	561	656	528	643	734	636	594	511	516	502	576	7111
	件数 合計	654	561	657	528	643	734	636	594	511	517	502	578	7115
稼働日数	19	20	22	20	20	22	20	23	20	21	20	20	247	
フィルム	半切	98	54	74	46	64	106	68	116	58	62	57	67	870
	B4	109	177	111	85	105	154	131	92	101	136	103	125	1429
	六切	466	342	509	417	198	519	442	420	370	334	367	397	4781
	ロス				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	テスト				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総枚数	673	573	694	548	367	779	641	628	529	532	527	589	7080

(6)パノラマ撮影室稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	パノラマ 人数	9	10	17	12	7	16	11	22	7	13	11	6	141
	件数	10	10	18	14	7	16	12	22	7	13	12	8	149
	規格撮影 人数	7	15	18	14	5	10	19	11	5	4	8	11	127
	件数	17	22	21	20	11	12	20	11	5	11	10	16	176
	断層撮影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	顎関節 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人数 合計	16	25	35	26	12	26	30	33	12	17	19	17	268
	件数 合計	27	32	39	34	18	28	32	33	12	24	22	24	325
入院	パノラマ 人数	1			0	1	1	0	0	0	1	1	1	6
	件数	1			0	1	1	0	0	0	1	1	1	6
	規格撮影 人数				0	0	0	1	4	1	0	0	3	9
	件数				0	0	0	1	4	1	0	0	3	9
	断層撮影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	顎関節 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人数 合計	1	0	0	0	1	1	1	4	1	1	1	4	15
	件数 合計	1	0	0	0	1	1	1	4	1	1	1	4	15
総人数 合計	17	25	35	26	13	27	31	37	13	18	20	21	283	
総件数 合計	28	32	39	34	19	29	33	37	13	25	23	28	340	
稼働日数	19		22	20	20	22	20	23	20	21	20	20	227	
フィルム	B4	29	35	40	36	20	31	43	48	17	25	24	33	381
	六切				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロス				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	テスト				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総枚数	29	35	40	36	20	31	43	48	17	25	24	33	381

(7)DRX線TV室稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
外 来	胃・食道造影 人数	8	10	8	11	6	4	4	10	7	6	7	6	87	
	件数	8	10	8	11	6	4	4	10	7	6	7	6	87	
	注腸造影 人数	6		10	3	4	6	4	3	12	10	3	9	70	
	件数	6		10	3	4	6	4	3	12	10	3	9	70	
	シヤント造影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腎盂・膀胱造影人数				1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	件数				1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	脊髓腔造影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ERCP 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他 人数		1	3	2	1	1	4	3	0	5	2	5	27	
	件数		1	3	2	1	1	4	3	0	5	2	5	27	
	十二指腸ファイバー人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大腸ファイバー人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
透視のみ 人数	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
件数	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人数 合計	14	11	21	17	11	11	12	16	19	21	12	20	185		
件数 合計	14	11	21	17	11	11	12	16	19	21	12	20	185		
入 院	胃・食道造影 人数	5	6	9	4	5	12	6	9	12	7	7	5	87	
	件数	5	6	9	4	5	12	6	9	12	7	7	5	87	
	注腸造影 人数	5	5	3	4	3	2	0	3	2	2	7	1	37	
	件数	5	5	3	4	3	2	0	3	2	2	7	1	37	
	シヤント造影 人数	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腎盂・膀胱造影人数				1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
	件数				1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
	脊髓腔造影 人数				1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	件数				1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	ERCP 人数	1	1		0	0	0	0	0	1	2	0	0	5	
	件数	1	1		0	0	0	0	0	1	2	0	0	5	
	その他 人数	8	7	6	4	4	11	7	5	9	6	7	4	78	
	件数	8	7	6	4	4	11	7	5	9	6	7	4	78	
	十二指腸ファイバー人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	大腸ファイバー人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
透視のみ 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
人数 合計	19	19	18	14	12	25	13	18	24	17	21	10	210		
件数 合計	19	19	18	14	12	25	13	18	24	17	21	10	210		
総人数 合計	33	30	39	31	23	36	25	34	43	38	33	30	395		
総件数 合計	33	30	39	31	23	36	25	34	43	38	33	30	395		
稼働日数	13	13	14	14	16	17	15	17	16	18	15	8	176		
フイルム	Fuji 半切	53	50	62	51	34	51	30	47	70	61	48	50	607	
	ロス		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	テスト		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総枚数	53	50	62	51	34	31746	30	47	70	61	48	50	32302	

(8)泌尿器X線TV室稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
外 来	腎盂造影 人数	1	3	1	1	2	2	1	2	3	4	2	2	24	
	腎盂造影 件数	1	3	1	1	2	2	1	2	3	4	2	2	24	
	膀胱造影 人数	23	22	37	33	32	31	32	51	31	34	32	39	397	
	膀胱造影 件数	23	22	37	33	32	31	32	51	31	34	32	39	397	
	圧測定 人数		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	圧測定 件数	4	7	11	7	7	4	7	18	6	11	6	13	101	
	その他造影 人数		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	その他造影 件数		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	膀胱ファイバー人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	膀胱ファイバー件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	透視のみ 人数				0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	透視のみ 件数				0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	人数 合計	24	26	39	34	34	34	33	53	34	38	34	41	424	
	件数 合計	28	33	50	41	41	38	40	71	40	49	40	54	525	
入 院	腎盂造影 人数				0	5	0	0	1	0	2	1	1	10	
	腎盂造影 件数				0	5	0	0	1	0	2	1	1	10	
	膀胱造影 人数	3	4	2	2	5	4	1	4	3	6	4	2	40	
	膀胱造影 件数	3	4	2	2	5	4	1	4	3	6	4	2	40	
	圧測定 人数		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	圧測定 件数	1	3	1	2	0	2	1	2	3	1	4	0	20	
	その他造影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他造影 件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	膀胱ファイバー人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	膀胱ファイバー件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	透視のみ 人数			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	透視のみ 件数			3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	人数 合計	3	4	4	2	10	4	1	5	3	8	5	3	52	
	件数 合計	4	7	6	4	10	6	2	7	6	9	9	3	73	
総人数 合計	27	30	43	36	44	38	34	58	37	46	39	44	476		
総件数 合計	32	40	56	45	51	44	42	78	46	58	49	57	598		
稼働日数	7	9	9	6	12	8	7	10	7	12	7	11	105		
フ ィ ル ム	デジタル半切	27	26	37	31	40	34	37	54	35	45	39	47	452	
	半切	2	2	4	7	2	1	1	5	1	3	4	1	33	
	ロス				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	テスト				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総枚数	29	28	41	38	42	35	38	59	36	48	43	48	485	

(9)多目的X線TV室稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
外 来	腎盂造影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	膀胱造影 人数				0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	件数				0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	圧測定 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	関節腔造影 人数				3	0	0	0	1	0	0	0	0	2	6
	件数				3	0	0	0	1	0	0	0	0	2	6
	脊髄腔造影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他造影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純四肢 人数	2			0	2	1	3	0	1	0	0	0	0	9
	件数	2			0	2	1	3	0	1	0	0	0	0	9
	断層 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ギプス 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	整復 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
透視のみ 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人数 合計	2	0	0	3	2	1	3	2	1	0	0	0	2	16	
件数 合計	2	0	0	3	2	1	3	2	1	0	0	0	2	16	
入 院	腎盂造影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	膀胱造影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	圧測定 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	関節腔造影 人数	1	4	3	2	0	0	5	3	3	3	1	0	25	
	件数	1	4	3	2	0	0	5	3	3	3	1	0	25	
	脊髄腔造影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他造影 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	単純四肢 人数				0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	件数				0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	断層 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ギプス 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	整復 人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	件数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
透視のみ 人数				0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
件数				0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
人数 合計	1	4	3	2	1	1	5	3	3	4	1	0	28		
件数 合計	1	4	3	2	2	1	5	3	3	4	1	0	29		
総人数 合計	3	4	3	5	3	2	8	5	4	4	1	2	44		
総件数 合計	3	4	3	5	4	2	8	5	4	4	1	2	45		
稼働日数	3	2	1	3	3	2	5	2	2	2	1	1	27		
フ ィ ル ム	大四切				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四切	8	21	17	25	13	1	29	21	17	9	5	15	181	
	ロス				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	テスト				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総枚数	8	21	17	25	13	1	29	21	17	9	5	15	181	

(10)CT 検査室稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外 来	頭部単純 人数	62	68	90		100	74	87	110	102	114	97	115	1019
	造影 人数		1	0	15	18	0	8	8	6	10	6	11	83
	躯幹部単純 人数	5	5	7	0	118	9	95	118	108	124	103	126	818
	造影 人数	2	3	8	8	38	14	53	59	44	52	65	63	409
	四肢単純 人数		2	0	1	6	2	3	3	0	5	1	8	31
	造影 人数			0	0	18	0	16	12	20	22	19	18	125
	人数合計	69	79	105	128	118	99	95	118	108	124	103	126	1272
入 院	頭部単純 人数	47	48	59	55	56	86	53	59	44	52	65	63	687
	造影 人数	4	4	1	18	20	8	3	3	0	5	1	8	75
	躯幹部単純 人数	8	18	18	55	56	16	16	12	20	22	19	18	278
	造影 人数	11	13	16	18	20	26	16	12	13	15	10	14	184
	四肢単純 人数		1	0	73	76	2	0	0	0	0	0	0	152
	造影 人数			0	20	20	0	0	1	0	0	0	0	41
	人数合計	70	84	94	73	76	138	88	87	77	94	95	103	1079
	稼働日数	20	20	22	20	20	22	20	23	20	21	20	20	248
	救急 4A	23	26	24	34	33	37	14	32	35	45	47	53	403
	総検査 人数	139	163	199	0	194	237	183	205	185	218	198	229	2150
フ ィ ル ム	半切	309	440	496	467	507	565	456	528	434	550	470	531	5753
	ロス	13	17	19	19	14	15	17	8	34	21	16	35	228
	テスト	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	総枚数	323	457	515	486	521	580	473	536	468	571	486	566	5982

(11)MRI 検査室稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外 来	頭部単純 人数	46	35	50	47	39	39	37	47	40	37	47	41	505
	造影 人数	10	7	14	12	5	11	15	12	10	15	7	11	129
	躯幹部単純 人数	19	18	32	27	31	21	22	32	32	30	24	27	315
	造影 人数	4	4	9	5	4	3	9	4	3	10	3	1	59
	四肢単純 人数	2	1	3	2	3	6	3	1	3	3	1	0	28
	造影 人数			1	1	1	1	3	1	2	0	2	0	12
	外来人数 合計	81	65	109	94	83	81	89	97	90	95	84	80	1048
入 院	頭部単純 人数	25	26	14	12	21	29	29	15	21	13	22	26	253
	造影 人数	6	6	9	5	7	8	1	15	4	3	6	8	78
	躯幹部単純 人数	4	6	6	4	5	10	5	3	8	5	5	8	69
	造影 人数	2	12	8	3	6	7	1	9	2	4	1	5	60
	四肢単純 人数		1	3	0	0	1	0	0	1	2	1	2	11
	造影 人数			0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3
	入院人数 合計	37	51	40	25	39	55	36	43	36	27	36	49	474
	総人数合計	118	116	149	119	122	136	125	140	126	122	120	129	1522
	稼働日数	19	20	0	20	18	22	20	19	19	20	20	19	216
フ ィ ル ム	半切	597	591	760	630	620	705	653	710	632	628	599	657	7782
	ロス	9	2	5	4	1	2	3	3	0	2	0	2	33
	テスト	12		2	2	0	1	0	6	0	0	5	0	28
	総使用枚数	618	593	767	636	621	708	656	719	632	630	604	659	7843

(12)核医学検査室稼働状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
レノグラム (動態)	10	8	21	8	16	12	24	51	7	8	10	16	191
腎静態 (SPECT)	6	2	4	6	5	7	3	13	9	12	9	7	83
骨 シンチ (全身)	1	2	3	2	4	1	1	3	3	2	1	1	24
腫瘍シンチ (全身)	1		2	1	3	0	1	1	2	4	4	1	20
心筋シンチ (SPECT)	1	1	6	2	2	2	1	2	2	0	6	2	27
脳血流 (SPECT)	2	5	3	1	1	0	3	2	3	5	5	1	31
肺血流 (静態)	4		9	4	10	8	10	7	3	0	6	2	63
肺換気 (静態)			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
肝胆道 (静態)	1			0	0	2	1	0	1	0	0	0	5
出血・メッケル (動態)	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	7
甲状腺 (静態)			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他				0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
稼働日数	11	10	20	11	17	19	19	21	14	15	19	13	189
外来人数 合計	22	12	34	16	13	18	32	75	21	21	30	26	320
入院人数 合計	5	7	16	8	13	16	12	5	10	10	12	5	119
総検査人数	27	19	50	24	41	34	44	80	31	31	42	31	454
内SPECT人数	9	3	13	3	8	2	7	17	14	12	21	10	119
半切	36	23	67	35	52	47	53	97	45	46	62	41	604
ロス	3	1	2	1	1	0	0	3	0	0	0	2	13
テスト				0	0	0	0	0	0	0	0	15	15
総使用枚数	39	24	69	36	53	47	53	100	45	46	62	58	632
カラー使用枚数	68	29	126	68	67	63	75	109	97	65	138	64	969
ロス	3	1	28	0	4	1	1	2	5	5	12	0	62
テスト				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総使用枚数	71	30	154	68	71	64	76	111	102	70	150	64	1031

(13)血管造影検査室

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
心	臓血管造影	29	29	31	25	33	27	28	31	17	18	26	26	320	
内 訳	CCAOG				0	2	0	1	2	0	0	0	0	5	
	BAS			2	1	1	2	2	2	3	0	0	2	15	
	PDA塞栓術		1	1	1	0	1	0	2	0	1	0	0	7	
	MAPCA塞栓術		5	2	1	1	0	1	3	3	1	1	0	18	
	BVP	2			0	2	3	2	2	0	0	2	2	15	
	BAP	4	3		1	0	0	4	5	1	4	4	5	31	
	ステント留置術			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	気管支鏡			1	2	0	2	2	0	1	0	0	0	8	
	IVAS				1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	Vライン	1			0	1	0	0	0	0	0	1	0	3	
	心筋生検	1			0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	経食道エコー	4	4	2	3	3	6	4	4	3	3	5	3	44	
	バルーン再拡張				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
コイル塞栓術				1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	フィルム使用枚数	102	98	93	83	106	90	93	94	52	53	85	84	1033	
頭	部血管造影	3		6	1	2	1	0	1	3	0	2	5	24	
内 訳	コイル塞栓術				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	抗癌剤動注				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	フィルム使用枚数	32		58	12	20	5	0	6	28	0	18	42	221	
腹	部血管造影		1		0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	
内 訳	経脾門脈造影				0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	PSE				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	肝動脈塞栓術				0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	抗癌剤動注				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	気管支鏡				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	内視鏡				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	コイル塞栓術				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		フィルム使用枚数		8		0	0	0	3	0	0	0	0	6	17
四	肢血管造影		1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
そ	の他の造影				1	0	0	0	2	0	1	1	0	5	
内 訳	僧房弁の動き			1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	気管支造影				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		フィルム使用枚数				0	0	0	0	2	0	0	0	2	
	全身麻酔	30	29	32	21	29	27	28	28	19	17	26	31	317	
	静脈麻酔			2	0	1	1	1	0	0	0	0	1	6	
	総検査人数	32	31	37	27	35	28	29	34	20	19	28	32	352	
	稼働日数	17	19	22	18	19	19	16	19	13	11	17	20	210	
	総照射回数	476	464	422	373	484	361	433	488	289	239	388	490	4907	
	総透視時間	771	856	905	811	907	696	944	1194	539	329	673	674	9299	
フ ィ ル ム	ロス	1	1	3	0	4	4	1	0	0	0	2	1	17	
	テスト			8	0	0	0	0	2	0	0	1	0	11	
		使用枚数	134	106	151	0	0	95	96	102	0	0	103	132	919
		総使用枚数	135	107	162	95	130	99	97	104	80	53	106	133	1301

(14)放射線治療室稼働状況

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
新患治療患者	外来	人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	人数	2		1	1	0	1	1	2	2	1	0	0	11
治療計画 CT/Focus	外来	人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	人数	3		1	1	0	1	0	2	2	1	0	0	11
X線シュミレーター	外来	人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院														
全照射 (X線+電子線)	外来	延人数				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院		32	13	6	18	0	7	26	21	14	15	1	0	153
全身照射人数含む	合計		33	13	7	20	1	8	27	24	17	16	2	0	168
X線照射	門数		100	74		36	4	21	70	30	28	30	2	0	395
電子線照射	門数					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
稼働日数			18	12	8	18	3	7	20	20	13	15	3	0	137
月別人数			2		2	1	1	1	2	3	2	2	1	0	17
部位別人数	頭部		1			0	0	1	0	0	1	1	0	0	4
	頭頸部					1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	躯幹部		1		1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	5
	四肢部					0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
全身照射	人数		1		1	1	1	0	1	1	1	0	1	0	8
	門数		2		4	12	2	0	8	10	0	0	4	0	42
フィルム使用量	半切		2		3	0	0	0	0	2	1	1	0	0	6
	B4		5		2	1	0	2	2	1	1	0	0	0	7
全身照射	半切					0	16	0	0	0	0	0	0	0	16
	B4					2	0	3	0	3	0	0	0	0	8
	総使用枚数		7	0	5	3	16	5	2	6	2	1	0	0	47

(15)超音波検査室稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	胸腹部 人数	188	175	282	211	185	189	233	313	220	208	213	205	2622
	表在部 人数	15	12	17	15	9	12	14	13	14	12	19	20	172
	人数 合計	203	187	299	226	194	201	247	326	234	220	232	225	2794
入院	胸腹部 人数	42	24	32	25	34	33	43	34	27	37	44	41	416
	表在部 人数		7	1	0	1	1	2	2	2	7	6	4	33
	人数 合計	42	31	32	25	35	34	45	36	29	44	50	45	448
	総人数 合計	245	218	331	251	229	235	292	362	263	264	282	270	3242
	稼働日数	19	20	22	20	20	22	20	23	20	21	20	20	247
フィルム	六切TM1B	546	471	663	492	412	492	641	745	567	545	569	512	6655
	六切TS2C(カラー)	3	5	1	1	0	2	0	0	2	0	8	4	26
	ロス				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	テスト				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総枚数	549	476	664	493	412	494	641	745	569	545	577	516	6681

(16)DUP稼働状況

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
コピー	人数	25	24	24	36	18	30	36	30	28	23	41	26	341
	件数	25	24	24	36	18	30	36	30	28	23	41	26	341
	稼働日数	19	20	22	20	20	22	20	23	20	21	20	20	247
フィルム	半切	89	47	121	55	48	103	107	188	71	79	93	71	1072
	大四切	8	15	16	6	9	26	12	5	6	7	21	42	173
	四切	5	3	2	2	2	0	15	3	1	0	2	5	40
	六切	6	6	20	10	6	18	8	2	5	6	5	22	114
	ロス			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	テスト			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総使用枚数	108	71	159	73	65	147	142	198	83	92	121	140	1399

(17)骨塩定量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来人数	6	4	7	3	4	4	5	7	5	4	1	4	54
入院人数	0	1	1	1	1	0	1	2	1	1	1	0	10
合計	6	5	8	4	5	4	6	9	6	5	2	4	64
稼働日数	6	5	5	4	5	4	6	9	6	5	2	4	61

(18)救急関連患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
胸部撮影室	3	0	13	0	9	2	0	4	2	6	12	5	56
外科撮影室	21	17	28	0	34	17	19	14	32	38	39	28	287
ポータブル	40	38	38	27	35	59	41	30	38	64	44	77	531
超音波	11	7	14	9	4	5	11	10	10	7	13	14	115
D Rテレビ室	1	2	4	0	1	1	4	3	0	1	0	5	22
多目的テレビ室		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器テレビ室		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C T室	23	26	22	34	33	37	14	32	35	30	47	53	386
M R I室	0	4	0	34	3	1	10	2	3	2	2	15	76
合 計	99	94	119	104	119	122	99	95	120	148	157	197	1473

放射線科業務統計(診断部門) (読影件数は他院依頼も含む)

検査	件数
CT 読影	1965
単純造影	269
3D	149
CTC 等	6
MRI 読影	1182
単純造影	339
MRA	56
MRCP 等	4
RI 読影	454
単純写真読影	446
胸部	40
腹部	700
骨等	
超音波検査 (ドブラ)	3287
透視検査	195
UGI	137
注腸検査	88
VF	22
ED チューブ挿入	34
イレウス管挿入	4
異物除去	8
その他	19
IVR	4
腎瘻造設術	2
血管造影	1
血管塞栓術	2
エコー下生検	

26. 検査・放射線部（検査部門）

1) 検査部門の人事異動

- 【転出者】主 査 安福 万紀子 県立西宮病院へ (平成18年4月1日付け)
 主 任 甲元 明枝 県立尼崎病院へ (平成18年4月1日付け)
 【転入者】担当課長補佐 石川 妙子 県立成人病センターから (平成18年4月1日付け)

2) 活動状況

本年度検査部門が実施した活動を以下に示す。

効果的な院内感染対策活動

- ・感染対策チーム（ICT）委員として実地観察と状況分析を行い、感染対策の実践を指導した。
 - ・院内感染予防講習会では「手洗いの実践検証」など講義した。
 - ・院内細菌分離週報、MRSA 保菌者の推移、MRSA 遺伝子型分析など、院内耐性菌情報を定期的に院内に発信
 - ・安全な病棟管理を目指し、水痘など院内流行性感染症発生情報を発信院内に発信
- #### 安全な輸血医療
- ・輸血療法委員会事務局を検査部門に設置
 - ・輸血検査と輸血用血液製剤管理業務を検査部門に一元化 (平成18年6月)
 - 診療支援、患者サービスの向上
 - ・機器と検査技師による血液型ダブルチェックを24時間体制で開始 (平成18年2月)
 - ・病棟予約検査の採用により、採血管の前日準備と病棟配送を開始 (平成18年4月)
 - 医療事故防止の強化
 - ・定例的に検査部内事故防止委員会を開催し、ニアミスの集計、原因分析、対応策を周知
 - ・始業前の朝の会で準夜・深夜時間帯の検査実施状況の確認、ヒヤリハット情報の共有
 - ・検体受付時の照合、確認を徹底し、検体取り違えの防止を強化する。

資質向上と教育

- ・検査部内勉強会の充実（本年は4回：5演題実施）
- ・口述発表：2題（学会：2題、検査技師講習会：1題）
- ・感染対策の技術向上を目的として病院検査室定点観測点技術者研修会へ参加
- ・地域検査技術講習会（血液形態学セミナー）へ講師を派遣
- ・検査技術科学専攻学生臨地実習の受け入れと指導
 神戸大学医学部保健学科（初期体験実習：2名、選択実習：2名）
 常盤短期大学衛生技術科（臨地実習：2名）

3) 来年の展望と予定

- ・検査オーダリングシステムの実用化に向けて取り組む。
- ・輸血用血液製剤の効率的利用、赤血球製剤廃棄率の低減化をさらに進める

(1) 平成18年検査件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	一般	5,264	4,981	6,967	5,310	4,858	5,056	6,264	8,304	5,430	5,184	5,484	5,469	68,571
	血液	6,076	5,802	7,271	6,436	6,210	6,391	6,659	8,017	5,779	6,164	6,356	6,839	78,000
	細菌	427	495	433	418	450	445	438	436	362	410	399	432	5,145
	血清	1,468	1,412	1,785	1,486	1,556	1,698	1,838	1,838	1,420	1,472	1,642	1,582	19,197
	生化学	11,788	11,344	14,076	12,494	12,251	12,259	13,098	15,824	11,070	12,481	13,189	13,272	153,146
	病理	16	25	24	11	30	15	20	16	14	32	31	20	254
	生理	867	896	1,464	1,040	842	919	1,048	1,674	973	954	840	970	12,487
	内分泌	1,018	816	275	1,092	955	958	928	1,415	990	945	925	1,019	11,336
	ウイルス	485	350	352	526	489	564	549	570	480	541	685	648	6,239
	特殊検査セット	28	6	11	6	4	7	7	10	3	5	10	4	101
合計	27,437	26,127	32,658	28,819	27,645	28,312	30,849	38,104	26,521	28,188	29,561	30,255	354,476	
入院	一般	3,217	3,083	3,346	2,949	3,458	3,636	3,690	3,394	2,409	3,038	2,953	3,436	38,609
	血液	11,312	10,593	12,518	11,712	12,171	12,865	11,486	11,445	9,853	10,387	10,507	11,675	136,524
	細菌	2,160	1,878	2,258	2,063	2,253	2,561	2,428	2,370	2,000	2,447	2,290	2,574	27,282
	血清	2,917	2,518	2,960	2,809	2,945	3,082	2,785	2,785	2,384	2,690	2,625	2,983	33,483
	生化学	21,252	19,241	22,643	20,210	21,401	21,409	21,126	20,033	18,088	19,538	19,267	21,534	245,742
	病理	141	123	232	262	197	182	203	153	83	50	42	199	1,867
	生理	254	253	246	247	269	291	260	262	220	221	252	247	3,022
	内分泌	259	416	1,027	209	260	402	394	337	462	276	338	474	4,854
	ウイルス	177	173	501	325	392	423	372	314	286	369	348	377	4,057
	特殊検査セット	21	25	14	23	28	9	21	27	19	15	24	18	244
合計	41,710	38,303	45,745	40,809	43,374	44,860	42,765	41,120	35,804	39,031	38,646	43,517	495,684	
総数	一般	8,481	8,064	10,313	8,259	8,316	8,692	9,954	11,698	7,839	8,222	8,437	8,905	107,180
	血液	17,388	16,395	19,789	18,148	18,381	19,256	18,145	19,462	15,632	16,551	16,863	18,514	214,524
	細菌	2,587	2,373	2,691	2,481	2,703	3,006	2,866	2,806	2,362	2,857	2,689	3,006	32,427
	血清	4,385	3,930	4,745	4,295	4,501	4,780	4,623	4,623	3,804	4,162	4,267	4,565	52,680
	生化学	33,040	30,585	36,719	32,704	33,652	33,668	34,224	35,857	29,158	32,019	32,456	34,806	398,888
	病理	157	148	256	273	227	197	223	169	97	82	73	219	2,121
	生理	1,121	1,149	1,710	1,287	1,111	1,210	1,308	1,936	1,193	1,175	1,092	1,217	15,509
	内分泌	1,277	1,232	1,302	1,301	1,215	1,360	1,322	1,752	1,452	1,221	1,263	1,493	16,190
	ウイルス	662	523	853	851	881	987	921	884	766	910	1,033	1,025	10,296
	特殊検査セット	49	31	25	29	32	16	28	37	22	20	34	22	345
合計	69,147	64,430	78,403	69,628	71,019	73,172	73,614	79,224	62,325	67,219	68,207	73,772	850,160	

(2) 平成18年生理検査状況

		心電図検査	マスター負荷心電図	トレッドミル負荷心電図	ホルター心電図	心音図	心臓超音波	脳波検査	脳誘発検査(ABR)	その他(ERG等)	周産期エコー胎児エコー	合計
平成15年度		5,245	2,695	53	138	0	5,039	992	363	32		14,557
平成16年度		5,222	2,902	40	129	1	5,269	993	557	58		15,171
平成17年度		5,042	2,669	47	111	0	5,358	677	768	52	604	15,328
平成18年度		5,161	2,495	88	121	0	5,276	685	637	63	983	15,509
平成18年度月別内訳	1月	402	130	4	8	0	350	56	80	6	85	1,121
	2月	427	118	8	12	0	377	44	63	6	94	1,149
	3月	519	356	7	6	0	608	53	54	8	99	1,710
	4月	433	228	7	7	0	462	68	43	7	32	1,287
	5月	401	145	4	11	0	376	61	51	4	58	1,111
	6月	442	148	6	6	0	429	43	49	2	85	1,210
	7月	391	258	4	9	0	439	48	68	6	85	1,308
	8月	432	556	14	22	0	701	81	46	8	76	1,936
	9月	466	107	14	6	0	392	49	48	4	107	1,193
	10月	442	129	9	13	0	381	62	50	3	86	1,175
	11月	402	115	5	10	0	359	57	49	2	93	1,092
	12月	404	205	6	11	0	402	63	36	7	83	1,217
	合計	5,161	2,495	88	121	0	5,276	685	637	63	983	15,509

(3) 平成18年職員健康診断

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一般													
血液	14				64								78
細菌	58	58	73	76	70	136	136	142	145	142	70	70	1,176
血清					1210								1,210
生化学					1176								1,176
合計	72	58	73	76	2520	136	136	142	145	142	70	70	3,640

(4) 日、当直 検査件数

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
血液一般	496	394	490	530	624	482	487	492	430	428	485	569	5,907
凝固機能	168	140	149	174	145	167	154	160	127	127	151	175	1,837
生化学	487	368	473	502	585	507	495	513	447	460	513	625	5,975
髄液細胞数	3	1	4	2	9	10	1	13	7	6	8	7	71
肝炎・感染症	28	20	23	22	28	29	12	23	20	21	21	27	274
ウイルス抗原	91	64	39	18	11	19	8	2	2	3	12	24	293
細菌培養	16	9	14	16	11	114	84	105	87	111	105	143	815
血液型	40	25	25	36	50	38	33	50	23	37	39	52	448
クロスマッチ	35	52	34	40	39	35	65	46	22	22	20	36	446
照射赤血球 (払出)						21	43	34	16	24	14	27	179
新鮮凍結血漿 (払出)						30	36	36	19	18	15	26	180
照射濃厚血小板 (払出)						22	26	23	17	24	17	29	158
件数合計	1,364	1,073	1,251	1,340	1,502	1,474	1,444	1,497	1,217	1,281	1,400	1,740	16,583

依頼人数	672	517	595	614	700	666	726	677	594	589	636	806	7,792
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

(5) 細菌検査統計

材料別検査件数

	件数
膣分泌物	2,432
気管洗浄液	1,950
咽頭粘液	1,137
尿	429
血液培養	1,059
GBS 増菌培養	595
トリコモナス	91
インフルエンザウイルス抗原	634
ロタ・アデノウイルス抗原(便)	284
アデノウイルス抗原(咽頭)	142
RSウイルス抗原	142
CD-1抗原	24
鼻腔粘液	873
喀痰	436
その他	1,058
便	524
IVH 先端	287
悪露	303
子宮内腔	254
ドレーン排液・チューブ	272
膿(開放・非開放)	134
臍帯血	22
羊水	8
髄液	132
耳漏	54
穿刺液	5
胸・腹水	11
合計	13,292

細菌分離菌内訳

	菌名	分離株数	分離頻度(%)
グラム陽性菌	腸球菌	152	8
	黄色ブドウ球菌(MRSA)	105	9
	B群溶血性連鎖球菌	136	9
	黄色ブドウ球菌(MSSA)	169	11
	表皮ブドウ球菌	178	11
	その他の連鎖球菌	15	1
	肺炎球菌	20	1
	その他のブドウ球菌	63	4
	A群溶血性連鎖球菌	3	0
	小計	841	54
グラム陰性菌	緑膿菌	113	7
	大腸菌	119	8
	クレブシエラ	103	7
	ガードネレラ	81	5
	アシネトバクター	94	6
	エンテロバクター	79	5
	その他の非発酵菌	24	1
	ヘモフィルス	16	1
	マルトフィリア	6	0
	セラチア	16	1
セパシア	4	0	
シトロバクター	8	0	
プロテウス	5	0	
モルガネラ	3	0	
ブランハメラ	9	0	
キャンピロバクター	1	0	
サルモネラ	1	0	
小計	682	43	
その他の菌	44	3	
総計	1,567	100	

真菌分離内訳

菌名	分離株数	分離頻度(%)
アルピカンス	94	70
グラブラータ	29	21
パラブシロシス	2	2
トロピカーリス	4	3
その他	5	4
総計	134	100

主要菌種の内外別薬剤感受性率 ***薬剤名

MPIPC	オキサシリン	EM	エリスロマイシン	FMOX	フロモキシセフ	CTX	セフォタキシム
ABPC	アンピシリン	CLDM	クリンダマイシン	ST	ST合剤	AMK	アミカシン
PIPC	ピペラシリン	ABK	アルベカシン	CAZ	セフトジチム	AZT	アザクタム
CEZ	セファゾリン	MINO	ミノサイクリン	CPZ	セフォペラゾン	TOB	トブラマイシン
CTM	セフォチアム	VCM	バンコマイシン	CPR	セフピロム	CAM	クラリスロマイシン
CMZ	セフメタゾール	FOM	ホスホマイシン	SBT/CPZ	スルバクタム・セフォペラゾン	CDTR	セフジニール
MEPM	メロペネム	CCL	セファクロール	A/C	アモキシリン・クラブラン酸		
IPM	イミペネム	GM	ゲンタマイシン	LVFX	レボフロキサシン		

病棟別薬剤感受性率

グラム陰性菌

菌種	薬剤	株数	AMK	AZT	CAZ	CCL	CEZ	CFPN	CTX	CZOP	FMOX	FOM	GM	LVFX	ABPC	MEPM	PIPC	ST
E.coli		119	99	100	98	90	89	99	99	98	98	79	85	83	50	100	56	76
Kl.pneumoniae		85	99	100	100	97	97	54	100	100	98	6	100	100	7	100	43	98
Ent.cloacae		63	100	45	61	0	0	10	63	92	3	55	100	100	0	100	60	97
Ser.marcescens		16	100	80	81	0	0	0	81	100	63	20	94	100	6	100	81	94
Ps.aeruginosa		113	96	89	95				100	98		11	88	95		92	96	

グラム陽性菌

菌種	薬剤	株数	ABPC	EM	MINO	VCM	LVFX	CDTR	ABK	CAM	CEZ	CLDM	GM	MEPM	TEIC
Ec.faecalis		129	100	1	28	100	96							77	97
S.aureus(MSSA)		169	99	85	98	100	89	91	100	86	99	98	77	98	100
S.aureus(MRSA)		105	0	7	58	100	14	0	99	14	0	13	52	0	97
S.epidermidis(MRSE)		89	50	33	98	100	33	3	94	36	3	55	27	3	97
S.epidermidis		21	100	87	81	100	94	100	100	86	94	87	81	100	94

材料別分離菌

【腔分泌物 2432件】

第1位	起炎菌認めず・細菌認めず	1122株	46.2%
第2位	カンジダアルピカンス	210株	8.7%
第3位	ガードネレラ菌	175株	7.2%
第4位	陽球菌	81株	3.4%
第5位	大腸菌	69株	2.9%
	* GBS 陽性率	173/595件	29.1%

【気管洗浄液 1950株】

第1位	正常細菌叢・細菌認めず	491株	25.2%
第2位	アシネトバクター	311株	16.0%
第3位	緑膿菌	193株	9.9%
第4位	CNS	189株	9.7%
第5位	肺炎桿菌	115株	5.9%

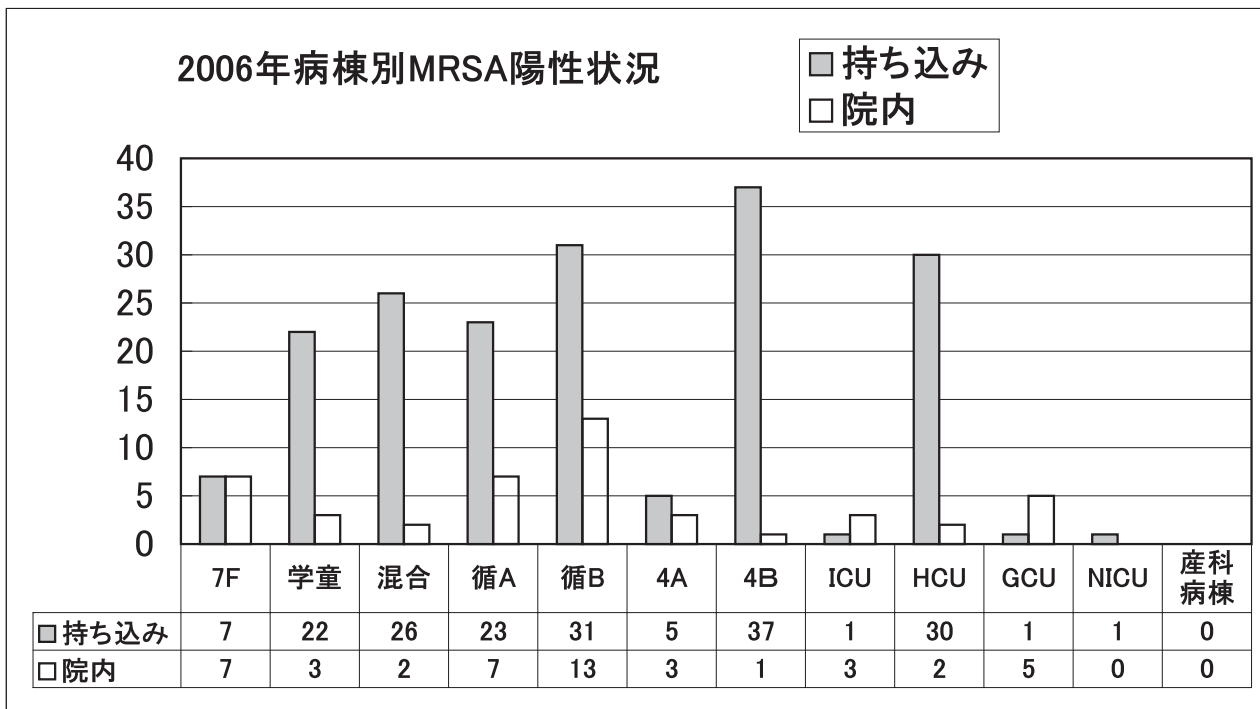
【血液培養 845件】

第1位	細菌認めず	801株	94.8%
第2位	CNS	14株	1.7%
第3位	Bacillus sp	8株	1.0%
第4位	大腸菌	5株	0.6%
第4位	黄色ブドウ球菌	4株	0.5%

2006年における当院の耐性菌について

- ・VRSA および VRE の検出菌はなし。
- ・PRSP は3例検出され、喀痰2例、静脈血1例の分離であった。
- ・多剤耐性緑膿菌は検出なし
- ・ESBLs が7例検出された。(尿4例、悪露1例、静脈血1例、気管洗浄液1例)
- ・耐性ヘモフィルス菌 (BLNAR) が8例検出され、内2例は血液由来であった。

MRSA陽性入院患者発生届け票より



2006年は全病棟で230件のMRSA陽性の入院発生届出あり
 全陽性のうち、持ち込み184件（80%）、院内46件（20%）

【材料別MRSA検出状況】

- 鼻腔 94%
- 気切チューブ 2%
- 膿 2%
- IVH.咽頭 1%

27. 薬 剤 部

1 薬剤部員異動

(平成18年4月1日付)

【転出者】主 任	村田 和歌子	県立成人病センター	(平成18年4月1日付)
技術吏員	前原 大輔	県立西宮病院	(平成18年4月1日付)
【転入者】主 査	福田 朝恵	県立姫路循環器病センター	(平成18年4月1日付)
技術吏員	上野 陽介	薬務課	(平成18年4月1日付)

2 平成18年活動報告

平成18年の入院調剤は昨年と比較して患者数減少に伴う処方せん枚数3.8%減、外用調剤増加に伴う延調剤数9.7%増、入院注射処方オーダーリングによる払出方法の変更（総日数 1日）に伴う注射薬処方せん枚数20.7%増となった。

外来調剤は院外処方せん発行に伴う処方せん枚数が9.4%減、延調剤数が17.6%減、注射薬処方せん枚数8.1%増となった。

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 入院注射処方オーダーリングの実施

手書き記載による記載ミスや記載漏れを防ぎ、安全性を向上させ、電子媒体での情報伝達による業務の迅速化・効率化を図ることを目的に平成18年10月23日（月）から入院注射処方オーダーリングを開始した。

医師が処方発行する時に医薬品の添付文書情報が閲覧でき、薬剤師の調剤過誤を防止するため処方せんの下部に医薬品の集計表を出力させたり、看護師の施行誤りを防止するためワークシートを出力したりと安全性のさらなる向上に努めた。

(2) 薬剤部ホームページの開設

医薬品に係る様々な問い合わせを掲載したり、公的機関へのリンクを添付し、医療スタッフへの積極的な情報提供に努めた。

(3) がん化学療法レジメン処方オーダーリングの実施

抗がん剤による医療事故を防止することを目的に平成18年12月18日（月）から化学療法レジメンオーダーリングを開始した。

抗がん剤のレジメンが登録されているため、抗がん剤の処方漏れや処方誤りが防止でき、安全性のさらなる向上に努めた。

(4) 抗がん剤及び高カロリー輸液の無菌調製業務（1,452件 2,669件）

従来、外来や病棟で医師及び看護師が調製していた抗がん剤や高カロリー輸液の無菌調製を薬剤部に設置の安全キャビネットで薬学的に実施することで安全性、無菌性、確実性、コスト減を図った。

効率的使用により医薬品の節減が約105万円図ることができた。

(5) 薬剤管理指導業務の拡充（3,066件 3,360件）

患者様やご家族の方への説明資料の充実を図るとともに、服薬指導マニュアルの充実を図り、後進への指導育成を行った。

カンファレンスに参加し、医師・看護師に医薬品情報や患者情報を積極的に提供することで、病棟薬剤師としての活動を充実させた。

(6) 専門薬剤師の育成

治験コーディネーター業務、ICT、NST 活動への参加を実施するなかで、専門薬剤師の育成を図り、基盤作りに努めた。

3 来年の展望と予定

D P C 導入に向けた準備、治験体制の充実及びネット事業への参画等を積極的に実施していく予定である。

18年年報

(1) 調剤件数

区 分	処方箋枚数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入 院	32,903	53,115	60,515	299,662	39,762	47,162	250,543	13,353	13,353	49,119
外 来	7,381	14,025	37,090	264,159	9,372	32,437	216,105	4,653	4,653	48,054
計	40,284	67,140	97,605	563,821	49,134	79,599	466,648	18,006	18,006	97,173
一日平均	164.4	274.01	398.4	2,301.3	200.5	324.9	1,904.7	73.5	73.5	396.6

(2) 注射薬取扱件数

区 分	注 射 薬	
	処方箋枚数	延本数
入 院	50,105	450,950
外 来	4,220	5,767
計	54,325	456,717
一日平均	221.7	1,864.2

(3) 薬剤管理指導料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	88	103	120	97	121	124	114	127	124	141	119	135	1,413
心外・循内	81	68	80	70	83	89	88	97	88	93	88	83	1,008
血 内	74	79	72	73	79	78	77	82	70	90	76	89	939
計	243	250	272	240	283	291	279	306	282	324	283	307	3,360

(4) 退院指導料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	25	16	36	25	21	10	11	34	28	33	32	39	310
心外・循内	24	27	27	26	21	25	24	36	28	34	28	32	332
血 内	3	5	5	2	2	5	3	17	5	8	9	3	67
計	52	48	68	53	44	40	38	87	61	75	69	74	709

(5) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	486	441	488	419	479	469	442	512	403	448	447	498	5,532

(6) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	163	112	152	101	110	128	136	133	153	135	143	145	1,611
高カロリー	55	72	128	77	66	108	112	86	81	119	87	67	1,058
計	218	184	280	178	176	236	248	219	234	254	230	212	2,669

(7) 院内D I 業務

電子メールによる情報提供

送 信 日	件 名
2006. 1.16	薬事委員会結果；後発医薬品切り替えについて
2006. 1.23	薬事委員会結果；ゾピラックス錠200からピクロックス錠200への変更について
2006. 1.23	薬事委員会結果；ドブトレックス注射液100mg からドブタミン H 注射液への変更について
2006. 2. 1	医薬品・医療用具等安全性情報 No.221
2006. 2. 9	薬事委員会結果；ガスター注射用10mg からファモチジン注射用10「SW」への変更について
2006. 3. 1	医薬品・医療用具等安全性情報 No.222
2006. 3.22	薬事委員会結果；フルメトロン0. 1からフルオロメトロン0. 1「テイカ」への変更について
2006. 3.28	医薬品・医療用具等安全性情報 No.223
2006. 6. 1	医薬品・医療用具等安全性情報 No.224
2006. 6.28	医薬品・医療用具等安全性情報 No.225
2006. 8. 2	医薬品・医療用具等安全性情報 No.226
2006. 8. 4	医薬品名の変更；メリアクト錠100からメリアクト MS100mg への変更について
2006. 8. 9	平成18年7月第一回薬事委員会結果報告
2006. 9. 1	医薬品・医療用具等安全性情報 No.227
2006. 9.29	医薬品・医療用具等安全性情報 No.228
2006.10.30	平成18年10月第二回薬事委員会結果報告
2006.11. 2	医薬品・医療用具等安全性情報 No.229
2006.11.27	狂犬病に関する情報について
2006.12. 4	医薬品・医療用具等安全性情報 No.230
2006.12. 5	薬事委員会結果；ソル・メドロール40からソル・メルコート40及び注射用エフオーワイ100からレミナロン注射用100mg への切り替えについて
2006.12.11	薬事委員会結果；ソル・メドロール500からソル・メルコート500への切り替えについて
2006.12.25	薬事委員会結果；ソル・メドロール125からソル・メルコート125への切り替えについて

主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
・注射薬配合変化について	・注射薬溶解後の安定性について
・注射薬のフィルター透過性について	・食品と薬剤の相互作用について
・内服薬の飲み易い飲み方について	・冷所保存医薬品の常温での安定性について
・外用薬の開封後の安定性について	・抗がん剤の適切な投与方法について
・同効薬の力価換算について	・注射薬の副作用について
・血液製剤の投与方法について	

(8) 薬物の血中濃度測定

	抗 て ん かん 薬			ジゴキシン	メソトレキセート	総検体数	
	フェニバル	カルバマゼピン	バルプロ酸				
18年	90	120	139	21	85	1,353	
平成18年の月別内訳	1月	8	9	16	2	6	101
	2月	4	17	16	0	14	109
	3月	3	7	20	5	3	104
	4月	10	7	16	4	1	91
	5月	3	11	15	4	0	102
	6月	6	7	14	4	0	124
	7月	9	7	16	0	8	98
	8月	13	22	28	1	11	158
	9月	10	6	17	0	7	89
	10月	8	10	26	1	10	119
	11月	9	7	23	0	0	110
	12月	7	10	23	0	25	148

(9) 院内製剤

内用液剤

製 剤 名	製剤量 (単位 / ml)
内服用ルゴール液	60

軟 膏

製 剤 名	製剤量 (単位 / g)
バリアー	170,000
10%テストステロン軟膏	720
0.4%エストラジオール軟膏	3,000

外用液剤

製 剤 名	製剤量 (単位 / ml)
アセモトール	12,000
1/2カプトドロップ	1,920
0.5%アトロピン点眼	250
25%グリセリン液	14,000
2%ボール水	5,000
20%硝酸銀	80
30%硝酸銀	190
40%硝酸銀	45
10%ピオクタニン青液	150
0.2%ピオクタニン青液	300
30%アルコール	500
50%アルコール	500
ツェンテール液	200

予製剤

製 剤 名	製剤量 (単位 / g)	製 剤 名	製剤量 (単位 / g)
(倍散 倍散)		インデラル散 (×100)	150
0.01%ジゴシン散	1,500	ワーファリン (×500)	10,500
(錠 散)		メキシチール散 (×10)	200
10%イムラン散	50	プロタノールS散	60
コートリル散(×20)	900	ロングス散 (×100)	3,000
0.1%デカドロン散	400	フロリネフ散 (×1000)	100
ポラキス散(×100)	600	グリチロン散	480
ドルナー散(×50000)	10,000		

28. 栄養指導課

1. 栄養指導課員の異動

- [転出者] 主任調理員 松本 慶子 (平成18年3月31日付) (県立成人病センターへ)
- [退職者] 技術吏員 (管理栄養士) 勝 俊子 (平成18年12月31日付)
- [転入者] 主任調理員 北谷 剛章 (平成18年4月1日付) (県立成人病センターから)

2. 平成18年の活動

平成18年の主な活動報告として以下の点が上げられる。

- ・栄養管理実施加算の取得
- ・NSTプロジェクト部会を立ち上げNST (チーム医療) への取り組み推進。
- ・医療事故防止対策の充実 (医療事故防止標準マニュアルの活用)
- ・外来患者様を対象とした待ち時間を有効利用して「栄養知識の普及啓蒙」を図る為の「栄養と食生活の絵本展」の開催。計6回開催。
- ・アレルギー児の両親対象の勉強会「両親教室」への参画
- ・第4回県立病院学会発表
「小児専門病院における栄養状態の評価と栄養管理法の検討」

3. これからの展望

平成19年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養指導課の基盤整備と患者サービスの向上を中心に業務を推し進める。

- ・NST (チーム医療) の稼働 (平成19年4月1日)
- ・適時適温給食の実施に向けての取り組みを推し進める。
- ・小児救急医療センター (仮称) における対応について
- ・医療事故防止対策に関する取り組み。(ひやりはっと報告)
- ・褥瘡対策プロジェクト及びクリニカルパス委員会に積極的な参画を実施する。
- ・IT化の推進 (栄養給食関係オーダーリングシステムの構築等)
- ・アレルギー児の両親対象の勉強会「両親教室」への参画
- ・「ひょうご食の健康大作戦」の中のひとつとしての「食育」の推進を図る。
「栄養と食生活の絵本展」の開催
「食べ物の育ちを感じる能力」を養うため地産地消に関する情報を提供する。
- ・知識や技能の資質を向上させるための課内研修会の充実。
- ・栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な発表。

4. 給食

(1) 調製乳・食事月別延数

1) 患者

調製乳人員

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
調乳のみ人員		2,315	1,942	2,476	2,136	2,152	2,202	2,112	1,775	1,718	1,979	2,080	2,382	25,269	66.1
調乳・食事人員(調乳)		402	475	464	360	340	378	321	302	256	291	231	196	4,016	10.5
小計		2,717	2,417	2,940	2,496	2,492	2,580	2,433	2,077	1,974	2,270	2,311	2,578	29,285	76.5
調乳・食事人員(食事)		704	686	687	659	812	824	850	699	705	806	737	803	8,972	23.5
計		3,421	3,103	3,627	3,155	3,304	3,404	3,283	2,776	2,679	3,076	3,048	3,381	38,257	100.0

(注)調乳・食事人員.....調製乳と食事が重複するもの

加算・非加算調乳人員

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
加算調乳人員		236	247	292										775	2.0
非加算調乳人員		3,185	2,856	3,335	3,155	3,304	3,404	3,283	2,776	2,679	3,076	3,048	3,381	37,482	98.0
計		3,421	3,103	3,627	3,155	3,304	3,404	3,283	2,776	2,679	3,076	3,048	3,381	38,257	100.0

調製乳種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
13%レーベンスミルク		13,577	12,027	13,466	12,322	11,556	12,644	11,958	10,055	9,388	11,047	11,861	13,558	143,459	49.8
15%LW		6,211	5,364	5,840	5,640	7,553	6,835	6,288	4,924	5,281	5,081	4,798	5,812	69,627	24.2
13%720														0	
14%721														0	
15%508														0	
8% S-23														0	
10% S-23														0	
15% S-23														0	
14%817-B														0	
5%LF+7%フェニルアラニン除去ミルク											46	72		118	
6%LF+6%フェニルアラニン除去ミルク											18			18	
6%LF+8%フェニルアラニン除去ミルク												95		95	
7%LF+7%フェニルアラニン除去ミルク												88		88	
14%817-B+7%滋養糖														0	
15%817-B+2%滋養糖														0	
22%817-B+1%滋養糖														0	
15%レーベンスミルク														0	
17%レーベンスミルク														0	
20%レーベンスミルク														0	
16%LW											100			100	
20%LW											60	310	300	130	800
5%滋養糖													8	8	
10%滋養糖			480	485	534	482	495	567	564	704	624	644	594	550	6,723
滋養糖(粉体)			279	252	279	270	279	243	203	217	257	295	126		2,700
5%MA-1														0	
7%MA-1														0	
8%MA-1								40						43	
11%MA-1				16								24		40	
12%MA-1				7										7	
14%MA-1														0	
15%MA-1			690	687	1,102	843	909	930	1,253	1,078	700	719	472	465	9,848
17%MA-1														0	
18%MA-1														0	
19%MA-1														0	
20%MA-1			310	280	150										740
7%E赤ちゃん				14	33										47
10%E赤ちゃん					8										8
13%E赤ちゃん			512	203	424	46	809	627	450	149	338	325	26	47	3,956
17%E赤ちゃん				34											34
7%ラクトレス														0	
14%ラクトレス														0	
13%GL(無乳糖粉乳)														0	
15%GL(無乳糖粉乳)														35	35

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%	
治	13%MM-2(低カリウムミルク)													0		
	13%MM-5(低リン乳)	279	252	279	270	279	243	203	217	257	295	251	246	3,071		
	9%エレメンタルフォーミュラ				27										27	
	10%エレメンタルフォーミュラ	35													35	
	11%エレメンタルフォーミュラ				18										18	
	12%エレメンタルフォーミュラ										7	70			77	
	13%エレメンタルフォーミュラ				18	90									108	
	15%エレメンタルフォーミュラ	222	200	248									71		741	
	17%エレメンタルフォーミュラ				264	106							69		439	
	20%エレメンタルフォーミュラ					18									18	
	12%110ガラクトース除去フォーミュラ														0	
	12%S-1フェエルアラニン チロシン除去乳														0	
	15%8806低K・中リンフォーミュラ													78	78	
	ニュー NA-20													8	8	
	療	14%ペプティエット													0	
10%MCTフォーミュラ														0		
12%MCTフォーミュラ			39											39		
13%MCTフォーミュラ														0		
14%MCTフォーミュラ		396	221	585	244	139	335	279	149	129	125	84	292	2,978		
15%MCTフォーミュラ			71	214											285	
15%60SMCT(MCT アミノ酸フォーミュラ)															0	
14%必須脂肪酸強化MCTフォーミュラ															0	
乳		6%エレンタール		28											0	
		10%エレンタール													28	
		13%エレンタール	21												21	
		14%エレンタール													0	
		15%エレンタール													0	
		17%エレンタール													0	
		18%エレンタール													0	
	20%エレンタール													0		
	22%エレンタール													0		
	23%エレンタール													0		
	25%エレンタール	124	112	151	150	155	150	155	157	150	155	150	155	1,764		
	26%エレンタール														0	
	27%エレンタール														0	
	5%エレンタールP					7		104			16	56			183	
	6%エレンタールP							41							41	
7%エレンタールP		27												27		
8%エレンタールP							68	9			14			91		
9%エレンタールP														0		
10%エレンタールP							13	127	50	235	78			503		
11%エレンタールP														0		
12%エレンタールP	168	100	54				30	125		7				484		
13%エレンタールP	36	20	20			26		43	45					190		
14%エレンタールP	977	947	851	825	744	720	819	843	450	625	922	982		9,705		
15%エレンタールP		96	330	130			8	33	21	130	42			790		
16%エレンタールP								27	162	14				203		
18%エレンタールP								325	331	273	203			1,132		
20%エレンタールP	24					72	26	26	377	351	270	279		1,425		
21%エレンタールP		7												7		
23%エレンタールP														0		
24%エレンタールP														0		
25%エレンタールP														0		
26%エレンタールP						18	279	27						324		
27%エレンタールP														0		
34%エレンタールP														0		
マクトンオイル		12	31	30	130	240	72			72	399	519	424	1,929		
小計	4,553	4,110	5,293	3,617	4,160	4,211	4,567	4,256	4,139	5,067	4,510	3,694	52,177	18.1		
加算療乳	サンエット N3	717	715	924	900	907	717	737	717	720	723	719	801	9,297		
	アイソカル	355	600	736	618	523	584	672	847	408	675	789	830	7,637		
	インパクト	102	44	20					55	116	229	41	81	688		
	小計	1,174	1,359	1,680	1,518	1,430	1,301	1,409	1,619	1,244	1,627	1,549	1,712	17,622	6.1	
牛乳	237	146	191	214	297	344	436	386	389	381	338	382	3,741	1.3		
滅菌水	172	187	164	78	62	62	68	99	181	174	158	127	1,532	0.5		
計	25,924	23,193	26,634	23,389	25,058	25,397	24,726	21,339	20,622	23,377	23,214	25,285	288,158	100.0		
空瓶200cc	4,222	2,843	3,901	3,073	3,884	3,548	3,944	3,285	3,088	3,371	3,265	4,195	42,619	43.0		
空瓶100cc	5,112	3,792	3,576	4,680	4,873	4,848	5,496	4,770	4,992	5,208	4,560	5,616	57,523	57.0		
計	9,334	6,635	7,477	7,753	8,757	8,396	9,440	8,055	8,080	8,579	7,825	9,811	100,142	100.0		

食事数

(単位 食)

食種	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
保・検食		374	337	373	361	373	361	373	372	362	373	362	372	4393	3.7
非 加 算 特 別 食	離乳食	869	913	762	725	1028	922	709	653	640	764	971	907	9863	
	幼児食	532	632	544	371	779	677	511	335	500	468	494	638	6481	
	学童食	869	561	1010	1042	615	764	902	1323	535	719	771	1021	10132	
	粥	70	86	100	78	45	95	77	49	49	66	34	122	871	
	流動食	3	32	14	3	12	14	15	12	3	9	6	25	148	
	自由食	2834	2584	3102	2879	3183	2778	3536	3412	2941	3490	2896	2871	36506	
	口蓋裂食	4	31	38	16		33	39	38	16	26	26	54	321	
	アレルギー食	304	311	344	324	567	839	571	494	551	603	576	542	6026	
	ペースト食	89	182	71	74	56	98	127	135	141	129	80	110	1292	
	肥満食												9	50	59
	歯科食														0
	検査食(非)	16	70	4	2	1		22	5			15	4	139	
	妊産婦食	2078	1869	1979	1821	2049	2014	1795	1878	2063	2373	2321	2417	24657	
	妊産婦粥食	52	52	53	54	43	48	61	74	41	52	71	98	699	
妊産婦高血圧食		46	93	45									184		
妊産婦アレルギー食	180	91	219	328	306	472	564	172	303	115	0	41	2791		
妊産婦検査食(非)													0		
小計	7900	7460	8333	7762	8684	8754	8929	8580	7783	8814	8270	8900	100169	84.0	
加 算 特 別 食	腎臓食	163	117	97	234	468	310	309	200	116	49	47	67	2177	
	肝臓食	33	63	16	7			18	45	3		13		198	
	糖尿病食	63	115	151		79	155	156	82	140	25	56	183	1205	
	乳糜食		8	47	64	4	69	44	47					283	
	心臓病食	426	609	728	594	495	567	960	1176	685	533	449	337	7559	
	潰瘍食					7	14				2	17	8	48	
	検査食(加)		3								2	2	4	11	
	妊娠中毒症食	373	512	464	367	182	146	80	176	171	115	142	120	2848	
	妊産婦糖尿病食	126	43	24	26			2	15	9	36	4	25	310	
	妊産婦肝臓病食													0	
高尿酸血症食													0		
小計	1184	1470	1527	1292	1235	1261	1569	1741	1124	762	730	744	14639	12.3	
合計	9458	9267	10233	9415	10292	10376	10871	10693	9269	9949	9362	10016	119201	100.0	

おやつ数

(単位 食)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
おやつ数		4,427	4,786	5,335	4,852	5,430	5,340	5,535	5,229	4,690	5,019	4,667	4,755	60,065

2) 患者外

食事数

(単位 食)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
保育児食		151	164	187	103	103	130	160	188	164	196	191	173	1,910

(2) 栄養指導月別種類別件数 平成18年

(単位 件)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
糖尿病食		29	33	43	27	24	31	34	42	29	32	41	41	406
肥満食		13	8	12	14	8	11	8	17	10	11	10	12	134
腎性尿崩症食		3	4	4	4	4	2	4	4	2	5	4	5	45
フェニルケトン尿症食		6	2	6	2	1	3		3	2	3	6	9	43
高メチオニン血症食			2				1				2			5
高アンモニア血症食				1	1			1		1		1		5
ガラクトース血症食				2	1			2				1	2	8
高インスリン血症食					1	1	4	1	2	1	1	1	1	13
耐糖能異常									1		1	4		6
高脂血症食				1			1		1		1	1		5
高尿酸血症食			1	2					1		1	1	1	7
ブラダーウィリー症候群							1							1
ターナー症候群								1						1
アレルギー食		15	11	19	18	24	33	23	24	27	24	16	13	247
若年性突発性関節炎							2							2
腎臓病食				1	1		1		1	1				5
心臓病食		1			1	1	1		1	2		2	1	10
肝臓食					1		1		1			1		4
胆道閉鎖症食			1											1
膵炎食									2					2
腸管切除後吸収不良		1			2		1		1	1		1	1	8
蛋白漏出性胃腸症						1								1
潰瘍性大腸炎食			5	3		3					2			13
クローン病													2	2
発育不良			1				1		2	6	1	2	1	14
低身長													1	1
食事摂取不良						1								1
特殊調乳食			1				1							2
特殊離乳食		1	2	3							1			7
特殊幼児食					4									4
骨粗鬆症			1											1
ビタミンD欠乏症									1					1
低マグネシウム血症													1	1
摂食・嚥下困難													1	1
偏食												1		1
経管栄養						2	2	1						5
妊娠高血圧症候群食			3	1					1	1				6
妊娠糖尿病食			2			1						1	2	6
ネフローゼ合併妊娠												1		1
糖代謝異常合併妊娠									1					1
妊娠高血圧食			1											1
件数 外 来 (件)		52	53	77	60	53	63	48	84	64	70	76	73	773
人数 外 来 (人)		92	89	151	109	98	115	97	169	119	129	150	137	1455
件数 入 院 (件)		8	18	4	12	2	17	15	11	9	8	12	11	127
人数 入 院 (人)		19	28	7	21	2	35	27	24	21	17	20	22	243
件数 病棟訪問 (件)		9	7	17	5	16	17	12	11	10	7	7	10	128
人数 病棟訪問 (人)		16	16	36	16	29	35	29	23	19	15	15	18	267
合 計 (件)		69	78	98	77	71	97	75	106	83	85	95	94	1028
合 計 (人)		127	133	194	146	129	185	153	216	159	161	185	177	1965

アレルギー両親教室 集団指導

区分	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件数		7	11	19	0	10	12	16	9	12	3	6	0	105
人数		12	11	36	0	13	15	23	17	17	5	8	0	157

5. 院内研修会

栄養指導課 教育研修活動

実施日	内 容	担 当
1月16日	平成17年度第10回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
2月16日	平成17年度第11回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
3月16日	平成17年度第12回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
4月14日	平成18年度第 1 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
5月16日	平成18年度第 2 回医療事故防止研修会第 1 回食中毒防止研修会	下 浦 佳 之
6月16日	平成18年度第 3 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
7月14日	職場フォーラム 行政サービスの向上及び綱紀粛正について 平成18年度第 4 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
8月16日	平成18年度第 5 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
9月13日 9月15日	職場フォーラム 飲酒運転の根絶について 平成18年度第 6 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
10月16日	平成18年度第 7 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
11月16日	平成18年度第 8 回医療事故防止研修会	下 浦 佳 之
11月29日	職場フォーラム 「公務員及び医療従事者としての職業倫理の確立並びに良好な職場環境づくりについて」 飲酒運転に係る懲戒処分取扱基準について	下 浦 佳 之
12月14日	食中毒防止研修会 ノロウイルスについて	下 浦 佳 之
12月15日	平成18年度第 9 回医療事故防止研修会 職場フォーラム 執務姿勢の確立と綱紀粛正について (通知)	下 浦 佳 之

6. 実習生の受け入れ

栄養指導課 (管理栄養士・栄養士)

病院名及び学校名	区 分	期 間	人 数
神戸女子大学	実習	平成18年 8月21日～9月1日	3名
		平成18年 9月25日～10月6日	3名
神戸学院大学	実習	平成18年 8月7日～8月18日	3名
		平成18年 9月5日～9月16日	3名
武庫川女子大学	実習	平成18年 5月8日～5月19日	3名
		平成18年 5月22日～6月16日	2名
		平成18年 6月19日～7月14日	1名
		平成18年 10月16日～10月27日	3名
		平成18年 11月6日～11月16日	3名
神戸松蔭女子学院大学	実習	平成18年 8月1日	1名
日本栄養専門学校	実習	平成18年 9月19日～9月25日	1名

29. 指導相談・地域医療連携部

． 組 織

平成18年4月1日に、相談担当の課長は、池尻操子看護次長が相生市民病院看護部長に昇任転出し、かわって箕浦看護次長が兼任となった。医療ソーシャルワーカー(嘱託非常勤職員)は、平成18年4月1日付けをもって、地域医療連携部門配属から指導相談部門配属となった。

． 平成18年活動状況

引き続き、患児、家族が安心して治療・療養に専念できるように様々な相談に応じ、個々のニーズに沿って問題解決に向け支援を行っている。今年は、地域医療連携部門の地域医療連携室が、本格的に始動した。患者様の初診予約の迅速化と共に、新たな紹介病院、診療所も増えてきている。また、重症心身障害児やターミナル患児に対する在宅療養支援や長期在院児への施設入所支援が、一層、推進された1年間であった。

今年重点的に実施した活動

重症心身障害児、ターミナル患児に対する在宅療養支援のさらなる推進。

長期在院児に対する施設入所支援のさらなる推進。

昨年に引き続き、厚生労働省・神経疾患研究委託費 発達期に発症する外因性脳障害の診断・治療ガイドラインに関する臨床的実証研究 「超低出生体重児にみられる行動異常の診断に関する検討」 における演者及び共同演者としての、報告書作成。

昨年に引き続き、厚生労働省委託研究 「新生児期～小児期における心疾患侵襲治療の安全性向上に関する研究」 における心理判定的貢献。

地域医療連携室における、新たな紹介病院、診療所の登録。

今年実施した新たな活動

兵庫県立病院学会において、「当院在宅療養支援における指導相談部の役割」の発表。

． 来年の展望

今後、さらに安定した地域の医療機関との連携が行えるよう、地域医療連携室の活動をさらに発展させていく必要がある。また、虐待における取り組み等、これまで以上に地域との連携を密にするため、組織的なネットワークの構築も必要になってくるものと思われる。また、随分と増えてきている、在宅療養生活に向けた患児・家族への支援についても、より努力していく所存である。院内では、当部の各担当の役割をより明確にし、院内全体に支援を提供できるような体制作りがさらに必要と思われる。また、地域からのニーズに対し、当部が指導的な立場で活動を行うことも増えてくるものと考え。現在、依頼数が増え続けている中、質の高い支援を維持していくためにも、個々の部員の資質向上・教育育成の推進、マンパワーの増大を図っていかねばならないと考えている。

．指導相談部門

1. 業務実績

(1) 職種別業務実績

業務実績	
医 師	123
心 理 判 定 員	2469
保 健 師	1442
精神保健福祉相談員	2597
医療ソーシャルワーカー	270
計 (総 件 数)	6901

(1)の職種別業務実績は、当部の活動の総件数を示す。(2)、(3)、(4)の依頼科経由のみの業務件数は、電話相談・メール相談・発達外来を除く、当部の活動件数を示す。(他機関経由による、直接患児に関連しない相談・調整業務が含まれているため)

(2) 依頼科別業務件数 (依頼科経由のみ)

依頼科別業務件数	
総 合 診 療 科	998
新 生 児 科	672
脳 神 経 内 科	631
循 環 器 科	546
腎 臓 内 科	74
代 謝 内 科	272
血 液 腫 瘍 科	129
ア レ ル ギ ー 科	105
遺 伝 内 科	0
小 児 外 科	667
心 臓 血 管 外 科	42
脳 神 経 外 科	514
形 成 外 科	30
眼 科	59
精 神 神 経 科	1062
泌 尿 器 科	36
耳 鼻 咽 喉 科	161
整 形 外 科	30
産 科	175
歯 科	2
発 達 行 動 外 来	90
そ の 他	483
計 (総 件 数)	6778

(3) 年齢別業務件数 (依頼科経由のみ)

年齢別業務件数	
乳 児	462
幼 児 前 期	2007
幼 児 後 期	1716
学 童 前 期	934
学 童 後 期	486
思 春 期	613
思 春 期 以 上	560
計 (総 件 数)	6778

(4) 入院外来別業務件数 (依頼科経由のみ)

入院外来別業務件数	
入 院	2678
外 来	4100
計 (総 件 数)	6778

2. 診療部門

(1) 発達外来

担当：山崎武美指導相談・地域医療連携部長、宅見晃子のじぎく療育センター小児科部長

受診患児の主な主訴：発達障害（言語発達遅滞、精神発達遅滞、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害等）

21trisomy における発達全般のフォロー 等

依頼相談経路		件数
主治医	総合診療科	58
	循環器内科	12
	代謝内科	4
	脳神経外科	3
	新生児科	3
	心臓血管外科	3
	血液内科	2
	耳鼻科	2
	眼科	1
電話相談	20	
窓口相談	3	
その他	12	
総件数	123	

年齢区分	件数
新生児	0
乳児前期	4
乳児後期	7
幼児前期	43
幼児後期	66
学童前期	3
学童後期	0
思春期	0
総件数	123

(2) 遺伝相談

2006年は実施なし。

3. 治療関係部門

(1) 心理療法

心理療法対象者 依頼時の症状・状態：情緒障害、不登校、摂食障害、身体表現性障害、不安障害、
転換ヒステリー、場面緘黙、強迫状態、神経症、ターミナルケア

心理療法・遊戯療法	
心理療法（精神神経科依頼）	103
心理療法（その他診療科依頼）	63
遊戯療法（精神神経科依頼）	75
遊戯療法（その他診療科依頼）	227
計（総回数）	468

(2) 心理検査

心 理 検 査		
発達検査	新版 K 式発達検査	267
	Bayley 乳幼児発達尺度	11
	津守式発達質問紙検査	199
	KIDS	6
	社会生活能力検査	19
	フロスティック視知覚検査	3
知能検査	WISC -	225
	田中ビネー知能検査	72
	WPPSI	3
	WAIS - R	14
性格検査	YG 性格検査	13
	幼児・児童性格診断検査	1
	HTP	1
	バウムテスト	22
	人物画（コピッツ法）検査	1
	SCT 文章完成法	15
	P-F スタディ	52
	MMPI	2
	ロールシャッハテスト	33
	CAT	0
その他の検査	絵画語彙発達検査	69
	CMAS	1
	TK 式診断的親子関係検査	7
	CARS	5
	CBCL・子ども総研式育児支援質問紙	13
	ベンダーゲシュタルトテスト	3
	その他	12
計		1069

・発達追跡群

(人)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
9	9	13	5	7	9	4	6	3	9	8	10

代謝内分泌科のクレチン症、一過性甲状腺機能低下症の患児を中心に、年齢に応じた発達・知能検査を誕生日月に行い、12才になるまで発達のフォローを行う。

(3) 発達障害児の集団療育事業

対象：就学までの発達障害児

目的： 患児の家族に発達および障害についての理解を促す（障害の理解と受容）

患児の成長に保護者が喜びを見出し、患児に適した対応を図れるよう援助する（発達の促進）

幼稚園・保育所・通園施設等への集団参加に向けてステップをふませる（社会参加へのステップ）

発達障害児の集団療育(40回)	
のべ参加人数 (人)	201

3ヶ月に一度、カンファレンスを行い、状況と今後の方針を確認した。

場所：指導相談部事務室兼カンファレンスルーム

参加者：当部部长・精神科医師・当部部員

実施日：3月17日，6月9日，9月13日，12月12日

4. 相談業務

相 談 業 務		
依頼科 経由相談	子どもの発達に関する相談・指導	737
	子どもの疾病・障害に関する相談	49
	在宅療養に関する支援	388
	医療費、障害者手帳等の福祉サービスに関する相談	512
	療育施設、児童福祉施設に関する相談・施設紹介	162
	被虐待児に関する支援・家族関係に関する相談	316
その他	家族、院内他部門、関連機関からの電話相談等	488
計（総件数）		2652

院外業務 19件

5. 連携業務

連 携 業 務		
家	庭	220
外	来	416
病	棟	878
保	育 所	10
幼	稚 園	3
学	校	104
保	健 所	160
市町	保健センター	189
精	神保健センター	0
福	祉 事 務 所	204
児	童 相 談 所	253
児	童 福 祉 施 設	135
病	院 ・ 医 院	45
警	察	2
教	育 委 員 会	2
訪	問看護・ヘルパーステーション	103
そ	の 他	152
計（総件数）		2876

院外業務 19件

6. 神戸市立友生養護学校 病弱児訪問教育部 わらび学級

当院では、治療や疾病の児童を考慮し、神戸市立友生養護学校 病弱児訪問教育部 わらび学級による訪問教育を行っている。入級・主治医面談等、学校との連携を指導相談部が担っている。

わらび学級のべ入級依頼患児数	
血液腫瘍内科	23
循環器科	4
新生児科	2
小児外科	2
総合診療科	2
脳神経内科	1
整形外科	1
計	35

(2006年新規依頼患児16名)

7. 被虐待児症例等養育支援に関する業務

被虐待児等症例数（人数）	総合	脳内	脳外	新	循	代謝	アレ	腎	泌	外	精神	産	発達行動	合計
臨時委員会（症例検討会）開催	2	1	2											5
院内より支援依頼	12		5		6	1	3	1		3	2	9	3	45
児童相談所等他機関からの支援依頼	3	3	1	3	3				1	1	3			18
合 計	17	4	8	3	9	1	3	1	1	4	5	9	3	68

今年は臨時委員会（症例検討会）を5例について開催し、患児の処遇について検討を行なった。そのうち、児童相談所への通告は3例、保健所連絡が2例、既に児童相談所が関与している事例が1例であった。

一時保護委託については、4例を受理（1例については、2度受理）し、入院治療を行ったが、そのうち3例は施設入所となった。

今年は、産科からの支援依頼が増加し、乳児院への入所数も増加した。また、頭部外傷については常に病院の対応について判断が求められるところである。院内での、虐待の判断基準の整備と早急なネットワークの再構築が必要となっている。

8. ひょうごユースケアネット

日 時	議 題	場 所	内 容	出 席 者
6月6日	平成18年度アドバイザー委員会・推進会議	神戸市	平成17年度事業実施報告および平成18年度の取り組みについて	山崎武美
1月26日	平成17年度第2回専門研修	神戸市	思春期の性の問題	藤井美有
3月5日	平成17年度第4回専門研修	姫路市	軽度発達障害を理解する - アスペルガー症候群を中心に -	藤井美有
6月23日	平成18年度第1回対策研究会	神戸市	平成17年度事業実施報告および平成18年度の取り組みについて	藤井美有
11月28日	平成18年度第1回専門研修	姫路市	こどもの眠りと健康	藤井美有
1月27日	シンポジウム	明石市	ひきこもりを考えるシンポジウム開催と交流学習会	藤井美有
2月8日	平成18年度第2回専門研修	三田市	非行・犯罪少年の育ち	藤井美有

9. 教育研修活動

(1) 小児精神・神経ネットワーク勉強会主催

日 時：原則毎月第2（火）

参加者：指導相談・地域医療連携部長、脳神経内科医師、精神神経科医師、外来看護師、指導相談・地域医療連携部員

実施日	内 容	担 当 (敬称略)
2月14日	特別支援教育における個別教育計画(IEP)の活用	指導相談・地域医療連携部 心理判定員 藤井美有
3月23日	障害者自立支援法～主に、自立支援医療(育成・更生・精神通院)について～	指導相談・地域医療連携部 保健師 行 祥子
4月11日	当科における児童虐待への取り組み	脳神経内科医師 永瀬裕朗
5月9日	こどもの精神医学の理解	精神神経科医師 前田宏章
6月13日	心理検査に表れる PDD 的要素 - 知能テストを主に -	指導相談・地域医療連携部心理判定員 宮崎美知恵
9月12日	障害者自立支援法について	指導相談・地域医療連携部 精神保健福祉相談員 長岡美佐
10月10日	ゆさぶられっ子症候群	脳神経内科医師 永瀬裕朗
11月14日	精神神経科外来診療における統計	精神神経科医師 前田宏章
12月12日	K式発達検査 実際と評価 - 自閉症ケースを通して -	指導相談・地域医療連携部 心理判定員 藤井美有

(2) 講師

1月19日

広島県周産期講演会、県立広島病院 『NICU 退院後の支援』 医師 山崎武美

8月30日

こども病院看護部 母子フォローアップ研修 『在宅支援時に必要な福祉制度・サービスについて』

第一部 福祉制度について 精神保健福祉相談員 長岡美佐

第二部 小児の在宅療養において活用できる在宅サービスについて

保健師 行 祥子

10月10日

日本看護協会、神戸研修センター 平成18年度 小児看護 『慢性疾患患児の在宅療養に向けた支援』

社会資源の活用と地域連携 保健師 行 祥子

(3) 講演および発表

2月25日

由布院セミナー、山荘田名加、『児童養護施設に措置されており、ガンに罹患した小学生への臨床的心理的関わり - ターミナルケアにおいて - 』

心理判定員 宮崎美知恵

5月31日

神戸発達小児科懇話会、兵庫県立こども病院、『姉妹同時発症した摂食障害のケース』

心理判定員 藤井美有

9月9日

兵庫県立病院学会、神戸ファッションマート、『当院在宅療法支援における指導相談部の役割』

保健師 行 祥子

(4) 全国こども病院保健師連絡会

平成18年9月29日、神奈川県立こども医療センターにて、全国のこども病院・小児総合保健センターなど10施設が参集し、病院紹介・見学、保健活動に関する情報および意見交換を行った。

・ 地域医療連携部門

1. 初診患者件数

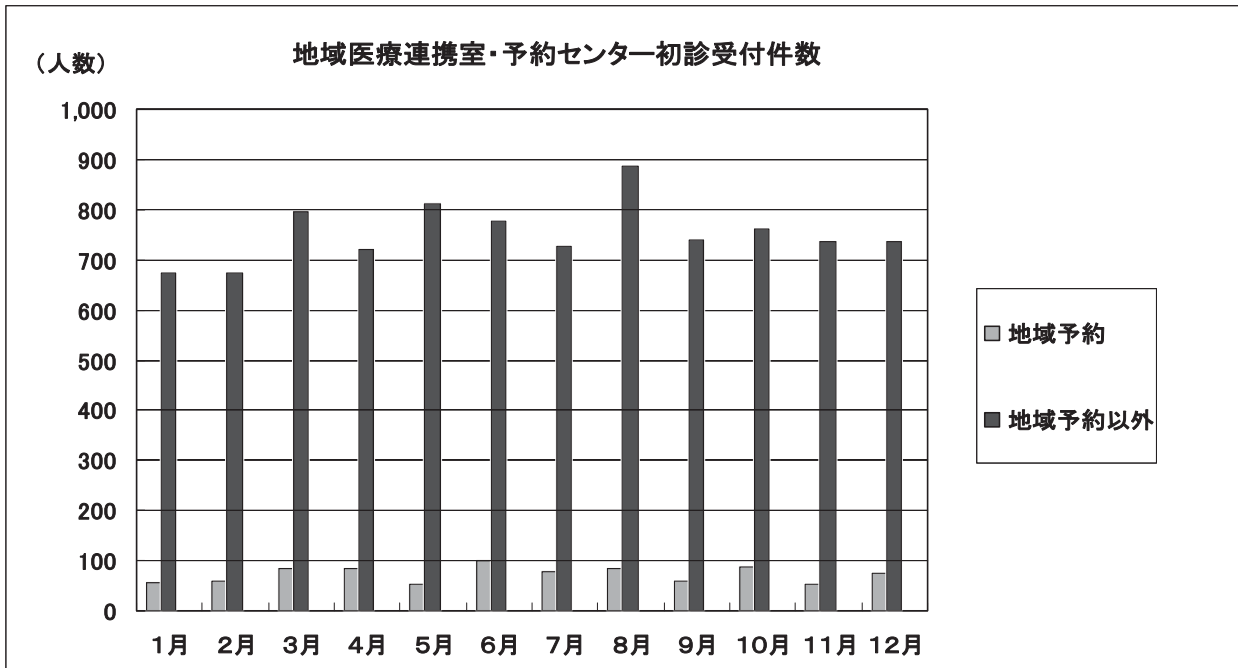
地域医療連携室・予約センター初診受付件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
地域予約	57	58	84	84	53	101	78	86	61	89	53	76	880
地域予約以外	675	675	797	720	813	778	728	886	741	762	738	738	9,051
計	732	733	881	804	866	879	806	972	802	851	791	814	9,931

地域予約・・・FAXによる病病・病診での予約

地域予約以外・・・電話予約・院内紹介・入院初診患者

2. 初診受付件数推移

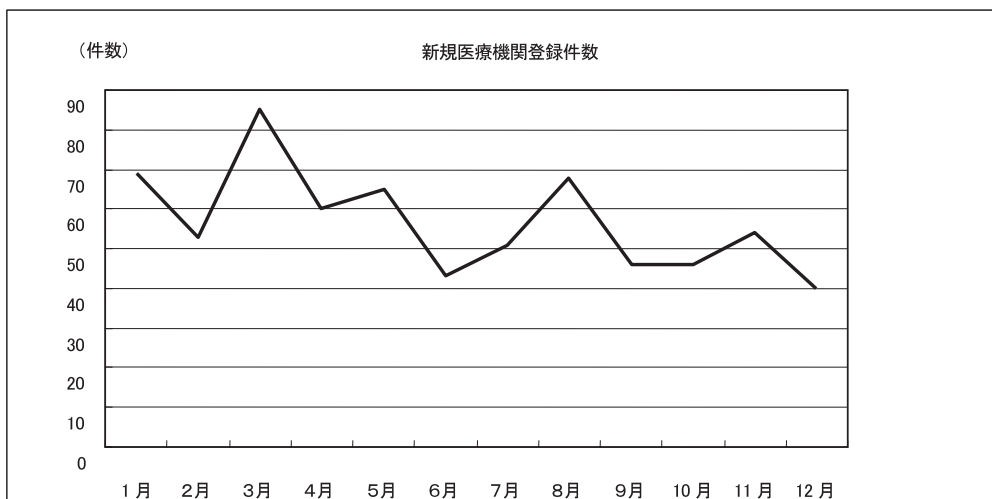


3. 平成18年新規登録件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
新規登録件数	69	53	85	60	65	43	51	68	46	46	54	40	2,079

平成18年3月末現在 1,399件

4. 新規医療機関登録件数推移



ボランティア部門の動き

兵庫県立こども病院 ボランティア部 2006年度 活動報告

ボランティア部の主な活動は、(1) こども病院の患者さまが関係する患者・家族会のいろいろな活動の際の「保育ボランティア」と(2) 院内で入院中の子供たちに楽しみを提供する「お楽しみ会」の主催です。

こども病院の患者様の患者・家族会は、胆道閉鎖症の「ひよこの会」、永久ストーマを持つ患児の「タンポポの会」、在宅中心静脈栄養管理を受けている患児の「かくれんぼの会」の3つが対象となっています。

院内の「お楽しみ会」では昨年同様に神戸大学、神戸女子大学の学生にきていただき、人形劇やパネルシアターなどの上演を行いました。

今年はミプロキッズフェア「障害をもつ児とそのご家族に必要な用具(車椅子や自動車、生活をサポートするいろいろなグッズ)を一堂に展示されるイベント」にも協力し、貴重な体験をしました。

病院主催のアレルギーの両親教室の保育ボランティアにも神戸女子大学の学生との協力体制で関わることができました。

月日	行事名	場所	主催
2月10日	アレルギー両親学級	研修室 AB	病院
2月23日	お楽しみ会 (神戸女子大 パネルシアター)	研修室 AB	部
3月10日	アレルギー両親学級	研修室 AB	病院
3月18・19日	かくれんぼの会 宿泊交流会	しあわせの村	患者会
9月2・3日	ミプロ キッズフェア	ポートアイランド	財団法人対日貿易投資交流促進協会
9月6日	お楽しみ会 (神戸大 オリジナル人形劇)	研修室 AB	部
12月6日	クリスマスコンサート	周産期センターホール	ハーバーライオンズクラブ
12月23日	花の植え替え	正面玄関	部

(西島 今井 伊賀)

一年の歩み

1年のあゆみ (2006.1.1～12.31)

- 2006.2.27 病院運営懇話会の開催
- 8.1 県監査委員による平成17年度本監査の実施
- 8.23 神戸市保健所による平成18年度医療監視の実施
- 9.1 健康生活常任委員会による平成18年度管内調査の実施
- 9.28 ハローキティ病院訪問
- 12.14 院内消防訓練の実施
- 12.16 第7回兵庫県周産期医療研修会開催